岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第691集

高田城跡（たかたじょう）発掘調査報告書

土地区画整理事業高田西地区関連遺跡発掘調査

２０１８

陸前高田市復興局市街地整備課
（公財）岩手県文化振興事業団

高田城跡発掘調査報告書

土地区画整理事業高田西地区関連遺跡発掘調査

序

本県には、旧石器時代をはじめとする１万箇所を超す遺跡や貴重な埋蔵文化財が数多く残されています。それらは、地域の風土と歴史が生み出した遺産であり、本県の歴史や文化、伝統を正しく理解するのに欠くことのできない歴史資料です。同時に、それらは県民のみならず国民的財産であり、将来にわたって大切に保存し、活用を図らなければなりません。

一方、豊かな県土づくりには公共事業や社会資本整備が必要ですが、それらの開発にあたっては、環境との調和はもちろんのこと、地中に埋もれ、その土地とともにある埋蔵文化財保護との調和も求められるところです。当事業団埋蔵文化財センターは、設立以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、その調査の記録を保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、土地区画整理事業に関連して、平成26・27年度に発掘調査を実施した高田城跡の成果をまとめたものです。調査の結果、中世城館跡であることが確認され、往時の様々な環境を考える上での貴重な資料を得ることができました。

本書が広く活用され、埋蔵文化財についての関心や理解につながると同時に、その保護や活用、学術研究、教育活動などに役立てられれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査並びに報告書の作成にあたり、ご理解とご協力をいただきました陸前高田市教育委員会をはじめとする関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

平成30年２月

公益財団法人 岩手県文化振興事業団

理事長　　菅　野　洋　樹

例　　言

1．本報告書は、岩手県陸前高田市高田町字洞の沢、鳴石、本丸地内に所在する高田城跡の調査成果を収録したものである。

2．岩手県遺跡台帳の遺跡番号と遺跡略号は以下の通りである。

遺跡番号：NF67-0172　　遺跡略号：TTJ-14・TTJ-15

3．調査は事業に伴う緊急発掘調査である。陸前高田市と岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課との協議を経て、公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが委託を受け、受託事業として実施した。

4．発掘対象面積、調査期間、調査担当者は以下の通りである。

＜平成26年度＞　面　積：27,000㎡　　期　間：平成26年４月７日～11月27日

担当者：村木　敬　中村利至久　野中裕貴　栃澤　星

＜平成27年度＞　面　積：22,000㎡　　期　間：平成27年５月11日～９月30日

担当者：村木　敬　野中裕貴　佐々木あゆみ　南野龍太郎　藤田崇志

5．室内整理期間、整理担当者は以下の通りである。

＜平成26年度＞　期　間：平成26年12月１日～平成27年３月29日

担当者：村木　敬　野中裕貴　栃澤　星

＜平成27年度＞　期　間：平成27年11月１日～平成28年３月31日

担当者：村木　敬　佐々木あゆみ

6．本報告書は、第Ⅰ章は陸前高田市に依頼している。第Ⅱ章・第Ⅳ章は野中、それ以外は村木が担当している。

7．各種鑑定・分析は次の外部機関に依頼した。下記の分析結果は第Ⅶ章に収録している。

遺構デジタル図化・遺構図版編集：株式会社リッケイ

炭化材年代側定：株式会社加速器研究所

鉄滓成分分析：株式会社古環境研究所

8．基準杭は、平成26年度調査の際に共立設計株式会社に委託しており、翌年度以降もそれを使用している。座標値は世界測地系を用いている。

9．野外調査および本書の作成にあたり、次の方々からご指導・ご助言を賜った（順不同、敬称略）。

近江俊秀　石川日出志　七海雅人　畠山恵美子　熊谷常正　八木光則　曳地隆元　遠藤勝博

10．野外調査では陸前高田市の方々にご協力いただいた。

11．本遺跡の調査成果は、調査概報（岩文埋報第647・661集）、現地説明会、平成26・27年度陸前高田市文化財報告会などで公表しているが、本報告書の内容はそのいずれよりも優先される。

12．本遺跡から出土した遺物及び調査に関わる資料は、岩手県立埋蔵文化財センターにおいて保管している。

目　　次

Ⅰ　調査に至る経過 …… 1

Ⅱ　遺　跡　概　観 …… 2
1　遺跡の位置・立地 …… 2
2　歴 史 的 環 境 …… 4

Ⅲ　野外調査・室内整理 …… 8
1　野　外　調　査 …… 8
2　調　査　経　過 …… 9
3　室　内　整　理 …… 10

Ⅳ　基　本　層　序 …… 11

Ⅴ　高田城跡概観 …… 19
1　歴史的環境 …… 19
2　縄　　張 …… 21

Ⅵ　調　査　成　果 …… 33
1　概　　略 …… 33
2　中世城館の遺構・遺物 …… 33
3　城館期以外の遺構・遺物 …… 86

Ⅶ　自然科学分析 …… 100
1　放射性年代側定（AMS測定） …… 100
2　出土鉄滓成分分析 …… 104

Ⅷ　総　　括 …… 109
報告書抄録 …… 155

図版目次

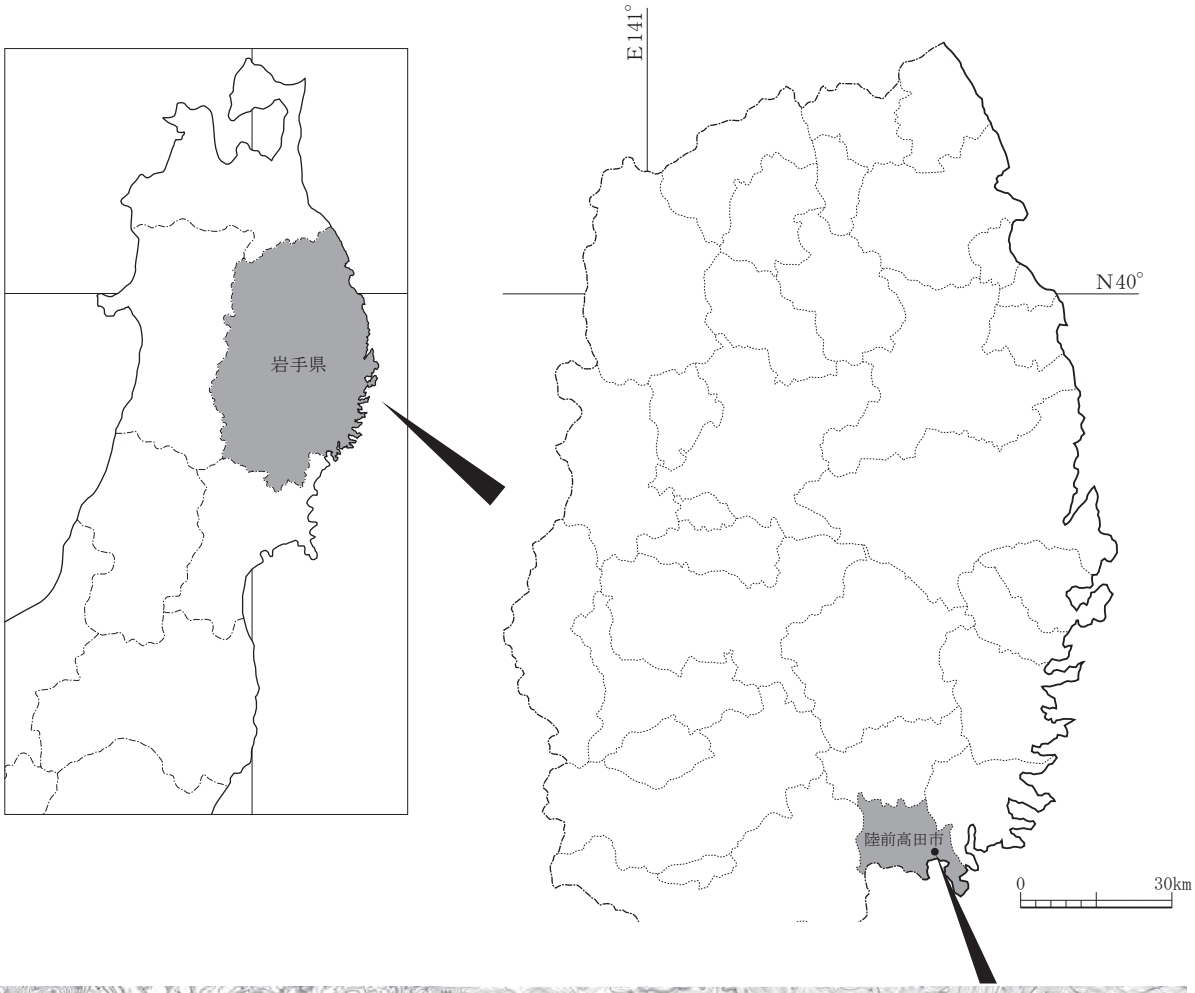
第１図　遺跡位置図
第２図　調査範囲図 …… 3
第３図　遺跡分布図 …… 6
第４図　グリッド配置図 …… 8
第５図　凡例 …… 10
第６図　トレンチ配置図 …… 13
第７図　断面（１）…… 14
第８図　断面（２）…… 15
第９図　断面（３）…… 16
第10図　断面（４）…… 17
第11図　断面（５）…… 18
第12図　城館分布図 …… 20
第13図　縄張図 …… 23
第14図　調査区内コンタ図 …… 24
第15図　遺構配置図（１）…… 25
第16図　遺構配置図（２）…… 26
第17図　遺構配置図（３）…… 28
第18図　エレベーション設定図 …… 30
第19図　エレベーション図（１）…… 31
第20図　エレベーション図（２）…… 32
第21図　平場分割図 …… 39
第22図　平場（１）…… 40
第23図　平場（２）…… 41
第24図　平場（３）…… 42
第25図　平場（４）…… 43
第26図　平場（５）…… 44
第27図　平場（６）…… 45
第28図　平場（７）…… 46
第29図　平場（８）…… 47
第30図　平場（９）…… 48
第31図　切岸（１）…… 54
第32図　切岸（２）…… 55
第33図　切岸（３）…… 56
第34図　切岸（４）…… 57
第35図　切岸（５）…… 58
第36図　切岸（６）…… 59
第37図　版築（１）…… 62
第38図　版築（２）…… 63
第39図　版築（３）…… 64
第40図　版築（４）…… 65
第41図　版築（５）…… 66
第42図　版築（６）…… 67
第43図　虎口１・２ …… 69
第44図　堀１（１）…… 71
第45図　堀１（２）…… 72
第46図　堀１（３）…… 73
第47図　堀１（４）…… 74
第48図　堀１（５）…… 75
第49図　堀１（６）…… 76
第50図　堀１（７）…… 77
第51図　土塁（１）…… 79
第52図　土塁（２）…… 80
第53図　掘立柱建物 …… 82
第54図　SK01・02 …… 83
第55図　SD01・02 …… 84
第56図　出土遺物（１）…… 85
第57図　SK03～08 …… 87
第58図　出土遺物（２）…… 89
第59図　出土遺物（３）…… 90
第60図　出土遺物（４）…… 91
第61図　出土遺物（５）…… 92
第62図　出土遺物（６）…… 93
第63図　出土遺物（７）…… 94
第64図　出土遺物（８）…… 95
第65図　出土遺物（９）…… 96
第66図　出土遺物（10）…… 97
第67図　高田城時期想定図 …… 111

表　目　次

第１表　遺跡一覧 …… 7
第２表　柱穴一覧 …… 82
第３表　縄文土器・土師器・須恵器観察表 …… 98
第４表　石器・石製品・銭貨・鉄製品・土製品
観察表 …… 98
第５表　陶磁器観察表 …… 99

写真図版目次

写真図版１　遺跡遠景（１）…… 115
写真図版２　遺跡遠景（２）…… 116
写真図版３　遺跡近景（１）…… 117
写真図版４　遺跡近景（２）…… 118
写真図版５　遺跡近景（３）…… 119
写真図版６　調査区俯瞰（１）…… 120
写真図版７　調査区俯瞰（２）…… 121
写真図版８　平場１・２ …… 122
写真図版９　平場３ …… 123
写真図版10　平場３・４ …… 124
写真図版11　平場６・７・８ …… 125
写真図版12　平場９・11・12 …… 126
写真図版13　平場13・14 …… 127
写真図版14　平場14・15 …… 128
写真図版15　虎口１、SK01・02 …… 129
写真図版16　虎口２ …… 130
写真図版17　切岸１・２・３ …… 131
写真図版18　切岸４・５ …… 132
写真図版19　切岸６ …… 133
写真図版20　切岸７・８ …… 134
写真図版21　切岸11・12・13 …… 135
写真図版22　切岸14・15・16 …… 136
写真図版23　切岸17 …… 137
写真図版24　版築２ …… 138
写真図版25　版築３（１）…… 139
写真図版26　版築３（２）・４ …… 140
写真図版27　版築５、土塁１ …… 141
写真図版28　土塁１・２ …… 142
写真図版29　土塁３ …… 143
写真図版30　土塁４ …… 144
写真図版31　堀１（１）…… 145
写真図版32　堀１（２）…… 146
写真図版33　堀１（３）、SD01 …… 147
写真図版34　SD02 …… 148
写真図版35　堀１・SD02、SB01、谷部全景 …… 149
写真図版36　SK01～08 …… 150
写真図版37　試掘トレンチ・作業風景 …… 151
写真図版38　現況・作業風景 …… 152
写真図版39　出土遺物（１）…… 153
写真図版40　出土遺物（２）…… 154



第１図　遺跡位置図

Ⅰ　調査に至る経過

高田城跡は、陸前高田都市計画高田地区被災市街地復興土地区画整理事業の事業区域内に存在することから発掘調査を実施することとなったものである。

この土地区画整理事業は、平成23年３月11日に発生した東日本大震災津波により被災した市民の生活を一刻も早く取り戻すため、都市基盤の再編成に加え、大規模なかさ上げ、高台移転といった防災を主眼とした復興事業となっている。

当該遺跡に係る埋蔵文化財の取り扱いについては、文化財保護法第94条の規定に基づき、陸前高田市教育委員会に届出したところ、工事着手前の試掘調査を実施するよう勧告された。そのため、陸前高田市教育委員会あてに試掘調査を依頼し、調査した結果、工事に先立って発掘調査が必要との回答がなされたことから、発掘調査を陸前高田市教育委員会を経て岩手県教育委員会へ依頼した。

当市街地整備課は岩手県教育委員会の調整を受けて、平成26年４月１日付けで公益財団法人岩手県文化振興事業団との間で委託契約を締結し、発掘調査を実施することとなった。

（陸前高田市復興局市街地整備課）

Ⅱ　遺　跡　概　観

1　遺跡の位置・立地

高田城跡は、陸前高田市高田町字胴の沢、鳴石、本丸に所在しており、市役所仮庁舎の南東約900m、氷上山より南へ延びる標高45～55m前後の眺望の効く丘陵上に位置する。東側には川原川が流れており、西側にも河川によって形成された地形が残る。古くから城跡として知られており、高田城跡を示す標柱も建立されている。八幡館とも呼ばれており、城主は千葉安房守広綱とされている。調査前の現況は山林である。その一角には本丸公園が整備されている。

遺跡は、国土地理院発行の1：50,000「盛」(NJ-54-14-6)の図幅に含まれ、北緯39度１分16秒、東経141度37分44秒付近にある。

遺跡が所在する陸前高田市は、岩手県沿岸部の南東に位置し、北は住田町、西は一関市、北東は大船渡市、南は宮城県気仙沼市と隣接する。市域一帯はかつて気仙郡に属していた。面積は232.29㎢を有し、人口は平成26年度12月現在で20,392人である。冷涼な気候の岩手県内では比較的温暖な太平洋岸性の気候を示し、亜熱帯の植物も生育できる環境である。

市域は６割強が山地であり、南部北上山地に属する。北側には氷上山(標高874.7m)がそびえる。この氷上山を中心に花崗岩類が広く分布しており、「氷上花崗岩」と呼ばれる基盤となる岩体を形成している。「氷上花崗岩」は北上山地で一般的に見られる花崗岩と性質が著しく異なることがわかっており、北上山地の中で最も古い岩体であるとの見方が強い。その根拠として、岩体の南面部に分布する「壺ノ沢変成岩」には日本列島の基礎岩盤を構成していた岩石が含まれており、「氷上花崗岩」が上昇してきた過程でこの変成岩に含まれる岩石が地下深くより持ち上がってきたものであることが挙げられている。「壺ノ沢変成岩」の年代は先カンブリア紀まで遡るものと捉えられている。このように古い時代の岩質が見受けられることから、日本の地質的成立を考える上でも重要な場所となっている。

南東側は太平洋に臨んでおり、太平洋へと突き出る広田半島と唐桑半島との間に挟まれるような形で広田湾が広がる。海岸線は典型的なリアス式海岸の様相を示す。大部分が岩礁海岸であるが、広田半島の一部と湾奥に位置する高田松原には砂浜が見られる。広田湾には気仙川、浜田川が注いでいる。河口北東部にはかつての渓谷にそれらの河川が運んだ砂や礫が沖積して形成された陸前高田平野が広がる。この平野に向かって氷上山から丘陵が幾つも張り出している。平野は大部分が海抜５m以下と低く、市街地がこの上に形成されていたが、平成23年３月11日の東日本大震災によって引き起こされた津波で壊滅的な被害を被った。また、白砂青松の景観で有名な高田松原も被災したためかつての景観は失われ、現在は復興のシンボルとしての奇跡の一本松が残るのみとなっている。現在は新たな街づくりを推し進めるべく復興に向けた大規模なかさ上げ工事が行われている。

第２図　調査範囲図

2　歴 史 的 環 境

陸前高田市には、平成25年度時点で消滅した遺跡も含め264ヵ所の遺跡が確認されている。以下に、市内の遺跡を時期別に概観する。

市内では現時点で縄文時代草創期以前の遺跡・遺物は発見されていないが、早期以降に関してはその存在が確認されている。早期を主体とした時期の遺跡についての精査は行われていないものの西の坊遺跡(小友町)や雲南遺跡(小友町)からは貝殻文の土器が見つかっており、遺構に関しては相川Ⅰ遺跡(高田町)で早期末まで遡る可能性が指摘されている住居状遺構が発見されている。縄文時代の遺跡でとりわけ特徴的なものは貝塚である。気仙地方には著名な貝塚が数多く存在し、貝塚に関する調査が明治時代から現在に至るまで行われている。貝塚研究が当地域における考古学・人類学の基礎を確立させていったと言っても過言ではない。市内では23体分の人骨が確認され、1934年に国史跡として登録された中沢浜貝塚(広田町)や全国的にも知名度の高い獺沢貝塚(小友町)、門前貝塚(小友町)などの調査が行われてきた。近年で調査が行われた縄文時代の遺跡としては雲南遺跡や堂の前貝塚(米崎町)、当センターが調査を行った牧田貝塚(気仙町)などが挙げられる。雲南遺跡からは前期を主体とした遺物包含層やマグロなどの魚骨層が見つかっている。土器も早期から弥生時代までと時期幅が広く、大量に出土している。堂の前貝塚では中・後期の集落跡や後期初頭を主体とした遺物包含層が見つかっている。また、平成24年度にも震災からの復興関連事業による調査が行われている。牧田貝塚は前期を主体とした遺跡で県内でも出土例の少なかった大木３～５式の縄文土器がまとまって出土したことで注目を集めた。昭和期に入るまでは貝塚を中心とした学術調査が中心となっていたが、開発に伴う緊急発掘調査が盛んに行われるようになってからは縄文時代以降の様々な性格の遺跡が調査されるようになり、気仙地方の時代の移り変わりが明らかになってきている。

弥生時代の遺跡については中沢浜貝塚より変形工字文や磨消縄文の手法が施された弥生式土器が見つかっている他、長洞貝塚(広田町)で壺形土器と共に太形蛤刃磨製石斧が出土した例などが挙げられる。弥生時代に関する遺物は他の遺跡でも見つかっているものの、集落跡に関しての報告例は現段階では数少ない。例としては近年、当センターが調査を行った花館跡(高田町)で見つかった弥生時代後期の住居状遺構が挙げられるのみである。

古墳・奈良・平安時代については不明な点が多かったが、釘の子遺跡(横田町)や滝の里遺跡(竹駒町)、神明前遺跡(矢作町)などから土師器や須恵器が出土しており、また岩井沢遺跡(小友町)や川口遺跡(気仙町)からは蕨手刀が見つかっていることからも当地域に集落が営まれていたことが明らかとなった。奈良・平安時代の遺跡については近年になって報告例が増えてきている。例としては松山前遺跡(小友町)、友沼Ⅲ遺跡(横田町)などが挙げられる。松山前遺跡は当センターが調査し遺跡で奈良時代の集落が見つかっている。板状の土製品が住居跡のカマド燃焼部より出土しており、カマド袖の芯材として利用されていた可能性が指摘されている。友沼Ⅲ遺跡では平安時代の集落が見つかっている。遺物では羽口と共に刀子や鉄鏃といった鉄製品が確認されている。また、小泉遺跡(高田町)からは羽口や土製紡錘車などの生産活動にかかわる遺物が見つかっていることに加えて、更に「厨」という字を含んだ墨書土器が112点出土している。「厨」という字を含む墨書土器は官衙や寺院遺跡に多く見つかっていることから気仙郡衙が周辺に置かれていたのではないかとの推測がなされている。

中近世の遺跡としては本遺跡も含まれる城館跡が挙げられる。市内では55ヵ所の城館跡が見つかっており、近世の史料や伝承によってその多くが伝えられてきている。城館跡がこの地域に集中している背景として気仙千葉氏との関係は切り離せないものである。気仙千葉氏は中世に陸奥国中部を支配

した葛西氏の家臣として組み込まれており、広田湾一帯を支配していた。気仙千葉氏の祖とされているのは本吉郡馬籠城城主である千葉忠広の次男、広胤である。正和４年(1315年)に広胤が気仙郡に所領を賜り、矢作の鶴崎城に居を構えたことから千葉氏一族の勢力圏下におかれるようになった。この広胤を筆頭として矢作・小友・高田・長部・浜田などの分流が誕生し、内部抗争を繰り返しながらも勢力を拡大させていった。その過程でそれぞれが広田湾周辺の各地に城を構えるようになったため城館跡の分布が集中しているのである。しかしながら、天正16年(1588年)に千葉氏一族の浜田安房守広綱が引き起こした本吉郡熊谷氏との武力衝突「浜田の乱」により宗家であった葛西晴信の小田原征伐への参陣が遅れる結果となり、これを咎めた豊臣秀吉の天正18年(1590年)の奥州仕置によって葛西氏は改易され滅亡した。同時に千葉氏一族も当地域での影響力を失い、影を潜めていったのである。翌年に秀吉の重臣石田三成の率いる再仕置軍が気仙郡に入り、城館の破却が行われて以降、近世は伊達領として統治されていくこととなる。

城館跡の調査が行われた例としては古館跡(矢作町)、片地家館跡(矢作町)、花館跡、上長部館跡(気仙町)などが挙げられる。この中で城館に伴う遺構が確認されたのは古館跡と花館跡である。古館跡では、堀跡、平場、犬走り状遺構、掘立柱建物跡が確認されている。花館跡では、２時期にわたる城館の変遷が明らかとなっている。柵列・溝に囲まれた鍛冶炉跡などの遺構は15世紀後半、土塁・堀で囲まれた掘立柱建物などの遺構は16世紀代に大規模な普請によって形成されたものであることが判明している。また、当地は産金でも有名な土地であったため片地家館跡、古舘跡、打越遺跡(矢作町)などでは採掘遺構が検出されている。実際、砂金の採掘が行われていたか否かについては打越遺跡から得られた土壌で分析が行われており、明確にその存在が確認できなかったものの金に伴う微量元素の存在が明確に確認できたためその蓋然性は高いとの判断が下されている。時期に関しては埋土内の遺物から16世紀～18世紀頃と見られている。

市内に数ある遺跡の中で、本遺跡の周辺に分布する周知の遺跡60ヵ所を第３図と第１表に示している。全時代を通して気仙川や浜田川の流域と氷上山より延びる丘陵上に多く分布が見られることがわかる。丘陵上とは言っても標高が100ｍを超すような位置に分布する遺跡の数が少ないためあくまでも丘陵末端部に意図して居住していたものと考えられる。中でも和野地区周辺では縄文時代に属する遺跡が多く、山苗代地区周辺では奈良・平安時代に属する遺跡の分布が多く見られる傾向にある。縄文時代は奈良・平安時代に比べてやや標高の高い位置に集落が築かれたようであるが、両時代の複合遺跡も幾つか散見されるため居住できる好条件の場所は限られていたようである。また、中世の城館跡に関しては一定の間隔を置いて河川沿いの丘陵上や海に臨んだ半島や岬の丘陵上での分布が見受けられる。海や河川といった城館の防御にも利用できる自然地形があり、尚且つ、周辺を見渡すことができて普請による土地の改変が比較的行いやすいような場所を好んでいたことが見て取れる。

第３図に図示した遺跡のうち、報告されている遺跡は縄文早期～中期・晩期、弥生、奈良～平安初期の複合遺跡である相川Ⅰ遺跡(13)、縄文中～晩期、弥生の複合遺跡である川内遺跡(59)、縄文中期と平安の複合遺跡である貝畑貝塚(34)、弥生、中世の複合遺跡である花館跡(39)が挙げられる。相川Ⅰ遺跡では、縄文時代早前期の住居状遺構、中期の竪穴住居跡、奈良時代の竪穴住居跡や平安時代初期の土師器の焼成窯や粘土採掘坑などが見つかっている。川内遺跡では縄文時代晩期の遺物包含層が見つかっており、晩期の土器を中心に中期・後期・弥生時代の土器が出土している。貝畑貝塚では縄文時代中期の集落や平安時代の集落が見つかっているほかに奈良時代の竪穴住居跡が見つかっている。奈良時代の竪穴住居跡に関してはこれが気仙地方においての初めての発見例とされている。花館跡に関しては前述の通りである。

第３図　遺跡分布図

第１表　遺跡一覧

No.	遺跡名	時　代	種　別	出土遺構・遺物	備　考
1	廻館	中世	城館跡	平場	
2	山谷Ⅰ		集落跡	土器・石斧・磨石・石鏃	
3	山谷Ⅱ	縄文	散布地	縄文土器	
4	古館	中世	城館跡	空堀・主郭・腰郭	別称　府本館
5	軍見洞	奈良・平安	散布地	土器・土師器・青銅鍋	
6	和野	縄文	散布地	縄文土器・土偶・石棒・石槍	
7	細根沢	奈良・平安	散布地	土師器・須恵器・フレーク	
8	内館	中世	城館跡	平場・空堀・主郭・二の郭・腰郭	別称　鶴崎館
9	仲の沢Ⅰ	縄文	散布地	縄文土器	
10	滝の里館	近世	城館跡	腰郭	別称　花輪館
11	下沢Ⅰ	縄文	散布地	縄文土器	
12	下沢Ⅱ	縄文	散布地	縄文土器	
13	相川Ⅰ	縄文・奈良・平安	集落跡	縄文土器・石器・土師器・須恵器	H13調査
14	陣ヶ森	中世	散布地・城館跡	空堀・腰郭	
15	神崎	縄文	散布地	縄文土器	
16	中井		散布地	鉄製品	
17	廻館		城館跡		
18	東館	中世	城館跡	空堀・腰郭	別称　今泉古館
19	館ヶ脇館	中世	城館跡	空堀	
20	愛宕下Ⅱ	奈良・平安	散布地	土師器	
21	相川Ⅱ	縄文	散布地	縄文土器	
22	鳴石	縄文	散布地	縄文土器（後期・晩期）	
23	栃ヶ沢		貝塚		宅地化により壊滅
24	西館	奈良・平安	散布地	土師器・須恵器	
25	八幡館	中世	城館跡	主郭・二の郭・空堀・腰郭	別称　高田城
26	洞の沢		散布地	貝塚・土器・石器	
27	瓜畑	縄文	散布地	縄文土器（後期・晩期）・石器	
28	中和野Ⅰ		集落跡	土師器	
29	西和野Ⅰ	奈良・平安	散布地	土器	
30	西和野Ⅱ	縄文	散布地	土師器	
31	小森前	縄文	散布地	縄文土器（中期・後期）	
32	中和野Ⅱ	縄文	散布地		壊滅
33	中和野Ⅲ	縄文	散布地		壊滅
34	貝畑	縄文	貝塚	土師器・須恵器	S58・59　H9調査
35	西和野	縄文	集落跡	縄文土器・土師器・須恵器	
36	下和野		集落跡		壊滅
37	古泉館	中世	城館跡	空堀	別称　東館
38	太田		散布地		
39	飯森場	中世	散布地・城館跡		別称　花館
40	小泉	平安	集落跡	土師器・須恵器・墨書土器	
41	大隅Ⅰ		散布地	土師器	
42	大隅Ⅱ	縄文	散布地	縄文土器・土師器	
43	荒沢Ⅰ		散布地	土師器	
44	荒沢Ⅱ	縄文	散布地	縄文土器（後期）	
45	豆の通		金吹跡	土器・土師器	
46	山苗代		散布地	土師器	
47	地竹沢Ⅰ	縄文・奈良・平安	散布地	縄文土器・土師器・フレーク	
48	地竹沢Ⅱ	奈良・平安	散布地	土師器	
49	野沢Ⅰ	縄文・奈良・平安	散布地	土師器・須恵器	
50	野沢Ⅱ	縄文・奈良・平安	散布地	土器・土師器	
51	野沢Ⅲ	奈良・平安	散布地	土師器・須恵器	
52	中山館	中世	城館跡	空堀	
53	川崎		散布地		
54	松峰Ⅱ		散布地	土器・石器	
55	松峰Ⅰ	奈良・平安	散布地	土師器	
56	神田Ⅱ	奈良・平安	散布地	土師器	
57	脇沢館	中世	城館跡	空堀・主郭・二の郭	別称　島崎城
58	米崎城	中世	城館跡	空堀・腰郭・土塁	別称　浜田城
59	川内	縄文・奈良・平安	集落跡	縄文土器・チップ・土師器・須恵器	S58　H11・12調査
60	川西	縄文	散布地	フレーク	

※岩手県遺跡・埋蔵文化財情報検索システム（平成26年３月31日時点）を使用

Ⅲ　野外調査・室内整理

1　野　外　調　査

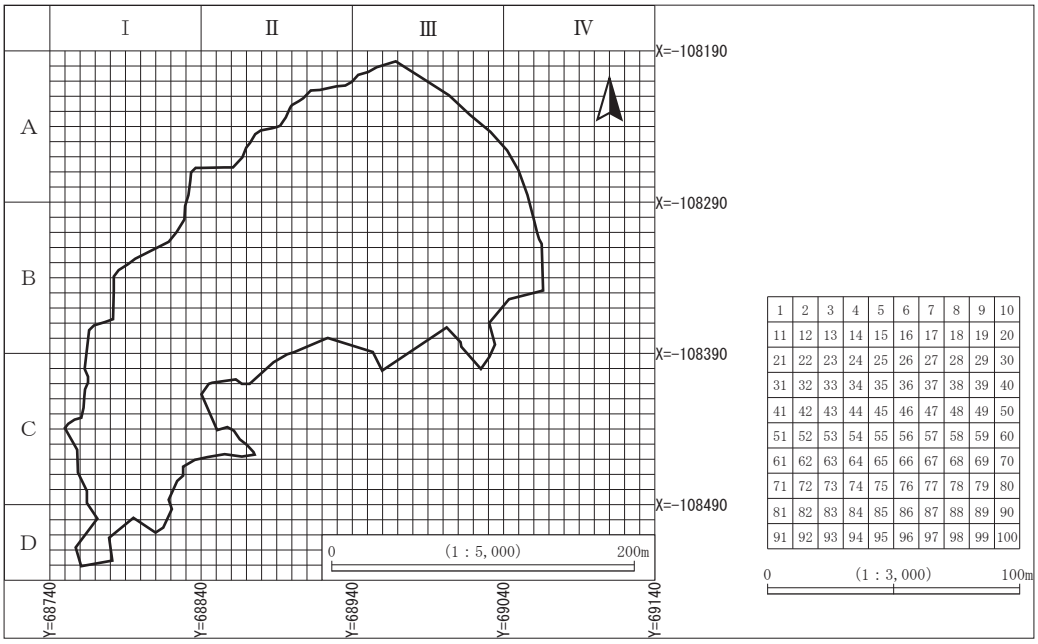
調査区は、配置図に示したように大グリッドは西から東に向かってⅠ～Ⅳ、北から南に向かってA～Dと設定した。大グリッドは1辺が100m、小グリッドは各辺を10等分して1辺が10mとなるように組み、小グリッドの北西隅を1、北東隅を10、南東隅を100と付している。各グリッドは北西隅の杭名称による。今回は調査面積が広く、また遺構の規模も大きいことから、このようなグリッド配置図を採用している。

野外調査は、任意にトレンチを75ヵ所に設定して、遺構検出面の確認を行った後、重機で検出面まで掘り下げている。しかし、各曲輪の調査方針は、試掘トレンチを入れた結果によって大きく異なっている。第6図にはその配置図を掲載している(トレンチ番号については、初年度がNo1～43、次年度がNo101～132と付している)。

曲輪Ⅲは、施設の一部であると現況から想定されたことから、遺構の範囲を特定するため試掘トレンチを入れている。その結果、平坦な面は近代の造成地形、斜面は自然地形と判断し、その対象から外れている。

曲輪Ⅳは、現況から城館であることが判明したことから、その範囲を限定するためにトレンチを入れ範囲を特定している。さらに遺構を把握したうえで、重機や人力で表土除去を行っている。調査範囲図に示しているがⅠA・B、ⅡA・Bグリッドに跨がる付近の900㎡は、工事中に無断掘削が発生している。調査前にはⅡB25グリッド付近において尾根へと登る斜面を確認できていたが、掘削されたためその様相は判然としない。よって遺構配置図には初年度に測量した地形を反映させている。

曲輪Ⅴは、現況から城館であることが判然としないことから、斜面にトレンチを入れその範囲を確定していく。その結果、斜面は遺跡の対象から外れ、平坦部が形成されている頂部のみ調査対象となり、重機によって平坦部の表土除去を行っている。



第4図　グリッド配置図

曲輪Ⅲと曲輪Ⅳ、曲輪Ⅳと曲輪Ⅴの間に位置する谷地形については、曲輪の範囲と堀の存在を確認するためにトレンチを入れている。その結果、前者は遺跡の対象から外れ、後者からは遺構が検出されている。

遺構確認は鋤簾と両刃鎌を用いプランを把握し、検出遺構は通常の精査を行っている。それらの記録は台帳や野帳に記録している。遺構実測は、平面及び断面微細図はデジタルカメラ((株) リッケイ)で撮影して図化している。また、遺跡全体の地形測量及び遺構実測については航空測量により図化している。写真撮影は一眼レフデジタルカメラ、６×4.5㎝を用いている。

２　調　査　経　過

調査は平成26・27年の２カ年で行っており、経過は以下の通りである。

－平成26年度－

４月７日調査開始。８日雑物撤去。９日岩手日報取材。11日現地協議。14日東海新報取材。22日試掘開始。23日県教委視察。30日現地視察(市議、有志、岩手日報、東海新報取材)。

５月２日曲輪Ⅳ試掘開始。７日曲輪Ⅴ頂部の表土掘削開始。12日検出作業。13日陸前高田市文化財審議員視察。23日曲輪Ⅴ調査終了。27日部分終了確認。29日空撮。文化庁・復興庁視察。

６月２日曲輪Ⅳ精査開始、以降、曲輪Ⅳの東に位置する切岸と平場の精査を行う。11日陸前高田市文化財審議員視察。17日現地協議。

７月２日部分終了確認。18日現地協議。

８月12日陸前高田市教育長、文化財審議員視察。18日堀１精査開始。20日文化庁視察。

９月16日平場１検出と遺構精査を行う。25日現地協議。

10月17日空撮。20日主郭内の版築に試掘開始。

11月３日東海新報取材。５日岩手日報取材。８日現地説明会、180名参加(岩手日報、東海新報、朝日新聞取材対応)。11日以降次年度調査区の精査開始。17日終了確認。22日空撮。11月25日撤収。27日調査終了し、平成26年度の野外作業を終えている。12月１日室内整理開始。

平成27年２月４日次年度に向けて協議を陸前高田市庁舎で行う。２月25日来年度調査区に対して無断掘削があることを確認し、教育委員会に通報している。28日通報を受け協議。

３月７日平成26年度陸前高田市文化財報告会にて発表を行う。17日現地確認。31日室内整理終了。

(平成26年度現地説明会)

－平成27年度－

４月７日現地確認。５月11日作業開始。12日曲輪Ⅳ切岸11の検出作業開始。

６月１日表土掘削開始。25日空撮。30日曲輪Ⅳ調査終了。

７月１日曲輪Ⅲ・Ⅳ間の谷筋の調査。14日曲輪Ⅲ調査開始。21日陸前高田市文化財審議員視察。

８月20日部分終了確認。

９月10日終了確認。11日空撮。９月30日に撤収し、全ての野外作業を終えている。

11月１日室内整理開始。平成28年２月６日平成27年度陸前高田市文化財報告会にて発表を行う。

３月31日室内整理終了。

３　室　内　整　理

室内整理は、平成26・27年度の２カ年で行っている。作業工程と掲載基準は以下の通りである。

出土遺物は注記・接合復元を行った後、掲載遺物を登録している。

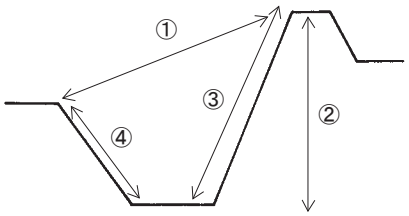
遺構図版作成は、野外調査において取得した断面及び平面図のデータを、委託業務において合成・編集作業を行い、図版を作成している。複数回の校正を重ね、版下への工程を経ている。

遺構・遺物写真図版は共に、デジタルカメラで撮影したものをそのまま入校している。

遺物実測については、陶磁器類が中心となるが点数も少ないため小破片でも積極的に図化している。

国産陶器・中国産磁器、近世陶磁器・縄文土器は1/3、鉄製品・土製品・石製品・銭貨は1/2～1/4で掲載している。

本書における凡例は、以下の通りである。



①　実効堀幅　　②　垂直塁壁高
③　実効法高　　④　外壁法高

第５図　凡例

Ⅳ 基 本 層 序

基本層序は、調査区内(第６図)に設定したトレンチの土層断面(第７～11図)を観察し、その成果をまとめたものを記載している。層序は大きくⅠ～ⅩⅦ層に分けられる。そのうち、Ⅱ・Ⅲ層は近世以降で、Ⅳ層より下層は縄文時代以前に相当する。Ⅳ層以降の層序は谷地形となる箇所において限定的に見られることが確認できている。

Ⅰ層：黒褐色～暗褐色土(10YR3/2～3/4)粘性弱い、しまり弱い。基本的に遺跡の全体を覆っている。斜面下部にやや厚く堆積する傾向がみられる。

Ⅱ層：斜面上部からの崩落によって二次堆積した土で、マサ土ブロックを含む。土質の違いによって更に３層に分かれる。場所により削平を受けて堆積が確認できない箇所もある。近世の遺物が出土する。

Ⅱa層：褐色土(10YR4/4)粘性弱い、しまりやや弱い。

Ⅱb層：褐色土(10YR4/4)粘性やや強い、しまりやや弱い。

Ⅱc層：黒褐色土(10YR3/1)粘性中、しまりやや弱い。

Ⅲ層：二次堆積によって堆積した土で、風化礫のブロックを混入するか否かで２層に分かれる。谷地形の上部に堆積する。Ⅱ層と同じく、近世の遺物が出土する。

Ⅲa層：暗褐色土(10YR3/4)粘性やや強い、しまりやや強い。

Ⅲb層：暗褐～黒褐色土(10YR3/3～2/3)粘性やや強い、しまり強い。風化礫のブロックを多量に含む。Ⅲb層までが近世に堆積した土であると捉えている。

Ⅳ層：黒褐色土(10YR2/3～3/3)粘性、しまり共にやや強い。明黄褐色(10YR6/6)の十和田中掫テフラ(To-cu)ブロックが堆積することからⅣ層より下層は、縄文時代前期以前と捉えている。Ⅳ層とⅢ層の間に本来であれば何層か堆積していたと考えられるが、削平の影響を受けているためその詳細は不明である。一部、色調の違いによってⅣa層とⅣb層に分けているものの、基本的には同じ土である。

Ⅴ層：暗褐色土(10YR3/3)粘性やや強い、しまりやや弱い。Ⅳ層よりも色調はやや明るい。

Ⅵ層：黒褐色土(10YR2/3)粘性強い、しまりやや弱い。

Ⅶa層：暗褐色土(10YR3/3)粘性、しまり共にやや強い。

Ⅶb層：黒褐色土(10YR3/2)粘性無し、しまり中。曲輪Ⅳの北側斜面部に開けたトレンチで確認した。Ⅶa層に似るが、砂、マサ土を含む。

Ⅷ層：暗褐色～にぶい黄褐色土(10YR3/4～4/3)粘性、しまり共にやや強い。

Ⅸ層：にぶい黄褐色～明褐色土(10YR4/3～7.5YR5/6)粘性強く、しまりやや強い。所々にマサ土を含む。更に、二次堆積によって堆積した色調の異なるⅨa層とⅨb層がある。

Ⅸa層：にぶい黄褐色土(10YR5/4)粘性、しまり共にやや強い。細砂と小礫を少量含む。

Ⅸb層：にぶい褐色土(7.5YR5/3)粘性中、しまり強い。小礫を多量に含む。

Ⅹ層：暗褐色～褐色土(10YR3/4～7.5YR4/4)粘性やや弱い、しまりやや強い。Ⅳ層とⅥ層との間層で、曲輪Ⅳ東側の切岸で確認した。

ⅩⅠ層：暗褐色土(10YR3/3)粘性強い、しまりやや強い。粘質土。曲輪Ⅳの北側斜面部に開けたトレンチで確認した。

ⅩⅡ層：暗褐色土(10YR3/4)粘性やや弱い、しまりやや強い。砂、マサ土を含む。曲輪Ⅳの北側斜面部に開けたトレンチで確認した。
ⅩⅢ層：暗褐色土(10YR3/3)粘性中、しまりやや強い。砂、マサ土を含む。曲輪Ⅳの北側斜面部に開けたトレンチで確認した。
ⅩⅣ層：暗褐色土(10YR3/4)粘性やや弱い、しまり中。砂、マサ土を含む。曲輪Ⅳの北側斜面部に開けたトレンチで確認した。
ⅩⅤ層：風化花崗岩の岩盤　灰白色(10YR8/1)粘性無し、しまり強い。場所によりにぶい黄褐色(10YR5/3)や明黄褐色(10YR6/6)の箇所もある。花崗岩由来の岩体、いわゆるマサ土。
ⅩⅥ層：黒褐色土(10YR3/2)粘性、しまり共にやや弱い。粗砂が混入する。
ⅩⅦa層：黒褐色土(10YR3/2)粘性、しまり共にやや弱い。Ⅸ層が少量含む。
ⅩⅦb層：灰黄褐色土(10YR4/2)粘性、しまり共にやや弱い。Ⅸ層が少量含む。

－基本層序と遺構の判定基準－

遺構精査は、前章でも記載したように、試掘調査により層序を把握した後に進めている。よって城館だからといって、その対象範囲に対して従来行われているような地山まで直接重機で掘り下げるような方針は採用していない。これにより縄張図の段階で遺構の可能性があっても、以下の基準を満たしていないと判断できた場合は、遺構として扱っていない。その基準は以下の通りである。

平場：基本的に試掘段階でⅠ層だけを確認する事例が多い。このことが原因により平場の形成時期について判然としないことが多いことから、下記の条件を用いて遺構を確定している。

基本的に曲輪Ⅳでは、平場に対して版築(盛土)を用いる場合と、地山を削り出す場合が認められている。前者であれば当然遺構として成立するが、後者の場合は水平に平坦面を形成している時と以下の切岸の間に構築されている時に限って平場としている。平場７・８・13は遺構として扱っているものの、自然地形の可能性も十分に考えられる。つまり、遺跡の外側に向かうにつれて、遺跡と自然地形の境は不明瞭となる。その例としては、平場として一見良好に思えるⅡＢ14・25グリッド、ⅡＢ32・42グリッドに位置する丘陵先端部などの地形は、この条件を満たしていないため遺構として認定していない。この対象となるのは平場10・14であるが、これらの平場に隣接する斜面には切岸などが形成されていない。両者では遺構を確認できず、平場14からは削平を受け地形が改変されていた。このようなことからも遺構としては扱っていない。

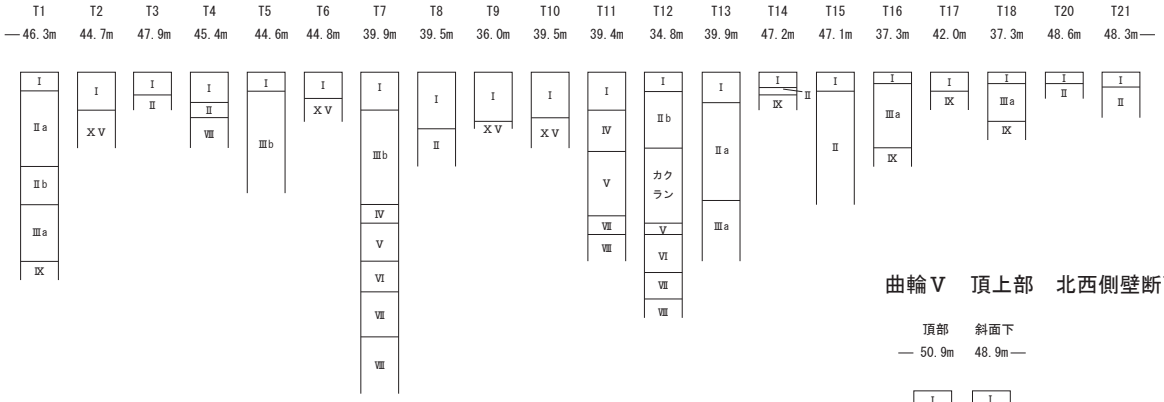
切岸：平場と同様の堆積を多く認められるが、Ⅱ層ないしⅢ層の堆積を確認できた場合のみ遺構として認定している。逆にⅠ層及び縄文期に由来する黒色土を確認した場合に限っても同様に認定していない。これは基本的に切岸がⅩⅤ層まで削り出すか、盛土により構築しているからである。

このような条件をもとに調査を進めていくと、曲輪Ⅴの東斜面、曲輪Ⅲの南西斜面に形成されている平場のような地形、切岸のような地形は、遺構として大半が成立しない。

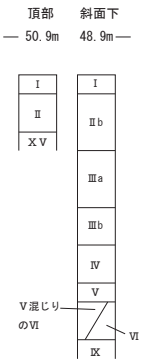
T1～132
生涯学習文化課トレンチ
0
(1：2,000)
100m
T1
T2
T3
T4
T5
T6
T7
T8
T9
T10
T11
T12
T13
T14
T15
T16
T17
T18
T20
T21
T22
T24
T25
T26
T27
T28
T29
T30
T31
T32
T33
T34
T35
T36
T37
T38
T39
T40
T41
T42
T43
T101
T102
T103
T104
T105
T106
T107
T108
T109
T110
T111
T112
T113
T114
T115
T116
T117
T118
T119
T120
T121
T122
T123
T124
T125
T126
T127
T128
T129
T130
T131
T132

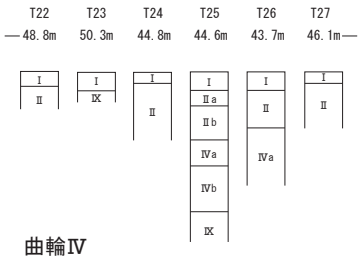
第６図　トレンチ配置図

曲輪Ⅴ

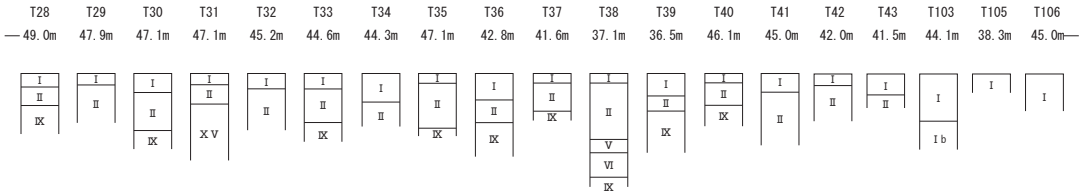


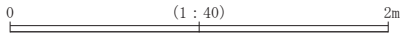
曲輪Ⅴ　頂上部　北西側壁断面



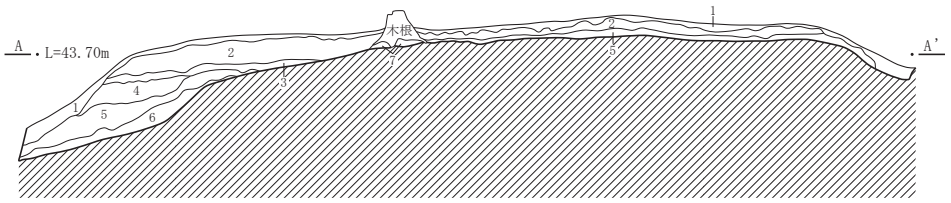


曲輪Ⅳ



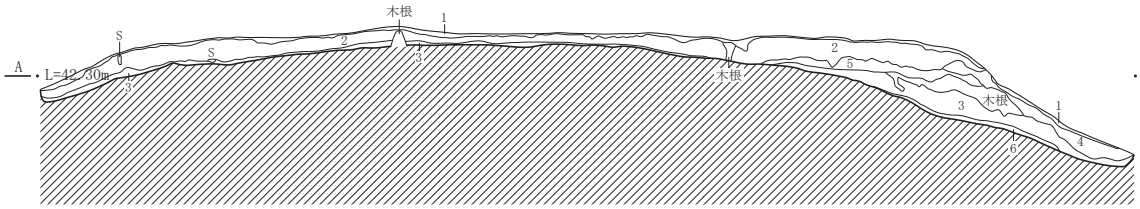


T130



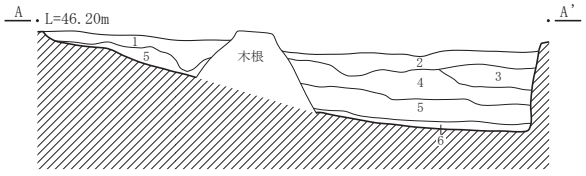
1. Ⅰ層。
2. Ⅱ層。
3. Ⅴ層。
4. Ⅵ層。
5. Ⅸa層。
6. Ⅸb層。

T131

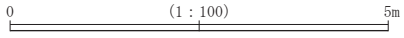


1. Ⅰ層。
2. Ⅱa層。
3. Ⅸa層。
4. Ⅱb層。
5. Ⅹ層。
6. Ⅸb層。

T132

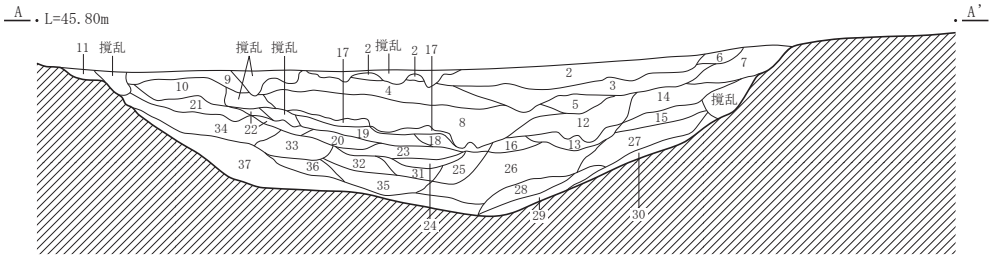


1. 撹乱。
2. Ⅴ層。
3. Ⅵ層。
4. Ⅷb層。
5. Ⅷ層。
6. Ⅸ層。



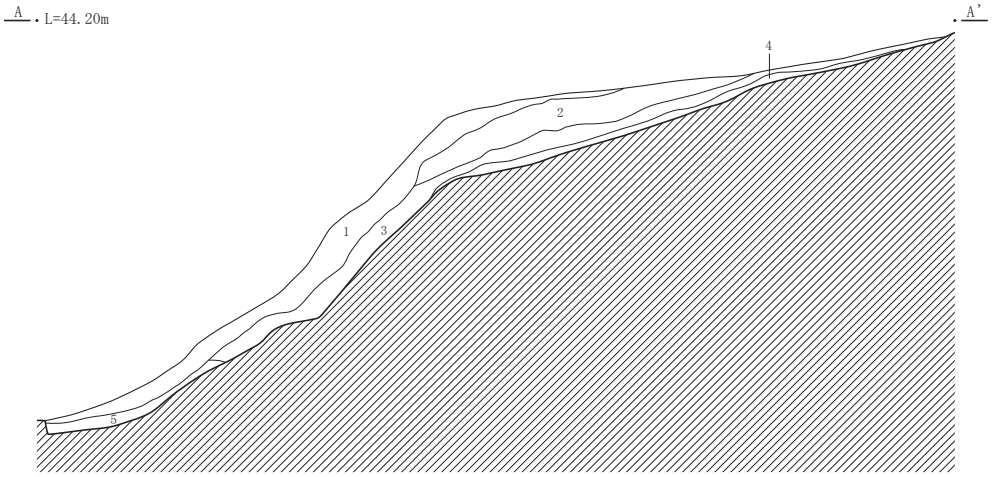
第7図　断面（1）

T101



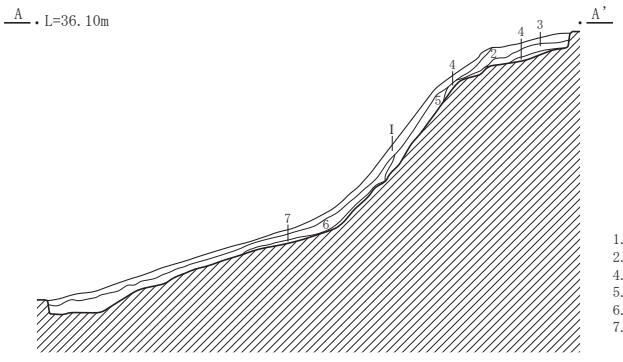
2.Ⅳ層
3.黒褐色土（7.5YR3/1）　粘性やや強く、しまりやや強い。
4.Ⅴ層
5.黒褐色土（10YR3/2）　粘性やや強く、しまりやや強い。
6.黒褐色土（10YR3/1）　粘性やや強く、しまり強い。
7.にぶい黄褐色土（10YR4/3）　粘性やや強く、しまり強い。
8.Ⅵ層
9.褐灰色土（10YR4/1）　粘性、しまり共に強い。
10.灰黄褐色土（10YR4/2）　粘性、しまり共に強い。
11.褐灰色土（10YR4/1）　粘性、しまり共にやや強い。
12.黒褐色土（10YR3/1）　粘性、しまり共にやや強い。
13.褐色土（10YR4/4）　粘性、しまり共に強い。
14.暗褐色土（10YR3/4）　粘性、しまり共にやや強い。
15.褐色土（10YR4/6）　粘性、しまり共に強い。
16.暗褐色土（10YR3/3）　粘性中・しまりやや強い。
17.黒褐色土（10YR3/2）　粘性、しまり共にやや強い。
18.暗褐色土（10YR3/3）　粘性、しまり共にやや強い。
19.灰黄褐色土（10YR4/2）　粘性、しまり共に強い。
20.褐灰色土（10YR4/1）　粘性、しまり共に強い。
21.暗灰黄色（2.5Y4/2）　粘性、しまり共に強い。
22.暗オリーブ褐色（2.5Y3/3）　粘性、しまり共に強い。
23.黒褐色土（2.5Y3/2）　粘性、しまり共に強い。
24.黒褐色土（2.5Y3/1）　粘性、しまり共にやや強い。
25.黒色土（2.5Y2/1）　粘性やや強く、しまり強い。
26.灰黄褐色土（10YR4/2）　粘性、しまり共に強い。
27.黒褐色土（10YR3/2）　粘性、しまり共に強い。
28.灰黄褐色土（10YR4/2）　粘性、しまり共に強い。
29.にぶい黄褐色土（10YR4/3）　粘性、しまり共に強い。
30.にぶい黄褐色土（10YR4/3）　粘性、しまり共に強い。
31.黒褐色土（10YR3/1）　粘性、しまり共にやや強い。
32.黒褐色土（10YR3/2）　粘性やや強く、しまり強い。
33.灰黄褐色土（10YR4/2）　粘性、しまり共に強い。
34.褐灰色土（10YR5/1）　粘性、しまり共に強い。
35.灰黄褐色土（10YR4/2）　粘性、しまり共に強い。
36.褐灰色土（10YR4/1）　粘性、しまり共に強い。
37.暗灰黄色（2.5Y4/2）　粘性、しまり共に強い。

T102

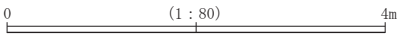


1.Ⅰ層。
2.暗灰黄色土（2.5Y4/2）　粘性なし、しまり弱い。
3.暗オリーブ褐色土（2.5Y3/3）　粘性なし、しまり弱い。
4.灰黄色土（2.5Y7/2）　粘性なし、しまり弱い。地山ブロックを多く含む。
5.黄灰色土（2.5Y4/1）　粘性なし、しまり弱い。

T107

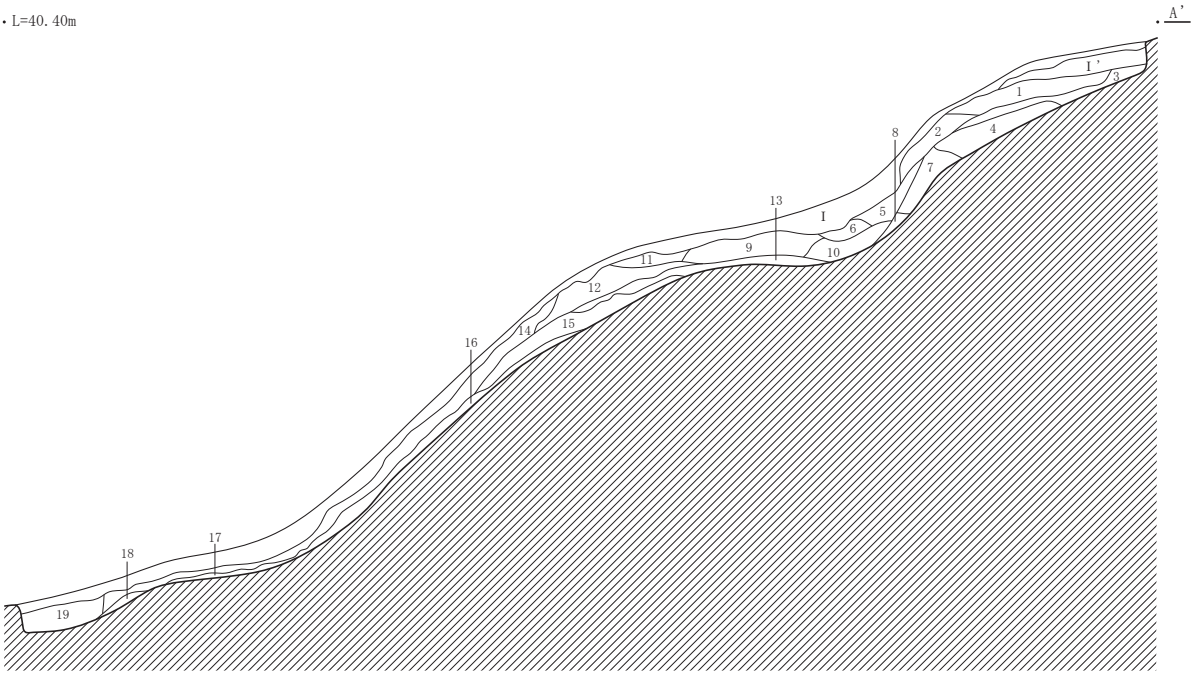


1.にぶい黄褐色土（10YR4/3）　粘性やや弱い、しまりやや強い。
2.暗褐色土（10YR3/3）　粘性やや弱い、しまり中。
4.Ⅷ層。
5.Ⅷ層崩落土。粘性、しまり共に弱い。
6.暗灰黄色土（2.5Y4/2）　粘性、しまり共に弱い。二次堆積土。
7.灰黄褐色土（10YR4/2）　粘性、しまり共に弱い。地山崩落土。



第8図　断面（2）

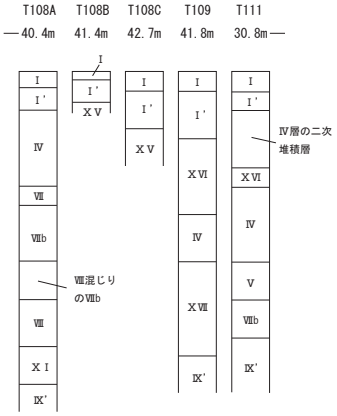
T104



0 (1：80) 2m

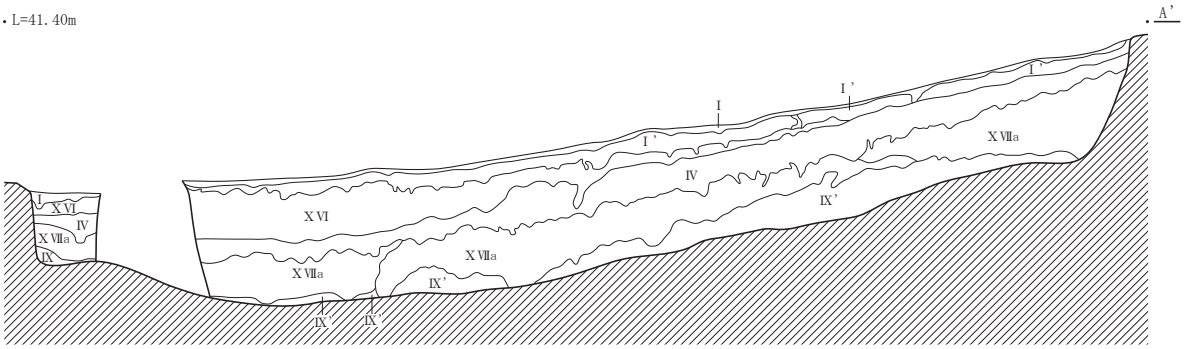
1. 灰黄褐色土(10YR4/2) 粘性弱い、締り中。
2. にぶい黄褐色土(10YR4/3) 粘性なし、締り弱い。
3. 灰黄褐色土(10YR4/2) 粘性なし、締りやや弱い。
4. 黒褐色土(10YR3/1) 粘性やや強い、締り強い。
5. 褐灰色土(10YR4/1) 粘性なし、締り弱い。
6. 灰黄褐色土(10YR4/2) 粘性なし、締りやや弱い。
7. 褐色土(10YR4/4) 粘性弱い、締りやや弱い。
8. 灰黄褐色土(10YR5/2) 粘性なし、締り中。
9. 灰褐色土(10YR4/2) 粘性なし、締り弱い。
10. 褐灰色土(10YR4/1) 粘性なし、締り中。
11. 暗灰黄色土(2.5Y4/2) 粘性弱い、締りやや弱い。
12. オリーブ褐色土(2.5Y4/3) 粘性弱い、締り中。
13. 暗灰黄色土(2.5Y4/2) 粘性弱い、締りやや弱い。
14. オリーブ黒色土(5Y2/2) 粘性なし、締りやや弱い。
15. 暗オリーブ褐色土(2.5Y3/3) 粘性弱い、締り中。
16. 褐色土(10YR4/4) 粘性なし、締り弱い。
17. 暗灰黄色土(2.5Y4/2) 粘性弱い、締りやや弱い。
18. 褐色土(10YR4/4) 粘性やや弱い、締りやや強い。
19. 黒褐色土(2.5Y3/1) 粘性なし、締りやや弱い。

曲輪Ⅲ・Ⅳ間の旧河道



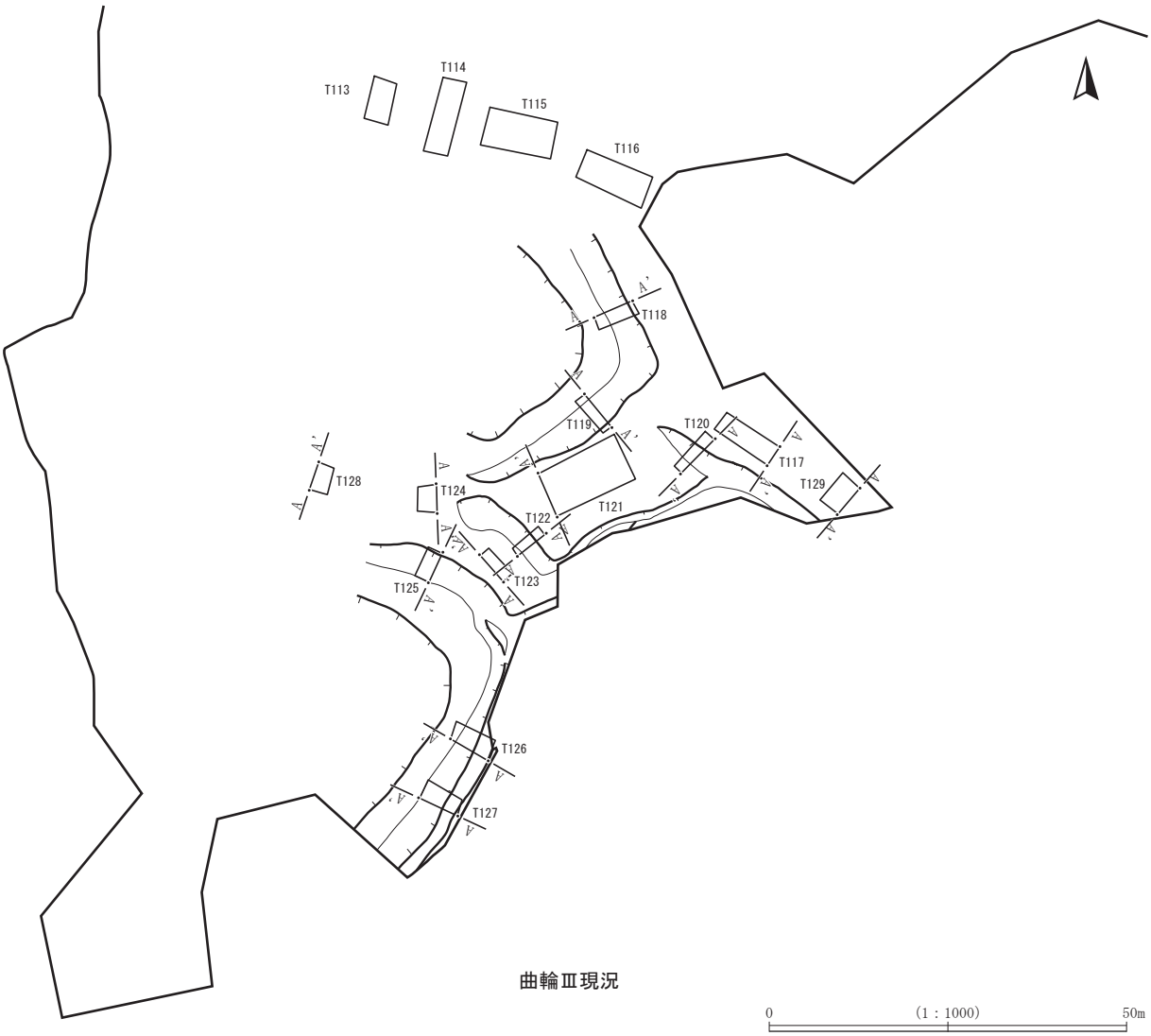
0 (1：40) 1m

T109



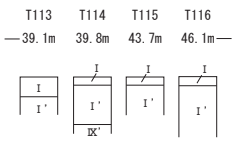
0 (1：100) 5m

第９図　断面（３）

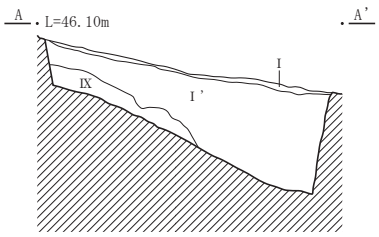


曲輪Ⅲ現況

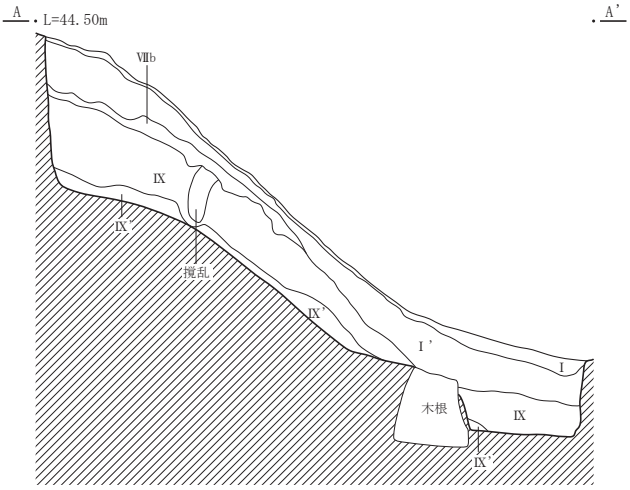
0　(1：1000)　50m



T117



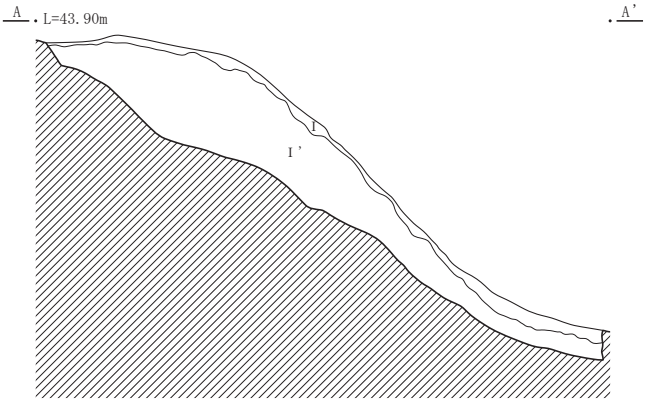
T118



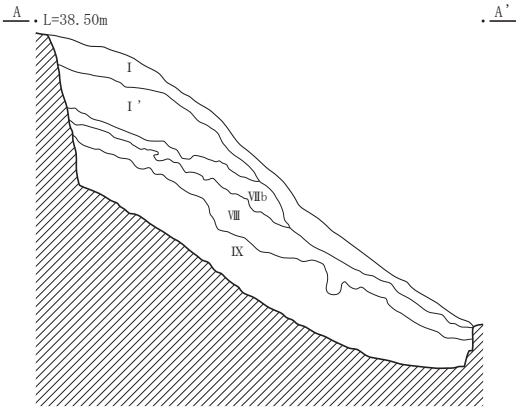
0　(1：80)　4m

第10図　断面（4）

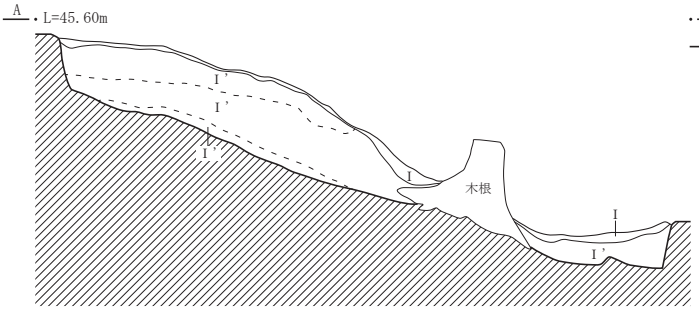
T119



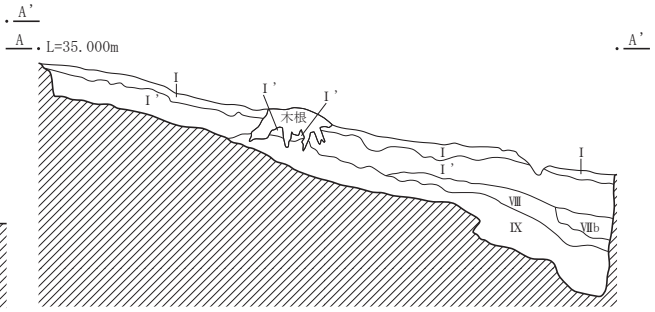
T125



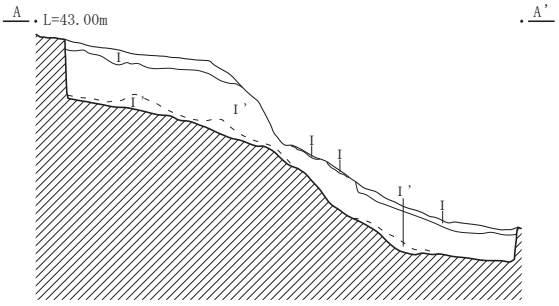
T120



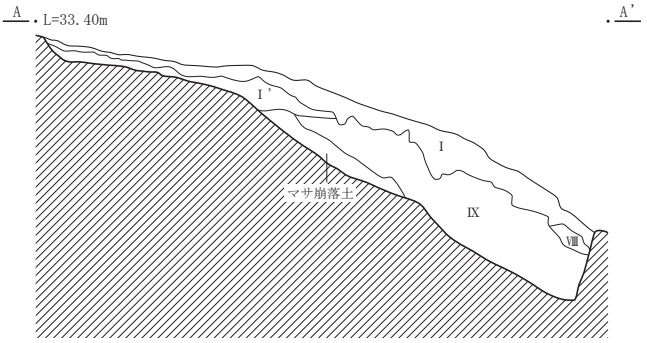
T126



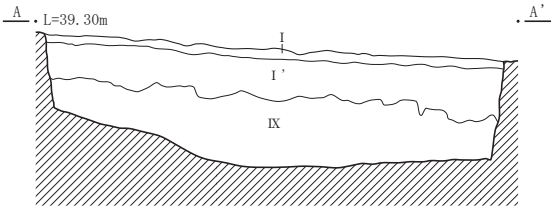
T122



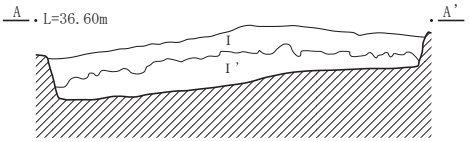
T127



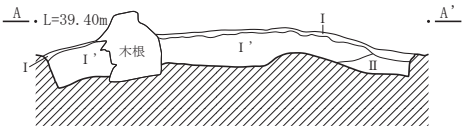
T123



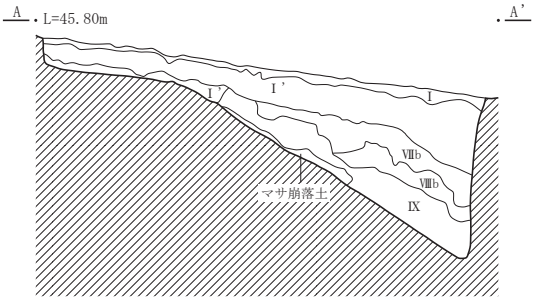
T128



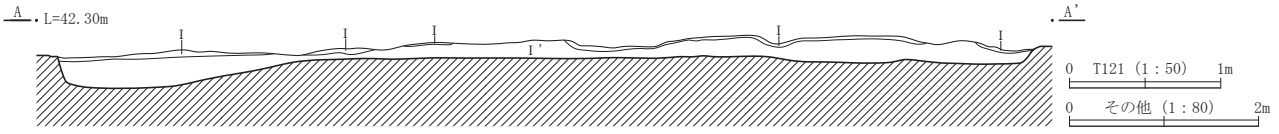
T124



T129



T121



第11図　断面（5）

Ⅴ　高田城跡概観

1　歴史的環境

高田城跡(別称八幡館)の歴史にみられる気仙千葉氏の系図は以下の通りである。その忠広から続いた歴史を簡単にまとめておく。

千葉忠広－広胤┬重慶┬胤慶－胤長－長継－信継＝基継－胤継－宗綱－広綱┬信茂
　　　　　　└慶宗└宗胤　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　├信雄
　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　├信綱
　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　└清春

馬篭千葉の系統にある忠広の子、広胤が正和４年(1315)に鶴崎城を構え、広胤が気仙千葉の祖となる。重慶の時に、高田・長部を分立させ、前者に胤慶、後者に慶宗を配置している。その後、胤慶が浜田氏の祖となる。この分立後に高田城へと移ったのが14世紀後半と想定されている。ただし、明確な年代は把握されていない。

応永20年(1413)、分立した後、胤慶と慶宗の間では争乱が起こる。長部城主慶宗が高田城を攻め、胤慶を討ち取っているものの、その３ヶ月後には息子の胤長が慶宗を自害させる。そして、弟宗胤を長部城に入れている。

以後、広綱が米崎城に移転するまでの約150年の間、当該地域は高田城を中心に統括されていく。そして、信継まで続くものの世継がないことから、葛西重信の次男基継を相続させると、世系が続いていく。ただし、この基継以降は、この気仙地域では合戦が多くなり、緊張した環境下にあると言える。代表的な合戦は以下の通りである。

永正元年(1504)、基綱は大原信明と合戦を行うものの、敗北している。

天文７年(1538)、胤継は矢作重村と連合して江差重信と合戦を行う。

永禄３年(1560)、広継は葛西氏に反乱を起こし、熊谷長賢の討伐されている。ただし、この広継に関しては、上記の系統に見られないことから判然としない。

そして、永禄年間後期、米崎城から及川重綱を移転させ、そこを居城と移したのは広綱である。ただし、高田城から移転した年代は定かでは無い。この頃になると軍拡化が進み、気仙地域はさらに緊迫した歴史を迎え、動乱の地へと加速させている。

天正12年(1584)、詳細は不明であるが、薄衣氏と争乱している。

天正15年(1587)、本吉郡に侵攻するものの、葛西氏の仲介で沈静化し撤兵している。

天正16年(1588)、浜田安房守の大乱。葛西家臣の重臣である広綱が起こした晴信の代における領内最大の兵乱である。広綱は挙兵し本吉郡に進撃するが、気仙沼熊外氏を中心とした軍勢に制圧され降参している。

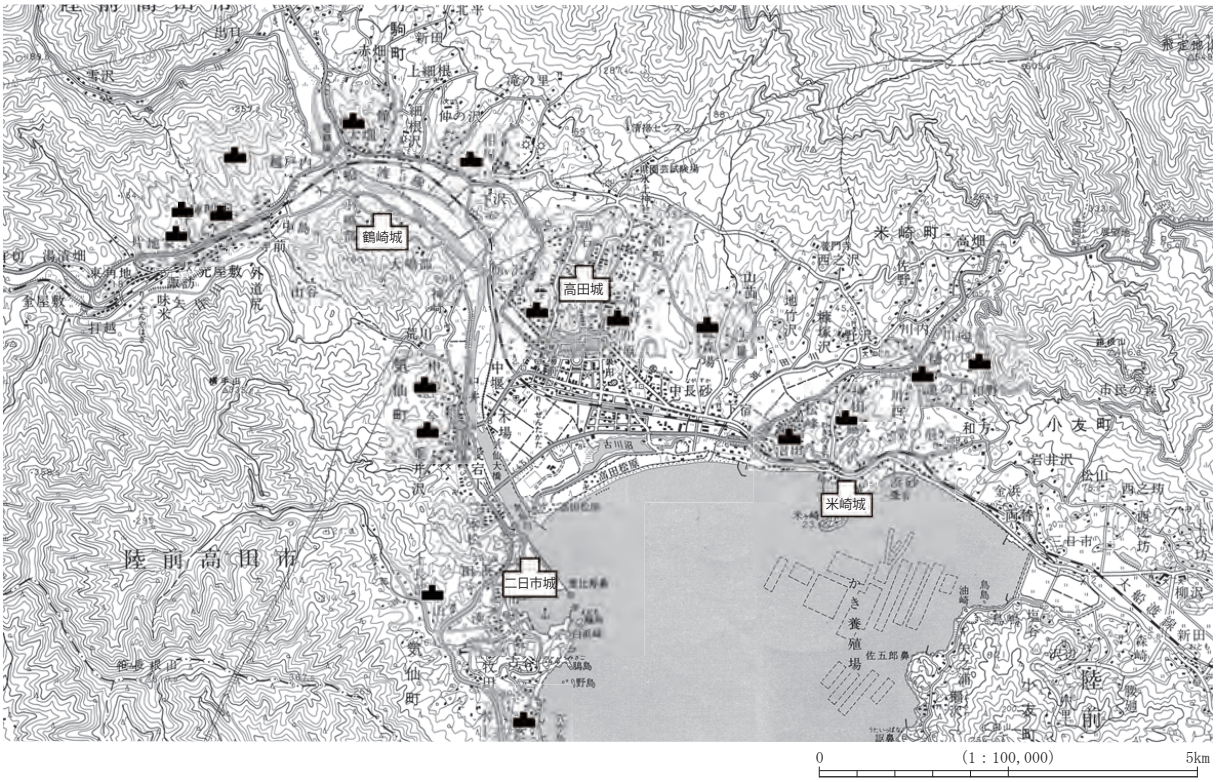
この大敗後、浜田は職と領地が剥奪され失脚すると、天正17年(1589)には大乱を治めた戦功により気仙矢作が気仙仕置の委任を受けている。一年後、天正18年(1590)には豊臣秀吉が全国を統一すると歴史は大きく動いていく。葛西氏は上記の大乱が足枷となり小田原不参となったため奥州仕置が行われ、400年間続いた晴信の代で没落している。それらの大崎・葛西の領内が木村伊勢守吉清の預かり

となたったため、その仕置に対しては旧臣からの不満が募り一揆が続発する。その一揆の平定と併せて砂沼城の陥落による再仕置に伴いこの地は鎮定され、秀吉の奥州平定となる。

この奥州平定により、反乱の拠点となる城館などは徹底的に破却されている。気仙郡は伊達領となり、長部二日市館に城代を駐屯させている。そして、江戸時代に入り、寛永５年(1626)以降に駐屯させる城館を高田城へと移している。一郡に一城館という措置の基に、当該地域が二日市館・高田城を中心に平定されていく。この平定時(天正19年(1591))の城館に関して注目すべき点がある。それは当該地域に置かれた城館を気仙城と記述されているものである。ただし、この気仙城がどこの城を指しているのかは判然としないが、高田城であった可能性が示唆されている。

気仙千葉氏は上記のように約180年近い歴史の中で、中心に位置づけられるのが高田城であったと窺うことができる。胤慶や広綱の代で争乱を引き起こしているものの、高田城を中心に形成されていた時期は、基本的に情勢は安定していたものと思われる。

このような背景の中で主要な役割を担った城館を第12図に図示している。４箇所の城館は、鶴崎城→高田城・二日市館→米崎城と変遷しており、居城の様相は歴史と共に変化している。基本的に鶴崎城はやや住田側、恐らく内陸部である気仙川上流域を望むように構えている。そして、高田城と二日市館が構築されているが、前者が平野を、後者が広田湾より南を一望出来る場所に構えることで、平野と広田湾など広範囲を意識した上での配置と捉えられる。さらに、米崎城は、海へと突き出た丘陵上にあることから、防御性が高く南に広がる海を一望できる構えとなる。戦乱の世にあったため、防御性をより求めた結果と捉えられる。この変遷からは、当時の情勢と騒乱の一端を垣間見ることができる。



第12図　城館分布図

２　縄　　張

高田城跡(別称八幡館)は、氷上山から陸前高田平野へと延びる標高約28～53mの丘陵上に立地している。前方は遮るものがなく、陸前高田平野と広田湾を見下ろせる眺望の良い場所であり、市内に所在する主要な城館を望むことができる。城館は丘陵の先端部から内陸部にかけて構築されている。その規模は南北約400m×東西約200mに及び、総面積は約７万㎡である。ここでは第13図に縄張図を掲載しているが、この図は室野氏が2013年１月に作成したものを基に、調査成果を加え、さらに現地踏査を行ったうえで加筆修正したものである。調査以前には、本城館の曲輪は５ヵ所で構成されていると捉えられていた。しかし、調査の結果、一番北側に位置する曲輪Ⅴが構成から外れ、曲輪はⅠ～Ⅳの４ヵ所からなることが確認できており、当初の想定より規模が小さくなることが判明している。曲輪Ⅳで検出した堀によって城館の内外を区画しており、丘陵頂部に位置する曲輪Ⅳから丘陵先端部へ向かって標高を下げながら各曲輪が形成されている。

曲輪Ⅰは丘陵の先端部に位置している。本丸公園が現存する。標高約28～44mであり、５箇所の平場が構築されている。城館の曲輪の中でも、広大な面積を有している。曲輪Ⅱとの間には大規模な堀が存在しており、両者を区分している。曲輪の中央には本城館で最も広い方形基調の平場(標高約40m)があり、開けた南側以外の三方は土塁に囲まれている。そして、標高を下げた位置にはそれを囲むように馬蹄状の平場が形成されている。この曲輪の東側には天照御祖神社、南側には不動尊がある。また、北東側にある平場は昭和の初期に掘削されているため、当時の状況を留めていない。さらに、その先端部の下方には外枡形の土塁を伴う虎口が想定されている。ただし、これについては市教委(2014年)によって調査が行われたものの、本城館に伴うものかについては確証が得られていないことから判然としない。

曲輪Ⅱは先端部よりやや内陸部に入り、曲輪Ⅰの北側に位置している。標高約49～52mであり、３箇所の平場が構築されている。中央には南側以外の三方が土塁に囲まれた方形基調の平場(標高約49m)が存在しており、その背後には標高を上げながら小規模な２ヵ所の平場が隣接している。その方形基調の平場には八幡神社が現存する。この曲輪における平場と土塁で囲まれた構造は、曲輪Ⅰと類似している。

曲輪Ⅲは丘陵の内陸部、曲輪Ⅱ・Ⅳに挟まれた箇所に位置している。標高42～52.6mであり、２ヵ所の平場が構築されている。曲輪Ⅳに次いで高く、頂部(標高約52.6m)に平場と思われる面が形成されている以外はその様相については判然としない。全般的に自然地形を大きく残しており、他の曲輪とは全く異なる様相を呈している。その南側には平場と切岸を組み合わせた地形が確認できたが、調査の結果からは近代の造成によるものと判明し、当初想定した規模より縮小している。それにより本曲輪は頂部のみが城館の対象となったため、その様相については一層判然としない。また、曲輪ⅢとⅣの間に位置する谷地形に関しては、想定された堀は存在していないものの、曲輪ⅢとⅣが接する場所は小さな堀が存在する可能性は残されている。ただし、後世の排水管の埋設により改変されているため言及できないが、その埋設作業は現地形を利用し大きな改変を伴わないことから十分にその可能性がある。最後に、本曲輪の様相が判然としない理由としては、調査時に立ち入り禁止を言い渡されており、現地で十分に吟味することが出来なかったことを付記しておく。

曲輪Ⅳは丘陵の内陸部、最も標高の高い最北端に位置している。標高約30～52.7mであり、14ヵ所の平場が構築されている。北側は堀によって分断されている。頂部(標高約52.7m)には方形基調の平場１があり、標高を下げたその周囲には小規模な平場が複数ヵ所に形成されている。堀１は搦手とな

る可能性がある。この曲輪の構造は他の曲輪と異なるようである。

上記のように見ていくと、各曲輪は構造が大きく異なる。曲輪Ⅰ・Ⅱは方形基調の平場、曲輪Ⅲは自然地形、曲輪Ⅳは複数の小規模な平場を伴う造りをしている。成果から曲輪Ⅳは中世的要素が極めて強く、その他の曲輪とは一線を画している。構造上の差異が形成される要因については、機能差や時期差などが考えられる。前者であれば、町を見下ろすことができる曲輪Ⅰ・Ⅱが主郭・副郭に相当するのであろうか。曲輪Ⅲは狼煙台など別の機能を検討する必要がある。曲輪Ⅳは詰城・陣城的な様相となり、北に位置する堀１は搦手に相当する。また後者であれば、先端部に位置する曲輪Ⅰ・Ⅱの平場の様相が近世に近いことから、近世期に改めて構築された可能性がある。そうであるならば江戸時代に一時期おかれた城代の頃に相当しようか。このように見ていくと、曲輪Ⅰ・Ⅱの間に位置する堀の存在も意味をなすものと思われる。それらの普請は曲輪Ⅲ・Ⅳまで及ばず、中世の様相をそのまま残したと考えることができる。

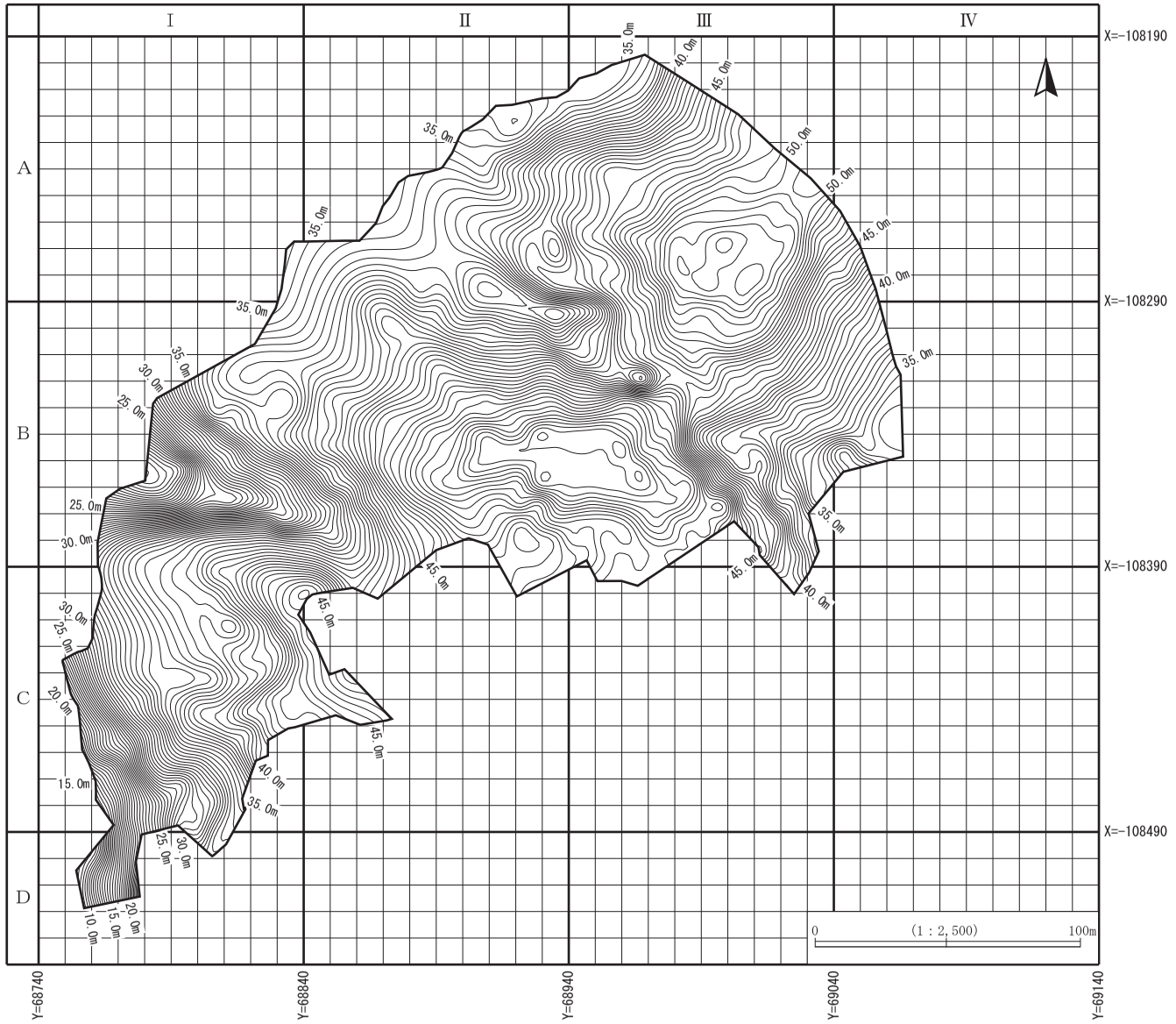
さらに全体を俯瞰していくと、城館は曲輪Ⅰ・Ⅱの東側、曲輪Ⅳの南側に位置する洞の沢地区の斜面を防御する構造になっているように看取される。これについては、曲輪Ⅳで確認できた南東方向に構築されている土塁１や、曲輪Ⅳの平場３から南東方向に下るような現況から捉えられることからもそれを裏付けることができる。要するに、そこには武家屋敷等の存在が想定され、それを取り囲むような城館構造であった可能性がある。

これらのことについては改めて最後にまとめておく。

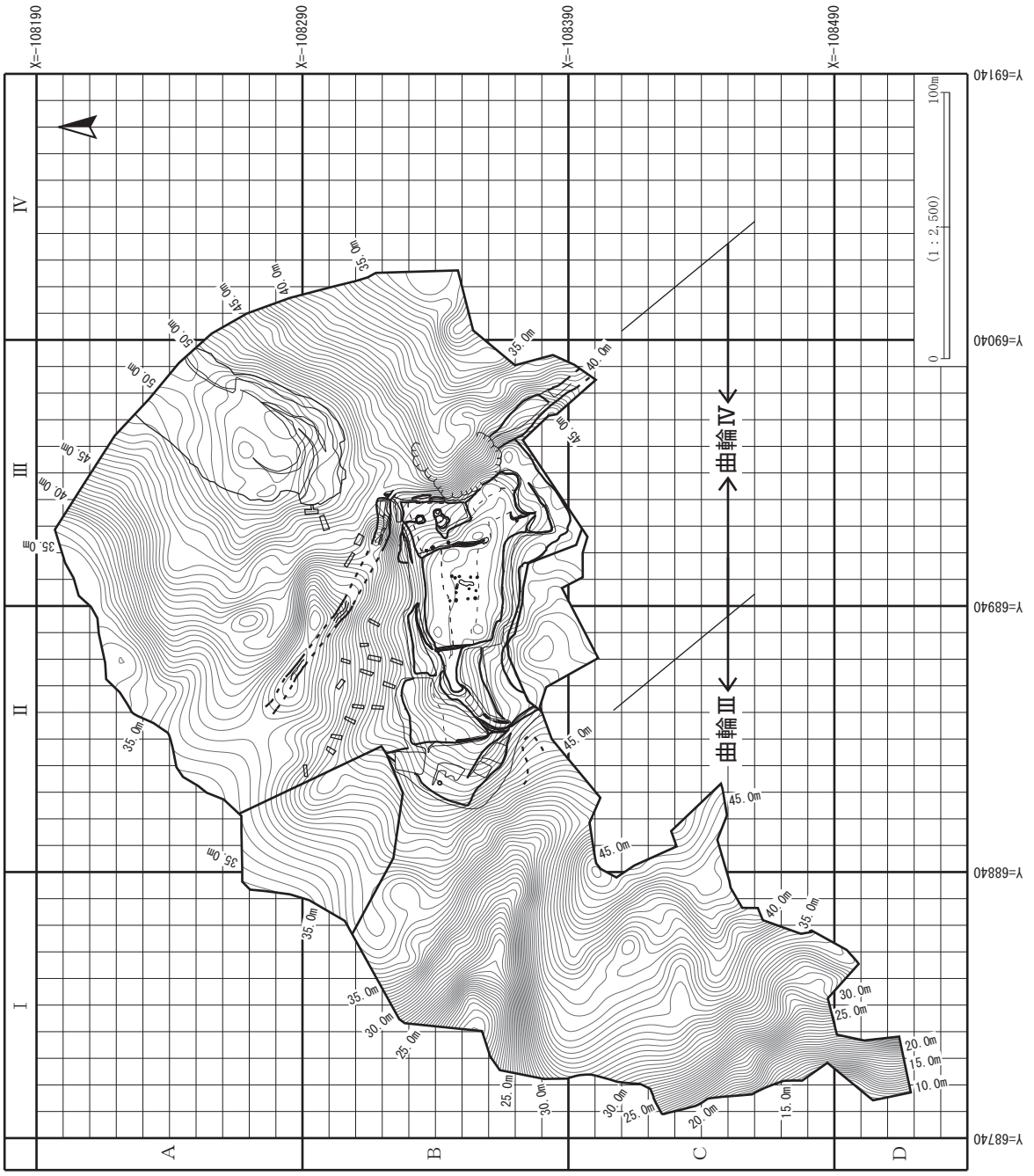
参考文献

岩　手　県　1961『岩手県史第２巻　中世篇上』
岩　手　県　1961『岩手県史第３巻　中世篇下』
岩　手　県　1963『岩手県史第４巻　近世篇１』
岩手県教育委員会　1986『岩手県中世城館分布調査報告書』岩手県文化財調査報告書第82集
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　2015『花館跡発掘調査報告書』岩文埋報638集
太田　秀春　2016「朝鮮出兵と奥羽の城郭」『東北近世の胎動』吉川弘文社
気 仙 沼 市　1988『気仙沼市史Ⅱ　先史・古代・中世篇』
小山　彦逸　1999「北東北中世城館後の特徴と研究現状」『中世城郭研究』第13号
佐藤　正助　1979『葛西四百年』三陸印刷株式会社
佐藤　正助　1995『葛西中武将録』耕風社
佐藤　正助　1997「葛西合戦録Ⅱ」『葛西史研究』第18号
三　陸　町　1992『三陸町史　第二巻　歴史篇』
紫桃　正隆　1990『戦国大名　葛西氏家臣団事典』宝文堂
菅原　喜一　1990「気仙米ヶ崎城浜田千葉氏について」『葛西氏研究』第２号
高橋　成計　2011「織豊期の陣城遺構について」第28回全国城郭研究セミナー
西田　耕三　1978『気仙の戦国誌』NSK地方出版
松　岡　進　2002『戦国期城館群の景観』校倉書房』
陸前高田市　2001『陸前高田市史　第十一巻　資料編（Ⅰ）』

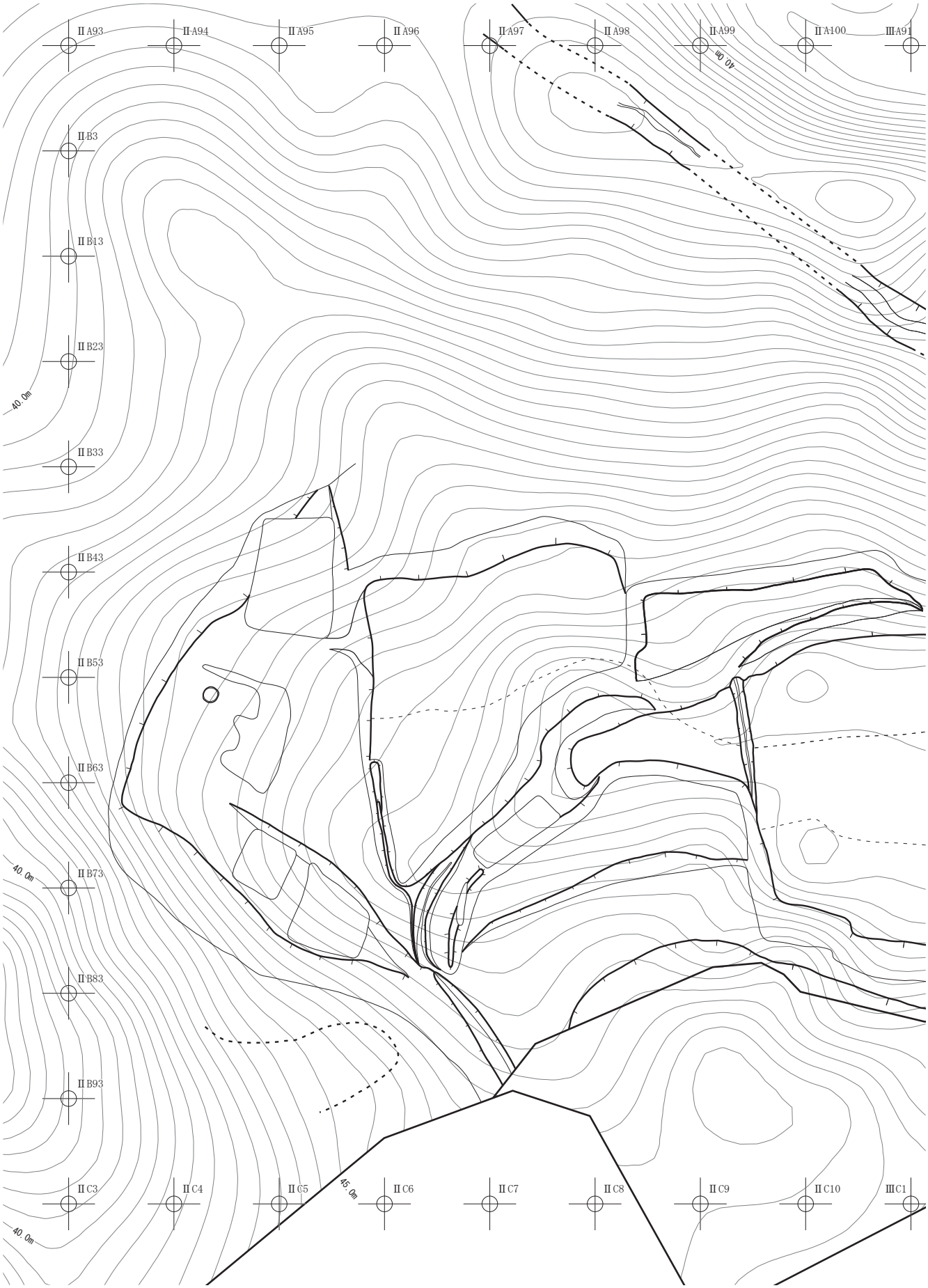
第13図　縄張図



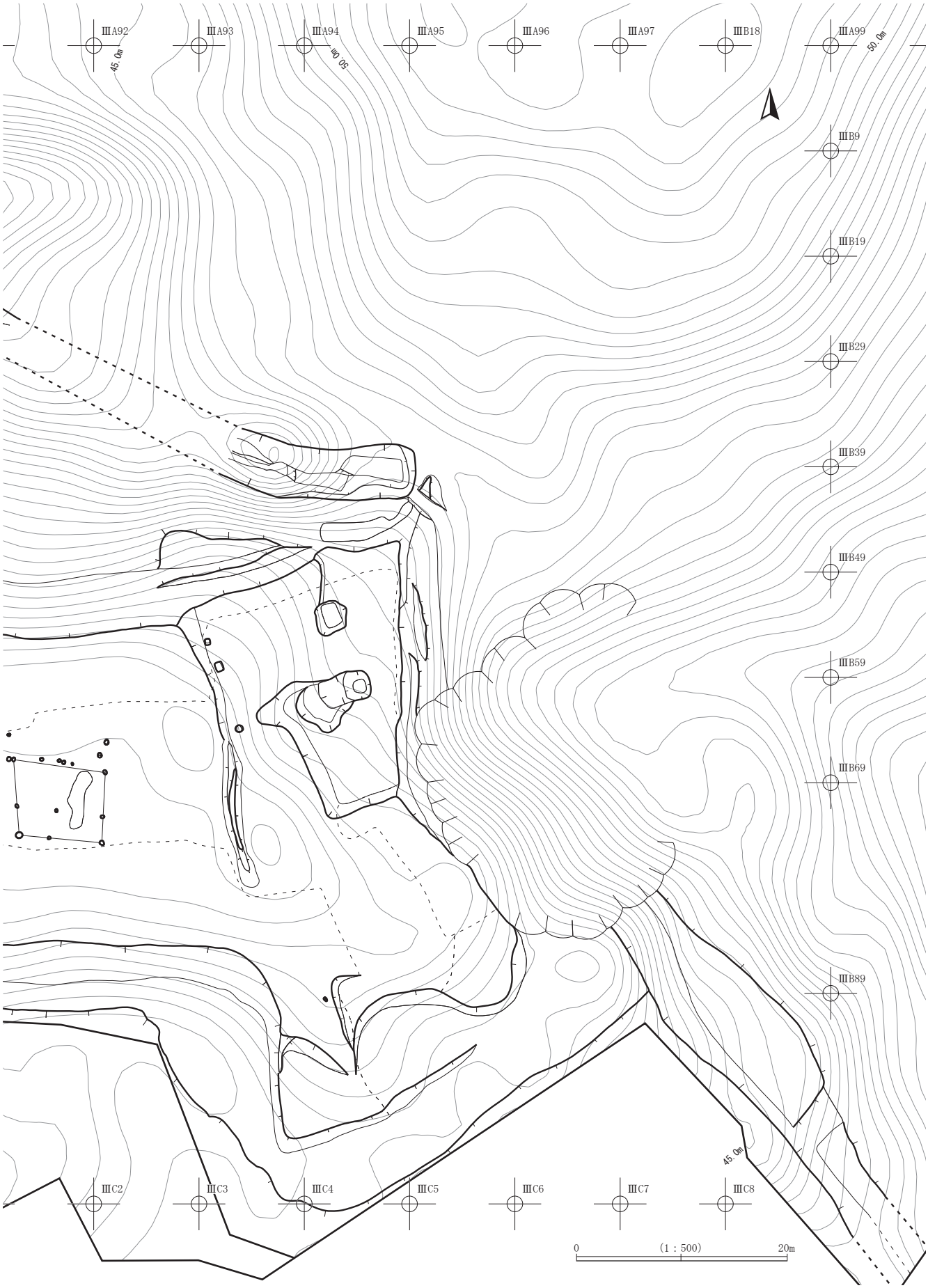
第14図　調査区内コンタ図

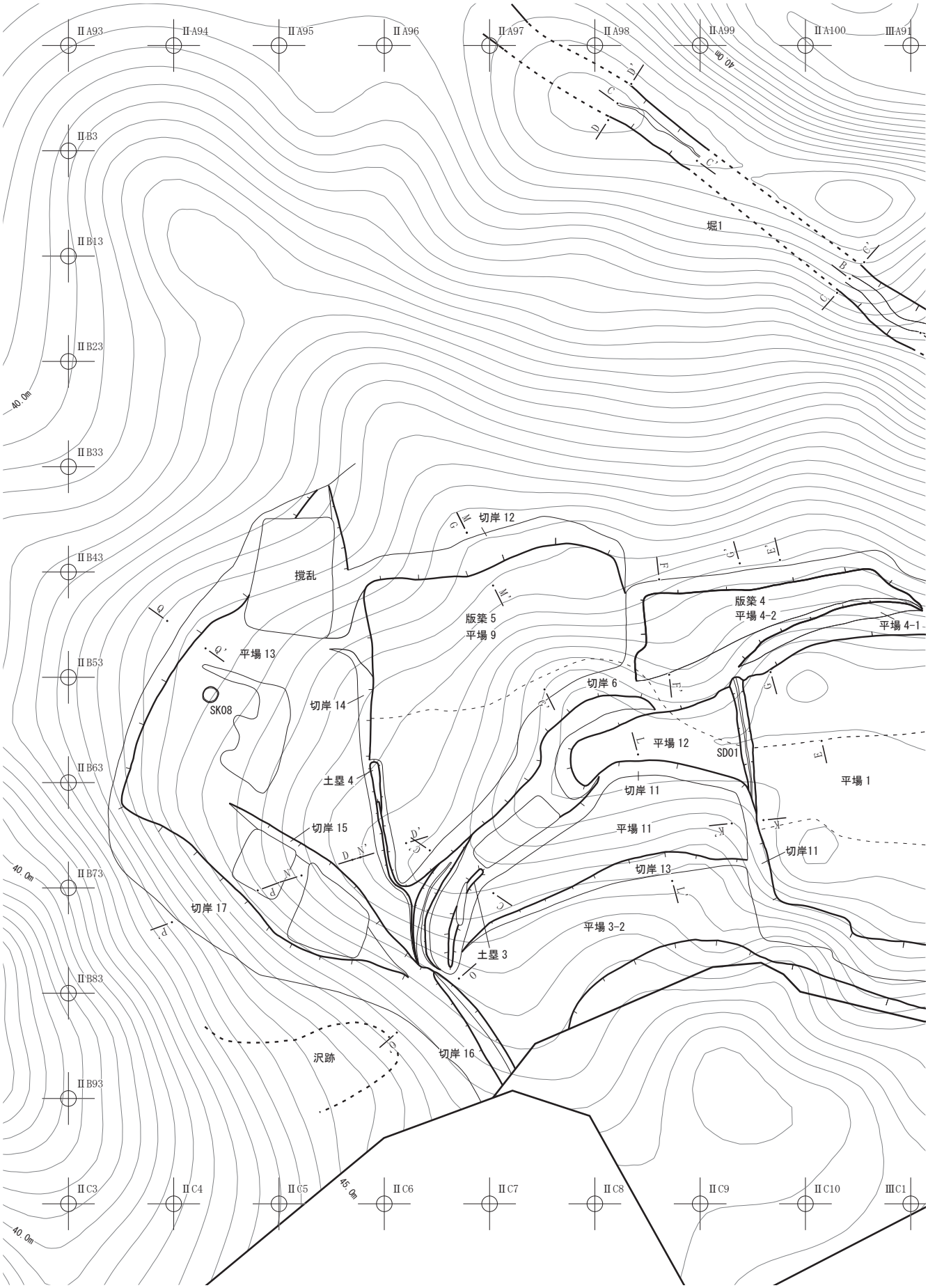

X=−108190
X=−108290
X=−108390
X=−108490
Y=69140
Y=69040
Y=68940
Y=68840
Y=68740
A
B
C
D
Ⅰ
Ⅱ
Ⅲ
Ⅳ
曲輪Ⅳ
曲輪Ⅲ
0
(1：2,500)
100m

第15図　遺構配置図（1）

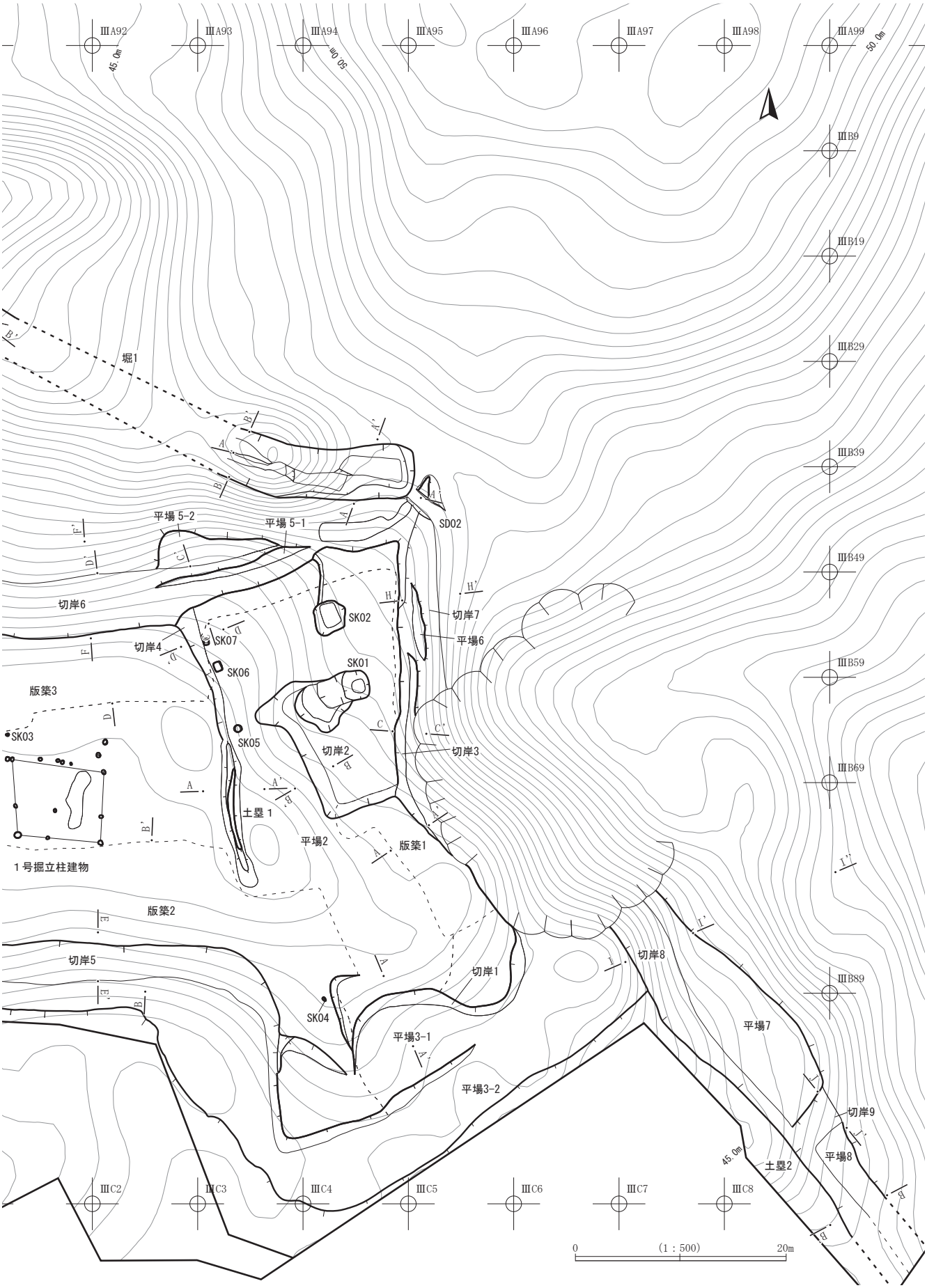

ⅡA93
ⅡA94
ⅡA95
ⅡA96
ⅡA97
ⅡA98
ⅡA99
ⅡA100
ⅢA91
ⅡB3
ⅡB13
ⅡB23
ⅡB33
ⅡB43
ⅡB53
ⅡB63
ⅡB73
ⅡB83
ⅡB93
ⅡC3
ⅡC4
ⅡC5
ⅡC6
ⅡC7
ⅡC8
ⅡC9
ⅡC10
ⅢC1
40.0m
40.0m
40.0m
40.0m
45.0m

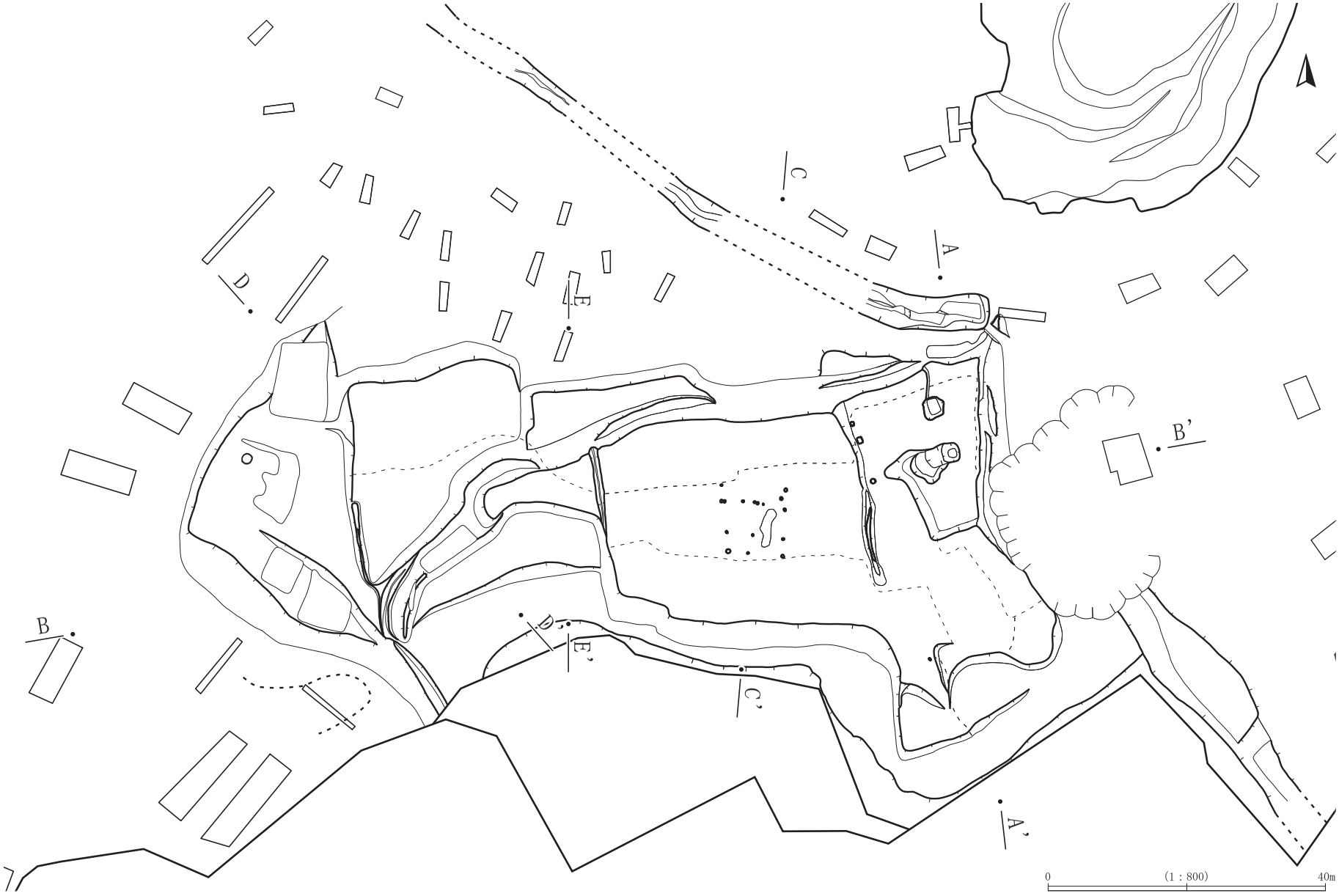
第16図　遺構配置図（2）


ⅢA92
ⅢA93
ⅢA94
ⅢA95
ⅢA96
ⅢA97
ⅢB18
ⅢA99
45.0m
50.0m
ⅢB9
ⅢB19
ⅢB29
ⅢB39
ⅢB49
ⅢB59
ⅢB69
ⅢB89
ⅢC2
ⅢC3
ⅢC4
ⅢC5
ⅢC6
ⅢC7
ⅢC8
45.0m
0
(1：500)
20m


ⅡA93
ⅡA94
ⅡA95
ⅡA96
ⅡA97
ⅡA98
ⅡA99
ⅡA100
ⅢA91
ⅡB3
ⅡB13
ⅡB23
ⅡB33
ⅡB43
ⅡB53
ⅡB63
ⅡB73
ⅡB83
ⅡB93
ⅡC3
ⅡC4
ⅡC5
ⅡC6
ⅡC7
ⅡC8
ⅡC9
ⅡC10
ⅢC1
40.0m
45.0m
堀1
切岸 12
撹乱
版築 5
平場 9
版築 4
平場 4-2
平場 4-1
平場 13
SK08
切岸 14
切岸 6
平場 12
SD01
平場 1
土塁 4
切岸 11
切岸 15
平場 11
切岸11
切岸 13
切岸 17
平場 3-2
土塁 3
沢跡
切岸 16

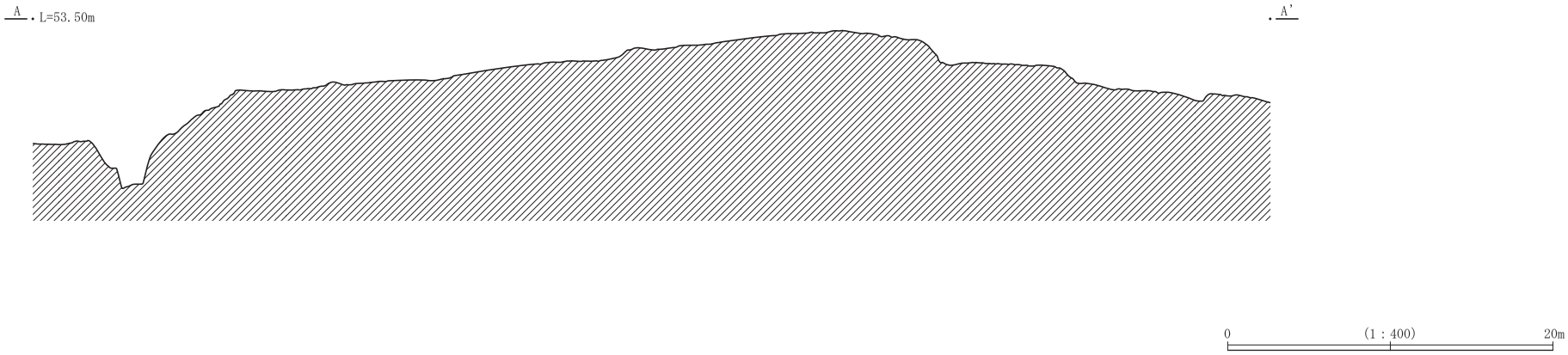
第17図　遺構配置図（3）


ⅢA92
ⅢA93
ⅢA94
ⅢA95
ⅢA96
ⅢA97
ⅢA98
ⅢA99
ⅢB9
ⅢB19
ⅢB29
ⅢB39
ⅢB49
ⅢB59
ⅢB69
ⅢB79
ⅢB89
ⅢC2
ⅢC3
ⅢC4
ⅢC5
ⅢC6
ⅢC7
ⅢC8
45.0m
50.0m
堀1
平場5-2
平場5-1
SD02
切岸6
SK02
切岸7
切岸4
SK07
平場6
SK06
SK01
版築3
SK03
SK05
切岸2
切岸3
土塁1
平場2
版築1
1号掘立柱建物
版築2
切岸5
切岸1
切岸8
SK04
平場3-1
平場7
平場3-2
切岸9
平場8
土塁2
0
(1：500)
20m

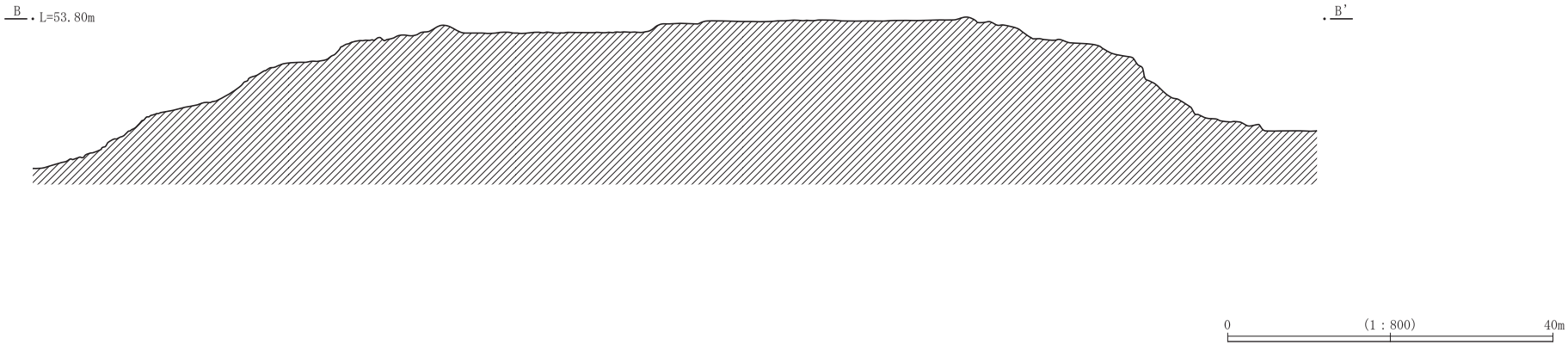


第18図　エレベーション設定図

エレベーション１

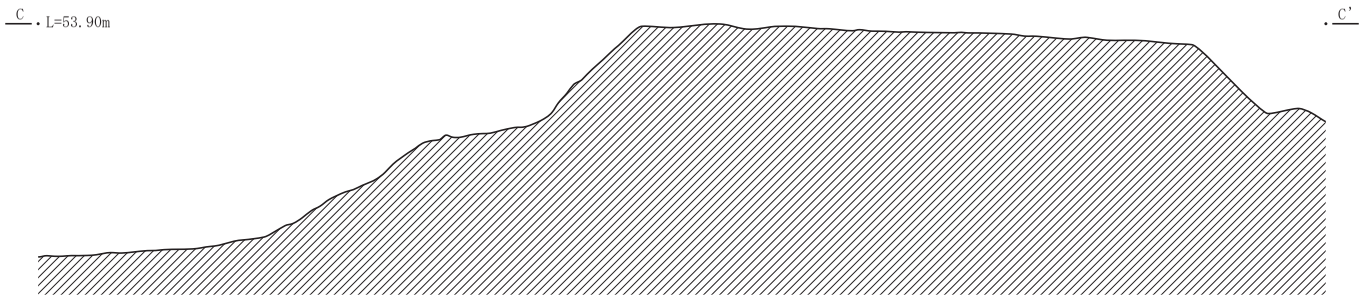


エレベーション２

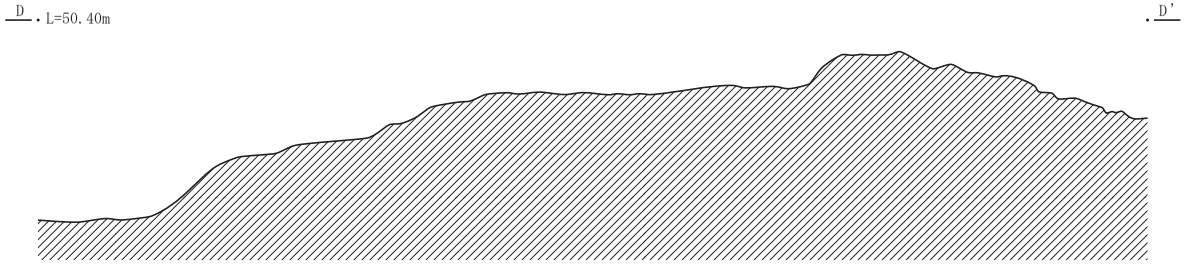


第19図　エレベーション図（１）

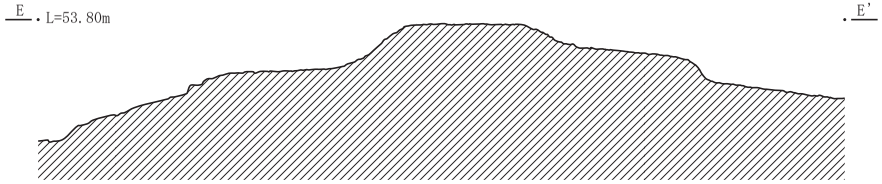
エレベーション３

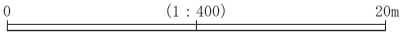


エレベーション４



エレベーション５





第20図　エレベーション図（２）

Ⅵ 調 査 成 果

1 概　　略

今回の調査では中世城館に伴う遺構や遺物を確認することができた。また、それ以外の時期の遺構と遺物が少量ながらも出土している。確認できた遺構はすべて曲輪Ⅳに伴うものである。さらに、中世以前の遺物からは、城館構築時に多くの遺構が削平されたものと考えられる。また、縄文・弥生・近世の遺物については、遺構が確認できなかった曲輪Ⅲ・Ⅴからも少量ながら出土している。

縄文：遺構はなし。遺物は土器32点、石器１点。
弥生：遺構はなし。遺物は土器11点、石器１点。
古代：遺構はなし。遺物は土師器16点、須恵器２点。
中世：遺構は平場14ヵ所、切岸16ヵ所、堀１条、土塁４基、溝２条、掘立柱建物１棟、土坑２基
　　遺物は中国産磁器３点、鉄滓２点、茶臼２点。
近世：遺構はなし。
　　遺物は陶磁器216点、銭貨４点、鉄鍋１点、鉄鎌１点、砥石７点、焼台11点。
時期不明：遺構は土坑６基。

2 中世城館の遺構・遺物

検出された遺構は概ね中世期の城館に伴うものである。以下には城館の概要と検出遺構について曲輪Ⅲ～Ⅴの順に記載していく。曲輪Ⅳにおいては、２カ年に跨がって調査しており、精査順に遺構番号を付与している。

（1）曲輪Ⅲ

本曲輪は調査以前には、城館の中央に位置する曲輪として捉えられていた。曲輪の主体は調査区外に位置しており、その主体部の下位に形成されている平場・切岸・土塁が調査対象となる。それらに対して試掘トレンチ（T113～129）を17ヵ所設定したうえで、遺構の有無を確認している（第10図参照）。

その結果、平場は近代以降の造成、切岸は自然地形であることが判明し、中世城館に伴う遺構を確認できなかった。さらに、その斜面下位に形成されている谷筋についても自然地形と判断している。

また、曲輪Ⅲと曲輪Ⅳの間に位置する東西に走る谷地形の調査を行っている。調査以前の縄張図では堀が存在していると捉えられていた箇所である。それに対して試掘トレンチ（T108～112）を入れ、堆積状況を把握している（第６図参照）。その結果、２条の沢がT111・112付近で合流して形成されている地形であることが判明した。さらに、堆積土には十和田中掫テフラを含むⅣ層の自然堆積を確認している。このような状況からは、本地形が縄文前期に堆積して以降、改変されることなく現在まで残存していたと考えることができる。

この地形は曲輪を隔てる良好な立地にあるため改変することなく、自然の要害として認識されていた可能性が高い。

（2）曲輪Ⅳ

平場１（第26図　写真図版８）

［位置・地形］Ⅱ・ⅢＢ70・61・62グリッド付近に位置する。標高53～54ｍの曲輪中央の頂部に構築されており、SD01を挟んで西側には平場12、土塁１・切岸４を挟んで東側には平場２、切岸５を挟んで南側には平場３－２、切岸６を挟んで北側には平場４がある。

［形状・規模］平面形状は概ね長方形である。規模は東西37ｍ(SD01と土塁１との間)×南北22～30ｍ(切岸５・６との間)、面積は1,120㎡である。

［堆積土］Ⅰ層が層厚20～30㎝で堆積しており、その直下が検出面(ＸＶ層・版築土)である。

［普請］平場は場所により構築方法が大きく異なる。頂部の中央(東西22～30.5×南北７～13ｍ)は地山を削平することで構築しているが、その両脇に位置する南辺(東西36×南北7.5～10ｍ)と北辺(東西34～36×南北７～９ｍ)に対しては版築２・３を施したうえで、平場１を整地している。

版築２・３については３ヵ所にトレンチを入れて堆積状況を確認している。詳細は60・61頁に記載している。また、地山を削り出して平場との間に土塁１、切岸４が構築されている。

［作事］掘立柱建物１棟、溝１条が確認されている。

［遺構配置］本平場の中央、地山を削り出した箇所に建物が構築されている。

［遺物］Ⅰ層からは近世陶磁器、土師器、縄文土器が出土している。

平場２（第28・29図　写真図版８）

［位置・地形］ⅢＢ54・64・74グリッド付近に位置する。標高48.5～53.2ｍの曲輪北東隅の緩斜面に構築されており、土塁１と切岸４を挟んで西側には平場１、切岸１を挟んで南側には平場３－１・３－２がある。また、東側では切岸３・７と接している。

［規模］規模は南北40～46ｍ×東西15～24ｍ、面積は890㎡である。

［堆積土］Ⅰ層が層厚20～30㎝で堆積しており、その直下が検出面(Ⅸa・ＸＶ層)である。

［普請］平場１と接する頂部(ⅢＢ73グリッド付近)から北東・南東隅に向かって緩やかに下る斜面は基本的に地山を削平することで構築しているが、縁辺部付近では版築１～３を施して切岸３・６・７を形成している。頂部と北東隅の比高は4.5ｍ前後である。平場は切岸２、SK01・02を境にその構造が異なる。南側は版築により比較的平坦な面を造り出しているが、平場３と接する付近では版築土が流出しているため緩斜面が認められる。北側はSK01・02、Ｌ字状をした切岸２を境に30～220㎝の高低差を伴うことから一段低く、面積が110㎡前後の空間を形成している。ただし、SK01・02の間(3.5ｍ前後)は地山が削り出された緩斜面のままである。また、南西隅には平場１と接する頂部付近から平場３－１へと下る斜面が版築２によって形成されている。

版築１～３については２ヵ所にトレンチを入れて堆積状況を確認している。詳細は60・61頁に記載している。南東隅に示した破線は版築が流出したものと捉えている。また平場３－１との間に地山を削り出して切岸１が構築されている。

［作事］切岸に挟まれた斜面の両脇に土坑(SK01・02)が形成されている。

［遺物］中国産磁器、近世陶磁器、石製品が出土している。中国産磁器(１)は16世紀後半の景徳鎮である。

［備考］南隅の版築に関しては、流出範囲を破線で示しており、詳細は47頁に記載している。

平場３－１（第29図　写真図版９）

［位置・地形］ⅢＢ84・85グリッドを中心に位置する。標高50.5～51.5mの曲輪の南東隅に構築されており、切岸１を挟んで北側には平場２、切岸５を挟んで南側には平場３－２がある。

［規模］規模は南北約4.5～９m×東西約20m、面積は130㎡である。

［堆積土］Ⅰ層が層厚20㎝前後で堆積しており、その直下が検出面（ＸＶ層）である。

［普請］平場は地山の削平と版築で構築している。西側は版築を施して平坦に整地している。また、東側は地山を削平したうえで、平場３－２に向かって緩やかな斜面が形成されている。

［作事］認められない。

［遺物］近世陶磁器、寛永通宝、土製品、縄文土器などが出土している。

［備考］本平場と接する平場２・３－２を含めた箇所は、平場１への出入りする場と判断し虎口２として68頁にまとめている。

平場３－２（第24・29図　写真図版９・10）

［位置・地形］Ⅱ・ⅢＢ81～83・93～95グリッド付近に位置する。標高47～50.5mの曲輪の南側に構築されており、切岸５を挟んで北側には平場１・３－１、切岸13を挟んで北側には平場11がある。また、東端では切岸８、西端では切岸16と接している。

［規模］規模は南北約３～12m×東西約100m、面積は770㎡である。

［堆積土］Ⅰ層が層厚20～50㎝前後で堆積しており、その直下が検出面（ＸＶ層）である。

［普請］平場は地山を削平することで構築している。

［作事］認められない。

［遺物］出土遺物については平場３－１にまとめて記載している。

平場４（第25図　写真図版10）

［位置・地形］ⅡＢ49・50グリッドに位置する。標高50.4～51.6mの曲輪中央、やや北西寄りに構築されており、切岸６を挟んで南側には平場１・12がある。また、西側では平場９と接している。標高は上段（１）が51.6m、下段（２）が50.4m前後であり、約1.2mの比高が認められる。

［規模］階段状に構築されており、上段の規模は南北0.7～1.6m×東西18m、面積は20㎡である。下段の規模は南北2.8～7.6m×東西28m前後、面積は115㎡である。

［堆積土］Ⅰ・Ⅱ層が層厚40㎝前後で堆積しており、その直下が検出面（Ⅸa層）と版築である。

［普請］平場は地山の削平と上・下段の縁辺部に版築４を施して階段状に構築している。上段は切岸６の上段と接している。

［作事］認められない。

［遺物］出土していない。

平場５（第28図）

［位置・地形］ⅢＢ32・33グリッドに位置する。標高49.2～50.5mの曲輪の北東に構築されており、切岸６を挟んで南側には平場２がある。標高は上段が50.5m、下段が49.2m前後であり、約1.3mの比高が認められる。

［規模］階段状に構築されており、上段の規模は南北1.2～3.6m×東西約15m、面積は10㎡である。下段の規模は南北0.6～1.1m×東西12m、面積は30㎡である。

［堆積土］Ⅰ・Ⅱ層が層厚20～50㎝で堆積しており、その直下が版築及び検出面（Ⅸa層）である。
［普請］平場は上段が版築を施し、下段が地山を削平して階段状に構築している。上段は切岸６と接している。
［作事］認められない。
［遺物］出土していない。

平場６（第28図　写真図版11）
［位置・地形］ⅢＢ45グリッドに位置する。標高48.1ｍの曲輪の東側に構築されており、切岸７を挟んで西側には平場２がある。
［規模］規模は南北7.4ｍ×東西0.5～1.2ｍ、面積は５㎡である。
［堆積土］Ⅰ～Ⅱ層が層厚30㎝前後で堆積しており、その直下が版築である。
［普請］平場は版築を施して切岸７の中段に構築している。
［作事］認められない。
［遺物］縄文土器が出土している。
［備考］本平場の下方、SD02の東側に緩斜面が形成されており、調査時には平場６－２として想定していた。また、この緩斜面にはこの平場のほかに堀１に対峙する堀切などの遺構が存在するものと予想された。しかし、試掘調査の結果、遺構は認められず、黒色土が厚く堆積している状況を確認できたことから、自然地形と判断している。

平場７（第30図　写真図版11）
［位置・地形］ⅢＢ77・87・88グリッドに位置する。標高43～44ｍの曲輪の南東隅に構築されており、切岸８を挟んで西側には平場３－２、切岸９を挟んで南側には平場８がある。また、南側では土塁２と接している。
［規模］規模は南北25ｍ×東西２～７ｍ、面積は125㎡である。
［堆積土］Ⅰ～Ⅱ層が層厚20～30㎝で堆積しており、その直下が検出面（Ⅸa層）である。
［普請］平場は地山を削平することで構築している。基本的に地形と同様、東と南方に向かって緩やかに傾斜している。
［作事］認められない。
［遺物］出土していない。

平場８（第30図　写真図版11）
［位置・地形］ⅢＢ99・ⅢＣ９グリッドに位置する。標高40.4～40.9ｍの曲輪の南東隅に構築されており、切岸９を挟んで北側には平場７がある。また、西側では土塁２と接している。
［規模］確認できた規模は南北８ｍ×東西約2.5～3.5ｍ、面積は25㎡である。
［堆積土］Ⅰ層などが層厚20～40㎝で堆積しており、その直下が検出面（Ⅸa層）である。
［普請］平場は地山を削平することで構築している。
［作事］認められない。
［遺物］出土していない。
［備考］調査区範囲が調査時における現地と整合しないため、若干空白地が生じている。しかし、本遺構は南へと延びていくことを現地で確認しているため、その間については破線で埋めている。

平場９（第23図　写真図版12）

［位置・地形］ⅡＢ56・57グリッド付近に位置する。標高50～51ｍの曲輪の北東側に構築されており、切岸６を挟んで南側には平場12、切岸14・土塁４を挟んで西側には平場13がある。また、北側では切岸12、東側では平場４と接している。

［規模］規模は南北11～28ｍ×東西24ｍ、面積は500㎡である。

［堆積土］Ⅰ層などが層厚10～40㎝で堆積しており、その直下が検出面（Ⅸa層）と版築である。

［普請］平場は場所により構築方法が大きく異なる。南側の切岸６、南西隅の土塁４付近では地山を削平し、それより北側では概ね版築５を施し北東方向に若干傾斜しているものの平坦に構築している。

　版築５についてはトレンチを入れて堆積状況を確認している。詳細は67頁に記載している。また、平場13との間には地山を削り出して土塁４が構築されている。

［作事］認められない。

［遺物］出土していない。

平場10

［位置・地形］ⅡＢ14・25・36グリッド付近に位置する。切岸９の北西側、丘陵先端部にあり、平坦な面と切岸状の斜面を確認できたことから名称をつけて調査している。調査対象には面積の半分に対して表土除去を行い、さらに先端部には試掘トレンチを２ヵ所（T130・131、第６図参照）入れている。検出作業を行ったものの、遺構は存在せず、自然地形であることを確認している。また、切岸と思われる箇所の堆積状況は、Ⅳ層を確認できる自然堆積であり普請の痕跡が認められない。よって、曲輪としては認識できないものと判断している。ただし、この尾根については２年目の調査で再検討をする予定であったが、無断掘削（第15図参照）により消滅している。

平場11（第24図　写真図版12）

［位置］ⅡＢ68グリッド付近に位置する。標高51.7～52.5ｍの曲輪の西側に構築されており、切岸11を挟んで北側には平場12、東側には平場１、切岸13を挟んで南側には平場３－２がある。また、北西側では土塁３と接している。

［規模］規模は東西28×南北3.5～7.5ｍ、面積は170㎡である。

［堆積土］Ⅰ・Ⅱ層が層厚20～40㎝で堆積しており、その直下が検出面（Ⅸa層）である。

［普請］平場は地山を削平することで構築している。北側の切岸11付近は平坦であるが、南側の切岸13へ向かって傾斜している。

［遺物］出土していない。

平場12（第24図　写真図版12）

［位置］ⅡＢ58グリッドを中心に位置する。標高53.5ｍの曲輪の西側中央に構築されており、切岸６を挟んで北側には平場９、SD01を挟んで東側には平場１、切岸11を挟んで南側には平場11がある。また、西側では低い切岸を挟んで土塁３が存在している。

［規模］規模は東西16×南北３～9.5ｍ、面積は85㎡である。

［堆積土］Ⅰ層が層厚20～30㎝で堆積しており、その直下が検出面（ＸⅤ層）である。

［普請］平場は地山を削平することで構築している。SD01を挟んで同一面には平場１がある。

［遺物］出土していない。

［備考］上述した西側に見られる低い切岸は、切岸６・11の上半部が繋がることで形成されているものである。

平場13（第22図　写真図版13）

［位置］ⅡＢ54・55・65グリッドを中心に位置する。標高46.5～51ｍの曲輪の西側に構築されており、切岸14・土塁４を挟んで東側には平場９がある。また、南東隅では土塁３と接している。

［規模］規模は長軸で南北45×東西23m、面積は900㎡である。

［堆積土］Ⅰ層が層厚10～50㎝で堆積しており、その直下が検出面（ＸＶ層）である。

［普請］平場は地山を削平することで構築している。基本的に隣接する土塁４付近に頂部があり、そこから西と北側に形成されている切岸17に向かって緩やかに傾斜している。ただし南側には切岸15が形成されていることから段差が認められる。

［遺物］出土していない。

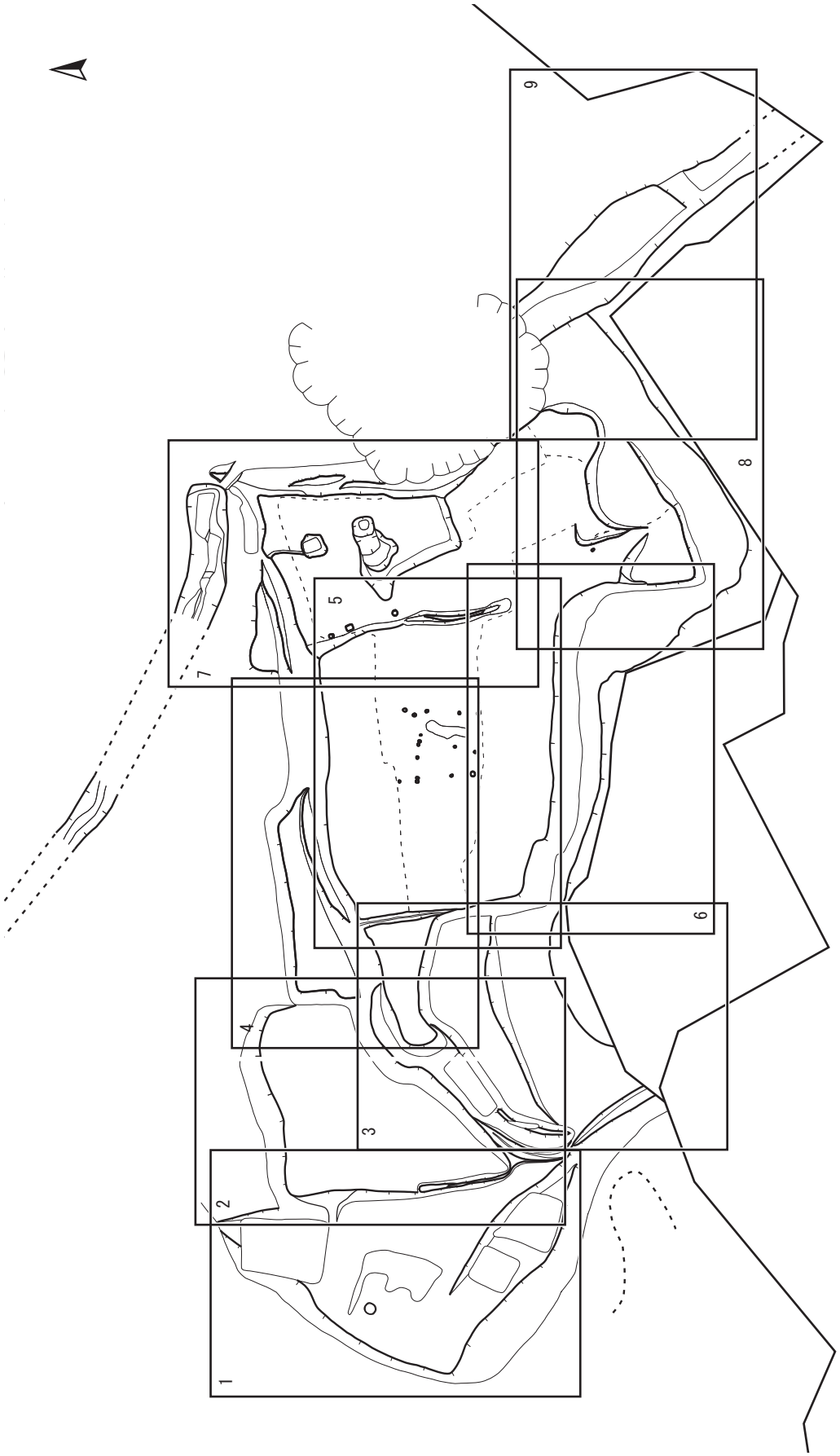
［備考］本平場は切岸14と17との間に形成されているため、平場として登録している。先述した基準を満たしているものの平場の中でも特殊な様相であり、自然地形の可能性も十分に残されている。これに関連する切岸17の経緯については60頁に記載している。

平場14

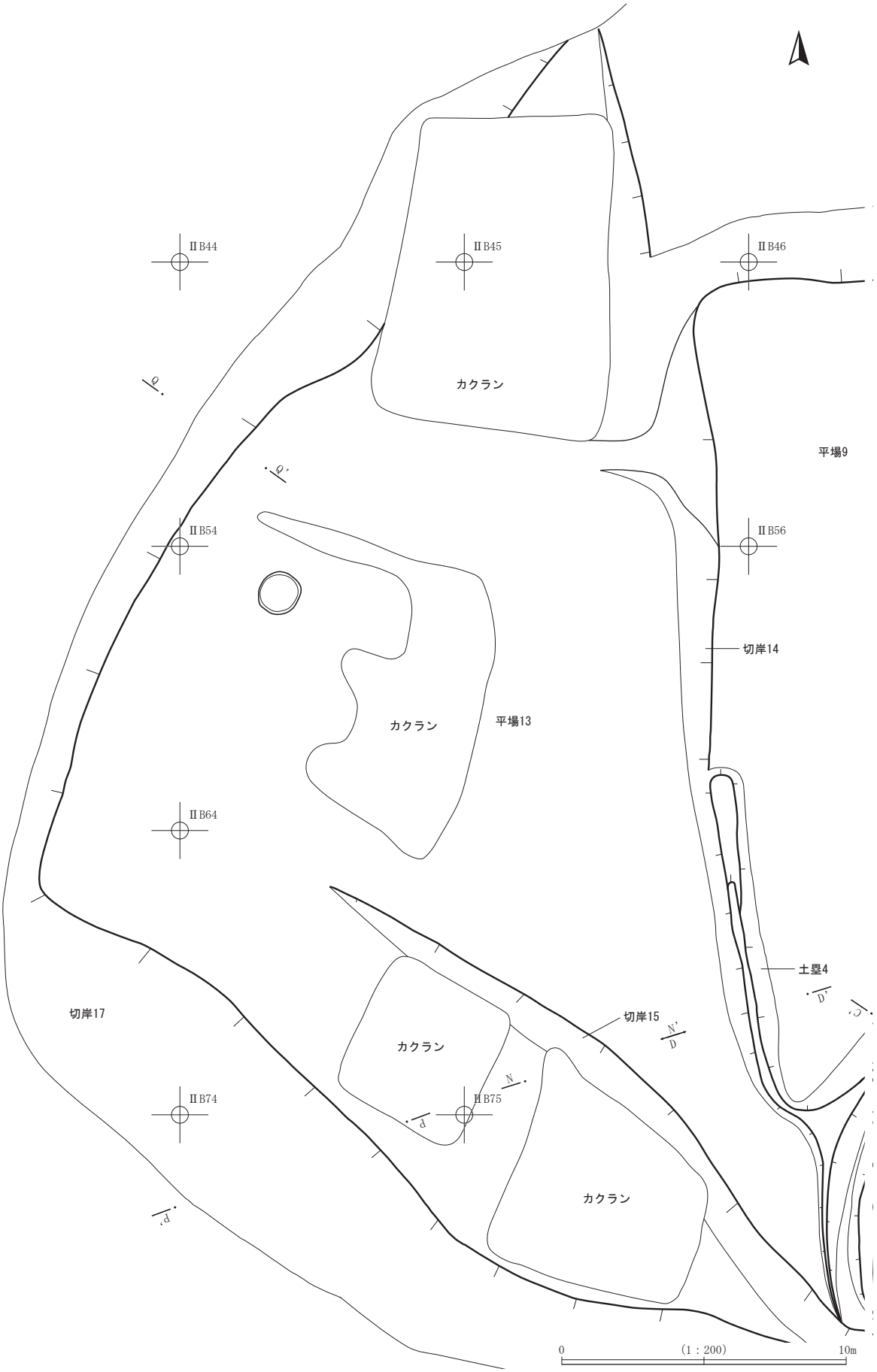
［位置・地形］ⅡＢ41～43グリッド付近に位置する。平場13の西側の丘陵先端部にあり、平坦面と切岸状の斜面を確認できたことから名称をつけて調査している。調査は試掘トレンチを３ヵ所（T102・105・106、第６図参照）入れている。検出作業を行ったものの、削平を受け地形が大きく改変されているため遺構は確認できていない。切岸と思われる箇所の堆積状況（Ｔ104・107）は、Ⅰ層及びその二次堆積しか確認できない自然堆積であることから普請の痕跡が認められない。よって、曲輪としては認識できず、自然地形と判断している。

平場15

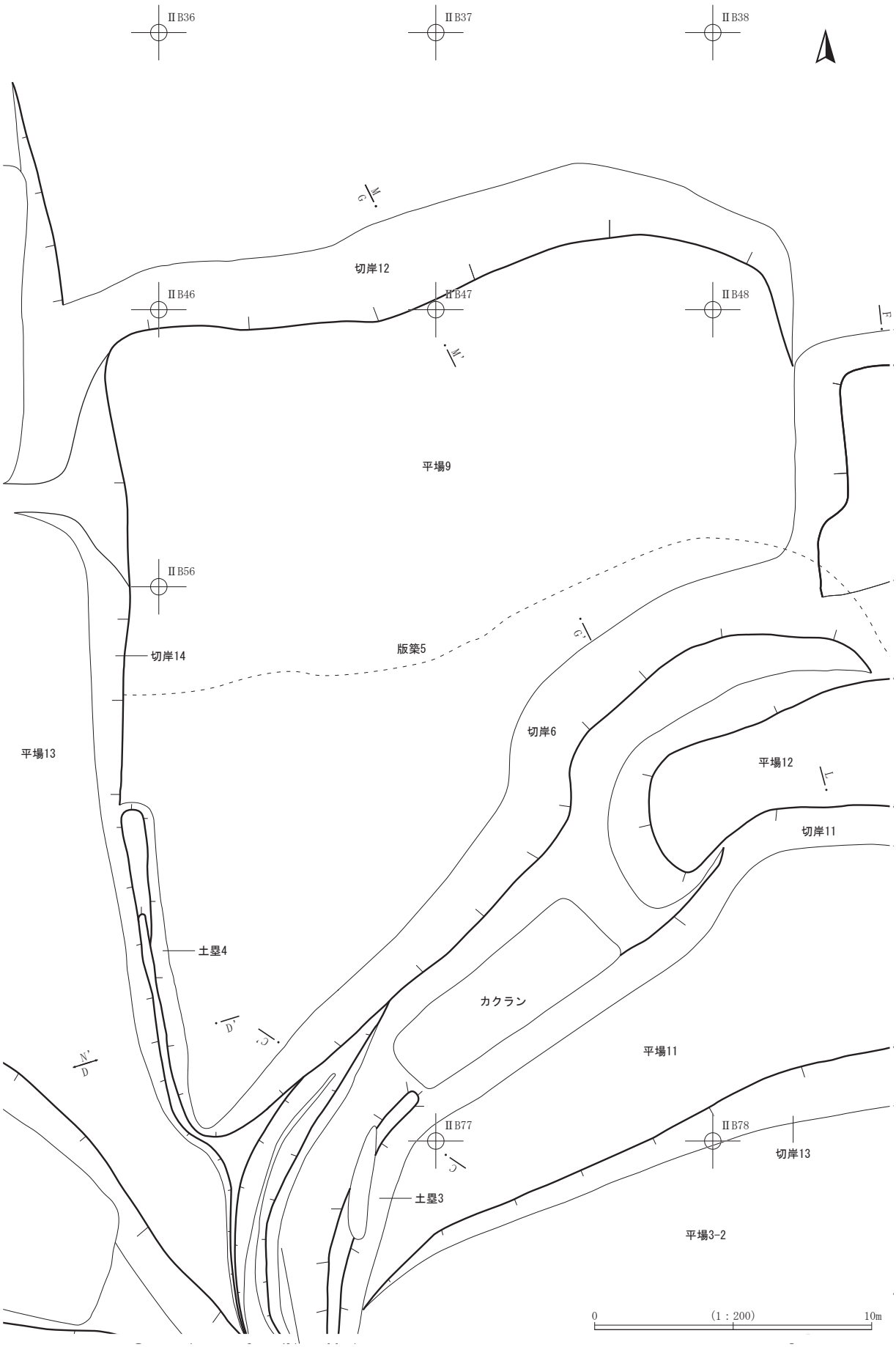
［位置・地形］ⅡＢ73・74・85グリッド付近に位置する。平場13の南西側の緩斜面上に形成されている平坦面を確認できたことからを名称をつけて調査している。平場13の南西側、切岸16・17の下に隣接して構築された平場と捉えて、表土除去を行っている。また、これに合わせてさらに西側の斜面も調査（T102・104）を試みたが自然地形であった。その結果、普請に伴う痕跡は認められなかった。南側では旧河道が確認でき、さらに西側に向かうにつれて狭くなる緩斜面を形成する自然地形であったと判断している。



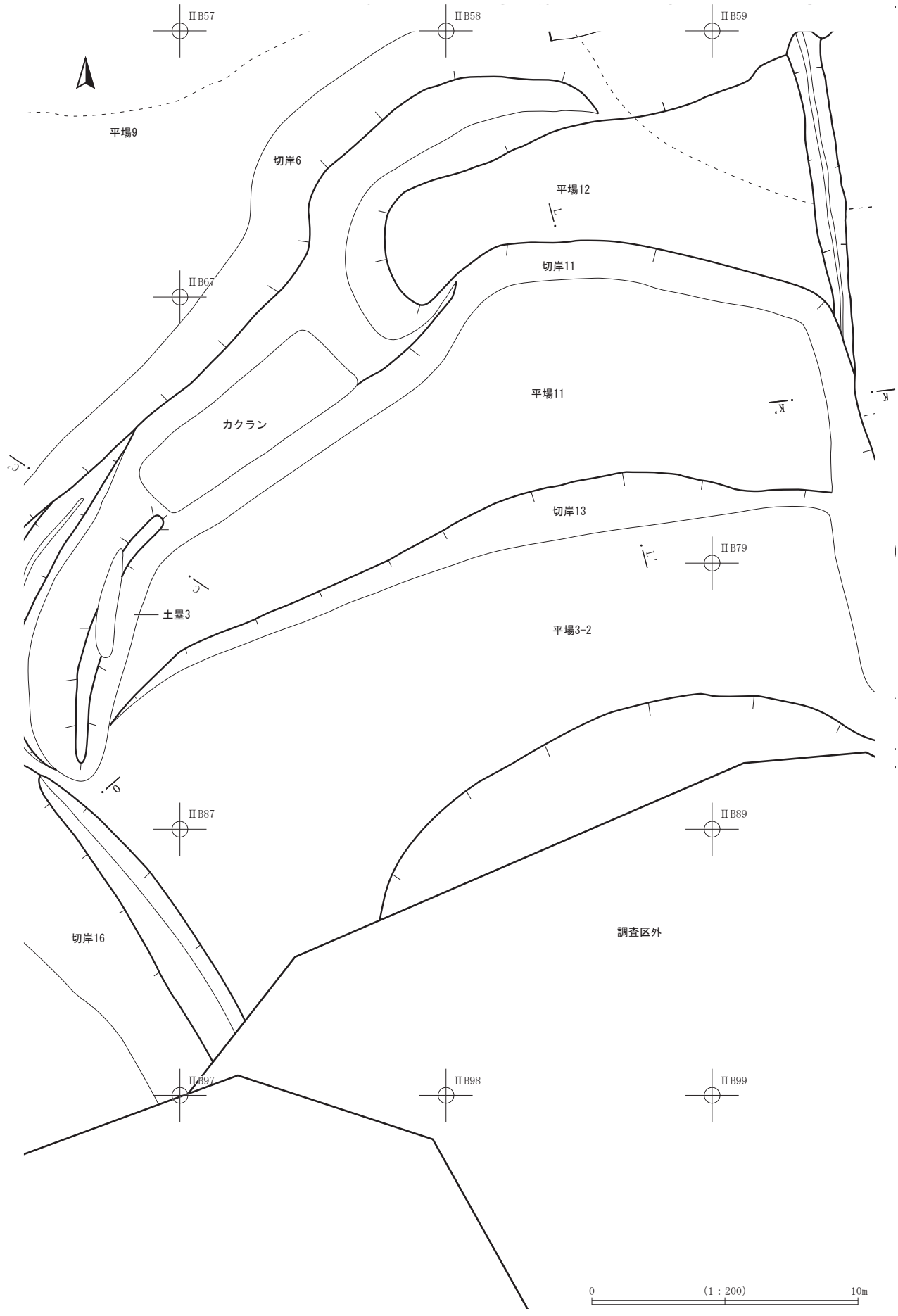
第21図　平場分割図


ⅡB44
ⅡB45
ⅡB46
カクラン
平場9
ⅡB54
ⅡB56
切岸14
カクラン
平場13
ⅡB64
土塁4
切岸17
切岸15
カクラン
ⅡB74
ⅡB75
カクラン
0
(1：200)
10m

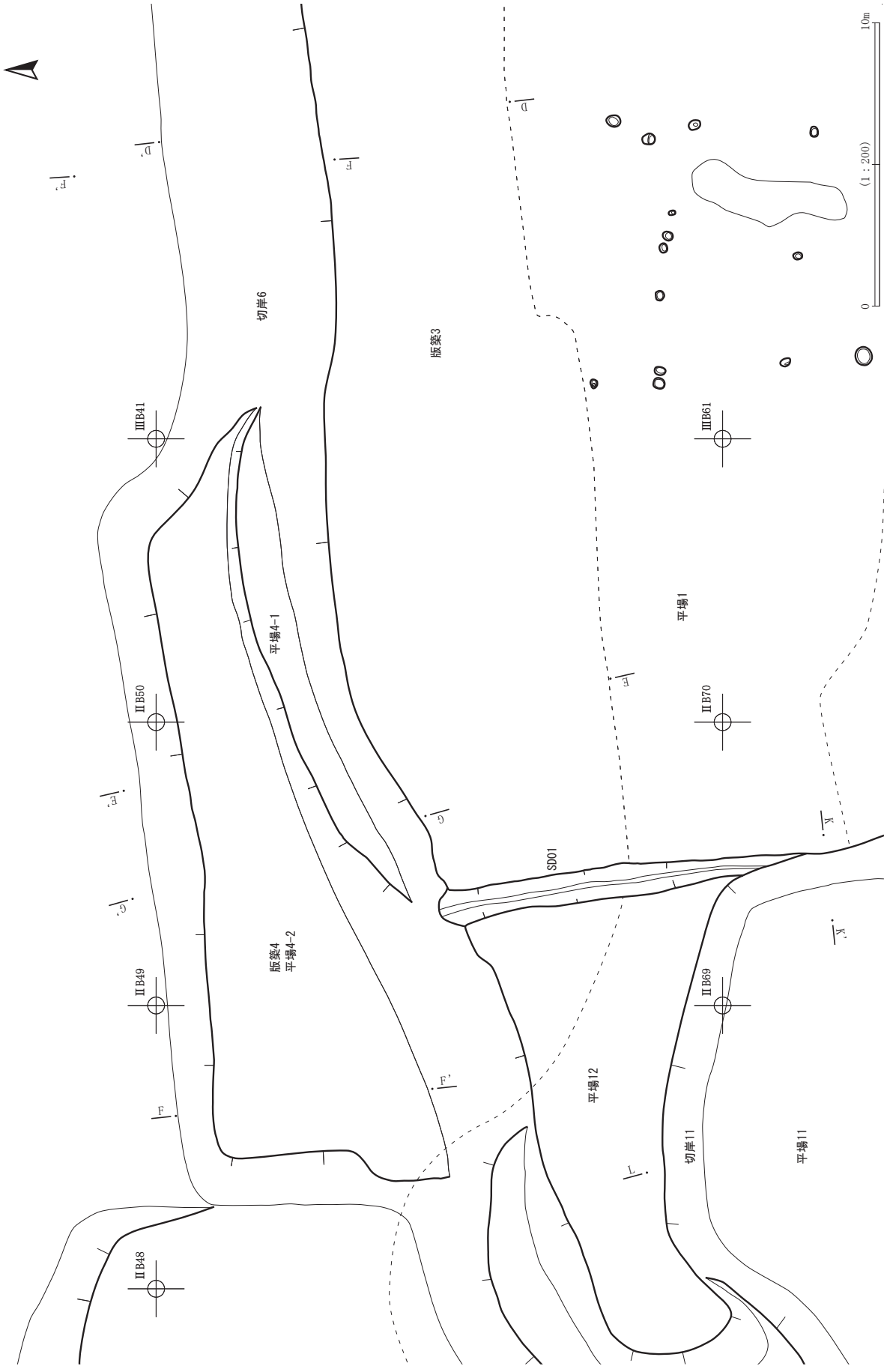
第22図　平場（1）


ⅡB36
ⅡB37
ⅡB38
G
G'
切岸12
ⅡB46
ⅡB47
ⅡB48
M
M'
F
F'
平場9
ⅡB56
切岸14
版築5
G
G'
切岸6
平場13
平場12
L
L'
切岸11
土塁4
D
D'
C
C'
カクラン
N
N'
平場11
ⅡB77
ⅡB78
C
C'
切岸13
土塁3
平場3-2
0
(1：200)
10m

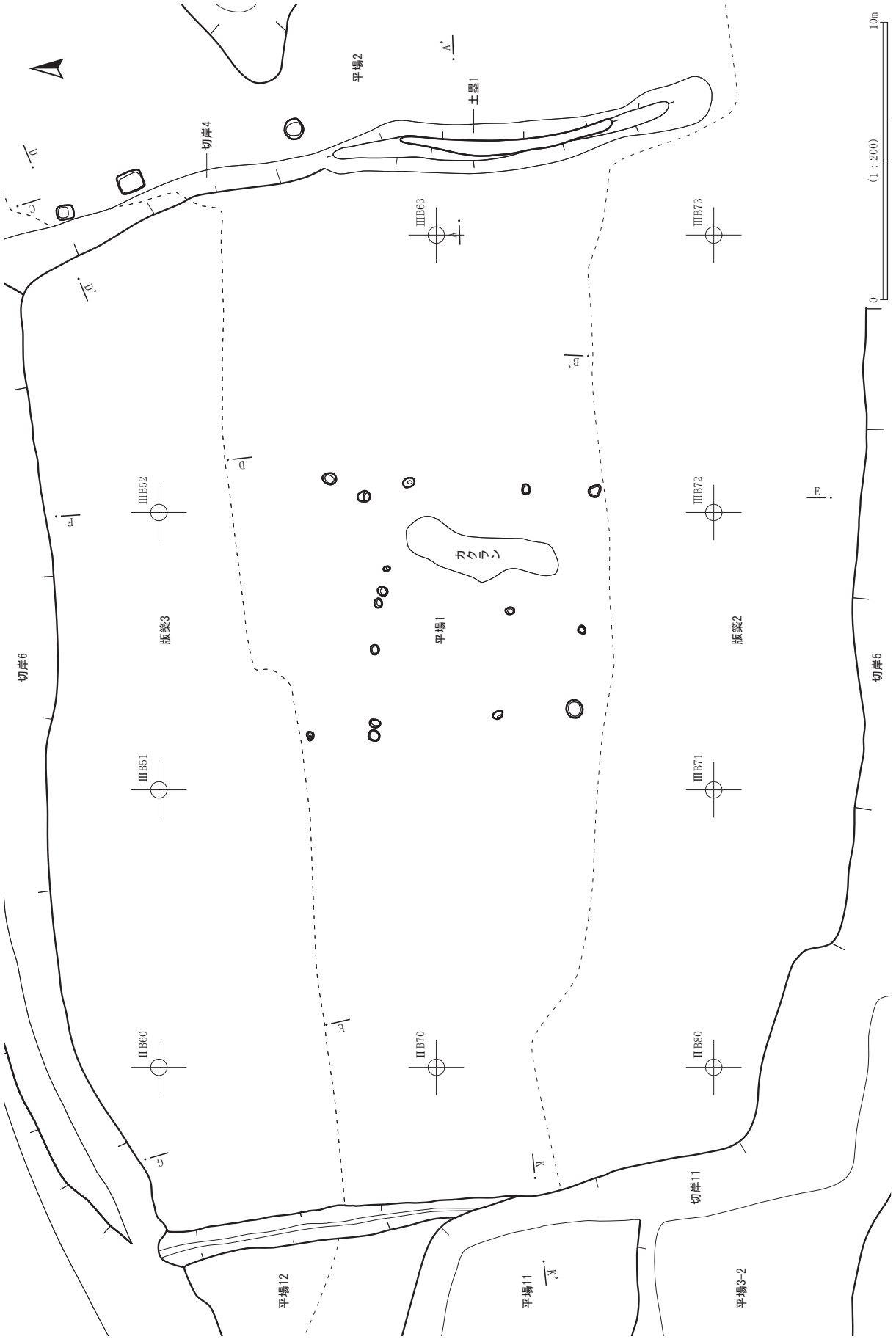
第23図　平場（2）


ⅡB57
ⅡB58
ⅡB59
平場9
切岸6
平場12
ⅡB67
切岸11
平場11
カクラン
切岸13
ⅡB79
土塁3
平場3-2
ⅡB87
ⅡB89
切岸16
調査区外
ⅡB97
ⅡB98
ⅡB99
0
(1：200)
10m

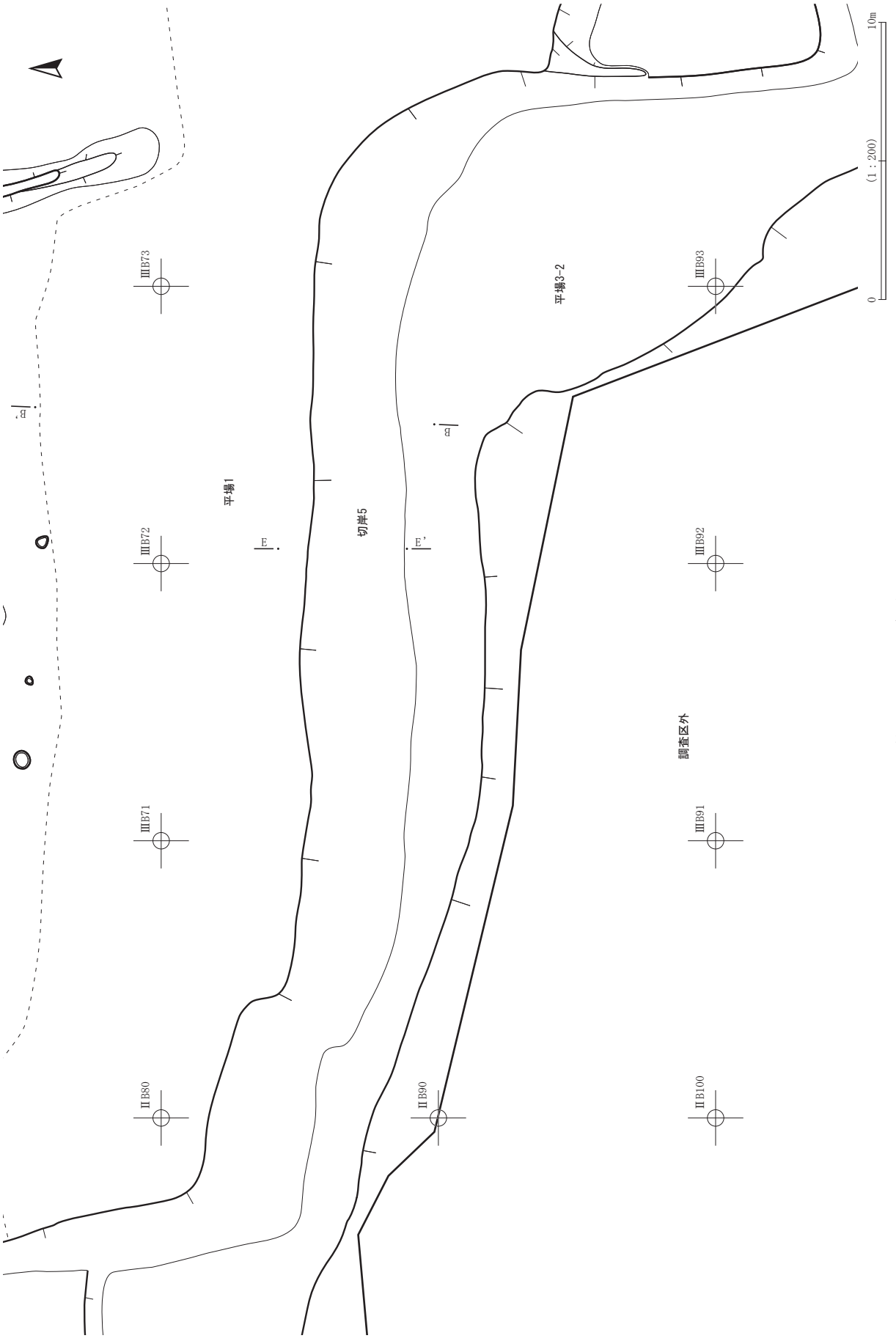
第24図　平場（3）


切岸6
版築3
平場4-1
版築4
平場4-2
平場1
平場12
切岸11
平場11
SD01
ⅢB41
ⅢB61
ⅡB50
ⅡB70
ⅡB49
ⅡB69
ⅡB48
D
D'
F
F'
G
G'
K
K'
10m
(1：200)
0

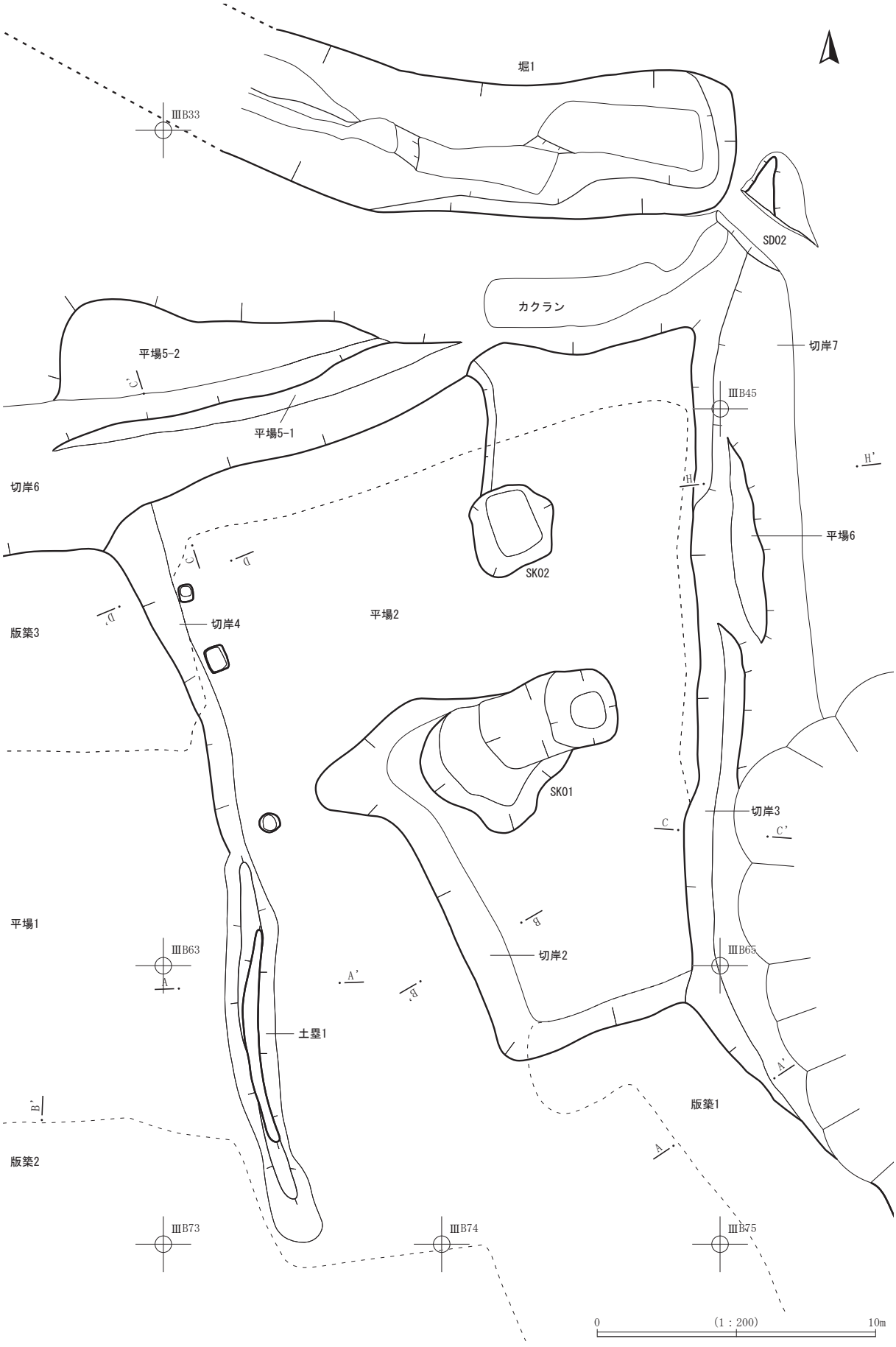
第25図　平場（4）


平場2
土塁1
切岸4
ⅢB63
ⅢB73
ⅢB52
ⅢB72
ⅢB51
ⅢB71
ⅡB60
ⅡB70
ⅡB80
カクラン
平場1
版築3
版築2
切岸6
切岸5
切岸11
平場12
平場11
平場3-2
A
A'
B
B'
C
C'
D
D'
E
F
F'
G
G'
K
K'
0
10m
(1：200)

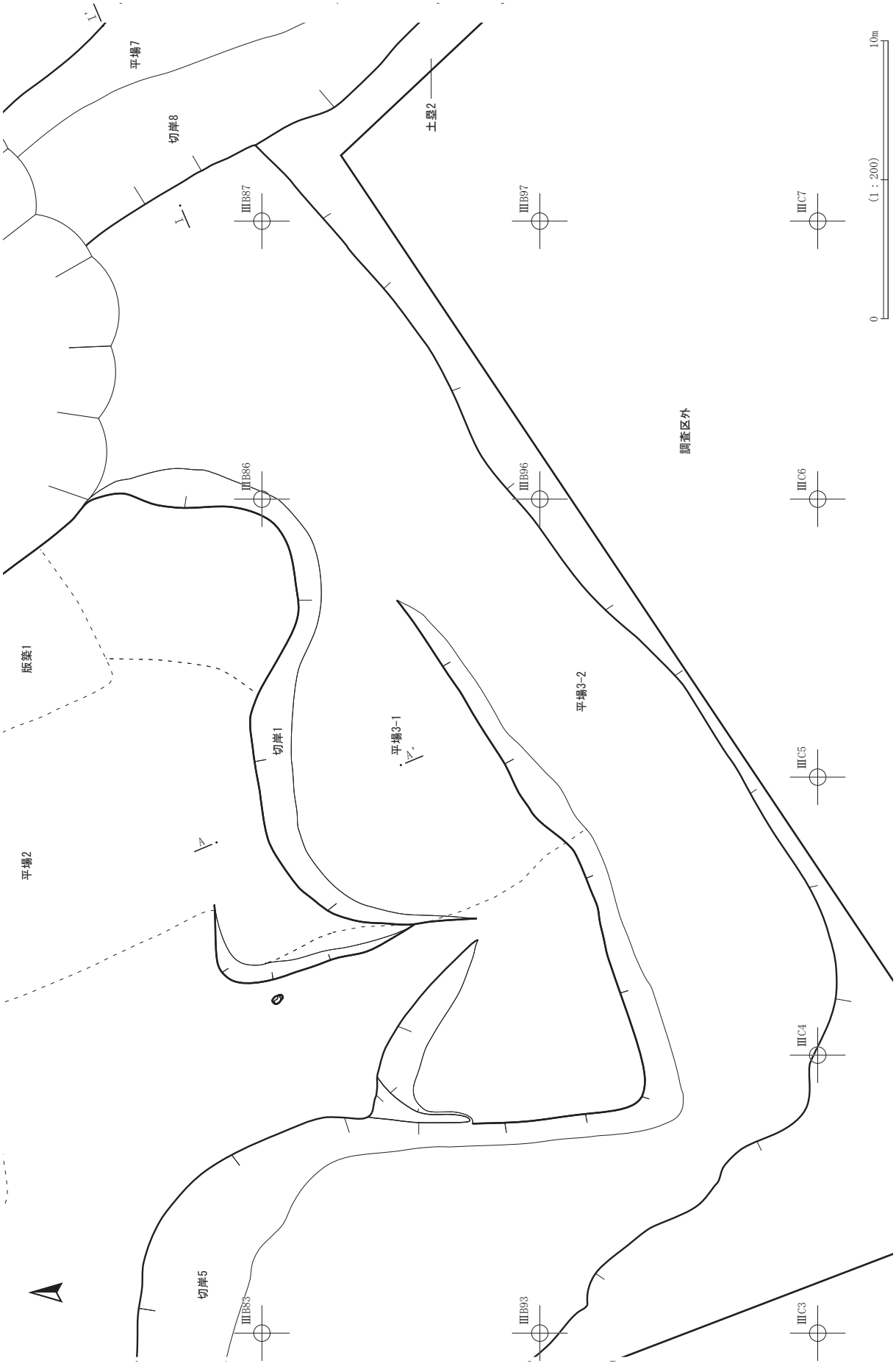
第26図　平場（5）


ⅢB73
ⅢB72
ⅢB71
ⅡB80
ⅡB90
ⅡB100
ⅢB93
ⅢB92
ⅢB91
平場1
切岸5
平場3-2
調査区外
B
B'
E
E'
0
(1：200)
10m

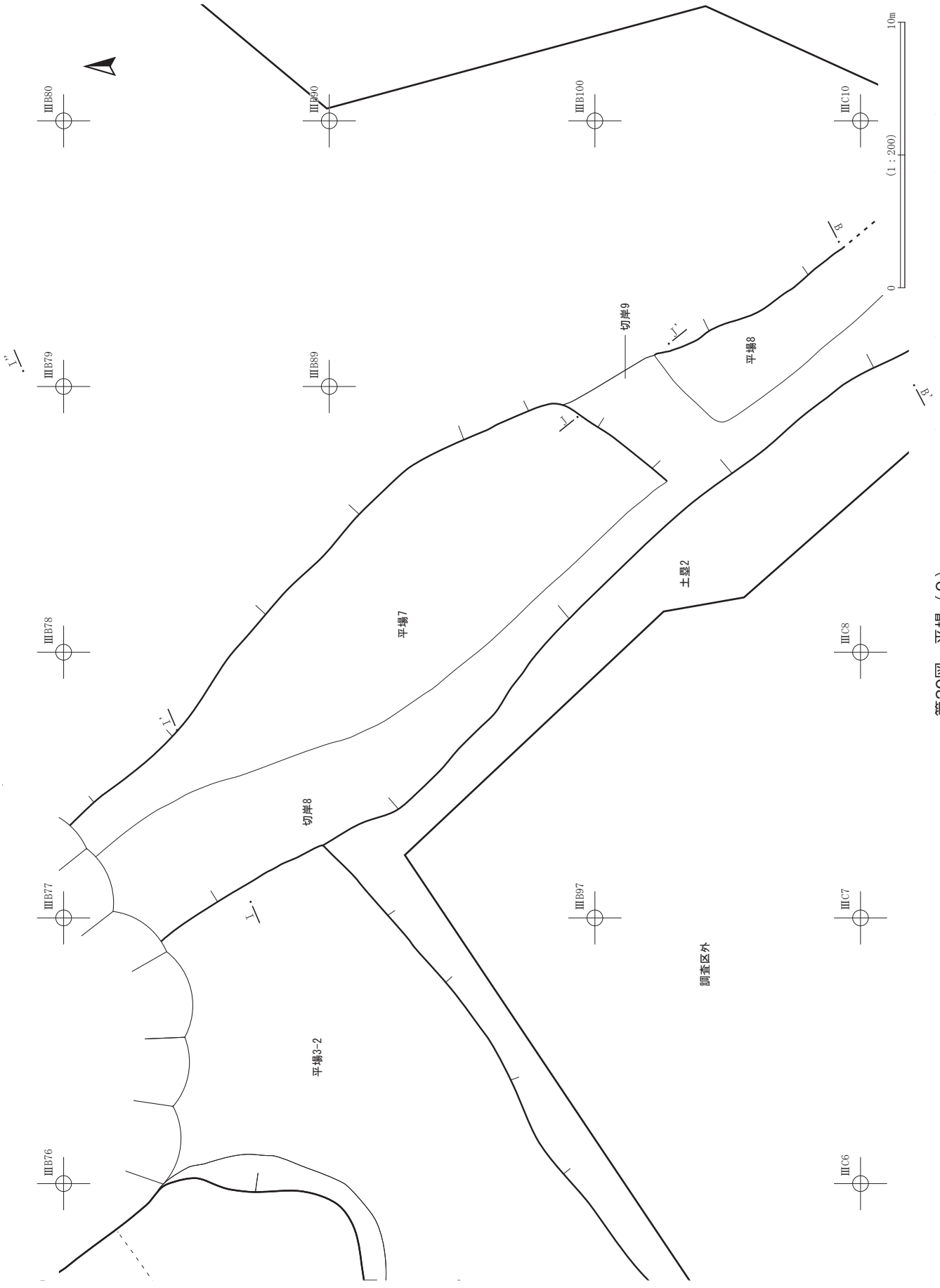
第27図　平場（6）


堀1
ⅢB33
SD02
カクラン
切岸7
平場5-2
平場5-1
ⅢB45
切岸6
平場6
SK02
平場2
版築3
切岸4
SK01
切岸3
平場1
ⅢB63
切岸2
ⅢB65
土塁1
版築1
版築2
ⅢB73
ⅢB74
ⅢB75
0
(1：200)
10m

第28図　平場（7）


平場7
切岸8
土塁2
ⅢB87
ⅢB97
ⅢC7
ⅢB86
ⅢB96
ⅢC6
調査区外
版築1
切岸1
平場3-1
平場3-2
ⅢC5
平場2
ⅢC4
切岸5
ⅢB83
ⅢB93
ⅢC3
0
(1：200)
10m

第29図　平場（8）


ⅢB80
ⅢB90
ⅢB100
ⅢC10
ⅢB79
ⅢB89
ⅢB78
ⅢC8
ⅢB77
ⅢB97
ⅢC7
ⅢB76
ⅢC6
切岸9
平場8
平場7
土塁2
切岸8
平場3-2
調査区外
A
A'
B
B'
0
(1：200)
10m

第30図　平場（9）

切岸１（第31図　写真図版17）

［位置］ⅢＢ84・85グリッドに位置する。平場２と平場３の間、平場３－１へと下る斜面と接するように構築されている。上端の標高は51～52.3mである。

［規模］東西方向へ蛇行して延びており、Ｓ字状となる。全長は直線で20m前後である。実効法高は0～1.9mである。確認できた傾斜角は50°である。実効法高及び傾斜角は東西端に向かうにつれて低くなり、両端では上・下端が収束している。東側は版築２によって構築された虎口と接している。

［堆積土］Ⅰ層が層厚５～30cmで堆積しており、その直下が検出面（ＸⅤ層）である。

［普請］地山（ⅩⅣ層）を削平して普請している。ただし、ⅢＢ85グリッド付近から西側は、版築２を積み上げて構築している。

［遺物］出土していない。

［備考］作事の痕跡は認められない。本遺構の西側は平面図に破線で示したように版築１が構築されていたと想定される箇所と接していることから、本来であれば本遺構のような様相が東側まで続いていたものと思われる。

切岸２（第31図　写真図版17）

［位置］ⅢＢ44・53・64グリッドに位置する。平場２の北東隅を分断するように構築されている。上端の標高は50～52.5mである。

［規模］ⅢＢ64グリッドを基点にして北と東方向に延びており、Ｌ字状となる。北側はSK01・02間が途切れているため、ここでは北側を北半・南半と分けて記載する。北半が４mと南半が13m、東側が6.5mあり、全長は23.5mである。北側の北半と南半との間隔は約４mある。実効法高は0.3～2.2mである。確認できた傾斜角は40°である。実効法高は、北半と南半・東側で様相がそれぞれ異なる。前者は実効法高が低く30cm程度である。後者は北半と比べ実効法高を有しているものの、東側に向かうにつれて低くなり、その高さは50cm前後になる。

［堆積土］Ⅰ・Ⅱ層が層厚20～40cmで堆積しており、その直下が検出面（ＸⅤ層）・版築１である。

［普請］地山を削平して普請している。ただし、北半の切岸６と接する付近と、東側の切岸３と接する付近は版築を積み上げて構築している。

［遺物］出土していない。

［備考］作事の痕跡は認められない。

切岸３（第31図　写真図版17）

［位置］ⅢＢ54・64グリッドに位置する。平場２の東側に構築されている。上端の標高は49.3～51.5mである。平場２の北東隅に向かって傾斜しているため、２m以上の比高が生じている。

［規模］南北方向へと直線的に延びており、全長は20m前後である。実効法高は0.4～1.3mである。確認できた傾斜角は22～44°である。

［堆積土］Ⅰ・Ⅱ層が層厚20cmで堆積しており、その直下が検出面（ＸⅤ層）・版築１である。

［普請］地山を削平し、版築を施して普請している。基本的に遺構上半部は版築に覆われており、北側に向かうにつれて層厚が厚くなる。

［遺物］近世陶磁器、石製品が出土している。

［備考］作事の痕跡は認められない。全長については切岸７と連なるため、本遺構との境は判然としないことから、ここでは平場６の南端を境にして計測している。平場２の東辺を形成する切岸３・７

を合わせた全長は30.5m前後である。

切岸４（第31図　写真図版18）

［位置］ⅢＢ42・53グリッドを中心に位置する。平場１と平場２の間に構築されており、南側では土塁１と接している。上端の標高は53.5～53.9mである。

［規模］南北方向へと直線的に延びており、全長は12.5m前後である。実効法高は0.3～２mである。傾斜角は37°である。実効法高は南に向かうにつれて低くなる。

［堆積土］Ⅰ・Ⅱ層が層厚10～40㎝で堆積しており、その直下が検出面（ＸⅤ層）・版築３である。

［普請］基本的に地山を削平しているが、遺構の北半部は版築を施して普請している。版築３は切岸６へと向かうにつれて層厚が厚くなる。

［遺物］出土していない。

［備考］作事の痕跡は認められない。全長については土塁１との境が判然としないことから、土塁が収束し本遺構の上端と接する箇所を境に計測している。

切岸５（第32　写真図版18）

［位置］ⅡＢ80、ⅢＢ71～73・83・93～95グリッド付近に位置する。平場１と平場３の間に構築されており、西端では切岸11と接している。上端の標高は50～53mである。

［規模］平場１の南西隅を基点にしている。そこから東方向に延びており、ⅢＢ73グリッドとⅢＢ93グリッド付近で屈曲するため、クランク形状となる。ここでは基点からⅢＢ73グリッドまでを西側、ⅢＢ93グリッドから東側、その間の南北方向に延びる箇所を中央と称して記載している。西側が36m、中央が18m、東側が20mあり、全長は74mである。実効法高は0～4.8mである。西側の平場１と接する箇所では4.5m以上あり、基本的に高さを維持したまま構築しているが、中央・東側に向かうにつれて低くなり東端では上端と下端が収束している。傾斜角は42～70°である。中央のみ角度が70°近くあり、それ以外は概ね45°前後である。

［堆積土］Ⅰ・Ⅱ層が層厚10～30㎝で堆積しており、その直下が検出面（ＸⅤ層）・版築２である。

［普請］地山を削平し、版築を施して普請している。遺構の大半は版築によって構築されているが、ⅢＢ95グリッド付近からは地山のみとなる。

［遺物］近世陶磁器が出土している。

［備考］作事の痕跡は認められない。基本的に平場１を囲む切岸は連続しているため、切岸11などからは切り離すことができないが、ここでは上記を基点にした切岸のみを扱っている。

切岸６（第32図　写真図版19）

［位置］ⅡＢ48～50・57・58・66、ⅢＢ41～43グリッド付近に位置する。平場１と平場４・５・９との間に構築されており、西端では土塁４、東端では上端が切岸７、下端がSD02と接している。上端の標高は48.5～53mである。

［規模］概ね東西方向へと直線的に延びており、全長は95m前後である。概ね東西に長い一連の切岸であるが、平場４の東側で上下に分かれている。上段は平場12を取り囲み切岸11と接している。また、下段はそのまま西側に延び、平場４の西側でクランク形状となり土塁４と接している。実効法高は１～7.4mである。平場１と接するＦ断面を記録した箇所が最も高く、そこから東西端に向かうにつれて法高は低くなる。確認できた傾斜角は30～40°である。規模が大きいものの、基本的に傾斜角

において差が認められない。

［堆積土］Ⅰ・Ⅱ層が層厚10～120㎝で堆積しており、その直下が検出面（ＸＶ層）・版築３である。

［普請］地山を削平し、版築を施して普請している。平場１から２にかけては概ね版築により構築されているが、西側に向かうにつれて層厚は浅くなり平場12の中央付近から地山となる。地山の削平は土塁３・４と関連している。本遺構に伴う版築３は平場１・２に跨がっており、また斜面の途中に平場４－１、５－１等を構築している。構築方法については、切岸５の削平工程とは異なるものの、堆積工程は同じである。

［遺物］近世陶磁器、鉄滓が出土している。

［備考］作事の痕跡は認められない。

切岸７（第33図　写真図版20）

［位置］ⅢＢ35・45グリッドに位置する。平場２の東側に構築されており、北側では上端が切岸６、下端がSD02、南側では切岸３と接している。上端の標高は48.5～49.3ｍである。

［規模］南北方向へと直線的に延びており、全長は10.5ｍ前後である。実効法高は1.1～4.1ｍである。北に位置するSD02に向かうにつれて低くなり、南に隣接するカクラン付近は上記よりも実効法高が高くなるものと思われる。確認できた傾斜角は39°である。ただし、SD02に向かって傾斜角は増していく。

［堆積土］Ⅰ・Ⅱ層が層厚10～40㎝で堆積しており、その直下が検出面（ＸＶ層）・版築１である。

［普請］地山を削平し、版築を施して普請している。版築は遺構の上部にのみ施され、概ね地山が認められている。版築１の南端から続くもので、接する切岸３を含めた平場２の縁辺を形成しながら斜面途中には平場６を構築している。また、北側では版築３と接し、平場２の北東隅を形成している。

［遺物］出土していない。

［備考］切岸３でも記載しているように本遺構と一連の遺構となる可能性は十分にあるが、ここでは便宜上分けて報告している。平場２の東辺を形成する両切岸を合わせた全長は30.5ｍ前後である。

切岸８（第33・34図　写真図版20）

［位置］ⅢＢ77・87・88グリッドに位置する。平場２と平場７との間に構築されており、南側では土塁２と接している。標高は最も高い箇所で47.8ｍである。

［規模］南北方向へと直線的に延びており、全長は6.5ｍ前後である。実効法高は4.9ｍ前後である。確認できた傾斜角は37°である。

［堆積土］Ⅰ～Ⅲ層が層厚40～70㎝で堆積しており、その直下が検出面（ＸＶ層）である。

［普請］地山を削平して普請している。

［遺物］出土していない。

［備考］作事の痕跡は認められない。土塁２と連続しており本遺構との境は不明瞭であり判然としないが、ここでは平場３－２の南東隅までをその範囲としている。

切岸９（第35図）

［位置］ⅢＢ98・99グリッドに位置する。平場７と平場８との間に構築されており、西端では土塁３と接している。上端の標高は42.9ｍである。

［規模］東西方向へと直線的に延びており、全長は4.5ｍである。

［堆積土］Ⅰ・Ⅱ層が層厚20～90㎝で堆積しており、その直下が検出面（ＸＶ層）である。
［普請］地山を削平して普請している。
［遺物］出土していない。
［備考］作事の痕跡は認められない。

切岸10（第34図）
［位置］ⅢＢ77・78・88グリッドに位置する。平場７・８の東側に認められたものである。調査以前には切岸が存在していると捉えられていたものだが、試掘の結果、この斜面は自然地形であることが明らかとなる。長軸が45m前後の斜面であり、Ⅳ層以下の堆積が認められている。

切岸11（第35図　写真図版21）
［位置］ⅡＢ67～69・79グリッドに位置する。平場１・12と平場11との間に構築されており、南端では切岸５、西端では土塁３と接している。上端の標高は52.5～53.5mである。
［規模］平場１と12の間に形成されているSD01の南端を基点に西と南方向に延びており、Ｌ字状となる。西側が19m、南側が12mあり、全長は31mである。実効法高は1.5～4.8mである。確認できた傾斜角は40～45°である。実効法高は南端の切岸５と接する箇所が最も高く、平場11と接する箇所では低くなる。
［堆積土］Ⅰ・Ⅱ層が層厚10～40㎝で堆積しており、その直下が検出面（ＸＶ層・版築２）である。
［普請］地山を削平し、版築を施して普請している。本遺構の北側は地山であるが、南側の５号切岸に向かうにつれて版築の層厚が増していく。
［遺物］出土していない。
［備考］作事の痕跡は認められない。本遺構の西端は土塁３と接しているが、境界は不明瞭である。ここでは土塁３と平場12との間に位置する攪乱の南西隅を基準に計測している。

切岸12（第35図　写真図版21）
［位置］ⅡＢ35～37グリッドに位置する。平場９の北側に構築されており、東端では切岸６下段、西端では切岸14と接している。上端の標高は50mである
［規模］平場９の北東隅を基点に西・南方向に延びており、Ｌ字状となる。西側が23.5m、南側が3.5mあり、全長は27mである。実効法高は0～4.1mである。確認できた傾斜角は28°である。実効法高は、南端に向かうにつれて低くなり、切岸６の下段と接する箇所では上端と下端が収束している。
［堆積土］層厚は確認できなかったものの、Ⅰ層が堆積しており、その直下が検出面（ＸＶ層・版築５）である。
［普請］地山を削平し、版築を施して普請している。東端の下半部では地山であるＸＶ層を確認できているが、それ以外は基本的に版築５で構築している。層厚は切岸を形成する箇所が2.1mと最も厚い。構築方法は切岸５と類似している。
［遺物］近世陶磁器が出土している。
［備考］作事の痕跡は認められない。本遺構の西側に隣接する土塁３との間には、削平によるものの小規模な平場（面積25㎡）が形成されている。土塁３にも記載しているように、この空間の様相は判然としない。

切岸13（第35図　写真図版21）

［位置］ⅡＢ68・69・76・77グリッドに位置する。平場３－２と平場11との間に構築されており、東端は切岸11と接している。上端の標高は52.8mである

［規模］東西方向へと直線的に延びており、全長は28.5mである。実効法高は0～2.6mである。確認できた傾斜角は25°である。土塁３と接する箇所では上・下端が収束している。そのため、西側に向かうにつれて実効法高は低くなり、傾斜角も同様に緩くなる。

［堆積土］Ⅰ・Ⅱ層が層厚40～90㎝で堆積しており、その直下が検出面（ＸⅤ層）である。

［普請］地山を削平し普請している。

［遺物］出土していない。

［備考］作事の痕跡は認められない。

切岸14（写真図版22）

［位置］ⅡＢ45・55グリッドに位置する。平場９と平場13との間に構築されており、北端では切岸12、南端では土塁４と接している。上端の標高は50～51mである。

［規模］平場９の北西隅を基点に南方向へと直線的に延びており、全長は16.5mである。実効法高と傾斜角は計測していないことから判然としないが、切岸12と概ね類似している。観察の結果、土塁３の垂直壁高を維持したうえで、実効法高は北側に向かって高くなる。

［堆積土］層厚は確認できなかったものの、Ⅰ層が堆積しており、その直下が検出面（ＸⅤ層・版築５）である。

［普請］地山を削平し、版築を施して普請している。切岸12に向かって緩やかに傾斜するように形成されている。遺構上半部は版築で構築しているが、下半部は地山を削り出している。基本的に北側に向かうにつれて版築の層厚が増していく。

［遺物］出土していない。

［備考］作事の痕跡は認められない。土塁４との境界は不明瞭であるが、土塁の末端と接する箇所までを計測している。

切岸15（第35図　写真図版22）

［位置］ⅡＢ64・65・75グリッドに位置する。平場13の間に構築されており、南端では切岸16と接している。上端の標高は50.3mである。

［規模］北西・南東方向へと直線的に延びており、全長24mである。遺構は北端で上・下端が収束している。実効法高は0～2.3mである。確認できた傾斜角は55°である。直線的に構築されておらずやや湾曲するような断面観を有しており、検出した切岸の中では異なる存在である。下端は攪乱により削平されているため、遺構の全容は判然としない。

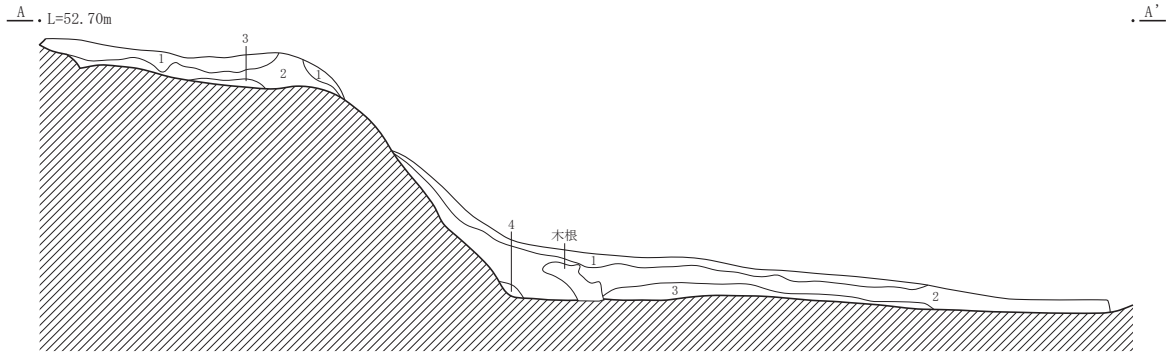
［堆積土］Ⅰ・Ⅱ層が層厚20～120㎝で堆積しており、その直下が検出面（ＸⅤ層）である。

［普請］地山を削平して普請している。

［遺物］出土していない。

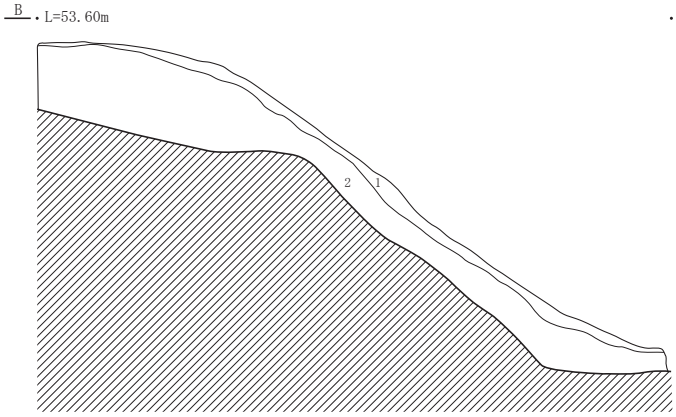
［備考］作事の痕跡は認められない。遺構上端は切岸16と連続しているため遺構の境界は不明瞭である。ここでは土塁３の下方に認められる浅い溝と切岸16との交点を基準に計測している。切岸と認識しているが、他の切岸と比べると様相は大きく異なる。

切岸１



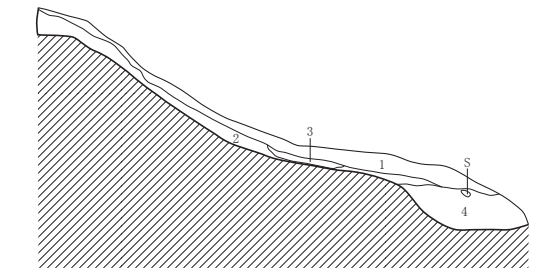
1. Ⅰ層。
2. オリーブ～黄褐色土(2.5Y4/4-5/4)　粘性なし、しまりやや弱い。いわゆるⅡ層
3. にぶい黄褐～黄褐色土(2.5Y6/3-5/3)　粘性なし、しまり弱い。2層にマサ土である地山が混じるため明味ます。
4. 灰黄色土(2.5Y6/2)　粘性なし、しまり弱い。地山崩落土。

切岸２



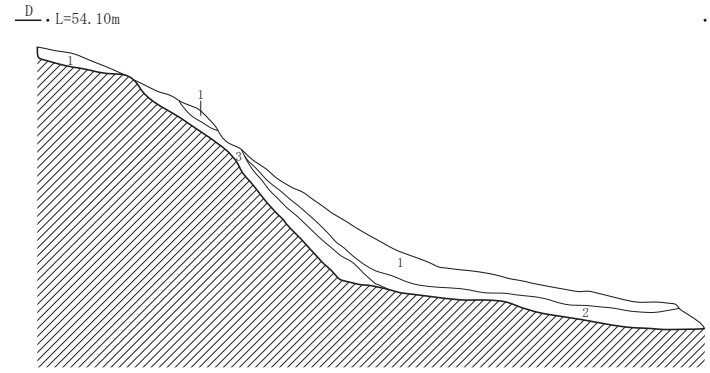
1. Ⅰ層。
2. Ⅱ層。

切岸３



1. Ⅰ層。
2. Ⅱ層。
3. 灰色土(5Y4/1)　粘性、しまりなし。
4. 灰黄褐色土(2.5Y4/2)　粘性弱い、しまり弱い。

切岸４

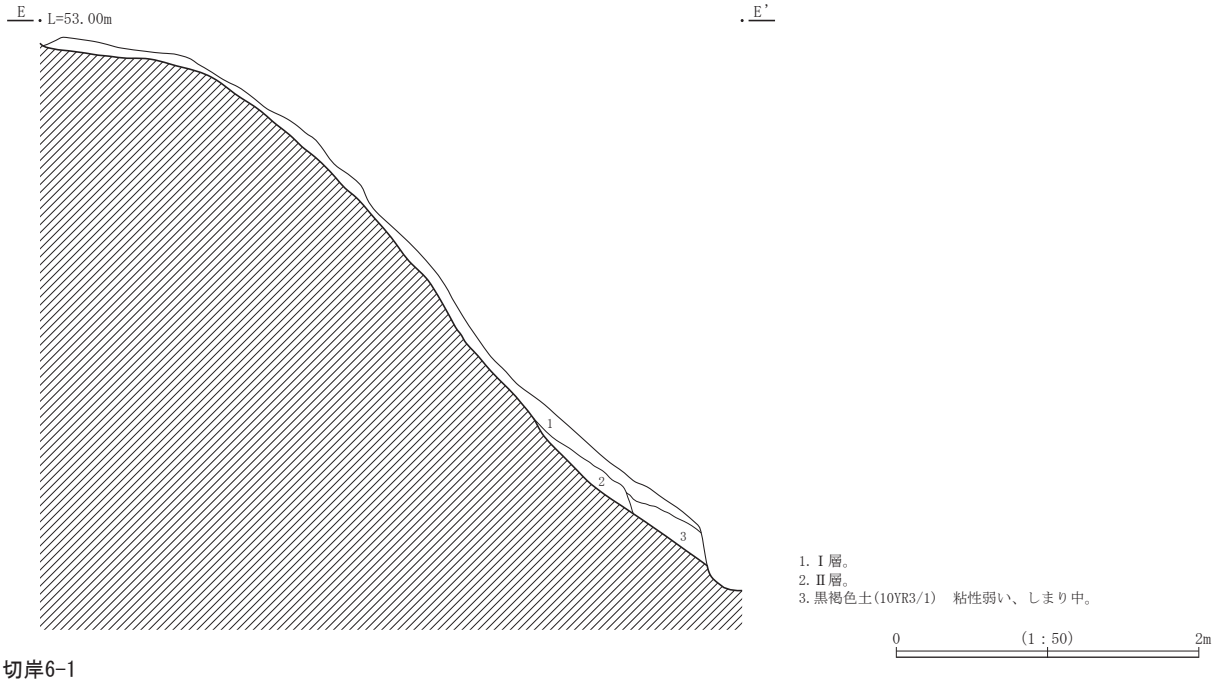


1. Ⅰ層。
2. Ⅱ層。
3. にぶい黄褐色土(10YR6/3)　粘性、しまり共に弱い。

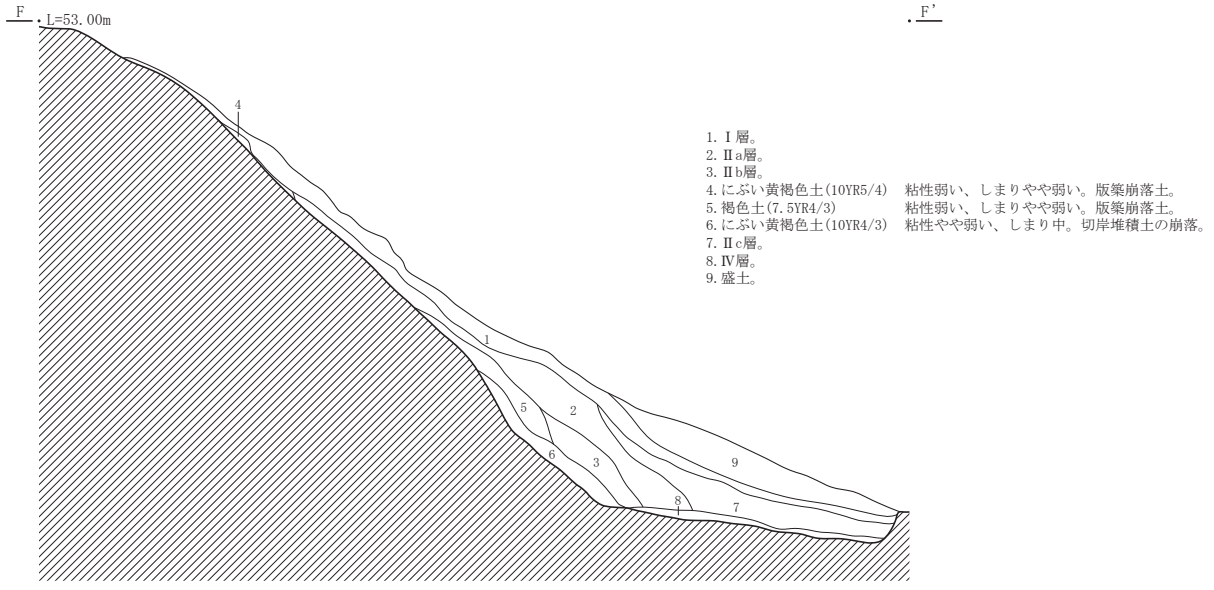
0　(1：50)　2m

第31図　切岸（１）

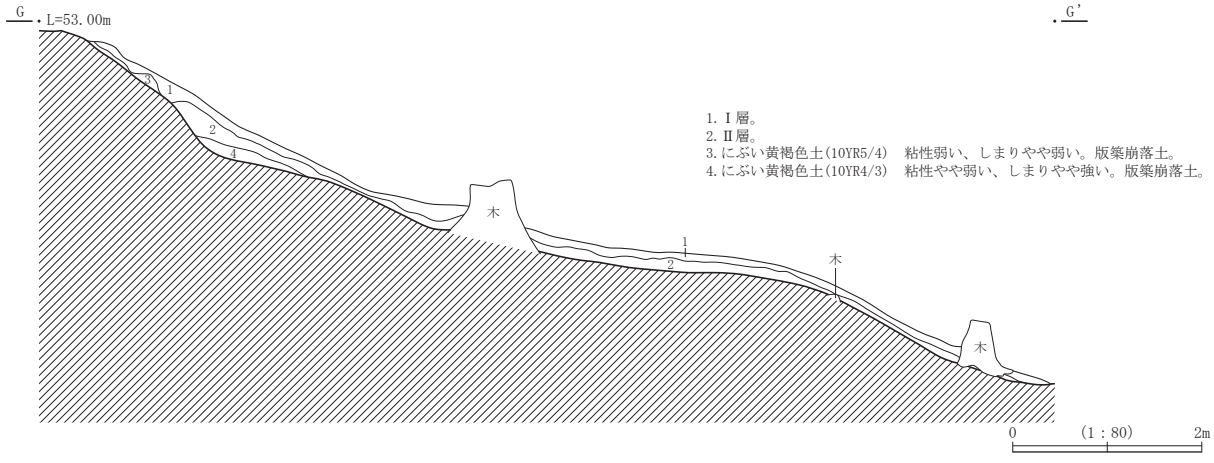
切岸５



切岸6-1

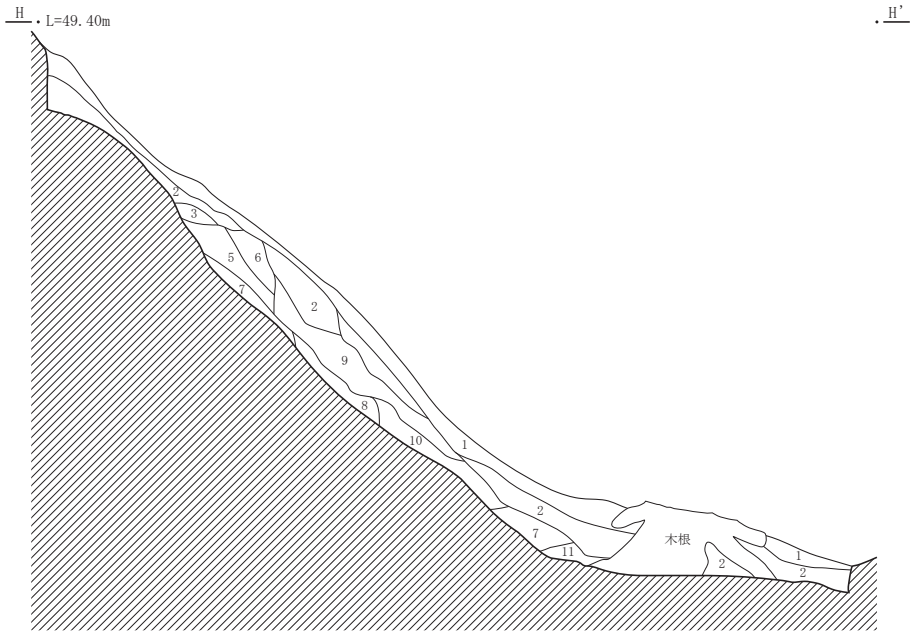


切岸6-2



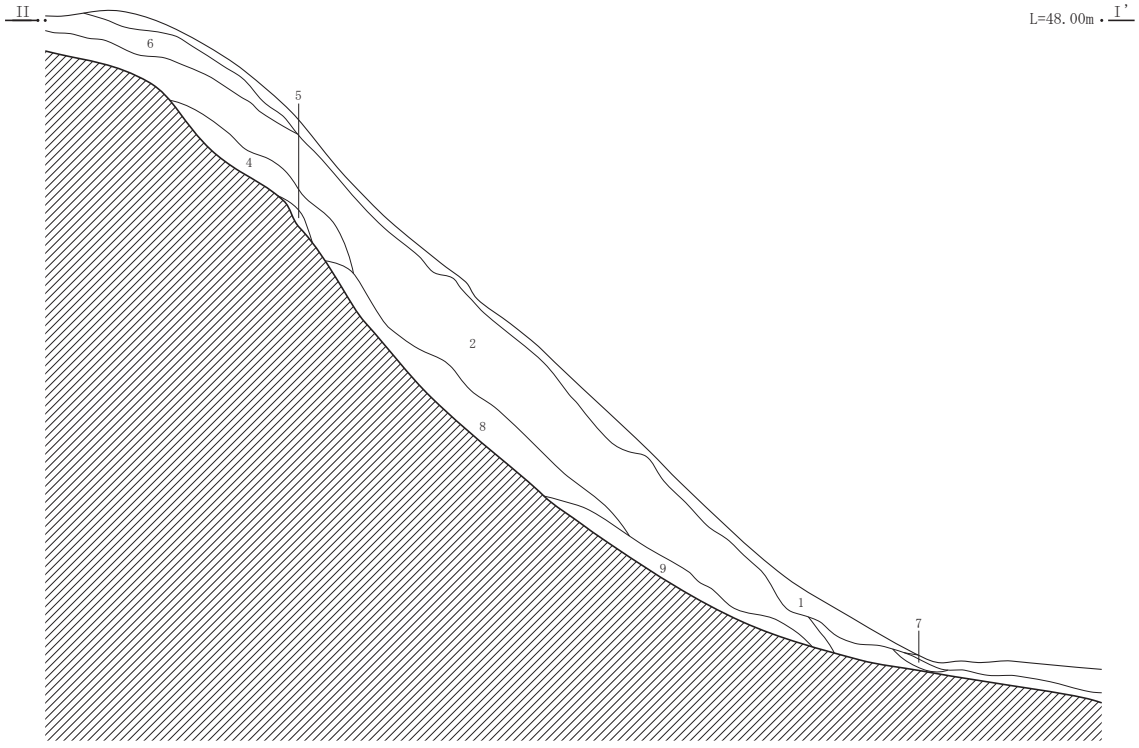
第32図　切岸（２）

切岸７



1. Ⅰ層。
2. Ⅱ層。
3. 灰黄褐色土（10YR4/2）
4. にぶい黄褐色土（10YR5/4）　粘性・しまり共に強い。
5. にぶい黄褐色土（10YR5/3）　粘性強く、しまり弱い。
6. にぶい黄褐色土（10YR4/3）　粘性やや強く、しまり中。
7. 黒色土（10YR2/1）　粘性やや強く、しまり強い。
8. にぶい黄褐色土（10YR5/4）　粘性中、しまり強い。
9. 黒褐色土（10YR3/2）　粘性やや強く、しまり強い。
10. にぶい黄褐色土（10YR4/3）
11. Ⅳ層

切岸８



1　Ⅰ層。
2　Ⅱ層。
3　Ⅲ層。
4　Ⅲb層。
5　Ⅳ層。
6　浅黄橙色土(10YR8/3)　粘性弱い、しまりやや弱い。地山ブロックを少量含む。
7　暗灰黄色土(2.5Y4/2)　粘性弱い、しまり中。
8　灰黄褐色土(10YR4/2)　粘性中、しまりやや強い。Ⅳ層ブロックを少量含む。
9　にぶい黄橙色土(10YR6/4)　粘性やや弱い、しまりやや強い。地山崩落土を少量含む。
10　黒褐色土(7.5YR3/2)　粘性弱い、しまり強い。地山崩落土。

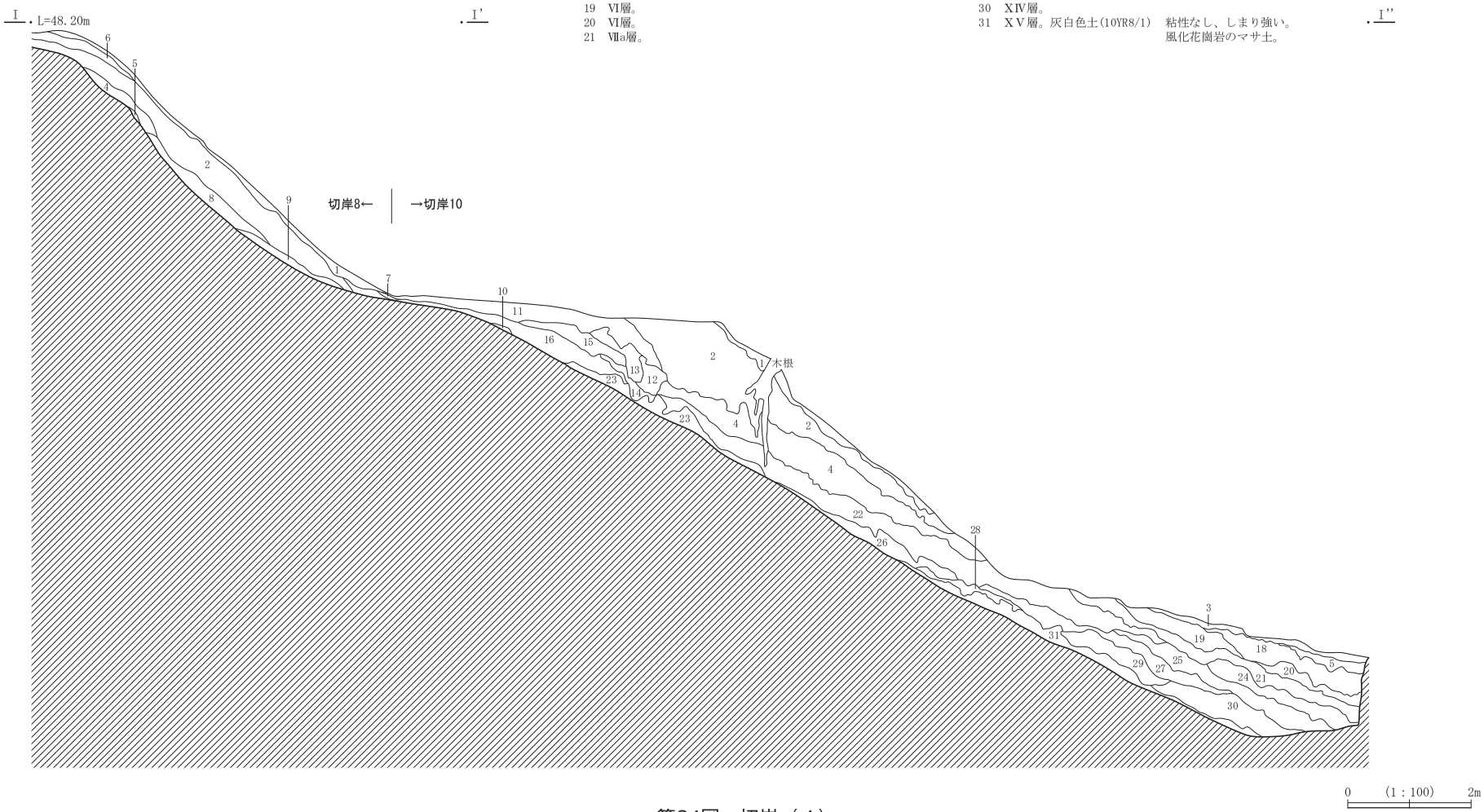
0　(1：50)　2m

第33図　切岸（３）

切岸８・10

1　Ⅰ層。
2　Ⅱa層。
3　Ⅲ層。
4　Ⅲb層。
5　Ⅳ層。
6　浅黄橙色土(10YR8/3)　粘性弱い、しまりやや弱い。地山ブロックを少量含む。
7　暗灰黄色土(2.5Y4/2)　粘性弱い、しまり中。
8　灰黄褐色土(10YR4/2)　粘性中、しまりやや強い。Ⅳ層ブロックを少量含む。
9　にぶい黄橙色土(10YR6/4)　粘性やや弱い、しまりやや強い。地山崩落土を少量含む。
10　黒褐色土(7.5YR3/2)　粘性弱い、しまり強い。地山崩落土。

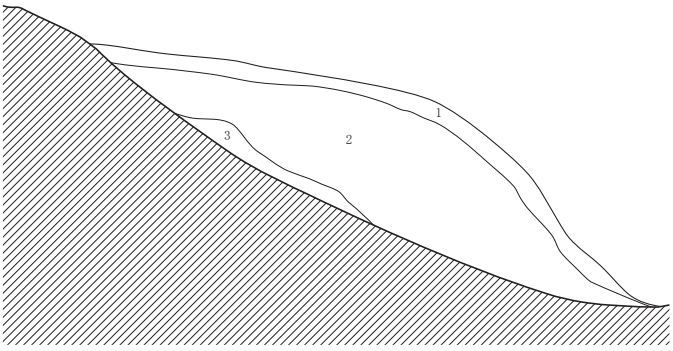
切岸10
1　Ⅰ層。
2　Ⅱa層。
11　Ⅱb層。
12　暗褐色土(10YR3/3)　粘性中、しまりやや強い。木根。
13　暗褐色土(10YR3/4)　粘性中、しまり中。砂混じり。木根。
14　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　粘性やや弱い、しまりやや強い。砂、マサ土混じり。木根。
15　Ⅲb層。
16　Ⅲa層。
18　Ⅴ層。
19　Ⅵ層。
20　Ⅵ層。
21　Ⅶa層。
22　Ⅶb層。
23　にぶい黄橙色土(10YR6/3)　粘性なし、しまり強い。マサ土崩落土。一部に7.5YR4/4の砂層が入る。
24　Ⅷ層。
25　ⅩⅠ層。
26　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　粘性なし、しまりやや強い。マサ土を含む。Ⅷb層に類似。
27　ⅩⅡ層。
28　にぶい黄褐～褐色土(10YR5/3～7.5YR4/4)　粘性やや弱い、しまりやや強い。マサ土、砂層を含む。15層に類似。
29　ⅩⅢ層。
30　ⅩⅣ層。
31　ⅩⅤ層。灰白色土(10YR8/1)　粘性なし、しまり強い。風化花崗岩のマサ土。



第34図　切岸（４）

切岸9

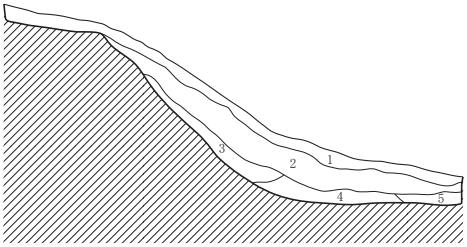
J・L=43.40m　　・J'



1. Ⅰ層。
2. Ⅱ層。
3. にぶい黄褐色土(10YR4/3)　粘性なし、しまりやや弱い。Ⅱ層に地山ブロックを多く含む。

切岸11

K・L=53.30m　　・K'

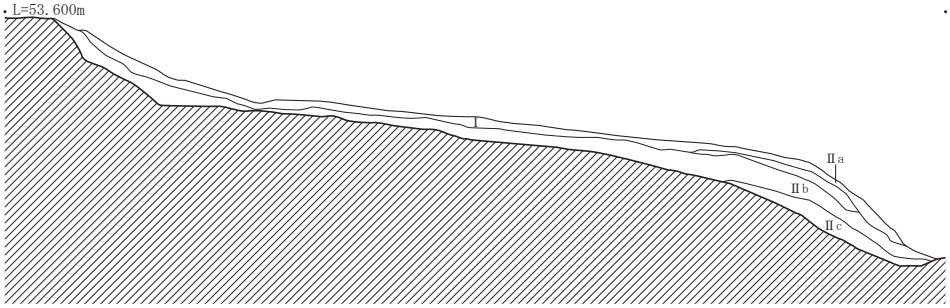


1. Ⅰ層。
2. Ⅱ層。
3. にぶい黄褐色土(10YR4/3)　粘性やや弱い、しまりやや強い。
4. 褐灰色土(10YR4/1)　粘性なし、しまり弱い。
5. 灰黄褐色土(10YR5/2)　粘性中、しまりやや強い。

0　切岸9、切岸11（1：50）　2m

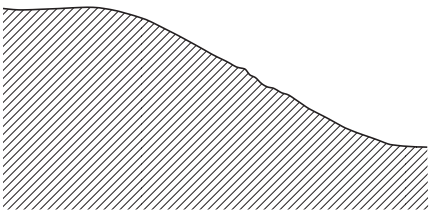
切岸11・13

L・L=53.600m　　・L'



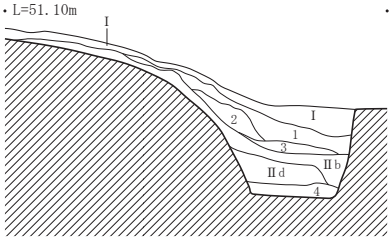
切岸12

M・L=50.40m　　・M'



切岸15

N・L=51.10m　　・N'

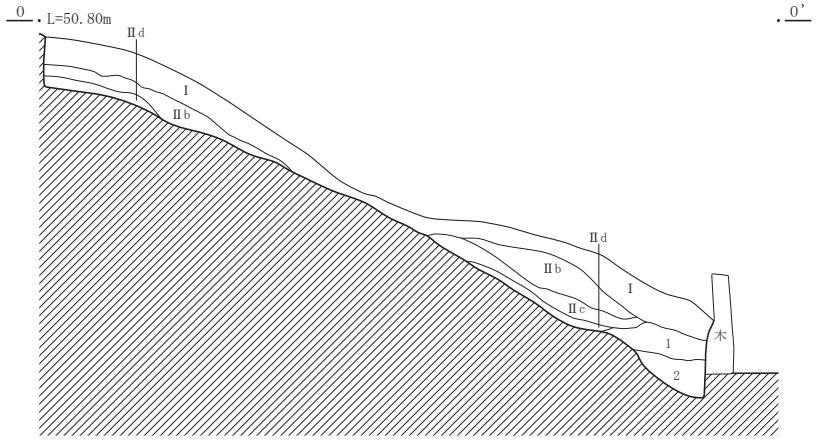


1. 灰黄褐色土(10YR5/2)　粘性、しまり共になし。
2. 灰黄褐色土(10YR4/2)　粘性、しまり共になし。地山ブロックを多く含む。
3. 褐灰色土(10YR4/1)　粘性、しまり共になし。
4. 灰白色土(10YR8/1)　粘性、しまり共になし。地山崩落土。

0　切岸11・13、切岸12、切岸15（1：100）　5m

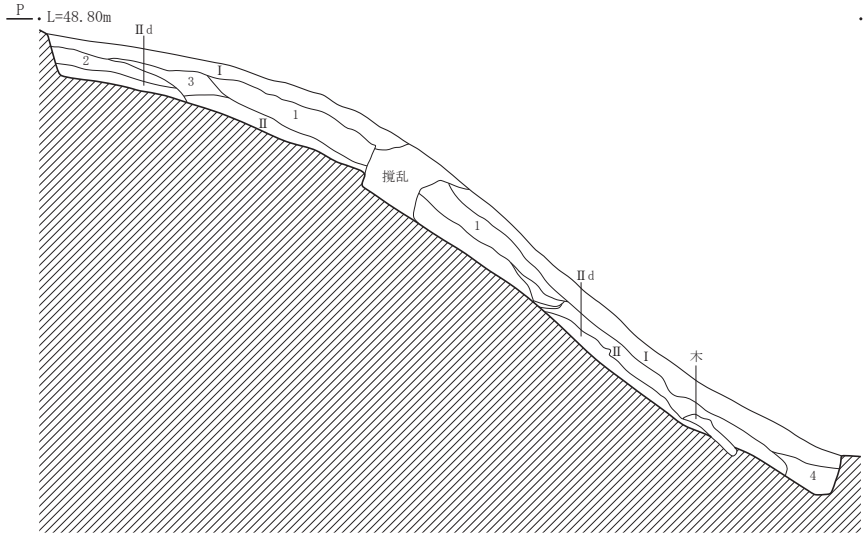
第35図　切岸（5）

切岸16



1. 褐灰色土（10YR4/1）　粘性・しまり共に弱い。
2. 黒褐色土（10YR3/1）　粘性弱い、しまり中。

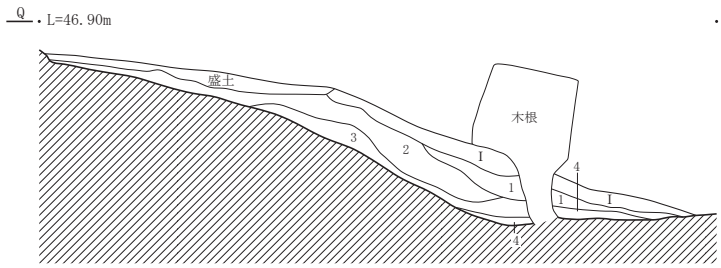
切岸17-1



1. 灰黄褐色土(10YR4/2)　粘性なし、しまり中。
2. 褐灰色土(10YR4/1)　粘性なし、しまり弱。
3. 灰黄褐色土(10YR6/2)　粘性なし、しまり弱。
4. 黒褐色土(10YR3/1)　粘性、しまりなし。

0　切岸16・17、切岸17-1（1：80）　4m

切岸17-2



1. 黒褐色土(10YR3/1)　粘性、しまり共に弱い。
2. 黒色土(10YR2/1)　粘性なし、しまり強い。地山ブロックを多く含む。
3. 褐灰色土(10YR4/1)　粘性なし、しまり強い。地山ブロックを多く含む。
4. 暗褐色土(10YR3/4)　粘性なし、しまり強い。地山ブロックを多く含む。

0　（1：50）　2m

第36図　切岸（６）

切岸16（第36図　写真図版22）

［位置］ⅡＢ75・76グリッドに位置する。平場３－２の西側に構築されており、北端では切岸15・17と接している。上端の標高は50mである。

［規模］南北方向へと直線的に延びており、確認できた全長は10mである。南側の調査区外へとさらに３m延び、本遺構の全長は13mとなる。実効法高は5.6mである。確認できた傾斜角は28°である。

［堆積土］Ⅰ・Ⅱ層が層厚10～80㎝で堆積しており、その直下が検出面（ＸＶ層）である。

［普請］地山を削平して普請している。

［遺物］本遺構と切岸17との境からは石製品が出土している。

［備考］作事の痕跡は認められない。切岸15に記載した箇所を基準に計測している。

切岸17（第36図　写真図版23）

［位置］ⅡＢ43・44・53・63・64・74・75グリッドに位置する。平場13の西側に構築されており、南端では切岸16と接している。上端の標高は46～48mである。

［規模］平場13の西隅を基点に南東・北東方向に延びており、Ｌ字状となる。南東側が32m、北東側が35mあり、全長は67mである。実効法高は南東側が6.4m、北東側が1.6mである。傾斜角は南東側が38°、北東側が26°である。実効法高と傾斜角は場所により大きく異なる。南東側は実効法高も高く、傾斜角も急である。反対に北東側は実効法高は半分以上も低く、傾斜角も緩やかである。

［堆積土］Ⅰ・Ⅱ層が層厚20～60㎝で堆積しており、その直下が検出面（ＸＶ層）である。

［普請］地山を削平して普請している。

［遺物］近世陶磁器が出土している。

［備考］作事の痕跡は認められない。

版築１（第37図）

［位置］ⅢＢ64・65・75グリッドに位置する。平場２の東辺をなす切岸３・切岸７の上端、切岸２の東端を構築している。上面の標高は48.5～52mである。ⅢＢ64グリッドで切岸３に対して直交するようにトレンチを入れて、層厚を確認している。

［規模］平場２の東辺を中心に南北方向へと直線的に延びている。全長は36m、幅は0.5～6.5m、層厚は５～50㎝である。縁辺付近は比較的幅も狭く、層厚も薄いが、平場２南東部では平坦面を合わせて切岸２を構築しているため面積も広く、層厚も厚い。

［堆積土］盛土は黄褐色土・にぶい黄褐色土などからなる。

［普請］地山を削り出した後、土を積み上げて敲き締めている。工程は、地山であるＸＶ層まで掘り下げ、高低差はないものの壁が外傾するように削平している。基本的にＸＶ層より上位に堆積する層は除去されている。また切岸７では斜面に平場６が構築されている。

［遺物］出土していない。

［備考］本版築は南端において南方向へとさらに延び、切岸１と接することを想定していることから破線で図示している。その範囲は地山が変色し褐鉄鉱で覆われており、これは地山と版築の間に生じる隙間によって生成されたものと考えられることから判断している。

版築２（第37図　写真図版24）

［位置］ⅡＢ69・70・80、ⅢＢ61～63・71～74・84・94グリッドに位置する。平場１の南辺と平場

２・３－１の南西隅をなす切岸５の上端を構築している。上面の標高は50～53mである。ⅢＢ62グリッドで切岸５に対して直交するようにトレンチを入れ、層厚を確認している。

［規模］土塁１南端付近を基点に西側と南側に延びており、Ｌ字状となる。平場１の南辺をなす切岸５西側を形成する西側が40m、平場２・３－１の縁辺をなす切岸５の中央・東側を形成する南側が30m、幅は８～13m、層厚は0.3～2.8mである。

［堆積土］盛土は黄褐色土・にぶい黄褐色土・暗褐色土などからなる。内部には黒色土、外面付近では黄褐色土を用いている。

［普請］地山を削り出した後、土を積み上げて敲き締めている。工程は、地山であるＸＶ層まで掘り下げ、壁が外傾するように削り出している。基本的にＸＶ層より上位に堆積する層は除去されている。その後に盛土を内部から積み重ねていくが、切岸付近では丁寧に積み最終的に三角状の土手を積み上げた後に、その間を埋めている。この工程を繰り返すことで、徐々に高さを挙げていることが確認できている。

［遺物］埋土上層から土製品が出土している。

［備考］本遺構は平場と切岸と共に、平場３－１から平場２へと至る虎口となる斜面を構築している。

版築３（第38～40図　写真図版25・26）

［位置］ⅡＢ59・60、ⅢＢ43・44・51・52グリッドに位置する。平場１・２・12の北辺をなす切岸６の上端、平場４－１、平場５－１を構築している。上面の標高は48～54mである。ⅡＢ48、ⅡＢ60、ⅢＢ52グリッドで切岸６に対して直交するように計３カ所(C～E)のトレンチを入れ、層厚を確認している。

［規模］平場１・２・12の北辺をなす切岸６の上端を中心に東西方向へと概ね直線的に延びている。全長は65m、幅は２～12.2m、層厚は0.1～2.8mである。最大幅と最大厚は平場１北辺をなす切岸６を形成している箇所にあり、そこから東西の両端に向かってそれらは狭く、薄くなる。

［堆積土］盛土は黄褐色土・にぶい黄褐色土・暗褐色土・黒褐色土などからなる。内部には黒色土、外面付近では黄褐色土を用いている。

［普請］地山を大きく削り出した後、土を積み上げて敲き締めている。工程は、概ね版築２と同様、内部から外側に向かって構築しており、切岸付近は丁寧に積み上げている。削り出す工法は、版築２とは異なり、壁を削り出すことなく緩やかな斜面を作出している。さらに、他の版築とは異なり、切岸に平場４－１と平場５－１が構築されている。

［遺物］版築に用いられた黒色土中から弥生土器が出土している。

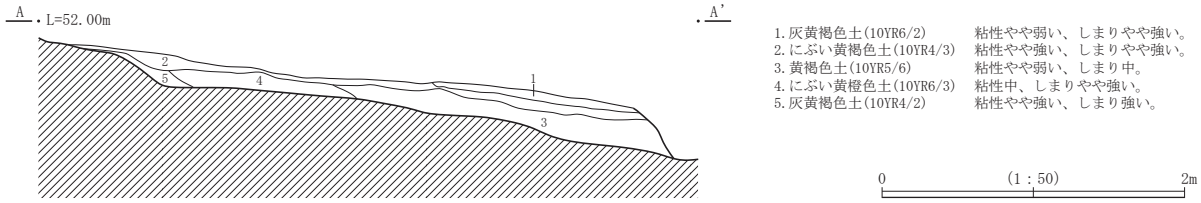
［備考］本遺構は版築２・４と連なっており、その境界は不明瞭である。ここでは前者については平場２の北東隅、後者については切岸６の上段を当該遺構に含め、平場４と切岸６の下段を版築４として扱っている。

版築４（第41図　写真図版26）

［位置］ⅡＢ48～50グリッドに位置する。平場４の北辺をなす切岸６下段を構築している。上面の標高は51.1～52.3mである。ⅡＢ48グリッドで切岸６下段に対して直交するようにトレンチを入れ、層厚を確認している。

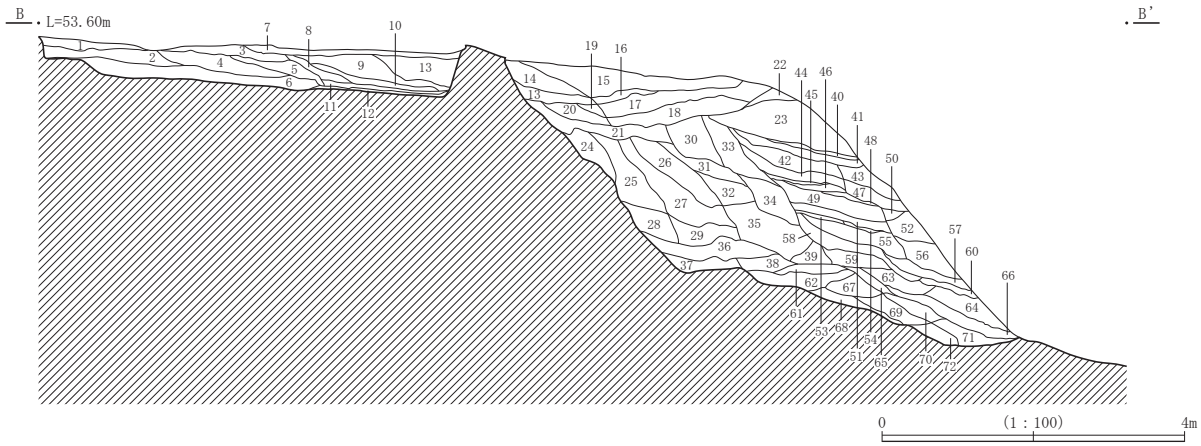
［規模］平場４の北辺をなす切岸６下段の上端を中心に東西方向へと直線的に延びている。規模は平

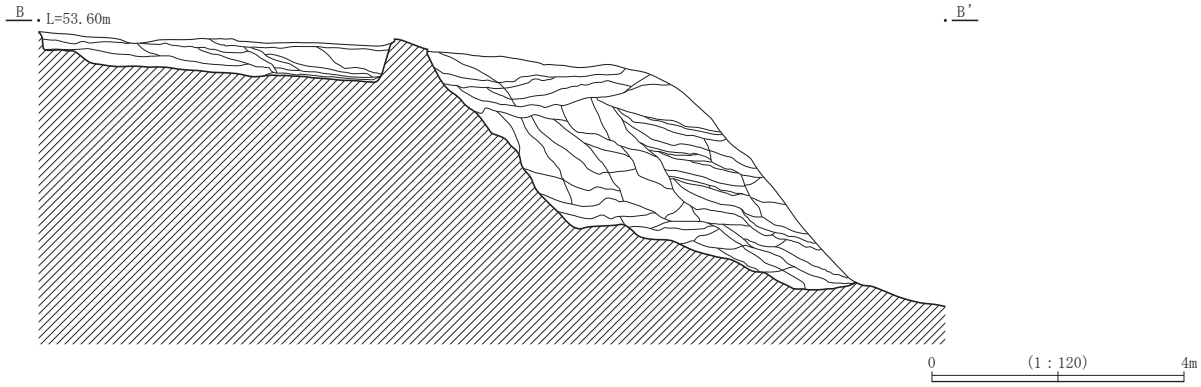
版築１



1. 灰黄褐色土(10YR6/2)　粘性やや弱い、しまりややや強い。
2. にぶい黄褐色土(10YR4/3)　粘性やや強い、しまりややや強い。
3. 黄褐色土(10YR5/6)　粘性やや弱い、しまり中。
4. にぶい黄橙色土(10YR6/3)　粘性中、しまりややや強い。
5. 灰黄褐色土(10YR4/2)　粘性やや強い、しまり強い。

版築２

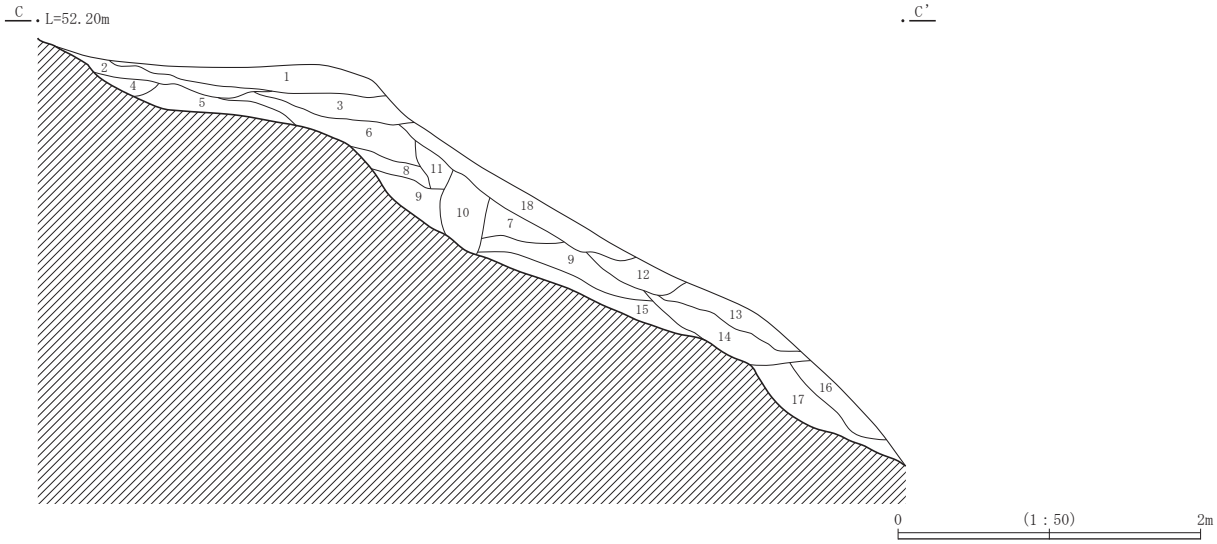




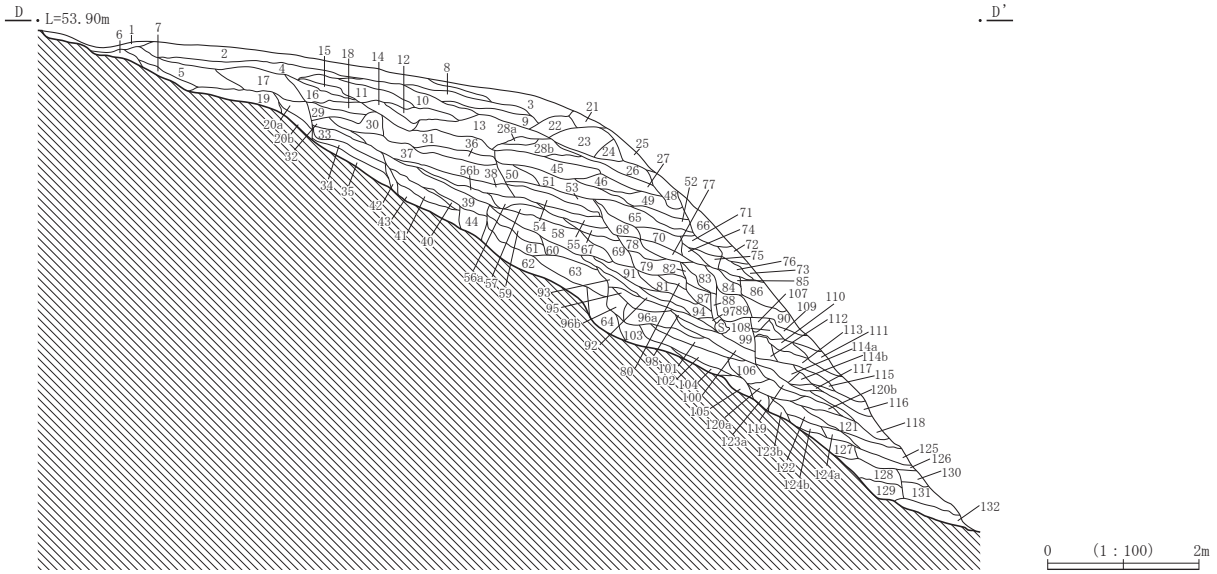
1	暗灰黄色土（2.5Y4/2）	粘性弱い、しまり中。マサ土少量含む。
2	灰白色土（2.5Y7/1）	粘性弱い、しまりやや強い。マサ土主体土。
3	黄褐色土（2.5Y5/4）	粘性弱い、しまり強い。
4	黄褐色土（2.5Y5/4）	粘性弱い、しまり強い。
5	灰白色土（2.5Y7/1）	粘性弱い、しまりやや強い。マサ土主体土。
6	暗灰黄色土（2.5Y4/2）	粘性弱い、しまり中。
7	暗灰黄色土（2.5Y4/2）	粘性弱い、しまり中。マサ土少量含む。
8	暗灰黄色土（2.5Y5/2）	粘性弱い、しまりやや強い。マサ土含む。
9	黄褐色土（2.5Y5/4）	粘性弱い、しまり強い。
10	灰黄褐色土（10YR5/2）	粘性やや弱い、しまり強い。マサ土主体土。
11	暗灰黄色土（2.5Y4/2）	粘性弱い、しまり強い。
12	褐色土（7.5YR4/3）	粘性強い、しまり強い。Ⅸ層含む。
13	黄褐色土（2.5Y5/3）	粘性弱い、しまりやや強い。マサ土・Ⅸ層混入土。
14	黄褐色土（2.5Y5/3）	粘性弱い、しまり強い。マサ土主体土。
15	にぶい黄色土（2.5Y6/3）	粘性弱い、しまり強い。マサ土主体土。
16	暗灰黄色土（2.5Y4/2）	粘性やや弱い、しまりやや強い。マサ土主体土。上層に比べ少ない。
17	にぶい黄褐色土（10YR5/3）	粘性やや弱い、しまり強い。Ⅸ層主体土。マサ土少量含む。
18	灰黄褐色土（10YR5/2）	粘性やや弱い、しまり強い。マサ土主体土。
19	にぶい黄褐色土（10YR5/3）	５層に類似しているが、混入物は極めて少ない。
20	灰黄褐色土（10YR4/2）	粘性やや弱い、しまり強い。Ⅸ層・マサ土主体土。
21	暗褐色土（10YR3/4）	粘性やや強い、しまり強い。Ⅵ層主体土。マサ土少量含む。
22	にぶい黄褐色土（10YR5/4）	粘性弱い、しまり強い。
23	にぶい黄褐色土（10YR4/3）	粘性弱い、しまり強い。
24	暗褐色土（10YR3/3）	粘性強い、しまり強い。
25	灰黄褐色土（10YR4/2）	粘性弱い、しまりやや強い。
26	褐色土(7.5YR4/3）	粘性やや強い、しまり強い。
27	にぶい黄褐色土(10YR4/3）	粘性中、しまり強い。
28	褐色土(10YR4/4）	粘性弱い、しまりやや強い。Ⅸ層ブロックを多く含む。
29	灰黄褐色土（10YR4/2）	粘性弱い、しまりやや強い。Ⅸ層含む。
30	褐色土（7.5YR4/3）	粘性やや強い、しまり強い。
31	褐灰色土（10YR4/1）	粘性やや弱い、しまりやや強い。
32	灰黄褐色土（10YR4/2）	粘性やや弱い、しまり強い。
33	にぶい黄褐色土（10YR4/3）	粘性中、しまり強い。
34	褐色土（10YR4/4）	粘性中、しまり強い。
35	にぶい黄褐色土（10YR4/3）	粘性弱い、しまりやや強い。
36	褐色土（10YR4/6）	粘性強い、しまり強い。Ⅸ層主体土。Ⅵ層含む。
37	褐色土（10YR4/6）	粘性強い、しまり強い。Ⅸ層主体土。Ⅵ層含む。
38	褐色土（10YR4/6）	粘性強い、しまり強い。Ⅸ層主体土。Ⅵ層含む。
39	褐色土（10YR4/4）	粘性中、しまり強い。
40	にぶい黄褐色土（10YR5/4）	粘性弱い、しまり強い。マサ土主体土。
41	褐色土（10YR4/4）	粘性弱い、しまり強い。マサ土少量含む。
42	明褐色土（7.5YR5/6）	粘性やや弱い、しまり強い。マサ土主体土。
43	にぶい黄褐色土（10YR5/4）	粘性やや弱い、しまりやや強い。マサ土少量含む。
44	にぶい褐色土（7.5YR5/4）	粘性弱い、しまり強い。マサ土主体土。
45	にぶい黄褐色土（10YR4/3）	粘性やや弱い、しまりやや強い。
46	にぶい褐色土（7.5YR5/3）	粘性やや弱い、しまり強い。マサ土主体土。
47	にぶい黄褐色土（10YR5/3）	粘性弱い、しまりやや強い。マサ土を含む。
48	灰黄褐色土（10YR4/2）	粘性中、しまり強い。Ⅵ層主体　マサ土少量含む。
49	褐色土（10YR4/6）	粘性やや強い、しまり強い。Ⅸ層ブロックを多く含む。
50	褐色土（10YR4/4）	粘性やや強い、しまりやや強い。マサ土・Ⅸ層ブロック少量含む。
51	にぶい黄褐色土（10YR5/3）	粘性弱い、しまりやや強い。マサ土を多く含む。
52	にぶい黄褐色土（10YR4/3）	粘性弱い、しまりやや強い。マサ土含む。
53	褐色土（10YR4/6）	粘性やや強い、しまり強い。Ⅸ層ブロックを多く含む。
54	灰黄褐色土（10YR4/2）	粘性弱い、しまりやや強い。
55	褐色土（10YR4/4）	20層と同じだがⅨ層ブロックが含まれない。
56	褐色土(10YR4/6）	粘性やや強い、しまり強い。Ⅸ層ブロックを多く含む。
57	にぶい黄褐色土（10YR4/3）	粘性弱い、しまりやや強い。
58	灰黄褐色土（10YR4/2）	粘性中、しまりやや強い。炭化物をやや多く含む。
59	褐色土（10YR4/4）	粘性やや強い、しまりやや強い。
60	灰黄褐色土（10YR4/2）	粘性中、しまりやや強い。
61	黒褐色土（10YR3/2）	粘性強い、しまり強い。Ⅵ層主体土。Ⅸ層ブロック少量含む。
62	褐色土（10YR4/6）	粘性強い、しまり強い。Ⅸ層主体土。Ⅵ層含む。
63	暗褐色土（10YR3/3）	粘性強い、しまり強い。Ⅵ層層主体土。
64	暗褐色土（10YR3/4）	粘性強い、しまり強い。Ⅹ層主体土。
65	暗褐色土（10YR3/4）	粘性強い、しまり強い。Ⅹ層主体土。
66	黒褐色土（10YR3/2）	粘性やや強い、しまり強い。Ⅵ層主体土。
67	黒褐色土（10YR3/2）	粘性強い、しまり強い。Ⅵ層主体土。Ⅸ層ブロック少量含む。
68	褐色土（10YR4/6）	粘性強い、しまり強い。Ⅸ層主体土。
69	暗褐色土（10YR3/4）	粘性強い、しまり強い。Ⅵ層主体土。
70	褐色土（10YR4/6）	粘性強い、しまり強い。Ⅵ層主体土。
71	暗褐色土（10YR3/4）	粘性強い、しまり強い。Ⅹ層主体土。
72	暗褐色土（10YR3/3）	粘性強い、しまり強い。Ⅵ層主体土。

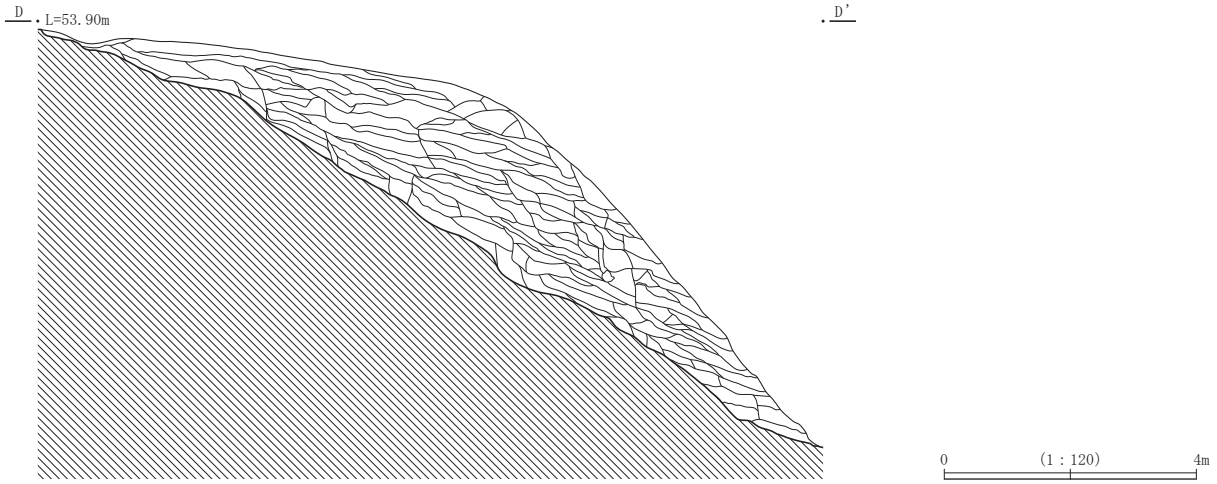
第37図　版築（１）

版築３



1	褐灰色土(10YR4/1)	粘性やや弱い、しまり中。マサ土混じる。	10	黒褐色土(10YR3/1)	木根。
2	褐灰色土(10YR4/1)	粘性やや強い、しまり強い。区層ブロックを含む。	11	黒褐色土(10YR3/1)	粘性、しまり共に中。マサ土混じる。
3	にぶい黄褐色土(10YR5/3)	粘性、しまり共に強い。Ⅸ層崩落土。	12	灰褐色土(7.5YR4/2)	粘性、しまり共に強い。
4	灰黄褐色土(10Y4/2)	粘性、しまり共に強い。	13	にぶい黄褐色土(10YR5/3)	粘性、しまり共にやや強い。暗褐色土を含む。
5	にぶい黄褐色土(10YR5/4)	粘性、しまり共に強い。Ⅸ層崩落土。	14	灰褐色土(7.5Y5/2)	粘性中、しまり強い．マサ土を多く含みむ。
6	褐灰色土(10YR4/1)	粘性中、しまり強い。	15	にぶい黄褐色土(10YR6/3)	14層に類似。
7	褐灰色土(10YR4/1)	粘性、しまり共に中。炭、焼土混じる。	16	暗灰黄色土(2.5Y5/2)	粘性、しまり共に中。
8	にぶい黄褐色土(10YR5/3)	５層に類似。	17	褐灰色土	1層に類似。マサ土を多く混じり、しまる。
9	黄褐色土(2.5Y5/3)	粘性、しまり共に強い。			



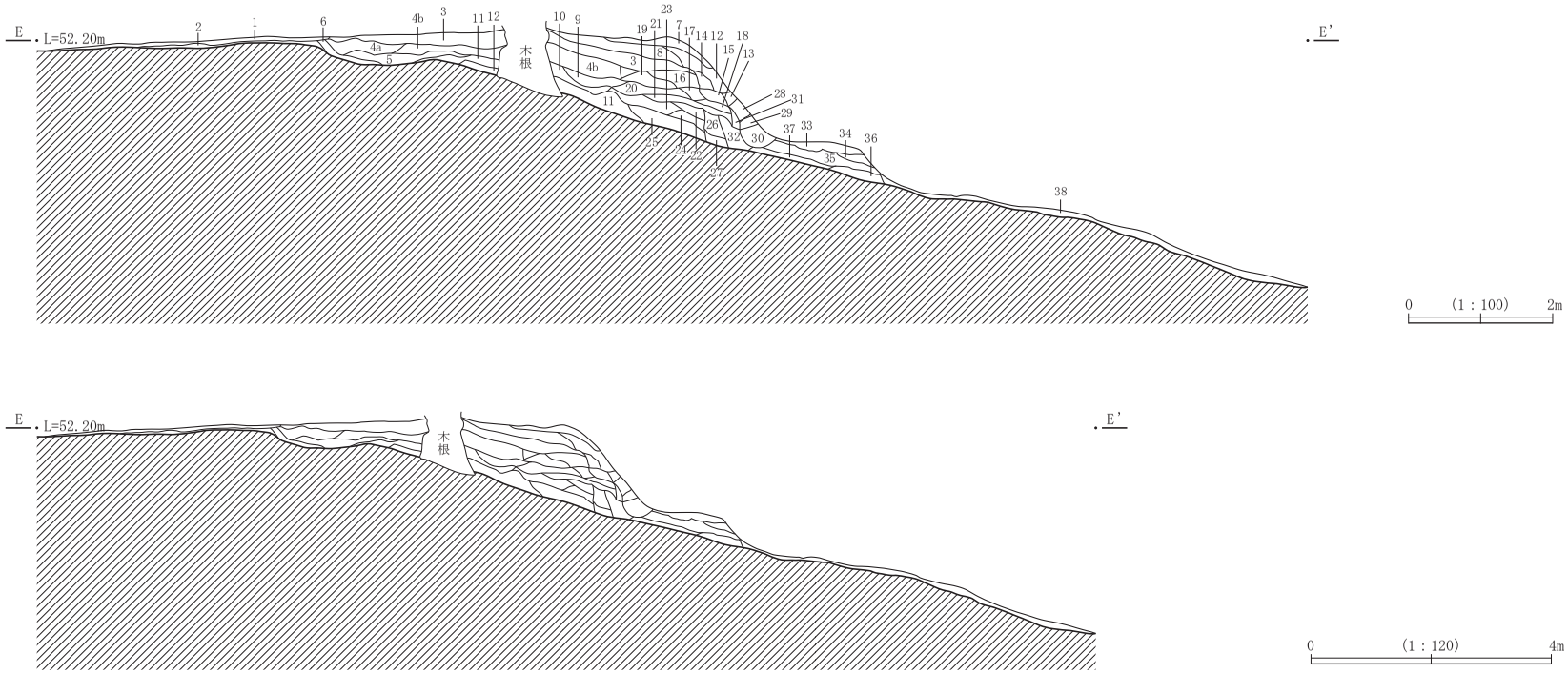


第38図　版築（２）

1	にぶい橙色土(7.5YR6/4)	粘性弱い、しまり強い。マサど含む。
2	にぶい黄褐色土(10YR5/4)	粘性弱い、しまり強い。マサ土と焼土含む。
3	にぶい黄橙色土(10YR6/3)	粘性弱い、しまり強い。マサ多く含む。
4	褐色土(10YR4/6)	粘性弱い、しまり強い。マサ土少量含む。
5	にぶい黄褐色土(10YR5/3)	粘性弱い、しまりやや強い。マサ土少量含む。
6	にぶい黄褐色土(10YR5/4)	粘性弱い、しまりやや強い。マサ土少量含む。
7	にぶい黄橙色土(10YR6/4)	粘性弱い、しまり強い。マサ土少量混入。
8	にぶい黄褐色土(10YR5/4)	粘性弱い、しまり強い。マサ土とⅣ層ブロック少量含む。
9	にぶい黄褐色土(10YR5/4)	粘性弱い、しまり強い。マサ土とⅣ層ブロック少量含む。
10	にぶい黄褐色土(10YR5/3)	粘性弱い、しまり強い。マサ土少量含む。
11	にぶい黄褐色土(10YR5/4)	粘性弱い、しまり強い。マサ土とⅣ層ブロック少量含む。
12	にぶい黄褐色土(10YR5/4)	粘性弱い、しまり強い。マサ土とⅣ層ブロック少量含む。
13	にぶい黄橙色土(10YR6/4)	粘性弱い、しまりやや強い。マサ土主体。
14	にぶい黄褐色土(10YR5/3)	粘性弱い、しまり強い。マサ土多く含む
15	にぶい黄橙色土(10YR6/4)	粘性弱い、しまりやや強い。マサ主体。
16	にぶい黄褐色土(10YR5/4)	粘性弱い、しまり強い。マサ土とⅣ層ブロック少量含む。
17	にぶい黄褐色土(10YR5/3)	粘性弱い、しまり強い。マサ土少量含む。
18	にぶい黄橙色土(10YR6/4)	粘性弱い、しまりやや強い。マサ土主体。
19	褐色土(10YR4/4)	粘性やや弱い、しまりやや強い。Ⅳ層ブロック含む。
20a	にぶい黄褐色土(10YR5/3)	粘性弱い、しまり強い。Ⅸ層とマサ土含む。
20b	褐色土(10YR4/6)	粘性中、しまり強い。Ⅸ主体　Ⅵ層ブロック含む。
21	灰黄褐色土(10YR4/2)	粘性やや弱い、しまりやや強い。
22	にぶい黄橙色土(10YR6/4)	粘性弱い、しまりやや強い。マサ土主体。
23	にぶい黄橙色土(10YR6/3)	粘性弱い、しまり強い。マサ土多く含む。
24	にぶい黄褐色土(10YR5/4)	粘性弱い、しまり強い。マサ土とⅣ層ブロック少量含む。
25	灰黄褐色土(10YR4/2)	粘性やや弱い、しまりやや強い。
26	褐色土(7.5YR4/3)	粘性弱い、しまり強い。マサ土多く含む。
27	にぶい黄橙色土(10YR6/4)	粘性弱い、しまりやや強い。マサ土主体。
28a	にぶい黄橙色土(10YR6/4)	粘性弱い、しまり強い。マサ土とⅣ層ブロックを少量含む。
28b	灰褐色土(7.5YR4/2)	粘性弱い、しまりやや強い。
29	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	粘性弱い、しまりやや強い。マサ土。
30	にぶい黄褐色土(10YR5/4)	粘性弱い、しまり強い。
31	にぶい黄褐色土(10YR5/3)	粘性弱い、しまり強い。
32	オリーブ褐色土(2.5Y4/3)	粘性やや弱い、しまりやや強い。
33	暗褐色土(10YR3/4)	粘性中、しまりやや強い。Ⅵ層主体土。
34	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	粘性やや弱い、しまりやや強い。
35	黄褐色土(10YR5/6)	粘性中、しまり強い。Ⅸ層主体土。
36	にぶい黄褐色土(10YR5/4)	粘性弱い、しまり強い。
37	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	粘性弱い、しまりやや強い。マサ土少量含む。
38	灰黄褐色土(10YR4/2)	粘性やや弱い、しまりやや強い。
39	暗褐色土(10YR3/3)	粘性やや弱い、しまりやや強い。Ⅵ層主体土。
40	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	粘性中、しまりやや強い。
41	褐色土(10YR4/6)	粘性やや強い、しまり強い。Ⅸ層主体土。
42	褐色土(10YR4/4)	粘性強い、しまり強い。Ⅸ層主体土。
43	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	粘性やや弱い、しまりやや強い。
44	褐色土(10YR4/6)	粘性やや強い、しまり強い。Ⅸ層主体土。
45	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	粘性弱い、しまり強い。マサ土少量含む。
46	にぶい黄褐色土(10YR5/3)	粘性弱い、しまり強い。
47	―	
48	にぶい黄橙色土(10YR6/3)	粘性弱い、しまり強い。マサ土多く含む。
49	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	粘性弱い、しまり強い。マサ土少量含む。
50	にぶい黄褐色土(10YR5/3)	粘性やや弱い、しまりやや強い。マサ土少量含む。
51	にぶい黄褐色土(10YR5/4)	粘性弱い、しまりやや強い。
52	にぶい黄褐色土(10YR5/3)	粘性弱い、しまり強い。
53	灰黄褐色土(10YR4/2)	粘性弱い、しまりやや強い。
54	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	粘性やや弱い、しまりやや強い。
55	灰黄褐色土(10YR4/2)	粘性弱い、しまりやや強い。Ⅵ層主体土。
56a	褐灰色土(10YR4/1)	粘性弱い、しまりやや強い。Ⅵ層主体土。
56b	aに類似するが、白色粒子を多く含む。	
57	褐灰色土(10YR4/1)	粘性弱い、しまりやや強い。Ⅵ層主体土。
58	黒褐色土(10YR3/2)	粘性やや弱い、しまりやや強い。Ⅵ層主体土。
59	黒褐色土(10YR3/1)	粘性やや弱い、しまりやや強い。Ⅵ層主体土。Ⅸ層含む。
60	黒褐色土(10YR3/1)	粘性やや弱い、しまりやや強い。Ⅳ層主体土。
61	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	粘性中、しまり強い。
62	褐色土(10YR4/4)	粘性強い、しまり強い。Ⅸ層主体土。Ⅵ層含む。
63	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	粘性強い、しまり強い。Ⅸ・Ⅵ層主体土。
64	褐色土(10YR4/4)	粘性やや弱い、しまり強い。Ⅸ層主体土。
65	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	粘性弱い、しまり強い。マサ少。
66	にぶい黄褐色土(10YR5/4)	粘性強い、しまり強い。
67	暗褐色土(10YR3/3)	粘性やや強い、しまりやや強い。Ⅵ層主体土。
68	灰黄褐色土(10YR4/2)	粘性やや弱い、しまりやや強い。マサ土微量含む。
69	黒褐色土(10YR3/2)	粘性強い、しまりやや強い。Ⅵ層主体土。
70	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	粘性中、しまりやや強い。
71	黄褐色土(10YR5/6)	粘性強い、しまり強い。マサ土微量含む。
72	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	粘性弱い、しまり強い。
73	にぶい黄褐色土(10YR5/4)	粘性強い、しまり強い。
74	褐色土(10YR4/6)	粘性強い、しまり強い。マサ土微量含む。
75	にぶい黄褐色土(10YR5/4)	粘性強い、しまり強い。マサ土微量含む。
76	褐色土(10YR4/6)	粘性強い、しまり強い。マサ土微量含む。
77	灰黄褐色土(10YR4/2)	粘性やや強い、しまりやや強い。マサ土微量含む。
78	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	粘性やや強い、しまりやや強い。
79	灰黄褐色土(10YR4/2)	粘性中、しまりやや強い。Ⅵ層主体土。
80	灰黄褐色土(10YR4/2)	粘性やや強い、しまりやや強い。マサ土微量含む。
81	黒褐色土(10YR3/2)	粘性やや強い、しまりやや強い。Ⅵ層主体土。
82	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	粘性やや強い、しまり強い。
83	褐色土(10YR4/4)	粘性中、しまりやや強い。マサ土微量含む。
84	にぶい黄褐色土(10YR5/4)	粘性やや強い、しまり強い。
85	褐色土(10YR4/6)	粘性強い、しまり強い。マサ土微量含む。
86	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	粘性弱い、しまり強い。
87	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	粘性やや強い、しまりやや強い。
88	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	粘性やや強い、しまり強い。
89	褐色土(10YR4/6)	粘性強い、しまり強い。マサ土微量含む。
90	にぶい黄褐色土(10YR5/4)	粘性やや強い、しまり強い。
91	暗褐色土(10YR3/3)	粘性中、しまりやや強い。Ⅴ・Ⅵ層主体土。
92	黒褐色土(10YR3/2)	粘性やや強い、しまりやや強い。Ⅴ・Ⅵ層主体土。
93	黒色土(10YR2/1)	粘性中、しまりやや強い。Ⅳ層主体土。
94	灰黄褐色土(10YR4/2)	粘性中、しまりやや強い。Ⅵ層主体土。
95	黒褐色土(10YR3/2)	粘性やや強い、しまりやや強い。Ⅵ層主体土。
96a	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	粘性やや強い、しまりやや強い。Ⅸ・Ⅵ層含む。
96b	褐色土(10YR4/4)	粘性強い、しまり強い。Ⅸ層主体土。Ⅵ層含む。
97	暗褐色土(10YR3/3)	粘性やや強い、しまりやや強い。Ⅵ層主体土。
98	黒褐色土(10YR3/1)	粘性やや強い、しまりやや強い。Ⅴ・Ⅵ層主体土。
99	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	粘性強い、しまり強い。Ⅸ・Ⅳ層含む。
100	暗褐色土(10YR3/3)	粘性やや強い、しまりやや強い。Ⅵ層主体土。
101	褐色土(10YR4/4)	粘性強い、しまり強い。Ⅸ層主体土。
102	灰黄褐色土(10YR4/2)	粘性強い、しまり強い。Ⅸ層主体土。
103	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	粘性やや強い、しまりやや強い。Ⅸ層主体土。
104	暗褐色土(10YR3/3)	粘性やや強い、しまりやや強い。Ⅵ層主体土。
105	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	粘性やや強い、しまりやや強い。Ⅸ層主体土。
106	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	粘性やや強い、しまりやや強い。Ⅸ・Ⅵ層含む。
107	褐色土(10YR4/6)	粘性弱い、しまりやや強い。マサ土少量含む。
108	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	粘性やや弱い、しまりやや強い。マサ土少量含む。
109	褐色土(10YR4/4)	粘性中、しまりやや強い。マサ土少量含む。
110	褐色土(7.5YR4/4)	粘性強い、しまり強い。マサ土少量含む。
111	褐色土(7.5YR4/3)	粘性強い、しまり強い。マサ土含む。
112	褐色土(10YR4/4)	粘性強い、しまり強い。Ⅸ層主体土。
113	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	粘性やや強い、しまりやや強い。マサ土含む。
114a	灰黄褐色土(10YR4/2)	粘性中、しまりやや強い。Ⅸ層ブロック少量含む。
114b	にぶい黄褐色土(10YR5/3)	粘性弱い、しまり強い。砂少量含む。
115	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	粘性やや強い、しまりやや強い。
116	黒褐色土(10YR3/2)	粘性やや強い、しまりやや強い。Ⅵ層主体土。Ⅸ層含む。
117	黒色土(10YR2/1)	粘性中、しまりやや強い。Ⅳ層主体土。
118	黒褐色土(10YR3/1)	粘性やや強い、しまりやや強い。Ⅴ・Ⅵ層主体土。
119	暗褐色土(10YR3/3)	粘性やや強い、しまりやや強い。Ⅵ層主体土。
120a	灰黄褐色土(10YR4/2)	粘性強い、しまり強い。Ⅸ層主体土。
120b	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	粘性やや強い、しまりやや強い。Ⅸ・Ⅵ層含む。
121	灰黄褐色土(10YR4/2)	粘性やや弱い、しまりやや強い。Ⅸ層層含む。
122	褐色土(10YR4/4)	粘性強い、しまり強い。Ⅸ層主体土。
123a	褐色土(10YR4/4)	粘性強い、しまり強い。Ⅸ層ブロック。
123b	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	粘性やや強い、しまりやや強い。Ⅸ層主体土。
124a	灰黄褐色土(10YR4/2)	粘性やや弱い、しまりやや強い。
124b	暗褐色土(10YR3/3)	粘性やや強い、しまりやや強い。Ⅵ層主体土。
125	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	粘性中、しまりやや強い。Ⅴ・Ⅸ層含む。
126	暗褐色土(10YR3/3)	粘性やや強い、しまりやや強い。Ⅵ層主体土。
127	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	粘性弱い、しまりやや強い。
128	灰黄褐色土(10YR4/2)	粘性やや強い、しまりやや強い。Ⅸ層主体土。Ⅵ層含む。
129	褐色土(10YR4/4)	粘性やや強い、しまりやや強い。Ⅸ層主体土。
130	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	粘性弱い、しまりやや強い。
131	黒褐色土(10YR3/2)	粘性やや弱い、しまりやや強い。Ⅵ層主体土。Ⅸ層含む。
132	褐色土(7.5YR4/3)	粘性中、しまりやや強い。Ⅸ層含む。

第39図　版築（3）

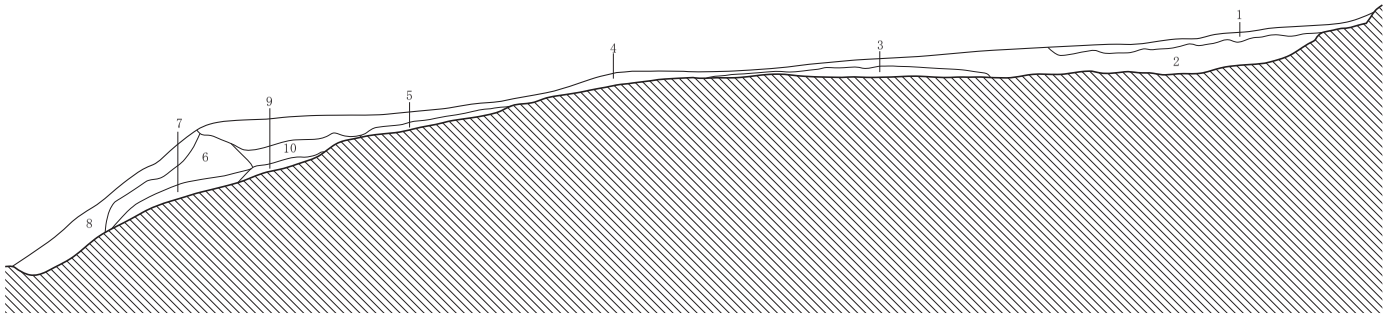
版築３



1　にぶい黄橙色土（10YR6/3）　粘性弱い、しまり強い。マサ土少量含む。
2　IX層。
3　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　粘性弱い、しまり強い。マサ土少量含む。
4a　灰黄褐色土（10YR4/2）　粘性やや弱い、しまりやや強い。マサ土少量含む。
4b　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　粘性やや弱い、しまりやや強い。
5　黒褐色土（10YR3/2）　粘性中、しまりやや強い。VI層主体土。
6　黒色土（10YR2/1）　粘性中、しまりやや強い。VI層主体土。IX層少量含む。
7　にぶい黄橙色土（10YR6/4）　粘性弱い、しまり強い。マサ多く含む。
8　にぶい黄褐色土（10YR5/3）　粘性弱い、しまり強い。マサ土少量含む。
9　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　粘性中、しまりやや強い。
10　黒色土（10YR2/1）　粘性やや強い、しまりやや強い。VI層主体土。
11　褐色土（10YR4/6）　粘性強い、しまり強い。IX層主体土。IV層少量含む。
12　にぶい黄褐色土（10YR5/4）　粘性中、しまり強い。
13　褐色土（10YR4/4）　粘性やや強い、しまり強い。VI層主体。炭を微量に含む。
14　褐色土（10YR4/4）　粘性やや強い、しまり強い。VI層主体。炭を微量に含む。
15　灰黄褐色土（10YR4/2）　粘性やや弱い、しまりやや強い。マサ土微量に含む。
16　灰黄褐色土（10YR4/2）　粘性やや弱い、しまりやや強い。
17　黒褐色土（10YR3/2）　粘性やや強い、しまりやや強い。VI層主体土。
18　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　粘性やや弱い、しまりやや強い。VI層主体土。IX層含む。
19　灰黄褐色土（10YR4/2）　粘性やや弱い、しまりやや強い。
20　暗褐色土（10YR3/3）　粘性中、しまりやや強い。VI層主体土。IX層少量含む。
21　黒色土（10YR2/1）　粘性中、しまり強い。IV層主体土。
22　暗褐色土（10YR3/3）　粘性中、しまりやや強い。VI層主体土。IX層少量含む。
23　褐色土（10YR4/4）　粘性やや強い、しまりやや強い。IX層主体土。VI層含む。
24　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　粘性やや強い、しまりやや強い。
25　灰黄褐色土（10YR4/2）　粘性中、しまり強い。
26　暗褐色土（10YR3/4）　粘性やや強い、しまりやや強い。VI・IX層含む。
27　暗褐色土（10YR3/3）　粘性やや強い、しまり中。VI層主体土。
28　褐色土（10YR4/4）　粘性やや強い、しまり強い。VI層主体土。炭を微量含む。
29　暗褐色土（10YR3/4）　粘性やや弱い、しまりやや強い。
30　灰黄褐色土（10YR4/2）　粘性やや弱い、しまりやや強い。マサ土微量含む。
31　灰黄褐色土（10YR4/2）　粘性やや強い、しまりやや強い。VI層主体土。
32　黒褐色土（10YR2/2）　粘性中、しまりやや強い。VI層主体土。
33　にぶい黄褐色土（10YR5/3）　粘性中、しまりやや強い。マサ土・焼土を含む。
34　黒褐色土（10YR3/1）　粘性やや強い、しまり強い。IV層主体土。
35　暗褐色土（10YR3/4）　粘性やや強い、しまりやや強い。VI層主体土。
36　IX層。
37　暗褐色土（10YR3/4）　粘性やや強い、しまり強い。IX層含む。
38　VI層。

第40図　版築（４）

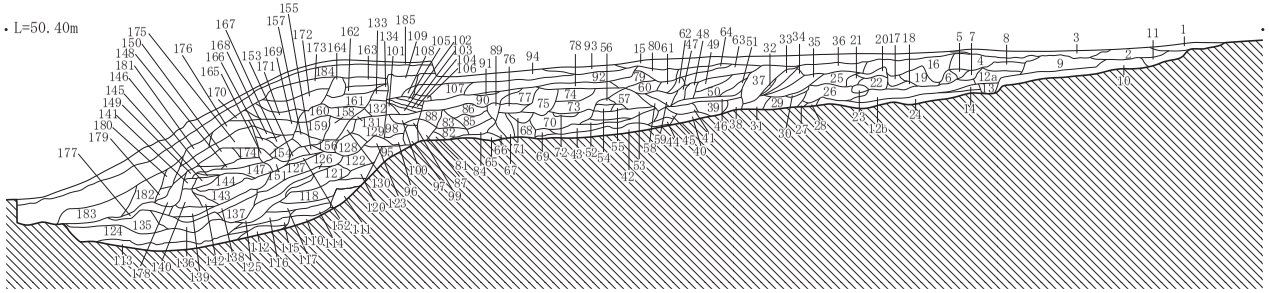
版築４



1	Ⅱ	
2	にぶい黄褐色土（10YR5/4）	粘性弱い、しまり強い。マサ土主体。
3	にぶい黄褐色土（10YR5/3）	粘性弱い、しまり強い。マサ土主体。
4	灰黄褐色土（10YR4/2）	粘性やや弱い、しまりやや強い。マサ土・焼土含む。
5	にぶい黄褐色土（10YR4/3）	粘性やや強い、しまりやや強い。Ⅵ・Ⅸ層含む。
6	灰黄褐色土（10YR4/2）	粘性中、しまりやや強い。
7	褐色土（10YR4/4）	粘性、しまり共にやや強い。
8	にぶい黄褐色土（10YR4/3）	粘性中、しまりやや強い。マサ土少含む。
9	にぶい黄褐色土（10YR4/3）	粘性、しまり共にやや強い。Ⅵ・Ⅸ層含む。
10	黒褐色土（10YR3/2）	粘性、しまり共にやや強い。Ⅵ層主体土。焼土含む。

0　(1：50)　2m

版築５



1	明褐色土（7.5YR5/6）	粘性弱い、しまりやや強い。マサ土主体。
2	灰黄褐色土（10YR4/2）	粘性弱い、しまり中。マサ土を多く含む。
3	褐色土（7.5YR4/3）	粘性やや弱い、しまり中。マサ土主体。
5	にぶい橙色土（7.5YR6/4）	粘性弱い、しまりやや強い。マサ土ブロック。
6	にぶい橙色土（7.5YR4/6）	粘性弱い、しまりやや強い。マサ土を多く含む。
7	にぶい橙色土（7.5YR4/6）	粘性弱い、しまりやや強い。マサ土を多く含む。
8	褐色土（10YR4/4）	粘性やや弱い、しまりやや強い。マサ土を多く含む。
9	灰黄褐色土（10YR4/2）	粘性弱い、しまりやや強い。マサ土を多く含む。
10	にぶい黄褐色土（10YR5/4）	粘性弱い、しまり強い。マサ土主体。
11	明褐色土（7.5YR5/6）	粘性弱い、しまり弱い。マサ土主体。
12a	にぶい黄褐色土（10YR4/3）	やや弱い、しまりやや強い。マサ土少量含む。
12b	褐色土（10YR4/6）	粘性弱い、しまりやや強い。マサ土少量含む。
13	黄褐色土（10YR5/6）	粘性弱い、しまりやや強い。マサ土ブロック。
14	明黄褐色土（10YR6/6）	粘性弱い、しまり強い。マサ土主体。
15	にぶい黄褐色土（10YR4/3）	粘性弱い、しまりやや強い。マサ土少量含む。
16	褐色土（10YR4/6）	粘性弱い、しまり中。マサ土少量含む。
17	にぶい黄褐色土（10YR5/3）	粘性弱い、しまりやや強い。マサ土少量含む。
18	にぶい黄褐色土（10YR6/4）	粘性弱い、しまりやや強い。マサ土ブロック。
19	橙色土（7.5YR6/6）	粘性弱い、しまりやや強い。マサ土ブロック。
20	にぶい黄褐色土（10YR4/3）	粘性弱い、しまり中。マサ土少量含む。
21	明褐色土（7.5YR5/6）	粘性やや弱い、しまり強い。マサ土ブロック
22	褐色土（10YR4/6）	粘性やや弱い、しまりやや強い。マサ土主体。
23	明褐色土（7.5YR5/6）	粘性中、しまり強い。マサ土主体。
24	にぶい黄橙色土（10YR6/4）	粘性弱い、しまりやや強い。マサ土主体。
25	褐色土（7.5YR4/4）	粘性やや弱い、しまりやや強い。マサ土多く含む。
26	褐色土（10YR4/4）	粘性弱い、しまりやや強い。マサ土多く含む。
27	灰黄褐色土（10YR4/2）	粘性やや弱い、しまり中。
28	褐色土（10YR4/4）	粘性やや弱い、しまりやや強い。マサ土ブロック。
29	にぶい黄褐色土（10YR4/3）	粘性弱い、しまりやや強い。マサ土。
30	灰黄褐色土（10YR4/2）	粘性やや弱い、しまり中。
31	にぶい黄褐色土（10YR4/3）	粘性弱い、しまりやや強い。マサ土少量含む。
32	灰黄褐色土（10YR4/2）	粘性弱い、しまり中。
33	にぶい黄褐色土（10YR4/3）	粘性やや弱い、しまりやや強い。マサ土少量含む。
34	にぶい黄褐色土（10YR5/3）	粘性弱い、しまりやや強い。マサ土少量含む。
35	褐色土（10YR4/4）	粘性弱い、しまりやや強い。マサ土少量含む。
36	にぶい黄褐色土（10YR4/3）	粘性やや弱い、しまりやや強い。マサ土少量含む。
37	にぶい黄褐色土（10YR5/3）	粘性弱い、しまりやや強い。マサ土少量含む。
38	褐色土（10YR4/4）	粘性やや弱い、しまりやや強い。マサ土ブロック。
39	褐色土（10YR4/4）	粘性弱い、しまりやや強い。マサ土少量含む。
40	褐色土（10YR4/4）	粘性やや弱い、しまりやや強い。マサ土ブロック。
41	にぶい黄褐色土（10YR5/4）	粘性やや弱い、しまり強い。マサ土主体。
42	明黄褐色土（10YR6/6）	粘性弱い、しまり強い。マサ土主体。
43	明褐色土（7.5YR5/6）	粘性弱い、しまりやや強い。マサ土主体。
44	にぶい黄褐色土（10YR4/3）	粘性弱い、しまりやや強い。
45	褐色土（7.5YR4/4）	粘性弱い、しまりやや強い。マサ土多く含む
46	にぶい黄褐色土（10YR4/3）	粘性弱い、しまりやや強い。
47	明褐色土（7.5YR5/6）	粘性弱い、しまり強い。マサ土ブロック。
48	褐色土（7.5YR4/6）	粘性やや弱い、しまりやや強い。マサ土主体。
49	褐色土（10YR4/4）	粘性弱い、しまり中。マサ土少量含む。
50	にぶい黄褐色土（10YR5/4）	粘性やや弱い、しまりやや強い。マサ土多く含む。
51	褐色土（7.5YR4/6）	粘性やや弱い、しまりやや強い。マサ土主体。
52	にぶい黄褐色土（10YR4/3）	粘性弱い、しまりやや強い。
53	にぶい黄褐色土（10YR4/3）	粘性弱い、しまりやや強い。マサ土少量含む。
54	褐色土（10YR4/4）	粘性やや弱い、しまりやや強い。マサ土主体。
55	にぶい黄褐色土（10YR4/3）	粘性弱い、しまりやや強い。
56	褐色土（7.5YR4/4）	粘性やや弱い、しまりやや強い。マサ土多く含む。
57	褐色土（10YR4/4）	粘性弱い、しまりやや強い。マサ土主体
58	にぶい黄褐色土（10YR4/3）	粘性弱い、しまりやや強い。マサ土主体
59	にぶい黄褐色土（10YR5/3）	粘性やや弱い、しまりやや強い。マサ土多く含む。
60	にぶい黄褐色土（10YR4/3）	粘性弱い、しまりやや強い。マサ土少量含む。
61	にぶい黄褐色土（10YR4/3）	粘性弱い、しまりやや強い。
62	にぶい黄褐色土（10YR4/3）	粘性弱い、しまりやや強い。マサ土少量含む。
63	にぶい黄褐色土（10YR4/3）	粘性やや弱い、しまりやや強い。マサ土少量含む。
64	にぶい黄褐色土（10YR4/3）	粘性弱い、しまりやや強い。
65	灰黄褐色土（10YR4/2）	粘性やや弱い、しまり強い。
66	にぶい黄褐色土（10YR4/3）	粘性弱い、しまりやや強い。マサ土多く含む。
67	褐色土（10YR4/4）	粘性弱い、しまりやや強い。マサ土主体。
68	明黄褐色土（10YR6/6）	粘性弱い、しまり強い。マサ土主体。
69	明褐色土（7.5YR5/6）	粘性弱い、しまりやや強い。マサ土主体。
70	にぶい黄褐色土（10YR4/3）	粘性弱い、しまりやや強い。マサ土多く含む。

0　(1：100)　2m

第41図　版築（５）

71　褐色土（10YR4/4）　粘性弱い、しまりやや強い。マサ土主体。
72　褐色土（7.5YR4/6）　粘性やや弱い、しまりやや強い。マサ土主体。
73　にぶい褐色土（7.5YR5/4）　粘性弱い、しまりやや強い。マサ土主体。
74　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　粘性弱い、しまりやや強い。マサ土多く含む。
75　褐色土（7.5YR4/6）　粘性やや弱い、しまりやや強い。マサ土主体。
76　にぶい褐色土（7.5YR5/4）　粘性弱い、しまりやや強い。マサ土主体。
77　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　粘性弱い、しまりやや強い。マサ土多く含む。
78　褐色土（10YR4/6）　粘性弱い、しまりやや強い。マサ土少量含む。
79　褐色土（10YR4/4）　粘性弱い、しまりやや強い。マサ土多く含む
80　64と統合
81　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　粘性弱い、しまりやや強い。マサ土少量含む。
82　褐色土（10YR4/4）　粘性弱い、しまりやや強い。マサ土少量含む。
83　褐色土（10YR4/6）　粘性弱い、しまりやや強い。マサ土多く含む。
84　褐色土（7.5YR4/4）　粘性弱い、しまりやや強い。マサ土少量含む。
85　褐色土（7.5YR4/4）　粘性弱い、しまりやや強い。マサ土多く含む。
86　褐色土（7.5YR4/4）　粘性弱い、しまりやや強い。マサ土少量含む。
87　褐色土（7.5YR4/4）　粘性弱い、しまりやや強い。マサ土主体。
88　褐色土（10YR4/4）　粘性やや弱い、しまりやや強い。マサ土多く含む。
89　灰黄褐色土（10YR4/2）　粘性弱い、しまりやや強い。
90　褐色土（10YR4/4）　粘性弱い、しまりやや強い。マサ土少量含む。
91　灰黄褐色土（10YR4/2）　粘性弱い、しまりやや強い。
92　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　粘性弱い、しまり強い。マサ土少量含む。
93　にぶい黄褐色土（10YR5/3）　粘性弱い、しまり強い。マサ土少量含む。
94　褐色土（10YR4/4）　粘性弱い、しまり強い。マサ土少量含む。
95　褐色土（7.5YR4/6）　粘性弱い、しまり強い。マサ土少
96　褐色土（7.5YR4/4）　粘性やや弱い、しまり強い。マサ土少量含む。
97　褐色土（10YR4/4）　粘性弱い、しまりやや強い。
98　褐色土（10YR4/4）　粘性弱い、しまりやや強い。マサ土少量含む。
99　褐色土（10YR4/6）　粘性弱い、しまりやや強い。マサ土少量含む。量含む。
100　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　粘性やや弱い、しまりやや強い。マサ土少
101　褐色土（10YR4/4）　粘性弱い、しまりやや強い。マサ土少量含む。
102　褐色土（10YR4/6）　粘性やや弱い、しまりやや強い。マサ土多く含む。
103　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　粘性やや弱い、しまりやや強い。マサ土少量含む。
104　褐色土（10YR4/6）粘性やや弱い、しまりやや強い。マサ土多く含む。
105　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　粘性やや弱い、しまりやや強い。マサ土少量含む。
106　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　粘性弱い、しまりやや強い。マサ土多く含む。
107　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　粘性やや弱い、しまりやや強い。マサ土少量含む。
108　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　粘性弱い、しまり中。マサ土少量含む。
109　オリーブ褐色土（2.5Y4/3）　粘性弱い、しまりやや強い。マサ土少量含む。
110　褐色土（7.5YR4/6）　粘性弱い、しまり強い。マサ土。
111　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　粘性弱い、しまりやや強い。
112　褐色土（10YR4/6）　粘性やや弱い、しまり強い。
113　黄褐色土（10YR5/6）　粘性弱い、しまり強い。マサ土主体。
114　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　粘性やや弱い、しまりやや強い。マサ土少量含む。
115　灰黄褐色土（10YR4/2）　粘性中、しまりやや強い。
116　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　粘性弱い、しまりやや強い。マサ土少量含む。
117　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　粘性やや弱い、しまりやや強い。マサ土少量含む。
118　褐色土（7.5YR4/3）　粘性弱い、しまりやや強い。マサ土少量含む。
119　－
120　褐色土（7.5YR4/6）　粘性やや弱い、しまりやや強い。マサ土多く含む。
121　褐色土（7.5YR4/3）　粘性弱い、しまりやや強い。マサ土多く含む。
122　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　粘性弱い、しまりやや強い。
123　褐色土（10YR4/4）　粘性やや弱い、しまり強い。マサ土少量含む。
124　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　粘性やや弱い、しまり強い。
125　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　粘性やや弱い、しまりやや強い。
126　暗オリーブ色土（7.5Y4/3）　粘性弱い、しまりやや強い。マサ土少量含む。
127　褐色土（7.5YR4/4）　粘性やや弱い、しまりやや強い。マサ土多く含む。
128　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　粘性やや弱い、しまりやや強い。マサ土少量含む。
129　褐色土（7.5YR4/4）　粘性やや弱い、しまりやや強い。マサ土多く含む。
130　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　粘性弱い、しまりやや強い。
131　灰黄褐色土（10YR4/2）　粘性弱い、しまりやや強い。
132　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　粘性弱い、しまりやや強い。マサ土。
133　褐色土（10YR4/4）　粘性弱い、しまり強い。マサ土少量含む。
134　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　粘性弱い、しまりやや強い。マサ土。
135　褐色土（7.5YR4/3）　粘性弱い、しまり強い。マサ土多く含む。
136　褐色土（7.5YR4/6）　粘性弱い、しまり強い。マサ土主体。
137　褐色土（10YR4/6）　粘性弱い、しまり強い。マサ土主体。
138　褐色土（7.5YR4/6）　粘性弱い、しまり強い。マサ土主体。
139　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　粘性弱い、しまり強い。マサ土少量含む。
140　褐灰色土（10YR4/1）　粘性やや弱い、しまりやや強い。マサ土少量含む。
141　褐色土（7.5YR4/6）　粘性弱い、しまり強い。マサ土主体。
142　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　粘性弱い、しまりやや強い。マサ土多く含む。
143　褐色土（7.5YR4/3）　粘性弱い、しまり強い。マサ土少量含む。
144　褐色土（7.5YR4/4）　粘性やや弱い、しまりやや強い。マサ土多く含む。
145　暗オリーブ（7.5Y4/3）　粘性弱い、しまりやや強い。
146　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　粘性弱い、しまりやや強い。
147　褐色土（7.5YR4/4）　粘性弱い、しまりやや強い。マサ土多く含む
148　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　粘性弱い、しまりやや強い。マサ土少量含む。
149　148と統合
150　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　粘性やや弱い、しまりやや強い。マサ土少量含む。
151　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　粘性弱い、しまり強い。マサ土少量含む。
152　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　粘性やや弱い、しまりやや強い。
153　にぶい黄橙色土（10YR6/3）　粘性弱い、しまりやや強い。マサ土ブロック。
154　にぶい黄褐色土（10YR5/4）　粘性弱い、しまり強い。マサ土少量含む。
155　にぶい黄褐色土（10YR5/4）　粘性弱い、しまり強い。マサ土少量含む。
156　褐色土（10YR4/4）　粘性やや弱い、しまり強い。マサ土少量含む。
157　褐色土（10YR4/4）　粘性弱い、しまりやや強い。マサ土少量含む。
158　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　粘性やや弱い、しまりやや強い。マサ土多く含む。
159　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　粘性弱い、しまりやや強い。マサ土少量含む。
160　褐色土（10YR4/4）　粘性弱い、しまりやや強い。マサ土少量含む。
161　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　粘性弱い、しまりやや強い。マサ土少量含む。
162　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　粘性弱い、しまりやや強い。
163　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　粘性弱い、しまりやや強い。マサ土少量含む。
164　褐色土（10YR4/4）　粘性弱い、しまりやや強い。マサ土少量含む。
165　褐色土（10YR4/4）　粘性弱い、しまりやや強い。マサ土少量含む。
166　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　粘性やや弱い、しまりやや強い。
167　褐色土（10YR4/4）　粘性弱い、しまりやや強い。マサ土少量含む。
168　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　粘性やや弱い、しまりやや強い。
169　褐色土（10YR4/4）　粘性弱い、しまりやや強い。マサ土少量含む。
170　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　粘性やや弱い、しまりやや強い。
171　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　粘性弱い、しまりやや強い。マサ土少量含む。
172　灰黄褐色土（10YR4/2）　粘性やや弱い、しまりやや強い。マサ土少量含む。
173　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　粘性弱い、しまりやや強い。マサ土少量含む。
174　褐色土（10YR4/4）　粘性やや弱い、しまりやや強い。マサ土少量含む。
175　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　粘性弱い、しまりやや強い。マサ土少量含む。
176　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　粘性弱い、しまりやや強い。マサ土少量含む。
177　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　粘性弱い、しまりやや強い。マサ土少量含む。
178　暗オリーブ（7.5Y4/3）　粘性弱い、しまりやや強い。マサ土少量含む。
179　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　粘性やや弱い、しまりやや強い。マサ土少量含む。
180　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　粘性弱い、しまり強い。マサ土少量含む。
181　褐色土（10YR4/4）　粘性弱い、しまり強い。マサ土少量含む。
182　灰黄褐色土（10YR4/2）　粘性やや弱い、しまりやや強い。マサ土少量含む。
183　褐色土（10YR4/4）　粘性弱い、しまりやや強い。マサ土少量含む。
184　Ⅱ層。
185　Ⅰ層。

第42図　版築（6）

場４と概ね同じで、層厚は0.1～0.3mである。

［堆積土］盛土は褐灰色土・にぶい黄褐色土などからなる。

［普請］地山を削り出した後、土を積み上げて敲き締めている。斜面の削り出しは版築３、工程は版築１と、それぞれ類似している。

［遺物］出土していない。

［備考］版築３との境界は不明瞭であるが、上記の通り平場４と切岸６下段を本遺構として扱う。

版築５（第41・42図　写真図版27）

［位置］ⅡＢ46～48グリッド付近に位置する。平場９の北辺と東辺北半をなす切岸12・14を構築している。上面の標高は50～50.5mである。ⅡＢ47グリッドで平場９の中央、切岸12に対して直交するようにトレンチを入れている。

［規模］平場９の北辺をなす切岸12を中心に東西方向へと直線的に延びている。全長は南北が約12m、東西が約24mあり、層厚は10～210㎝である。層厚は南に位置する切岸６付近では薄く、切岸12に向かうにつれて厚くなる。

［堆積土］盛土は褐色土・にぶい黄褐色土などからなる。

［普請］地山を削り出した後、土を積み上げて敲き締めている。切岸12・14付近では丁寧に積み上げ

ており、削り出しや積み上げの工法は版築２と類似している。

［遺物］土師器が出土している。

［備考］本遺構の東端では切岸６下段と連続しており、それを境に区分している。

虎口１（第43図　写真図版15）

［位置］ⅢＢ34・35グリッドに位置する。標高46～48.5mの尾根の頂部にある。本遺構は平場２の北東隅、SD02、堀１と接する箇所が対象である。

［規模］堀１の最上部と接するSD02は、曲輪を構築する尾根を分断するように形成されている。長さは３m、上端幅は1.2m、高低差は1.1mであり、極めて小規模な堀切状の遺構である。そして、SD02西側上端から平場２北東隅までは切岸６・７に挟まれており、距離が3.5m、幅が１～２mであり、比高２mの緩斜面が版築により構築されている。この溝を挟んだ北東側は地山を台状に削り出されている。SD02東側は高低差が１mだが、対する北東隅は向かうにつれて低くなり収束する。この地形は攪乱により削平されているため、その様相は判然としない。

城館の内外を分断する機能としては、堀１と比べると規模がかなり小さなものである。しかしながら、溝の西側で認められる高低差だけをみていくと、堀１①に形成されている段差とほぼ同じであることが窺える。

［普請］地山を削り出し、平場２へと登る箇所に対しては版築１・３を施して普請している。この周辺では、これらの他に遺構は確認できていない。

［備考］本遺構に伴う堀１を登ってからの導線については、上記以外の遺構が確認できていないことから判然としない。ただし、平場に入るためには、この段差を直接登るか、橋を渡して通行するかという選択になるものと思われる。さらに、その箇所から内部へ進んでいくと、平場２においても記載したように、SK01・02間の削り出した斜面を登り、切岸４と土塁１に沿って南へ進むと平場１へと入る箇所に続いていく。

虎口２（第43図　写真図版16）

［位置］ⅢＢ84・85グリッドに位置する。標高は50.5～52.5mである。本遺構は平場２・３－１・３－２が接する箇所が対象である。

［規模］平場１の南側に巡らされている平場３－２の東端から切岸５を挟んだ北西側に位置する平場３－１へは緩やかに登る斜面が構築されている。この斜面は地山を削り出しによるものであり、入口幅が３m、比高は殆ど認められないものである。この平場３－１は東西方向に延びており、その箇所から切岸１に沿って西へ約10m進むと、平場と直交するように平場２へと登る急斜面が構築されている。斜面は削り出された地山に版築２を施しており、長さは３m、入口幅は0.5m、比高は１mである。

［普請］地山を削り出し、版築２を施して普請している。

［備考］本遺構は、平場１から平場３－２へ向かう導線に伴うものと思われる。おそらく搦手へと続くことが予想される。

第43図　虎口１・２

堀１（第44～49図　写真図版31～33）

［位置］ⅡＡ・Ｂ、ⅢＢグリッドに位置する。曲輪Ⅳの北側、標高30～46ｍの沢筋に形成されている。精査は安全面を考慮に入れ、トレンチを一定の間隔で４ヵ所（東から①～④と付している）設定して内容を確認している。ただし、斜面下位の段丘崖付近である④については、精査に危険が伴うことから上端の確認に留めている。さらに、平面①では遺構内での様相が他の箇所と異なることから、２箇所で断面（Ａ・Ｂ）を取得している。

［規模］沢筋に沿って東西方向に延びている。確認できた全長は92ｍである。丘陵縁辺部までは約100ｍ、丘陵の崖下まで含めると約125ｍである。上端幅は約3.2～５ｍ、下端幅は0.3～1.9ｍ、深さは1.9～3.0ｍである。遺構全体での比高は、上端は①と④では約15ｍ、下端は①と③では約11ｍあり、本遺構が現況と概ね同じような高低差を伴う地形であることが窺える。上記の中で、下端幅と深さが場所によって大きく異なる。下端幅は概ね１ｍ未満であるが、上り口となる平面①上段のみ1.9ｍと幅広く形成されている。また、深さは平面①下段・②が2.5～３ｍであるが、平面①上段・③はそれらより浅い傾向にある。

①：頂部に位置しており、地形と同様にやや湾曲している。階段状に上・中・下段と形成されており、下段はそのまま下方へ通じている。上・中段の高低差は１ｍ、中・下段の高低差は0.9ｍである。また、下段の底面では、南北において比高50㎝の段差が認められる。断面Ｂからも確認できるように、南側半分が斜面からの崩落した後に、底面が北側へ移動したことが捉えられる。これは修復作業が行われた結果と考えることができ、その堆積状況については第50図に示している。

②：丘陵の中腹に位置しており、地形と同様に蛇行している。

③：丘陵の中腹からやや下方に位置しており、段丘崖に向かって直線的に延びていく。

④：縁辺付近に位置しており、上端は直線的である。下端は③と直線的な位置関係にあることから同様の形状であったと思われる。ただし、上端と下端の比高は、現地形から判断すると遺構の中で最も高低差が伴うものと想定される。

［堆積土］断面は４ヵ所で確認している。いずれも南壁上方の急斜面から、斜面堆積土や壁を形成する地山（Ⅳ層以下、マサ土（ＸＶ層））が崩落することにより堆積してることが捉えられている。その過程では、廃絶後に砂層の堆積が認められることから流路が形成されていることを確認できる。この流路は幾度も形成されており、新しくなるにつれて北側へと推移していくことが窺えている。

Ａ（平面①の上段）：断面はＵ字形状であり、頂部付近であるため壁の傾斜が他で観察した壁と比べて比較的緩やかである。

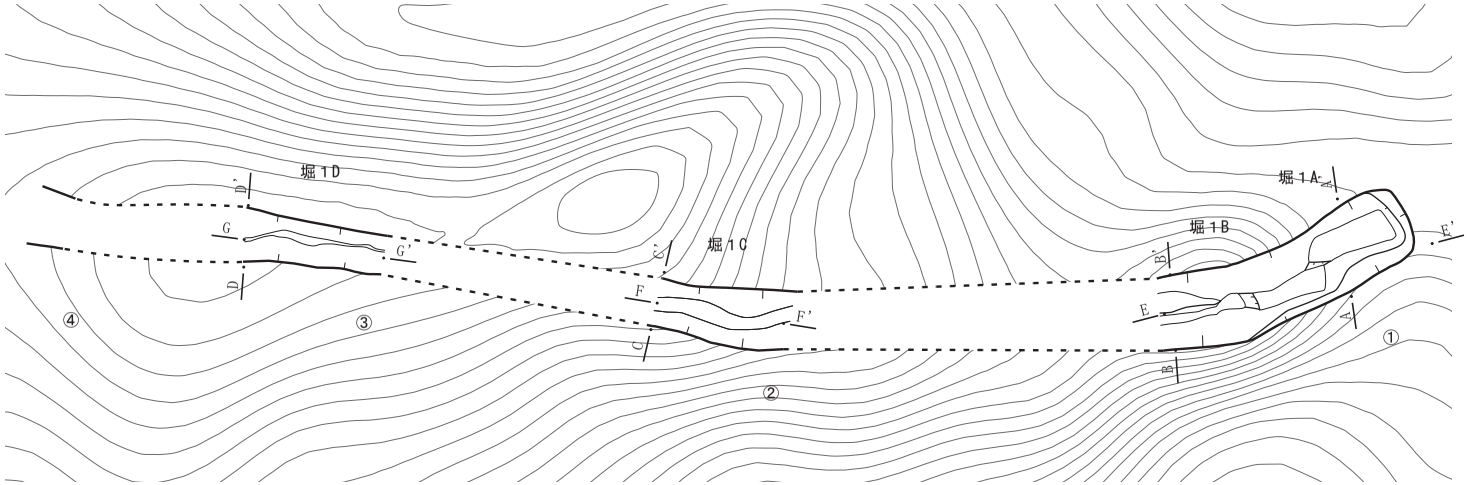
Ｂ（平面①の下段西側）：断面はＶ字形状であり、頻繁に南斜面からの堆積が捉えられている。さらに遺構が埋まった後に、底面を北側へと移動させている。南壁は修復の前後で大きく様相が異なり、当初は急傾斜であるのに対して、その後は当初よりは緩やかになる。

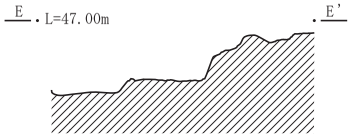
Ｃ（平面②の西側）：断面はＹ字形状であり、他の断面と比べて地山の崩落も少ない。南北壁は上端が少なからず崩落していると想定されるが、どちらの壁も安定していることから、当初に近い構築状況を示しているものと思われる。

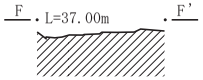
Ｄ（平面③の西側）：断面はＵ字形状であり、マサ土（ＸＶ層）の崩落によって遺構下半が埋没している。さらに、その影響によって北壁は、堆積後の流路により大きく地形を改変しているため、当時の様相を残していないものと思われる。

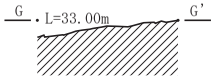
［普請］地山を削り出して普請している。

［遺物］中国産磁器（２）、近世陶磁器が埋土上層から出土している。それより下位からは遺物の出土



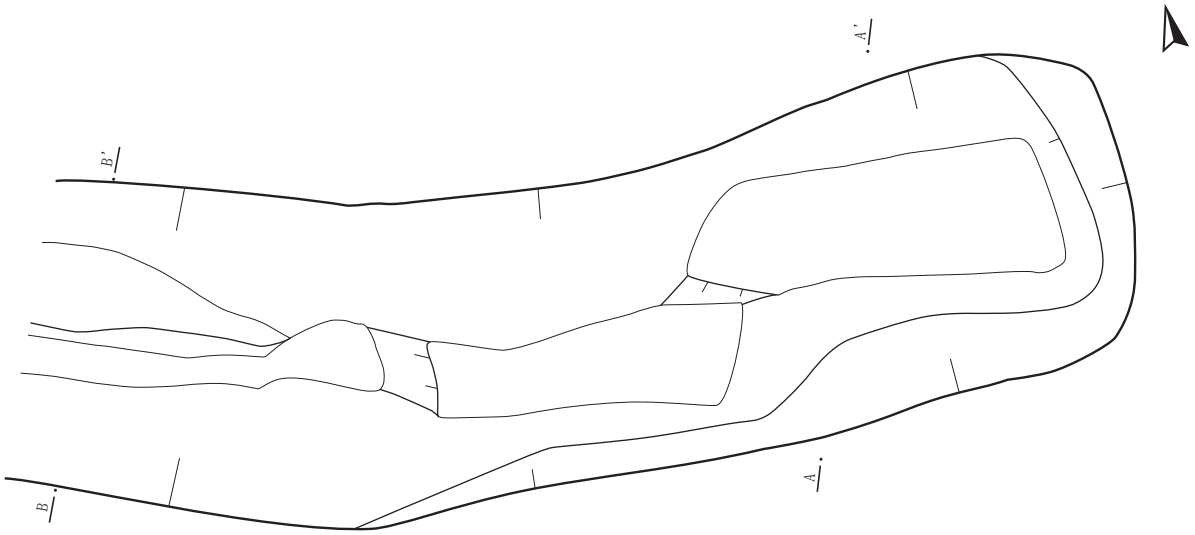


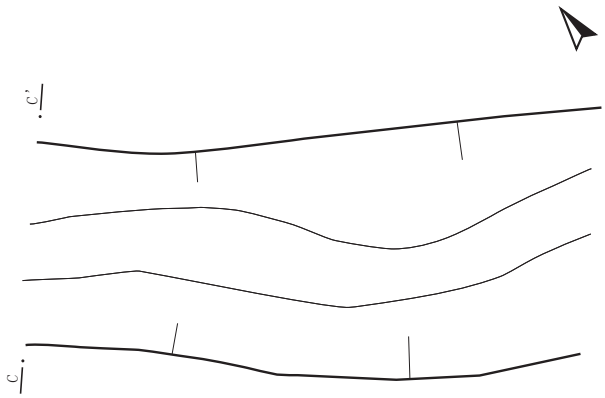


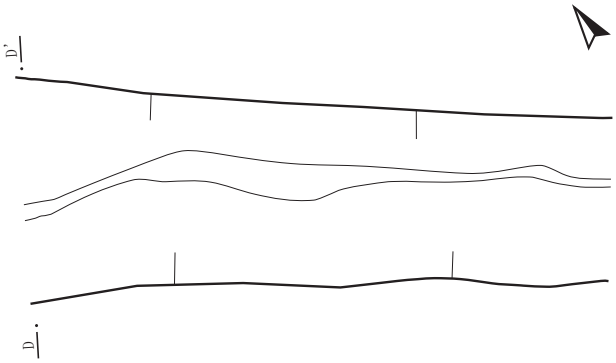


0　(1：500)　20m

第44図　堀１（１）



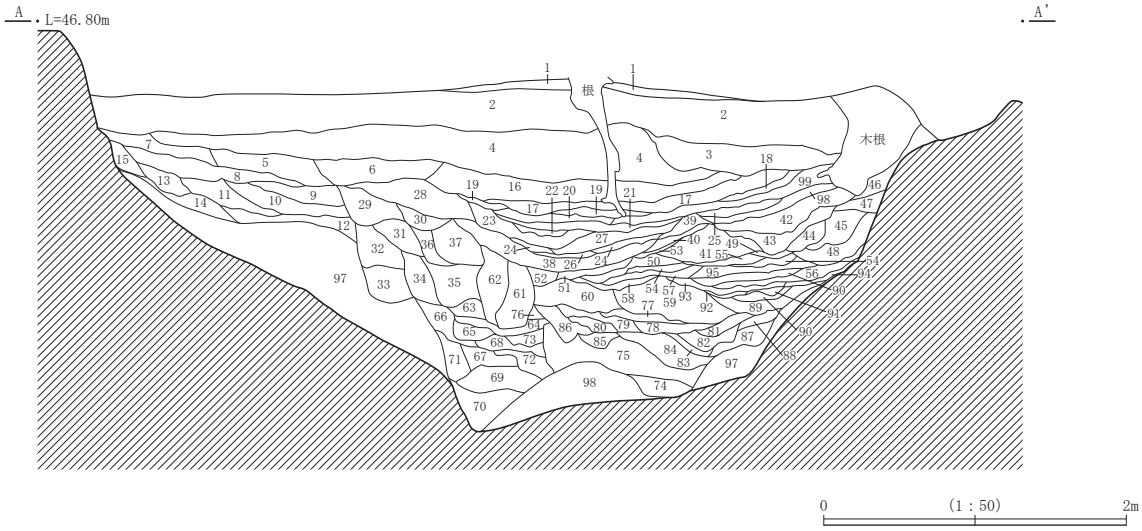




0　(1：120)　4m

第45図　堀1（2）

A断面

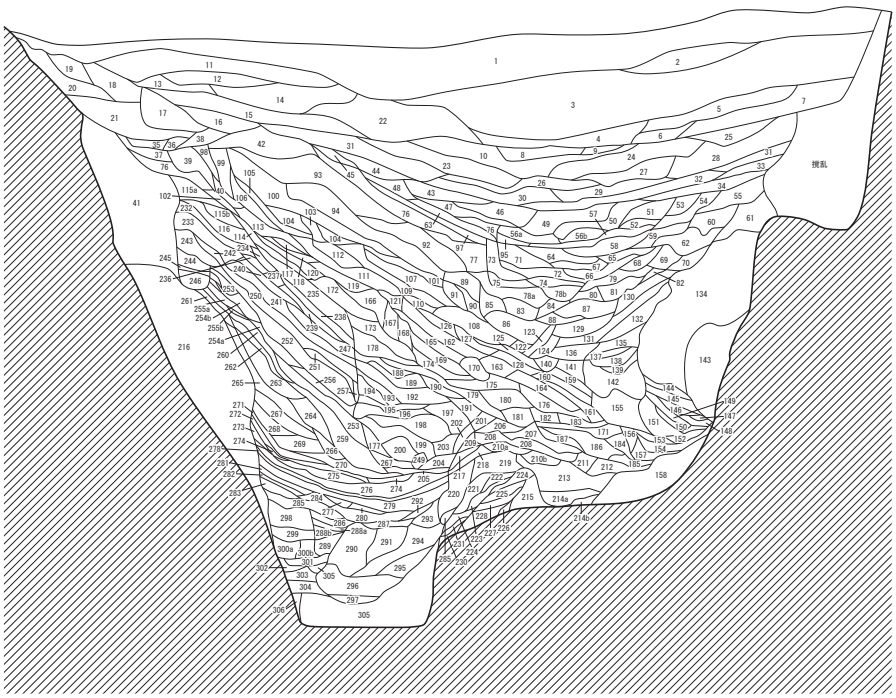


1　Ⅰ層。
2　Ⅱa層。
3　褐色土(10YR4/6)　粘性中、しまり強い。マサ土ブロックを少量含む。
4　暗褐色土(10YR3/4)　粘性中、しまりやや強い。
5　灰黄褐色土(10YR4/2)　粘性やや弱く、しまりやや強い。砂質味強い。
6　暗褐色土(10YR3/3)　粘性やや弱く、しまり中。
7　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　粘性弱く、しまり中。砂質味強い。
8　6層に類似　やや暗み増す。
9　灰黄褐色土(10YR4/2)　粘性弱く、しまり中。砂層。マサ土を含む。
10　褐色土(10YR4/4)　粘性弱く、しまりやや強い。砂層。マサ土を含む。
11　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　粘性弱く、しまり中。マサ土を含む。
12　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　粘性やや弱く、しまり中。砂質味強い。
13　黒褐色土(10YR3/2)　粘性弱く、しまり中。
14　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　粘性やや弱く、しまり中。マサ土を含む。
15　黒褐色土(10YR3/2)　粘性弱く、しまり中。マサ土ブロックを含む。
16　褐色土(10YR4/4)　粘性やや弱く、しまり強い。
17　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　粘性弱く、しまりやや強い。砂質味強い。
18　褐色土(10YR4/4)　粘性弱く、しまり中。マサ土ブロックを含む。
19　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　粘性なし、しまり中。砂質味強い。
20　黄灰色土(2.5Y4/1)　粘性なし、しまり中。砂層。
21　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　粘性なし、しまり中。砂層。マサ土を含む。
22　褐色土(10YR4/6)　粘性なし、しまり中。砂層。
23　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　粘性なし、しまりやや強い。砂層。マサ土を含む。
24　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　粘性弱く、しまりやや強い。マサ土の崩落土。
25　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　粘性弱く、しまりやや強い。マサ土の崩落土。24層と同じ。
26　黄灰色土(2.5Y4/1)　粘性なし、しまり中。砂層。
27　褐灰色土(10YR4/1)　粘性弱く、しまりやや強い。
28　褐灰色土(10YR4/1)　粘性弱く、しまりやや強い。砂質味強く、マサ土を多く含む。
29　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　粘性弱く、しまり中。マサ土を含む。
30　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　粘性弱く、しまり中。砂質味強い。
31　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　粘性なし、しまり強い。マサ土崩落土。
32　にぶい黄橙色土(10YR6/3)　粘性、しまり共にやや強い。砂・マサ土を含む。
33　灰黄褐色土(10YR5/2)　粘性弱く、しまりやや強い。砂・マサ土を含む。
34　灰黄褐色土(10YR4/2)　粘性中、しまりやや強い。Ⅸ層・マサ土ブロックを含む。
35　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　粘性やや弱く、しまりやや強い。砂・マサ土ブロックを少量含む。
36　褐色土(10YR4/6)　粘性やや弱く、しまりやや強い。
37　暗褐色土(10YR3/3)　粘性やや弱く、しまりやや強い。
38　暗褐色土(10YR3/3)　粘性やや弱く、しまりやや強い。砂を多く含む。
39　暗褐色土(10YR3/4)　粘性やや弱く、しまり中。Ⅸ層、マサ土ブロックを含む。
40　暗褐色土(10YR3/4)　粘性弱く、しまり中。Ⅳ層主体土。
41　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　粘性やや弱く、しまりやや強い。Ⅴ層主体土。
42　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　粘性弱く、しまりやや強い。Ⅳ層ブロックを含む。
43　暗褐色土(10YR3/4)　粘性中、しまりやや強い。Ⅳ層主体土。
44　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　粘性やや弱く、しまりやや強い。Ⅸ層崩落土。
45　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　粘性弱く、しまりやや強い。Ⅸ層崩落土。
46　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　粘性弱く、しまりやや強い。砂質味強く、マサ土を多く含む。
47　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　粘性やや弱く、しまりやや強い。
48　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　粘性なし、しまり強い。マサ土崩落土。
49　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　粘性弱く、しまりやや強い。マサ土の崩落土。
50　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　粘性弱く、しまりやや強い。砂質味強い。
51　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　粘性なし、しまりやや強い。砂質味強い。
52　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　粘性弱く、しまりやや強い。砂質味強い。
53　暗褐色土(10YR3/3)　粘性やや弱く、しまり強い。Ⅳ層主体土。
54　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　粘性弱く、しまりやや強い。マサ土の崩落土。
55　褐色土(10YR4/4)　粘性弱く、しまり強い。
56　暗褐色土(10YR3/3)　粘性やや弱く、しまり強い。Ⅳ層主体土。
57　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　粘性なし、しまりやや強い。砂層。
58　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　粘性なし、しまりやや強い。
59　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　粘性なし、しまり強い。砂ブロックを多量含む。
60　褐色土(10YR4/6)　粘性弱く、しまり強い。砂ブロックを少量含む。
61　木根。
62　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　粘性やや強く、しまり強い。Ⅴ層主体土。
63　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　粘性やや弱く、しまりやや強い。
64　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　粘性弱く、しまりやや強い。砂質味が強い。
65　褐灰色土(10YR4/1)　粘性中、しまり強い。
66　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　粘性やや弱く、しまりやや強い。
67　褐灰色土(10YR4/1)　粘性中、しまり強い。
68　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　粘性なし、しまり強い。マサ土崩落土。
69　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　粘性なし、しまり強い。マサ土崩落土。
70　黄灰色土(2.5Y4/1)　粘性なし、しまり中。砂層。
71　灰黄褐色土(10YR5/2)　粘性弱く、しまりやや強い。砂・マサ土を含む。
72　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　粘性弱く、しまりやや強い。砂・マサ土ブロックを含む。
73　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　粘性弱く、しまりやや強い。砂・マサ土ブロックを含む。
74　黄灰色土(2.5Y4/1)　粘性なし、しまり中。砂層。
75　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　粘性なし、しまり強い。マサ土崩落土。
76　褐色土(10YR4/4)　粘性中、しまりやや強い。
77　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　粘性なし、しまりやや強い。砂層。
78　褐色土(10YR4/4)　粘性弱く、しまりやや強い。砂質味強い。
79　褐色土(10YR4/4)　粘性弱く、しまりやや強い。砂質味強く、マサ土ブロックを含む。
80　暗褐色土(10YR3/3)　粘性やや弱く、しまり強い。Ⅳ層主体土。
81　灰黄褐色土(10YR4/2)　粘性中、しまりやや強い。
82　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　粘性やや強く、しまり強い。Ⅴ層主体土。
83　暗褐色土(10YR3/3)　粘性、しまり共に強い。
84　灰黄褐色土(10YR4/2)　粘性やや弱く、しまり中。砂質味強く、黒色土ブロックを含む。
85　灰黄褐色土(10YR4/2)　粘性やや弱く、しまり中。マサ土ブロックを含む。
86　灰黄褐色土(10YR4/2)　粘性やや弱く、しまり中。砂質味強く、黒色土ブロックを含む。
87　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　粘性弱く、しまりやや強い。砂質味強い。
88　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　粘性なし、しまりやや強い。砂層。
89　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　粘性なし、しまり強い。
90　褐灰色土(10YR4/1)　粘性弱く、しまりやや強い。砂質味強く、マサ土を多く含む。
91　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　粘性なし、しまりやや強い。
92　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　粘性弱く、しまりやや強い。マサ土の崩落土。
93　黄灰色土(2.5Y4/1)　粘性なし、しまり中。砂層。
94　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　粘性なし、しまりやや強い。砂層。
95　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　粘性なし、しまり中。
96　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　粘性弱く、しまりやや強い。マサ土の崩落土。
97　褐灰色土(10YR5/1)　粘性弱く、しまりやや強い。マサ土を含む。
98　褐灰色土(10YR5/1)　粘性弱く、しまり中。

第46図　堀1（3）

B断面

B ・L=44.50m　　・B'



0　(1：40)　2m

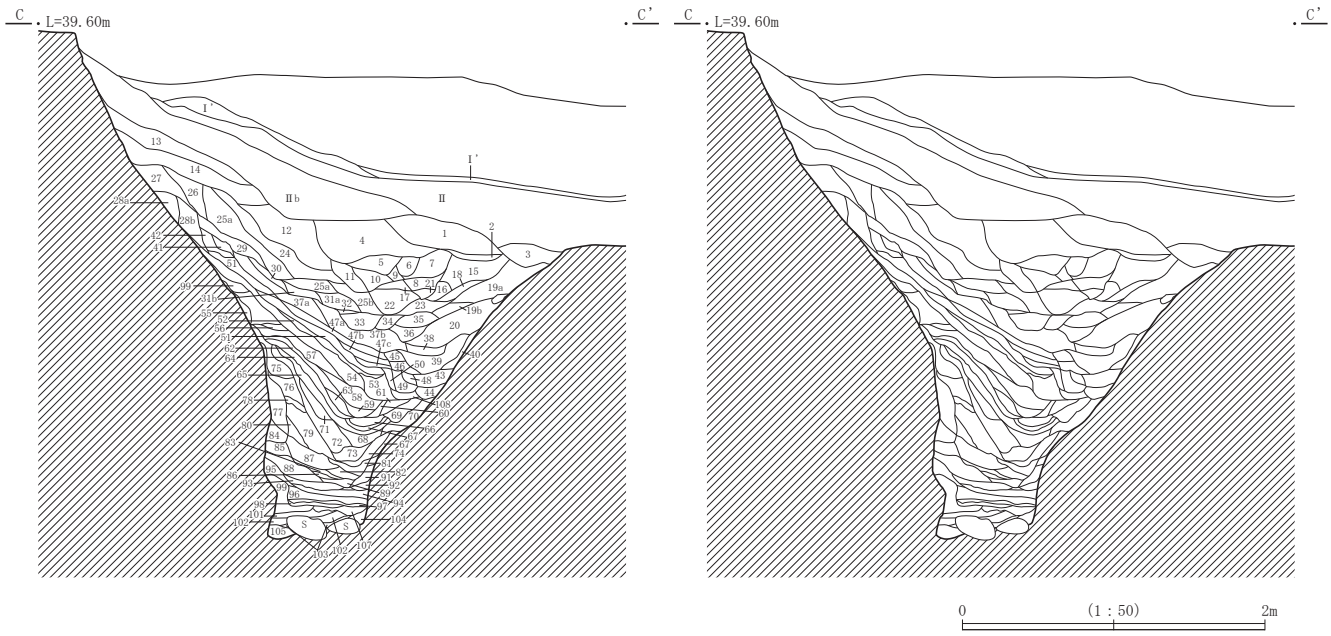
1	Ⅰ層	
2	暗褐色土(10YR3/3)	粘性やや弱い、しまり中。
3	黒褐色土(10YR3/2)	粘性中、しまりやや強い。
4	暗褐色土(10YR3/3)	粘性やや弱い、しまり中。黄褐色粘土ブロックを含む。
5	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	粘性、しまり共に中。砂質味強い。
6	褐色土(10YR4/4)	粘性やや弱い、しまりやや強い。砂質味強く、黄褐色粘土ブロックを含む。
7	暗褐色土(10YR3/4)	粘性、しまり共にやや強い。砂質味強く、Ⅸ層ブロックを含む。
8	灰黄褐色土(10YR4/2)	粘性、しまり共にやや強い。砂質味強い。
9	暗褐色土(10YR3/3)	粘性やや弱い、しまり中。砂質味強い。
10	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	粘性中、しまりやや強い。砂質味強く、Ⅸ層ブロックを含む。
11	灰黄褐色土(10YR4/2)	粘性中、しまりやや強い。砂質味強く、Ⅸ層ブロックを含む。
12	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	粘性やや弱い、しまりやや強い。砂質味強い。
13	にぶい黄褐色土(10YR5/3)	粘性弱い、しまり中。砂質味強い。
15	灰黄褐色土(10YR4/2)	粘性弱い、しまりやや強い。砂質味強い。
16	褐色土(10YR4/4)	粘性やや弱い、しまりやや強い。砂質味強い。
17	暗褐色土(10YR3/3)	粘性やや弱い、しまり中。黄褐色粘土ブロックを含む。
18	にぶい黄褐色土(10YR5/4)	粘性弱い、しまりやや強い。砂質味強く、マサ土多く含む。
19	黄褐色土(2.5Y5/3)	粘性弱い、しまり中。
20	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	粘性なし、しまりやや強い。砂質味強いマサ土ブロック。
21	浅黄橙色土(10YR8/3)	粘性なし、しまりやや強い。マサ土ブロック。
22	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	粘性中、しまりやや強い。砂質味強い。
23	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	粘性やや弱い、しまりやや強い。
24	灰黄褐色土(10YR4/2)	粘性やや強い、しまり中。
25	にぶい黄褐色土(10YR5/3)	粘性中、しまりやや強い。Ⅸ層ブロックを含む。
26	灰黄褐色土(10YR4/2)	粘性やや弱い、しまり中。砂質味強い。
27	にぶい黄褐色土(10YR5/3)	粘性中、しまりやや強い。砂質味強い。
28	にぶい黄褐色土(10YR5/4)	粘性中、しまりやや強い。
29	にぶい黄褐色土(10YR5/4)	粘性やや弱い、しまり強い。砂質味強い。
30	褐色土(10YR4/4)	粘性、しまり共にやや強い。砂質味強い。
31	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	粘性中、しまりやや強い。
32	灰黄褐色土(10YR4/2)	粘性やや強い、しまり中。マサ土ブロックを多く含む。
33	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	粘性中、しまりやや強い。マサ土ブロックを含む。
34	褐色土(10YR4/4)	粘性やや強い、しまり中。
35	暗褐色土(10YR3/4)	粘性やや弱い、しまりやや強い。
36	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	粘性中、しまりやや強い。
37	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	粘性、しまり共にやや強い。
38	褐色土(10YR4/4)	粘性やや弱い、しまり中。砂質味強く、マサ土ブロックを含む。
39	にぶい黄褐色土(10YR5/4)	粘性、しまり共に中。マサ土ブロックを含む。
40	にぶい黄褐色土(10YR5/4)	粘性、しまり共に中。マサ土ブロックを多く含む。
41	浅黄橙色土(10YR8/3)	粘性なし、しまりやや強い。マサ土ブロック。
42	にぶい黄褐色土(10YR5/4)	粘性やや弱い、しまり中。砂質味強い。
43	にぶい黄橙色土(10YR6/4)	粘性弱い、しまり中。マサ土ブロックを多く含む。
44	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	粘性中、しまりやや強い。
45	にぶい黄橙色土(10YR6/4)	粘性弱い、しまり中。マサ土ブロックを多く含む。
46	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	粘性、しまり共に中。
47	灰黄褐色土(10YR4/2)	粘性やや弱い、しまりやや強い。砂質味強い。
48	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	粘性やや弱い、しまり中。砂質味強い。
49	褐色土(10YR4/4)	粘性弱い、しまりやや強い。砂質味強い。
50	にぶい黄褐色土(10YR5/3)	粘性やや弱い、しまり中。砂質味強い。
51	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	粘性弱い、しまり中。
52	黒褐色土(10YR3/3)	粘性中、しまりやや強い。砂質味強い。
53	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	粘性やや弱い、しまりやや強い。砂質味強い。
54	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	粘性弱い、しまり中。
55	暗褐色土(10YR3/4)	粘性やや弱い、しまりやや強い。砂質味強い。
56a	暗褐色土(10YR3/3)	粘性やや弱い、しまりやや強い。
56b	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	粘性弱い、しまり中。マサ土ブロックを多く含む。
57	褐色土(10YR4/4)	粘性、しまり共に中。
58	灰黄褐色土(10YR4/2)	粘性やや弱い、しまり中。マサ土ブロックを少量含む。
59	灰黄褐色土(10YR5/2)	粘性、しまり共に中。
60	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	粘性やや弱い、しまりやや強い。マサ土ブロックを含む。
61	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	粘性弱い、しまり中。
62	褐色土(10YR4/4)	粘性やや弱い、しまりやや強い。砂質味強い。
63	灰黄褐色土(10YR4/2)	粘性弱い、しまり強い。
64	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	粘性やや弱い、しまり中。砂質味強い。
65	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	粘性弱い、しまり中。マサ土ブロックを多く含む。
66	灰黄褐色土(10YR4/2)	粘性弱い、しまり中。
67	褐色土(10YR4/4)	粘性弱い、しまり強い。砂質味強い。
68	褐色土(10YR4/4)	粘性やや弱い、しまりやや強い。砂質味強い。
69	にぶい黄褐色土(10YR5/3)	粘性弱い、しまり中。マサ土ブロックを含む。
70	―	
71	灰黄褐色土(10YR4/2)	粘性やや強い、しまり強い。
72	褐色土(10YR4/4)	粘性弱い、しまり強い。砂質味が極めて強い。
73	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	粘性中、しまりやや強い。
74	にぶい黄褐色土(10YR5/4)	粘性なし、しまり強い。
75	にぶい黄橙色土(10YR6/4)	粘性やや弱い、しまりやや強い。
76	褐色土(10YR4/6)	粘性やや弱い、しまりやや強い。
77	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	粘性やや弱い、しまりやや強い。砂質味強い。
78	黄褐色土(2.5Y5/3)	粘性なし、しまりやや強い。砂層。
79	褐色土(10YR4/6)	粘性、しまり共にやや強い。Ⅸ層主体土。
80	褐色土(10YR4/4)	粘性中、しまりやや強い。Ⅸ層主体土。砂質味強い。
81	にぶい黄橙色土(10YR7/3)	粘性なし、しまりやや強い。マサ土の崩落土。
82	灰黄褐色土(10YR4/2)	粘性やや弱い、しまり中。砂質味強い。
83	灰黄褐色土(10YR4/2)	粘性弱い、しまり中。砂質味強い。
84	褐色土(10YR4/4)	粘性中、しまりやや強い。Ⅸ層主体土。砂質味強い。
85	褐色土(10YR4/4)	粘性中、しまりやや強い。Ⅸ層主体土。砂質味強い。
86	黄褐色土(2.5Y5/3)	粘性なし、しまりやや強い。砂層。
87	黄褐色土(2.5Y5/3)	粘性なし、しまりやや強い。砂層。
88	にぶい黄橙色土(10YR7/3)	粘性なし、しまりやや強い。マサ土の崩落土。
89	灰黄褐色土(10YR5/2)	粘性やや弱い、しまりやや強い。砂質味強い。
90	にぶい黄褐色土(10YR5/3)	粘性やや弱い、しまり中。シルト質が強い。
91	にぶい黄褐色土(10YR5/4)	粘性弱い、しまりやや強い。シルト質が強い
92	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	粘性弱い、しまりやや強い。砂質味強い。
93	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	粘性弱い、しまり中。
94	褐色土(10YR4/6)	粘性やや弱い、しまりやや強い。
95	褐色土(10YR4/6)	粘性弱い、しまり中。
96	褐色土(10YR4/4)	粘性やや弱い、しまりやや強い。
97	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	粘性弱い、しまりやや強い。砂質味強い。
98	にぶい黄褐色土(10YR5/4)	粘性、しまり共に中。マサ土ブロックを多く含む。
99	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	粘性弱く、しまりやや強い。マサ土ブロックを多く含む。
100	褐灰色土(10YR4/1)	粘性弱い、しまりやや強い。砂質味強い。
101	褐色土(10YR4/4)	粘性やや弱い、しまりやや強い。砂質味強い。
102	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	粘性中、しまりやや強い。
103	にぶい黄褐色土(10YR5/4)	粘性、しまり共に中。マサ土ブロックを多く含む。
104	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	粘性中、しまりやや強い。
105	にぶい黄褐色土(10YR5/4)	粘性、しまり共に中。マサ土ブロックを多く含む。
106	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	粘性中、しまりやや強い。砂質味強く、Ⅳ層ブロックを含む。
107	灰黄褐色土(10YR4/2)	粘性やや弱い、しまり中。砂質味強い。
108	褐灰色土(10YR4/1)	粘性中、しまりやや強い。砂質味強い。
109	にぶい黄褐色土(10YR4/3)	粘性弱い、しまりやや強い。砂質味強い。
110	にぶい黄褐色土(10YR5/4)	粘性、しまり共に中。マサ土ブロックを多く含む。
111	褐色土(10YR4/4)	粘性中、しまりやや強い。Ⅸ層主体。Ⅳ層ブロックを少量含む。

第47図　堀1（4）

112　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　粘性中、しまりやや強い。
113　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　粘性、しまり共に中。マサ土ブロックを多く含む。
114　黒褐色土(10YR3/2)　粘性中、しまりやや強い。
115a　浅黄橙色土(10YR8/3)　粘性なし、しまりやや強い。マサ土の崩落土。
115b　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　粘性なし、しまりやや強い。砂質味強いマサ土の崩落土。
116　浅黄橙色土(10YR8/3)　粘性なし、しまりやや強い。マサ土の崩落土。
117　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　粘性、しまり共に中。マサ土ブロックを含む。Ⅸ層主体。
118　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　粘性、しまり共に中。マサ土ブロックを多く含む。
119　灰黄褐色土(10YR5/2)　粘性やや弱い、しまり中。マサ土を多く含む。
120　黒色土(10YR2/1)　粘性やや強い、しまり強い。Ⅳ層主体。
121　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　粘性やや弱い、しまりやや強い。砂質味強い。
122　暗褐色土(10YR3/3)　粘性弱い、しまり中。砂質味強い。
123　褐色土(10YR4/4)　粘性中、しまりやや強い。Ⅸ層主体土。砂質味強い。
124　黄褐色土(2.5Y5/3)　粘性なし、しまりやや強い。砂層。
125　黄灰色土(2.5Y5/1)　粘性、しまり共に中。砂質粘土。
126　褐色土(10YR4/4)　粘性中、しまりやや強い。Ⅸ層主体。Ⅳ層ブロックを少量含む。
127　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　粘性やや弱い、しまりやや強い。砂質味強い。
128　黒色土(10YR2/1)　粘性やや強い、しまり強い。Ⅳ層主体。
129　灰黄褐色土(10YR4/2)　粘性弱い、しまり中。砂質味強く、砂を多く含む。
130　褐灰色土(10YR4/1)　粘性やや弱い、しまりやや強い。Ⅳ・Ⅸ層が混じる層。
131　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　粘性中、しまりやや強い。Ⅳ・Ⅸ層と砂層が混じる層。
132　褐灰色土(10YR4/1)　粘性やや弱い、しまりやや強い。Ⅳ・Ⅸ層が混じる層。
133　－
134　浅黄橙色土(10YR8/3)　粘性なし、しまりやや強い。マサ土の崩落土。
135　灰黄褐色土(10YR4/2)　粘性中、しまりやや強い。砂とマサ土を含む。
136　褐灰色土(10YR4/1)　粘性中、しまりやや強い。砂質味強い。
137　にぶい黄橙色土(10YR7/3)　粘性なし、しまりやや強い。マサ土ブロック。
138　褐色土(10YR4/4)　粘性中、しまり強い。Ⅸ層主体。砂ブロックを含む。
139　－
140　灰黄褐色土(10YR5/2)　粘性中、しまりやや強い。砂質粘土。
141　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　粘性中、しまりやや強い。Ⅳ・Ⅸ層と砂層が混じる層。
142　にぶい黄橙色土(10YR7/3)　粘性なし、しまりやや強い。マサ土の崩落土。
143　浅黄橙色土(10YR8/3)　粘性なし、しまりやや強い。マサ土の崩落土。
144　灰黄褐色土(10YR4/2)　粘性弱い、しまり中。Ⅸ層主体。
145　灰黄褐色土(10YR4/2)　粘性弱い、しまり中。Ⅸ層主体。マサ土を多く含む。
146　灰黄褐色土(10YR4/2)　粘性弱い、しまり中。Ⅸ層主体。
147　にぶい黄橙色土(10YR6/4)　粘性なし、しまり中。
148　灰黄褐色土(10YR4/2)　粘性弱い、しまり中。Ⅸ層主体。
149　灰黄褐色土(10YR4/2)　粘性弱い、しまり中。Ⅸ層主体。
150　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　粘性なし、しまり中。
151　灰黄褐色土(10YR4/2)　粘性弱い、しまり中。Ⅸ層主体。マサ土を多く含む。
152　灰オリーブ色土(5Y5/2)　粘性なし、しまりやや弱い。砂層。
153　灰白色土(10YR8/1)　粘性なし、しまり中。マサ土の崩落土。
154　灰オリーブ色土(5Y5/2)　粘性なし、しまりやや弱い。砂層。
155　褐色土(10YR4/4)　粘性やや強い、しまり強い。Ⅸ層主体。
156　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　粘性弱い、しまり中。砂質シルト層。
157　暗灰黄色土(2.5Y5/2)　粘性なし、しまり中。砂層。
158　にぶい黄橙色土(10YR7/3)　粘性なし、しまりやや強い。マサ土の崩落土。
159　褐灰色土(10YR4/1)　粘性やや弱い、しまりやや強い。砂質味強い。
160　黒褐色土(10YR3/2)　粘性中、しまりやや強い。Ⅴ層主体。
161　褐色土(10YR4/4)　粘性中、しまりやや強い。Ⅸ層主体。Ⅳ層ブロックを少量含む。
162　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　粘性やや弱い、しまりやや強い。Ⅸ層とマサ土が混じる層。
163　褐灰色土(10YR4/1)　粘性やや強い、しまり中。マサ土を含む。
164　黒色土(10YR2/1)　粘性やや強い、しまり強い。Ⅳ層主体。
165　黒褐色土(10YR3/2)　粘性中、しまりやや強い。Ⅴ層主体。
166　黒色土(10YR2/1)　粘性やや強い、しまり強い。Ⅳ層ブロック。
167　浅黄橙色土(10YR8/3)　粘性なし、しまり強い。マサ土の崩落土。
168　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　粘性やや弱い、しまりやや強い。Ⅸ層とマサ土が混じる層。
169　黒色土(10YR2/1)　粘性やや強い、しまり強い。Ⅳ層主体。
170　浅黄橙色土(10YR8/3)　粘性なし、しまりやや強い。マサ土の崩落土。
171　灰黄褐色土(10YR5/2)　粘性なし、しまり中。砂層。
172　灰黄褐色土(10YR5/2)　粘性やや弱い、しまり中。マサ土を多く含む。
173　灰黄褐色土(10YR4/2)　粘性やや弱い、しまり中。
174　灰黄褐色土(10YR5/2)　粘性やや弱い、しまり中。マサ土を多く含む。
175　褐灰色土(10YR4/1)　粘性やや強い、しまり中。マサ土を含む。
176　灰黄褐色土(10YR5/2)　粘性やや弱い、しまり中。マサ土を多く含む。
177　灰黄褐色土(10YR4/2)　粘性中、しまりやや強い。マサ土を含む。
178　灰黄褐色土(10YR5/2)　粘性やや弱い、しまり中。マサ土を多く含む。
179　褐灰色土(10YR4/1)　粘性やや弱い、しまり中。マサ土を多く含む。
180　黒褐色土(10YR3/1)　粘性中、しまりやや強い。Ⅳ層主体。
181　褐色土(10YR4/4)　粘性、しまり共に強い。Ⅸ層主体。マサ土を含む。
182　黒色土(10YR2/1)　粘性やや強い、しまり強い。Ⅳ層主体。
183　黒褐色土(10YR3/2)　粘性中、しまりやや強い。Ⅴ層主体。
184　褐色土(10YR4/4)　粘性中、しまりやや強い。Ⅸ層主体。Ⅳ層ブロックを少量含む。
185　にぶい黄橙色土(10YR6/4)　粘性なし、しまり中。砂を多く含む。
186　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　粘性やや弱い、しまりやや強い。Ⅳ・Ⅸ層・砂が混じる層。
187　黄褐色土(2.5Y5/3)　粘性なし、しまりやや強い。砂層。
188　灰黄褐色土(10YR5/2)　粘性やや弱い、しまり中。マサ土を多く含む。
189　浅黄橙色土(10YR8/3)　粘性なし、しまりやや強い。マサ土の崩落土。
190　灰黄褐色土(10YR5/2)　粘性やや弱い、しまり中。マサ土を多く含む。
191　褐灰色土(10YR4/1)　粘性やや強い、しまり中。マサ土を含む。
192　黒色土(10YR2/1)　粘性やや強い、しまり強い。Ⅳ層主体。
193　黒色土(10YR2/1)　粘性やや強い、しまり強い。Ⅳ層主体。マサ土を多く含む。
194　黒色土(10YR2/1)　粘性やや強い、しまり強い。Ⅳ層主体。
195　黒色土(10YR2/1)　粘性やや強い、しまり強い。Ⅳ層主体。マサ土を多く含む。
196　黒色土(10YR2/1)　粘性やや強い、しまり強い。Ⅳ層主体。
197　褐色土(10YR4/6)　粘性、しまり共に強い。Ⅳ層ブロックを含む。
198　褐色土(10YR4/4)　粘性、しまり共に強い。Ⅸ層主体。
199　浅黄橙色土(10YR8/3)　粘性なし、しまりやや強い。マサ土の崩落土。
200　灰黄褐色土(10YR4/2)　粘性、しまり共にやや強い。Ⅴ層主体。
201　褐色土(10YR4/4)　粘性、しまり共に強い。Ⅸ層主体。マサ土を含む。
202　褐色土(10YR4/4)　粘性、しまり共に強い。Ⅸ層主体。
203　黄褐色土(2.5Y5/3)　粘性なし、しまりやや強い。砂層。
204　黄褐色土(2.5Y5/3)　粘性なし、しまりやや強い。砂層。
205　褐灰色土(10YR5/1)　粘性なし、しまり中。砂層。
206　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　粘性、しまり共にやや強い。Ⅴ層主体。
207　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　粘性中、しまりやや強い。
208　黒褐色土(10YR3/1)　粘性中、しまりやや強い。Ⅳ層主体。
209　浅黄橙色土(10YR8/3)　粘性なし、しまりやや強い。マサ土の崩落土。
210　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　粘性、しまり共にやや強い。Ⅴ層主体。
211　灰黄褐色土(10YR5/2)　粘性なし、しまり中。砂層。
212　黄褐色土(2.5Y5/3)　粘性なし、しまりやや強い。砂層。
213　黄褐色土(10YR5/6)　粘性、しまり共に強い。
214a　黄褐色土(10YR5/6)　粘性、しまり共に強い。Ⅳ層を含む。
214b　灰オリーブ色土(5Y5/2)　粘性なし、しまりやや弱い。砂層。
215　にぶい黄橙色土(10YR7/3)　粘性なし、しまりやや強い。マサ土の崩落土。
216　浅黄橙色土(10YR8/3)　粘性なし、しまりやや強い。マサ土の崩落土。
217　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　粘性、しまり共にやや強い。Ⅴ層主体。
218　暗褐色土(10YR3/4)　粘性、しまり共にやや強い。
219　暗褐色土(10YR3/3)　粘性中、しまりやや強い。
220　褐灰色土(10YR4/1)　粘性、しまり共にやや強い。
221　暗褐色土(10YR3/3)　粘性、しまり共にやや強い。マサ土を含む。
222　褐色土(10YR4/6)　粘性、しまり共に強い。Ⅸ層主体。
223　暗褐色土(10YR3/3)　粘性、しまり共にやや強い。マサ土を含む。
224　褐色土(10YR4/6)　粘性、しまり共に強い。Ⅸ層主体。
225　黄褐色土(10YR5/6)　粘性、しまり共に強い。
226　にぶい黄橙色土(10YR6/3)　粘性、しまり共にやや強い。Ⅸ層主体にマサ土を含む。
227　暗褐色土(10YR3/3)　粘性、しまり共にやや強い。マサ土を含む。
228　灰黄褐色土(10YR4/2)　粘性中、しまりやや強い。
229　－
230　にぶい黄橙色土(10YR6/3)　粘性、しまり共にやや強い。Ⅸ層主体にマサ土を含む。
231　黄褐色土(10YR5/6)　粘性、しまり共に強い。
232　黒色土(10YR2/1)　粘性やや強い、しまり強い。Ⅳ層主体。
233　褐色土(10YR4/4)　粘性やや強い、しまり強い。砂質味強く、マサ土を含む。
234　褐色土(10YR4/4)　粘性やや強い、しまり強い。砂質味強く、マサ土を含む。
235　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　粘性、しまり共に中。マサ土・Ⅸ層ブロックを多く含む。
236　黒色土(10YR2/1)　粘性やや強い、しまり強い。Ⅳ・Ⅸ層ブロックを含む。
237　黒色土(10YR2/1)　粘性やや強い、しまり強い。Ⅳ・Ⅸ層ブロックを含む。
238　褐色土(10YR4/4)　粘性中、しまりやや強い。Ⅸ層主体。Ⅳ層ブロックを少量含む。
239　灰黄褐色土(10YR4/2)　粘性、しまり共にやや強い。Ⅳ・Ⅸ層・マサ土を含む。
240　褐色土(10YR4/4)　粘性中、しまりやや強い。Ⅸ層主体。Ⅳ層ブロックを少量含む。
241　褐灰色土(10YR5/1)　粘性なし、しまり中。砂層。
242　浅黄橙色土(10YR8/3)　粘性なし、しまりやや強い。マサ土ブロック。
243　褐色土(10YR4/4)　粘性やや強い、しまり強い。砂質味強く、マサ土を含む。
244　浅黄橙色土(10YR8/3)　粘性なし、しまりやや強い。マサ土ブロック。
245　褐灰色土(10YR5/1)　粘性なし、しまり中。砂層。
246　褐色土(10YR4/4)　粘性やや強い、しまり強い。砂質味強く、マサ土を含む。
247　褐色土(10YR4/4)　粘性中、しまりやや強い。Ⅸ層主体。Ⅳ層ブロックを少量含む。
248　－
249　黒色土(10YR2/1)　Ⅳ層ブロック。
250　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　粘性、しまり共に中。マサ土ブロックを多く含む。
251　褐色土(10YR4/4)　粘性中、しまりやや強い。Ⅸ層主体。Ⅳ層ブロックを少量含む。
252　褐色土(10YR4/4)　粘性やや強い、しまり強い。マサ土を多く含む。
253　灰黄褐色土(10YR4/2)　粘性、しまり共にやや強い。砂質味強くマサ土を含む。
254a　褐色土(10YR4/4)　粘性やや強い、しまり強い。砂質味強く、マサ土を含む。
254b　灰黄褐色土(10YR5/2)　粘性やや弱い、しまり中。マサ土を多く含む。
255　浅黄橙色土(10YR8/3)　粘性なし、しまりやや強い。マサ土の崩落土。
256　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　粘性なし、しまりやや強い。砂層。
257　灰黄褐色土(10YR5/2)　粘性やや弱い、しまり中。マサ土を多く含む。
258　－
259　褐色土(10YR4/4)　粘性、しまり共に強い。
260　褐色土(10YR4/4)　粘性やや強い、しまり強い。砂質味強く、マサ土を含む。
261　褐色土(10YR4/4)　粘性やや強い、しまり強い。砂質味強く、マサ土を含む。
262　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　粘性、しまり共に中。Ⅸ層・マサ土ブロックを多く含む。
263　褐色土(10YR4/4)　粘性中、しまりやや強い。Ⅸ層主体。Ⅳ層ブロックを少量含む。
264　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　粘性やや強い、しまり強い。マサ土ブロックを多く含む。
265　灰黄褐色土(10YR4/2)　粘性やや強い、しまり中。Ⅳ層・マサ土ブロックを多く含む。
266　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　粘性、しまり共に中。マサ土ブロックを多く含む。
267　褐色土(10YR4/4)　粘性やや強い、しまり強い。マサ土を多く含む。
268　灰黄褐色土(10YR5/2)　粘性やや弱い、しまり中。マサ土を多く含む。
269　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　粘性、しまり共に中。マサ土ブロックを多く含む。
270　灰黄褐色土(10YR6/2)　粘性なし、しまり中。砂層。
271　褐色土(10YR4/4)　粘性中、しまりやや強い。Ⅸ層主体。Ⅳ層ブロックを少量含む。
272　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　粘性、しまり共に中。Ⅸ層・マサ土ブロックを多く含む。
273　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　粘性なし、しまりやや強い。砂層。Ⅳ層ブロックを含む。
274　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　粘性なし、しまりやや強い。砂層。
275　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　粘性、しまり共に中。マサ土ブロックを多く含む。
276　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　粘性なし、しまりやや強い。砂層。黒・黄褐色ブロックを含む。
277　浅黄橙色土(10YR8/3)　粘性なし、しまりやや強い。マサ土の崩落土。
278　黒褐色土(10YR3/1)　粘性やや弱い、しまり中。砂を含む。
279　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　粘性なし、しまりやや強い。砂層。
280　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　粘性、しまり共に中。Ⅸ層・マサ土ブロックを多く含む。
281　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　粘性、しまり共に中。マサ土ブロックを多く含む。
282　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　粘性やや強い、しまり強い。マサ土ブロックを多く含む。
283　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　粘性やや強い、しまり強い。マサ土ブロックを多く含む。
284　褐色土(10YR4/4)　粘性、しまり共に強い。Ⅸ層主体。
285　浅黄橙色土(10YR8/3)　マサ土の崩落土。
286　褐色土(10YR4/4)　粘性中、しまりやや強い。Ⅸ層主体。Ⅳ層ブロックを少量含む。
287　褐色土(10YR4/6)　粘性、しまり共に強い。Ⅳ層・マサ土ブロックを含む。
288a　浅黄橙色土(10YR8/3)　粘性なし、しまりやや強い。マサ土の崩落土。
288b　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　粘性、しまり共に中。Ⅳ・Ⅸ層・マサ土ブロックを多く含む。
289　灰黄褐色土(10YR4/2)　粘性中、しまりやや強い。
290　暗褐色土(10YR3/3)　粘性中、しまりやや強い。Ⅴ層ブロックを含む。
291　暗褐色土(10YR3/3)　粘性中、しまりやや強い。Ⅸ層ブロックを含む。
292　黄褐色土(2.5Y5/3)　粘性なし、しまりやや強い。砂層。
293　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　粘性、しまり共にやや強い。Ⅳ・Ⅸ層ブロックを含む。
294　褐色土(10YR4/6)　粘性、しまり共に強い。Ⅴ層・マサ土ブロックを含む。
295　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　粘性、しまり共に強い。Ⅸ層ブロック。
296　灰黄褐色土(10YR6/2)　粘性なし、しまり中。砂層。
297　灰白色土(10YR8/1)　粘性なし、しまり中。砂層。
298　灰黄褐色土(10YR4/2)　粘性やや弱い、しまり中。Ⅸ層主体でマサ土を含む。
299　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　粘性なし、しまりやや強い。砂層。
300a　灰黄褐色土(10YR4/2)　粘性やや弱い、しまり中。
300b　灰黄褐色土(10YR4/2)　粘性やや弱い、しまり中。Ⅸ層主体でマサ土を含む。
301　灰黄褐色土(10YR6/2)　粘性なし、しまり中。砂層。
302　灰黄褐色土(10YR4/2)　粘性やや弱い、しまり中。Ⅸ層主体でマサ土を含む。
303　灰黄褐色土(10YR4/2)　粘性中、しまりやや強い。
304　灰黄褐色土(10YR6/2)　粘性なし、しまり中。砂層。
305　浅黄橙色土(10YR8/3)　粘性なし、しまりやや強い。マサ土の崩落土。
306　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　粘性、しまり共に強い。Ⅸ層ブロック。

第48図　堀1（5）

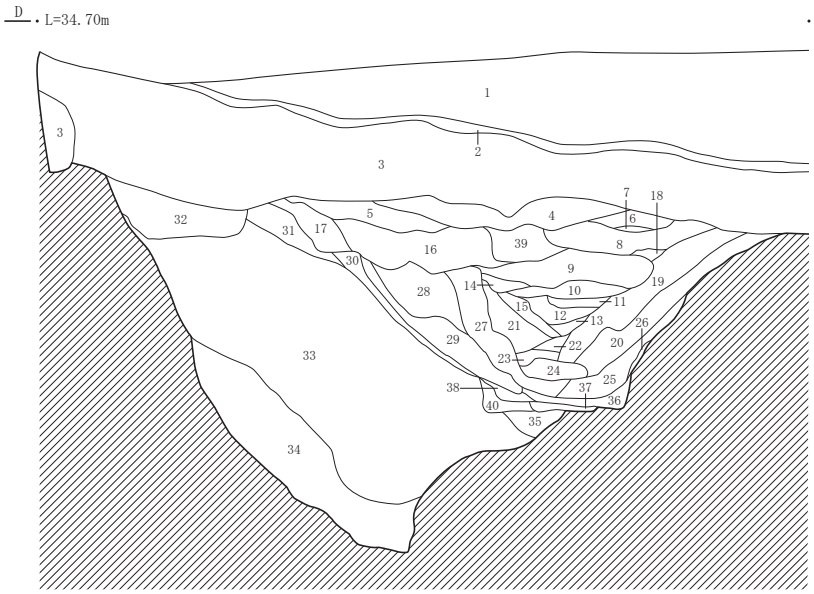
C断面



1　褐灰色土(10YR4/1)　粘性やや弱く、しまり強い。
2　黄褐色土(2.5Y5/3)　粘性弱く、しまり中。砂質味強い。
3　黒褐色土(10YR3/2)　粘性弱く、しまり強い。
4　黄灰色土(2.5Y4/1)　粘性中、しまり強い。
5　褐灰色土(10YR4/1)　粘性、しまり共に中。
6　黒褐色土(10YR3/1)　粘性中、しまりやや強い。
7　黄褐色土(2.5Y5/3)　粘性弱く、しまり中。砂質味強い。
8　暗灰黄色土(2.5Y5/2)　粘性弱く、しまり強い。砂質味強い。
9　黄灰色土(2.5Y4/1)　粘性弱く、しまり強い。砂質味強い。
10　褐灰色土(10YR4/1)　粘性、しまり共に中。
11　暗灰黄色土(2.5Y5/2)　粘性弱く、しまり強い。砂質味強い。
12　暗灰黄色土(2.5Y4/2)　粘性弱く、しまり強い。
13　褐灰色土(10YR4/1)　粘性やや弱く、しまり強い。
14　褐灰色土(10YR4/1)　粘性やや弱く、しまりやや強い。
15　褐灰色土(10YR4/1)　粘性、しまり共に中。
16　灰黄褐色土(10YR6/2)　粘性やや強く、しまり強い。マサ土の崩落土。
17　暗灰黄色土(2.5Y4/2)　粘性なし、しまり中。砂層。
18　黒褐色土(2.5Y3/1)　粘性、しまり共に強い。
19a　黒色土(10YR2/1)　粘性やや強く、しまり強い。Ⅳ層主体土。
19b　－
20　黒褐色土(10YR3/1)　粘性やや強く、しまり強い。Ⅳ層主体土。
21　黄灰色土(2.5Y4/1)　粘性中、しまりやや強い。
22　黄褐色土(2.5Y5/3)　粘性やや弱く、しまり弱い。
23　黒褐色土(2.5Y3/1)　粘性、しまり共に強い。マサ土を少量含む
24　褐灰色土(10YR4/1)　粘性やや弱く、しまり強い。
25a　褐灰色土(10YR4/1)　粘性なし、しまり中。　Ⅸ層ブロック少量含む
25b　褐灰色土(10YR4/1)　粘性弱く、しまり強い。　砂質味強い
26　黄褐色土(2.5Y5/3)　粘性弱く、しまり中。砂質味強い。
27　褐灰色土(10YR4/1)　粘性弱く、しまりやや弱い。マサ土含む。
28a　灰黄褐色土(10YR6/2)　粘性弱く、しまり中。マサ土の崩落土。
28b　にぶい黄橙色土(10YR7/2)　粘性なし、しまりやや強い。マサ土の崩落土。
29　暗褐色土(10YR3/3)　粘性やや弱く、しまり中。
30　黒褐色土(10YR2/2)　粘性、しまり共に中。Ⅳ層ブロックを多量に含む。
31a　暗褐色土(10YR3/3)　粘性やや弱く、しまり弱い。砂質味強い。
31b　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　粘性中、しまりやや強い。砂質粘土。
32　灰黄褐色土(10YR4/2)　粘性、しまり共に中。砂質粘土。
33　暗灰黄色土(2.5Y4/2)　粘性なし、しまり強い。砂層。
34　32層と類似するが、若干黒みが増す。
35　暗灰黄色土(2.5Y4/2)　粘性中、しまりやや強い。砂ブロックをやや多く含む。
36　黒褐色土(10YR3/2)　粘性、しまり共にやや強い。Ⅳ層ブロック含む。
37a　暗褐色土(10YR3/4)　粘性、しまり共にやや強い。砂質味強い。
37b　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　粘性やや弱く、しまりやや強い。Ⅸ層崩落土を少量含む。
38　暗灰黄色土(2.5Y5/2)　粘性なし、しまりやや強い。砂層。
39　黄褐色～黒褐色土(10YR5/6～10YR3/1)　粘性強く、しまり中。Ⅳ層とⅨ層の混じった層
40　灰黄褐色土(10YR6/2)　粘性やや強く、しまり強い。マサ土の崩落土。
41　黒褐色土(10YR3/2)　粘性中、しまりやや強い。Ⅳ層の崩落土。
42　褐色土(7.5YR4/4)　粘性、しまり共に中。Ⅸ層の崩落土
43　褐色土(10YR4/4)　粘性中、しまりやや強い。砂質味強い　Ⅳ層とⅨ層の混じった層。
44　黄灰色土(2.5Y5/1)　粘性なし、しまりやや強い。砂層。
45　褐色土(10YR4/4)　粘性中、しまりやや強い。砂質味強い　Ⅳ層とⅨ層の混じった層。
46　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　粘性やや弱く、しまりやや強い。砂質粘土。
47a　黒褐色土(10YR3/2)　粘性やや強く、しまり中。砂質味強い。
47b　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　粘性、しまり共にやや強い。Ⅳ層、Ⅸ層ブロック含む。
47c　黒褐色土(10YR3/2)　粘性やや強く、しまり中。砂質味強い。
48　暗灰黄色土(2.5Y5/2)　粘性なし、しまりやや強い。砂層。
49　褐色土(10YR4/4)　粘性中、しまりやや強い。砂質味強い　Ⅳ層とⅨ層の混じった層。
50　褐色土(10YR4/4)　粘性やや強く、しまり強く。Ⅸ層の崩落土。
51　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　粘性、しまり共にやや強い。Ⅳ層、Ⅸ層ブロック含む。
52　黒褐色土(10YR3/2)　粘性やや強く、しまり中。砂質味強い。
53　褐色土(10YR4/6)　粘性、しまり共に強い。Ⅸ層ブロック含む。
54　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　粘性、しまり共にやや強い。Ⅳ層、Ⅸ層ブロック含む。
55　黒褐色土(10YR3/2)　粘性やや強く、しまり中。砂質味強い。マサ土ブロック含む。
56　褐色土(7.5YR4/4)　粘性、しまり共に中。Ⅸ層の崩落土。
57　にぶい黄橙色土(10YR7/2)　粘性なし、しまりやや強い。マサ土の崩落土。
58　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　粘性、しまり共にやや強い。Ⅳ層、Ⅸ層ブロック含む。
59　黒色土(10YR2/1)　粘性やや強く、しまり中。Ⅳ層主体土。
60　灰黄褐色土(10YR6/2)　粘性やや強く、しまり強い。マサ土の崩落土。
61　褐色土(10YR4/6)　粘性、しまり共に強い。Ⅸ層ブロック含む。やや砂質味強い。
62　黒褐色土(10YR3/2)　粘性やや強く、しまり中。砂質味強い。
63　褐色土(10YR4/4)　粘性やや強く、しまり強く。Ⅸ層の崩落土。
64　にぶい黄橙色土(10YR6/4)　粘性やや弱く、しまりやや強い。マサ土主体でⅨ層を含む。
65　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　粘性、しまり共にやや強い。Ⅸ層主体でⅤ層ブロックを含む。
66　褐色土(10YR4/6)　粘性、しまり共に強い。Ⅸ層ブロック含む。
67　褐色土(10YR4/4)　粘性やや強く、しまり強い。Ⅸ層主体でマサ土を含む。
68　褐色土(10YR4/6)　粘性、しまり共に強い。Ⅸ層ブロック含む。
69　黄褐色から黒褐色土(10YR5/6～10YR3/1)　粘性強く、しまり中。Ⅳ層とⅨ層の混じった層。
70　褐色土(10YR4/4)　粘性やや強く、しまり強い。Ⅸ層主体でマサ土を含む。
71　褐色土(10YR4/4)　粘性やや強く、しまり強い。Ⅸ層主体でマサ土を含む。
72　にぶい黄橙色土(10YR6/4)　粘性やや弱く、しまりやや強い。マサ土主体でⅨ層を含む。
73　灰黄褐色土(10YR5/2)　粘性、しまり共にやや強い。Ⅸ層ブロックを含む。
74　7灰黄褐色土(10YR5/2)　粘性やや弱く、しまりやや強い。マサ土主体で砂質味が強い。Ⅸ層を僅かに含む。
75　にぶい黄橙色土(10YR7/2)　粘性なし、しまりやや強い。マサ土の崩落土。
76　にぶい黄橙色土(10YR6/3)　粘性なし、しまりやや強い。マサ土。
77　にぶい黄橙色土(10YR7/2)　粘性なし、しまりやや強い。マサ土の崩落土。
78　黒褐色土(10YR3/2)　粘性、しまり共にやや強い。Ⅴ層主体土。
79　灰黄褐色土(10YR5/2)　粘性やや弱く、しまりやや強い。マサ土主体で砂質味が強い。Ⅸ層を僅かに含む。
80　にぶい黄橙色土(10YR6/3)　粘性なし、しまりやや強い。マサ土。
81　灰黄褐色土(10YR5/2)　粘性、しまり共にやや強い。Ⅸ層ブロックを含む。
82　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　粘性、しまり共に中。マサ土を含む。
83　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　粘性、しまり共にやや強い。Ⅳ層、Ⅸ層ブロック含む。
84　褐色土(10YR4/6)　粘性、しまり共に強い。Ⅸ層ブロック含む。
85　褐色土(10YR4/6)　粘性、しまり共に強い。Ⅸ層ブロックとマサ土を含む。
86　にぶい黄橙色土(10YR6/3)　粘性なし、しまりやや強い。マサ土。
87　黒褐色土(10YR3/2)　粘性、しまり共にやや強い。Ⅴ層主体土。
88　黒褐色土(10YR3/1)　粘性やや弱く、しまり中。
89　黄灰色土(2.5Y4/1)　粘性、しまり共にやや弱い。Ⅴ層主体で砂質味が強い。
90　灰黄褐色土(10YR4/2)　粘性弱く、しまり中。マサ土を含む。
91　黒褐色土(10YR3/2)　粘性、しまり共にやや強い。Ⅴ層主体土。
92　暗灰黄色土(2.5Y5/2)　粘性なし、しまりやや強い。砂層。
93　暗灰黄色土(2.5Y5/2)　粘性なし、しまりやや強い。砂層。Ⅸ層ブロックを含む。
94　褐灰色土(10YR4/1)　粘性中、しまりやや強い。砂質味が強く、Ⅸ層、Ⅴ層ブロック含む。
95　褐色土(10YR4/6)　粘性、しまり共に強い。Ⅸ層ブロックとマサ土を含む。
96　暗灰黄色土(2.5Y5/2)　粘性なし、しまりやや強い。砂層。マサ土とⅨ層ブロック含む。
97　暗灰黄色土(2.5Y5/2)　粘性なし、しまりやや強い。砂層。
98　黒褐色土(10YR3/1)　粘性中、しまりやや強い。マサ土とⅨ層を含む。
99　にぶい黄橙色土(10YR7/2)　粘性なし、しまりやや強い。マサ土の崩落土。
100　暗灰黄色土(2.5Y5/2)　粘性なし、しまりやや強い。砂層。マサ土とⅨ層ブロック含む。
101　黄褐色土(2.5Y5/3)　粘性なし、しまり中。Ⅴ層ブロックを含む。
102　101と同じ
103　暗灰黄色土(2.5Y5/2)　粘性なし、しまりやや強い。砂層。
104　黄灰色土(2.5Y5/1)　粘性なし、しまりやや強い。砂層。
105　灰黄褐色土(10YR5/2)　粘性なし、しまりやや強い。砂層。Ⅸ層を含む。
106　灰黄褐色土(10YR5/2)　粘性、しまり共に中。マサ土を含む。
107　暗灰黄色土(2.5Y5/2)　粘性なし、しまり中。砂層。

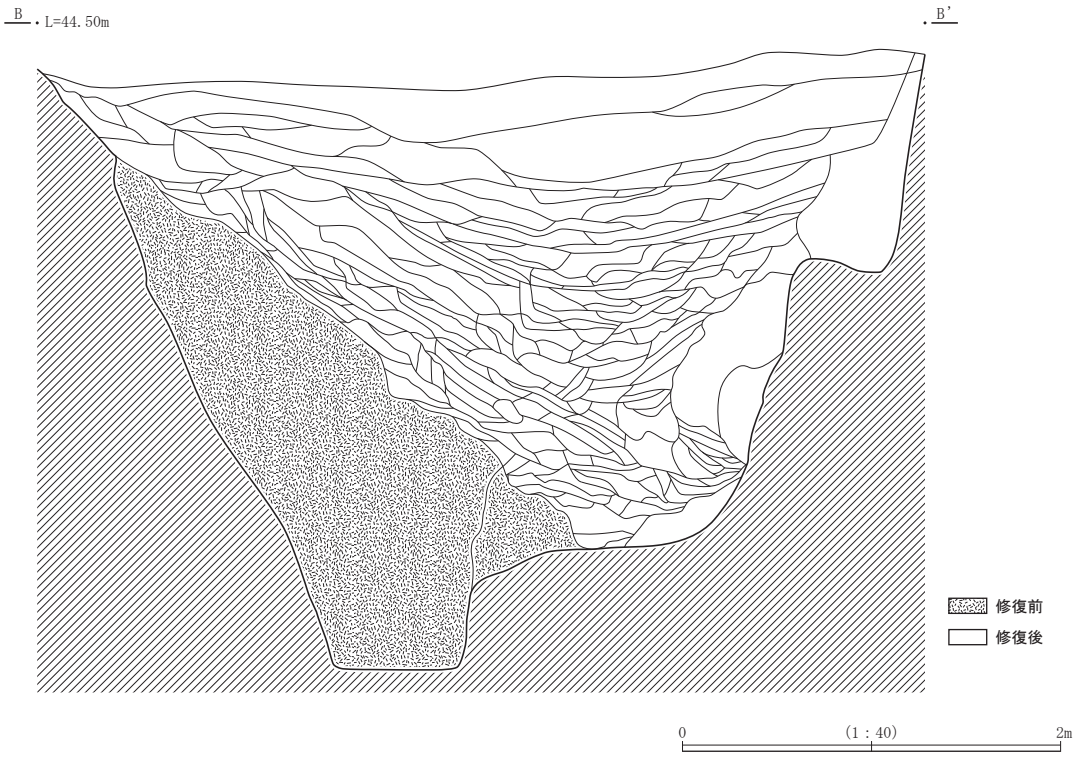
第49図　堀１（６）

D断面



1	明黄褐色土(10YR7/6)	粘性、しまり共に強い。盛土。
2	Ⅰ層。	
3	Ⅱ層。	
4	黒褐色土(10YR3/2)	粘性やや弱く、しまりやや強い。
5	黒褐色土(10YR3/1)	粘性やや弱く、しまりやや強い。
6	黒褐色土(10YR3/2)	粘性中、しまりやや強い。
7	灰黄色土(2.5Y6/2)	粘性なし、しまり弱い。
8	にぶい黄色土(2.5Y6/3)	粘性なし、しまり弱い。砂層味強い。
9	黒色土(10YR1.7/1)	粘性、しまり共にやや強い。
10	灰黄色土(2.5Y6/2)	粘性なし、しまり弱い。砂層。
11	褐灰色土(10YR4/1)	粘性中、しまりやや強い。
12	黄灰色土(2.5Y4/1)	粘性強く、しまり弱い。
13	灰黄色土(2.5Y6/2)	粘性なし、しまり弱い。砂層。
14	灰黄色土(2.5Y6/2)	粘性なし、しまり弱い。砂層。
15	灰黄褐色土(10YR5/2)	粘性やや弱く、しまり中。砂質味強い。
16	黒褐色土(10YR3/2)	粘性中、しまりやや強い。礫をやや多く含む。
17	褐灰色土(10YR4/1)	粘性やや弱く、しまり中。
18	黒褐色土(10YR3/1)	粘性、しまり共にやや強い。Ⅳ層主体のブロック。
19	黒褐色土(10YR3/1)	粘性やや強く、しまり強い。砂ブロックと礫を少量含む。Ⅳ層主体。
20	黒色土(10YR2/1)	粘性、しまり共にやや強い。Ⅳ層主体。
21	褐色土(10YR4/4)	粘性やや強く、しまり中。Ⅸ層主体。
22	褐灰色土(10YR4/1)	粘性中、しまりやや強い。
23	灰黄色土(2.5Y6/2)	粘性なし、しまり弱い。砂層。
24	灰黄色土(2.5Y6/2)	粘性なし、しまり弱い。砂層。
25	黒色土(10YR2/1)	粘性、しまり共にやや強い。Ⅳ層主体。
26	黒色土(10YR2/1)	粘性、しまり共に強い。Ⅸ層ブロックを含む。
27	にぶい黄褐色土(10YR5/4)	粘性中、しまりやや強い。
28	灰黄褐色土(10YR5/2)	粘性中、しまりやや強い。
29	黄褐色土(10YR5/6)	粘性、しまり共に強い。Ⅸ層ブロックを含む。
30	にぶい黄橙色土(10YR6/3)	粘性弱く、しまりやや強い。マサ土を含む。
31	にぶい黄橙色土(10YR6/4)	粘性弱く、しまりやや強い。マサ土を含む。
32	黒褐色土(10YR3/2)	粘性やや弱く、しまりやや強い。
33	にぶい黄橙色～褐色土(10YR7/2～7.5YR4/3)	粘性なし、しまり強い。マサ土の崩落土。
34	褐色土(7.5YR4/3)	粘性なし、しまり強い。マサ土の崩落土。
35	灰黄色土(2.5Y6/2)	粘性なし、しまり弱い。砂層。
36	灰黄色土(2.5Y6/2)	粘性なし、しまりやや弱い。砂層。Ⅸ層を含むためややしまる。
37	灰黄色土(2.5Y6/2)	粘性なし、しまり弱い。砂層。
38	褐灰色土(10YR4/1)	粘性やや弱く、しまり弱い。砂質味強い。
39	灰黄褐色土(10YR5/2)	粘性やや弱く、しまり中。砂質味強い。
40	黒褐色土(7.5YR3/2)	粘性なし、しまりやや強い。マサ土

B断面修復推移



第50図　堀1（7）

は認められない。

［備考］遺構は通路としての機能を果たすと共に、城館の内外を区切る役割を担っていたものと思われる。

土塁１（第51・52図　写真図版28）

［位置］ⅢＢ53・63グリッドに位置する。平場１の東側、平場２との境にあり、切岸４と連なるように構築されている。標高は54～54.5ｍである。頂部の東側、版築２・３に挟まれた地山の部分にのみ本遺構は形成されている。

［規模］南北方向に延びており、全長は14.1ｍである。中央部が高く、両端に向かうにつれて先細りしながら収束している。基底幅は１～1.8ｍ、上幅は40～80㎝である。平場１との垂直壁高は１ｍである。壁高は北に向かうにつれて低くなるものの、切岸４と連なり北へと下っていくことから、その高低差は基本的に維持されていく。

［堆積土］削り出された地山（ＸＶ層）には、Ⅰ層に覆われていることは確認しているものの、図化していないためその層厚は不明である。

［普請］地山を削り出して普請している。

［遺物］出土していない。

［備考］本遺構は切岸４と共に平場１と平場２を区画する役割を担っているものと思われる。このような構造については土塁４と類似している。

土塁２（第51・52図　写真図版28）

［位置］ⅢＢ87・98、ⅢＣ9グリッドに位置する。平場７・８の南西側、切岸８と連なるように形成されている。標高は42.1～47.5ｍである。本遺構は頂部に調査区境が位置しているため本遺構は半分のみの検出に留まることから、全容は判然としない。また、実際の調査区が工事用図面と異なることから、その間を埋めるために全体図では破線で示している。上端の比高は調査区内で５ｍ以上確認できているが、調査区外までを含めるとさらにその差が生じるものと思われる。

［規模］南北方向に延びており、確認できた長さは28ｍである。調査区外まで延びており、全長は80ｍ以上になる可能性がある。ただし南端部の様相は判然としない。基底幅と上幅については不明である。垂直壁高はそれぞれが接する平場において計測しており、北端は3.5ｍ、南端は1.5ｍである。この壁高は平場７と接する箇所では高いが、平場８と接する箇所では低くなる。

［堆積土］削り出された地山（ＸＶ層）には、Ⅰ・Ⅱ層が40～70㎝の厚さで堆積している。

［普請］地山を削り出して普請している。

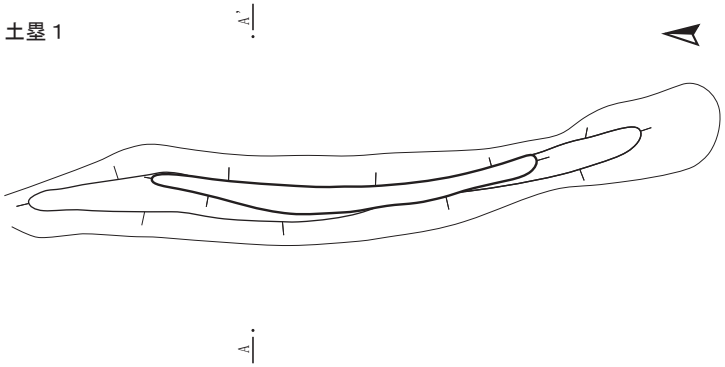
［遺物］出土していない。

［備考］本遺構は切岸７と連なっているが、平場３－２の南東隅を基点に計測している。本遺構は切岸と共に城館内を防御する機能を担っていることから、本土塁西側の斜面には防御すべきものの存在が想定される。ちなみに本遺構の西側については、市教委によって調査が行われていることから、何れ報告された際には合わせて検討する必要がある。

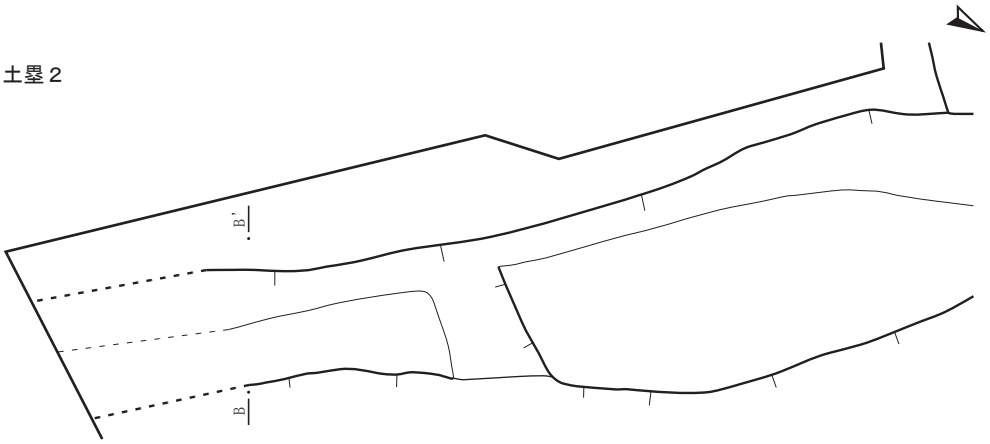
土塁３（第51・52図　写真図版29）

［位置］ⅡＢ66・76グリッドに位置する。平場12の西側、平場９と11の境にあり、切岸６・11と連なるように構築されている。標高は頂部が53.1ｍである。

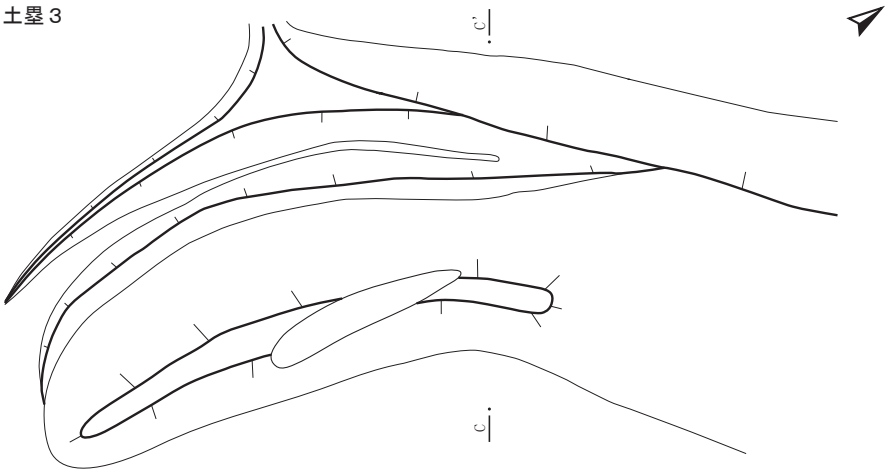
土墨１



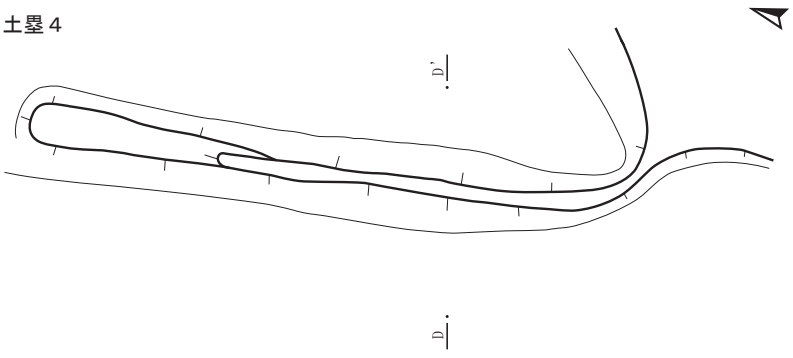
土墨２

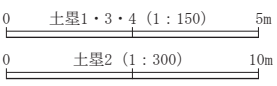


土墨３



土墨４

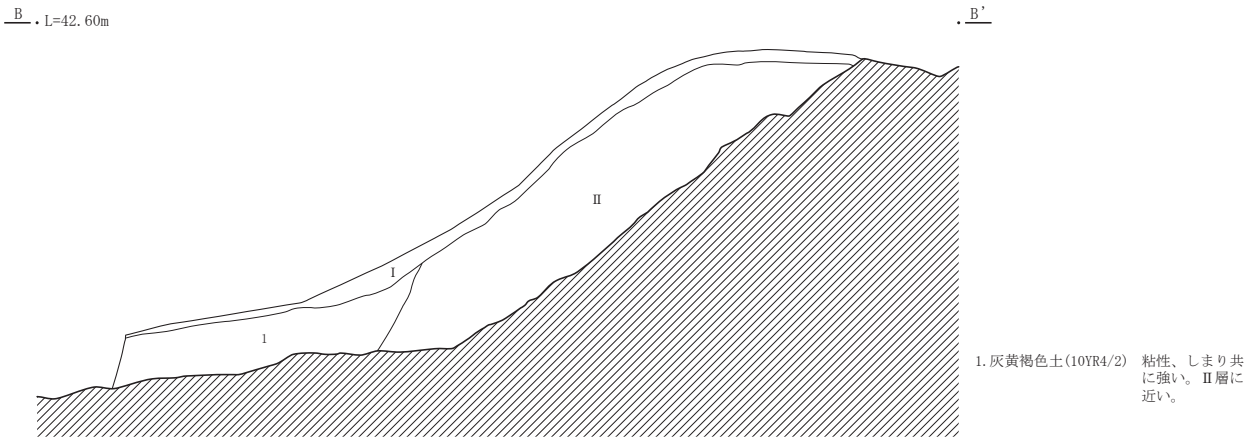




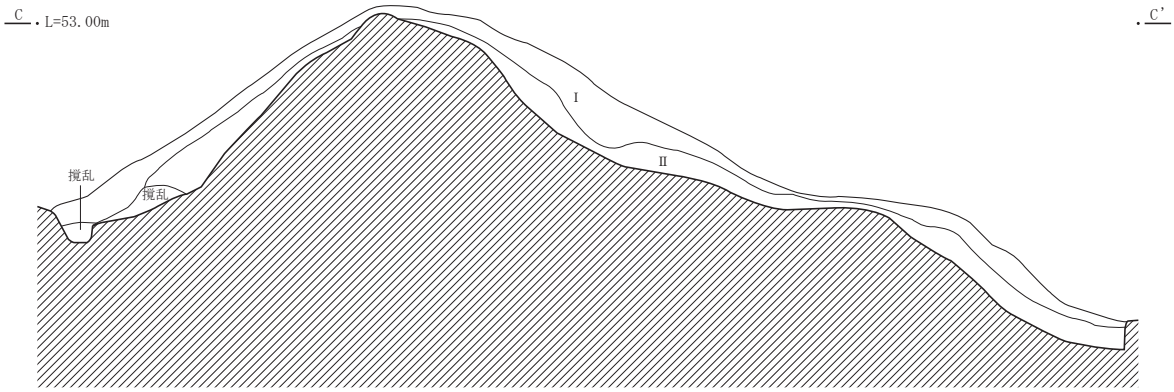
第51図　土墨（１）

土塁１

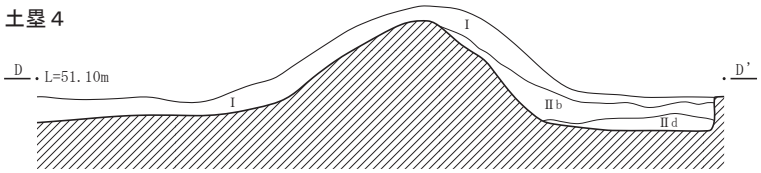
土塁２

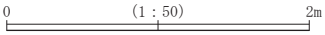


土塁３



土塁４





第52図　土塁（２）

［**規模**］南北方向に延びており、全長は12.6mである。南端から切岸６と接する下端の北側が収束する箇所で計測している。基底幅は3.2～4.1m、上幅は50～70cmである。垂直壁高は1.2mであり、南端に向かうにつれて低くなる。ただし、本遺構の北端は削平されているため、全容は判然としない。
［**堆積土**］削り出された地山(ＸＶ層)には、Ⅰ・Ⅱ層が10～50cmの厚さで堆積している。
［**普請**］地山を削り出して普請している。
［**遺物**］出土していない。
［**備考**］本遺構は、６・11号切岸と連なるように構築されているが、南北を区画する役割を担っているものと思われる。本遺構と平場12との間にある削平された空間については、土塁の延長や、小規模な平場の存在などが考えられる。基本的に遺構の南東側には防御すべきものの存在が想定される。

土塁４（第51・52図　写真図版30）

［**位置**］ⅡＢ55・65・66グリッドに位置する。平場９の西側、平場13との境にあり、切岸６・14と連なるように構築されている。標高は51～51.5mである。遺構の南端は土塁３の直下に形成されている浅い溝の北側上端と接している。そのため境界は不明瞭となるが、切岸６下段と連なる平場９の南西隅を基点としている。
［**規模**］南北方向に延びており、全長は12mである。基底幅は１～1.8m、上幅は20～80cmである。垂直壁高は60cmであり、北端に向かって低くなる。ただし、壁高は北に向かうにつれて低くなるものの、切岸14と連なり地形に沿って下っていくことから、その高低差は基本的に維持されていく。
［**堆積土**］削り出された地山(ＸＶ層)には、Ⅰ・Ⅱ層が10～30cmの厚さで堆積している。
［**普請**］地山を削り出して普請している。
［**遺物**］出土していない。
［**備考**］本遺構の構築方法は土塁１と類似している。

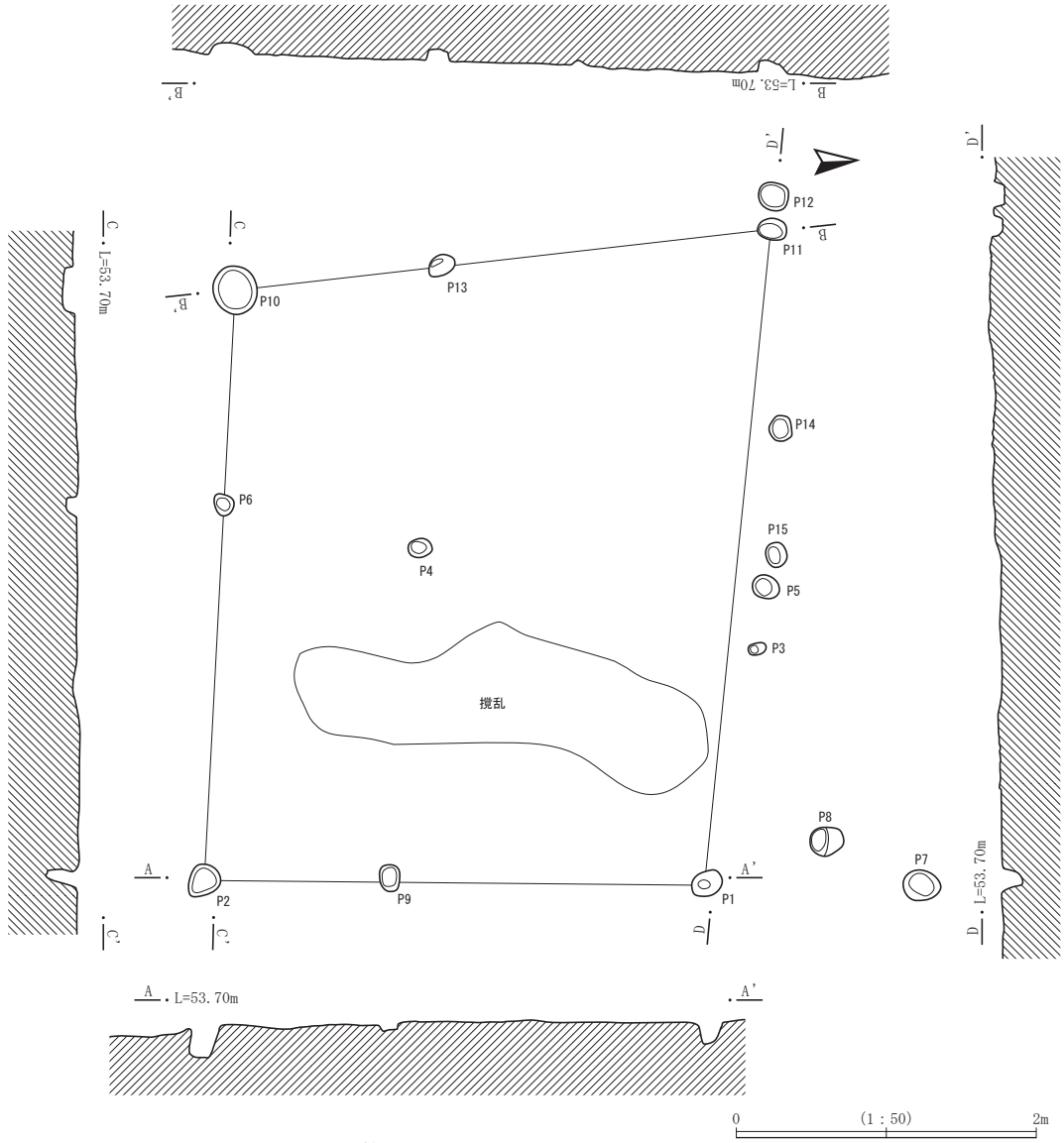
１号掘立柱建物（第53図　写真図版35）

［**位置**］ⅢＢ51・52・61・62グリッドに位置する。平場１の中央、標高53.7mの平坦面に形成されている。この中央部は版築２・３に挟まれている地山(ＸＶ層)が平坦に削平された面であり、本遺構はこの範囲に収まる。
［**規模**］柱穴８個(Ｐ１・２・４・６・９・10・11・13)からなる。本建物は不整形ながら総柱の可能性があるものの、桁行北側における構成する柱穴については判然としない。桁行２間(８・8.8m)×梁間２間(3.3・3.6m)である。軸線方向は概ね東西であり、平場の長軸方向と一致している。
［**備考**］各柱穴の規模は第２表の通りである。何れも柱穴の規模が小さいことから、本建物は簡易的な様相が強いものと思われる。また、この周辺を丹念に検出を繰り返したものの、礎石の痕跡及び他の遺構は認められていない。

SK01・02（第54図　写真図版36）

［**位置**］ⅢＢ54・55グリッドに位置する。平場２北西部、標高49.5～50.2mの緩斜面に形成されている。地山であるⅨ層まで削り出された幅４mの緩斜面を挟んで、切岸２と連なるように両土坑が存在しており、遺構の深さが異なる以外は概ね共通している。
［**規模**］遺構の様相は以下の通りである。検出面はいずれも地山(Ⅸ層)である。
SK01：平面形状は隅丸方形である。規模は東西4.94×南北2.67m、深さは1.19mである。壁は外傾

1号掘立柱建物

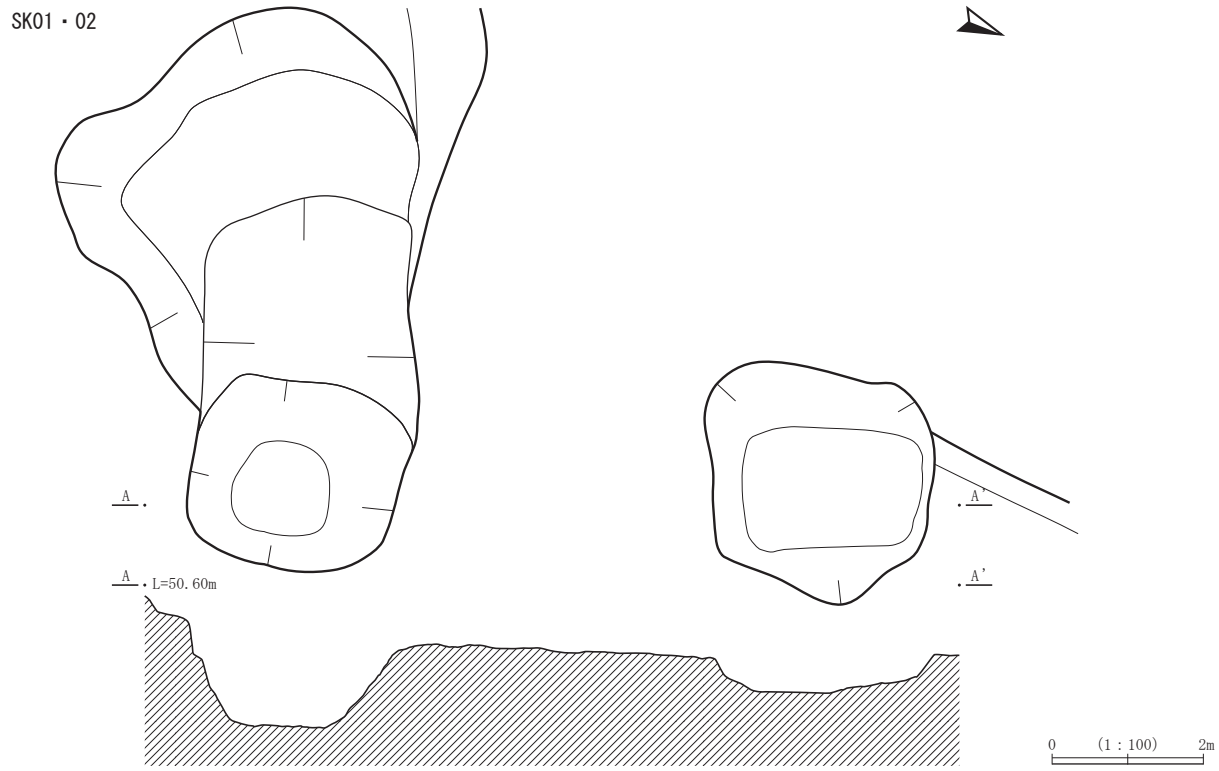


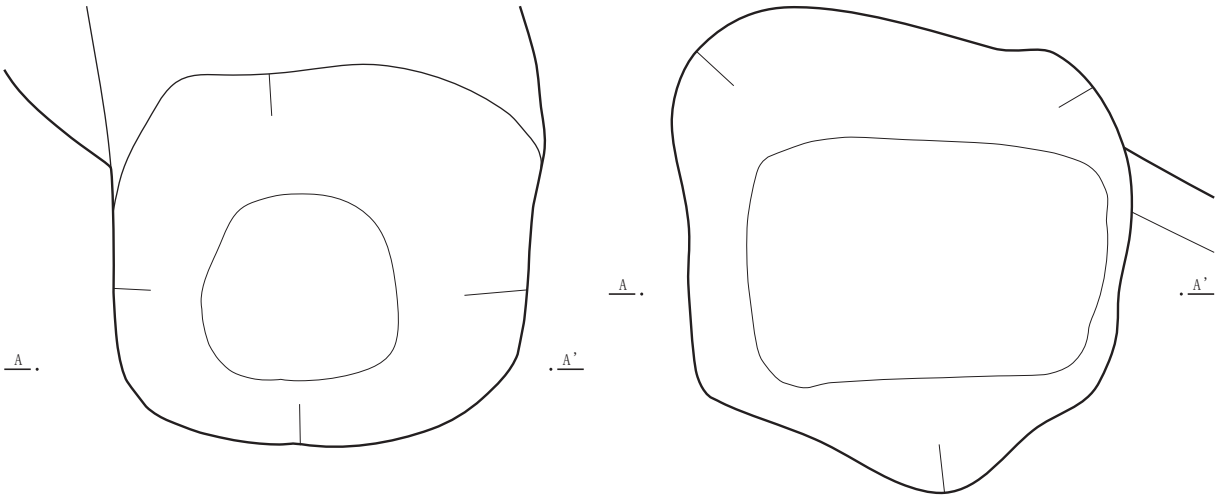
第53図　掘立柱建物

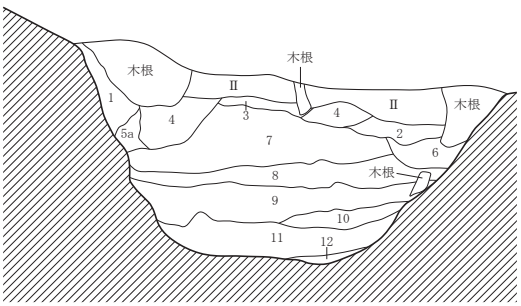
第２表　柱穴一覧

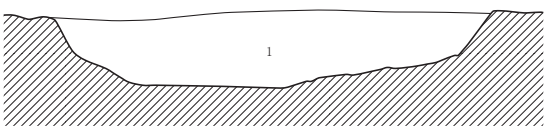
番号	形状	位置	規模（cm）	深さ（cm）	埋土			
					色調	粘性	しまり	混入物
1	楕円形	平場１	40×34	32	にぶい黄褐色土	弱い	強い	
2	楕円形	平場１	58×42	46	にぶい黄褐色土	弱い	強い	マサ土ブロック
3	楕円形	平場１	24×16	24	褐色土	弱い	強い	
4	楕円形	平場１	32×25	14	灰黄褐色土	弱い	強い	
5	楕円形	平場１	38×31	8	灰黄褐色土	弱い	強い	
6	楕円形	平場１	30×26	14	灰黄褐色土	弱い	強い	
7	楕円形	平場１	50×41	6	褐灰色土	弱い	強い	
8	楕円形	平場１	45×38	8	にぶい黄褐色土	弱い	強い	
9	楕円形	平場１	36×27	8	にぶい黄褐色土	弱い	強い	マサ土ブロック
10	円形	平場１	59	14	にぶい黄褐色土	弱い	強い	マサ土ブロック
11	楕円形	平場１	39×28	15	灰黄褐色土	弱い	強い	マサ土ブロック
12	円形	平場１	40	14	褐灰色土	弱い	強い	
13	楕円形	平場１	37×27	18	にぶい黄褐色土	弱い	強い	
14	円形	平場１	30	8	にぶい黄褐色土	弱い	強い	マサ土ブロック
15	円形	平場１	32	10	灰黄褐色土	弱い	強い	

SK01・02







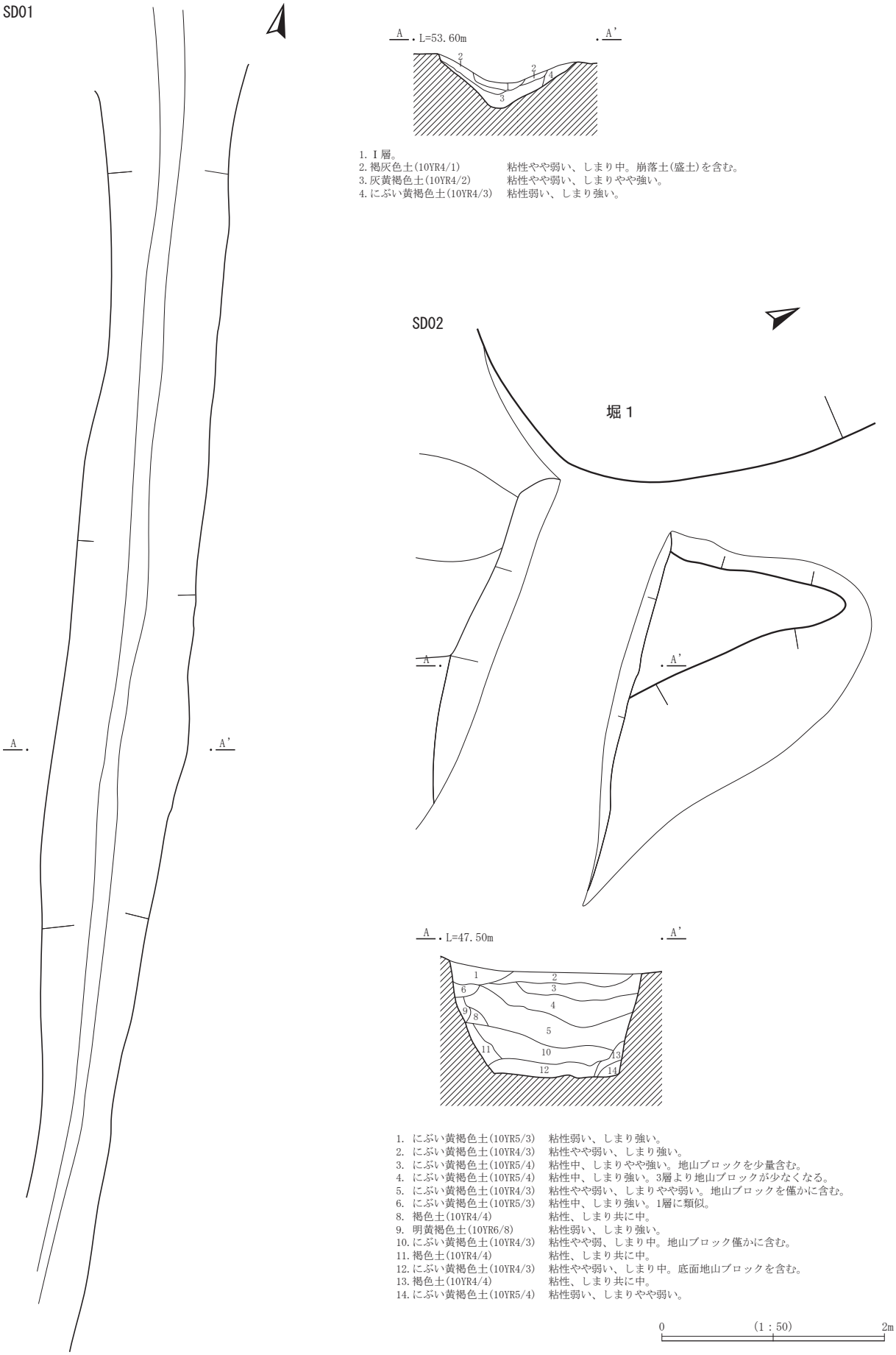


SK02
1. 灰黄褐色土(10YR4/2)　粘性なし、しまりやや弱い。砂質味強い。

SK01
1. 灰黄褐色土(10YR4/2)　粘性、しまり共にやや強い。
2. 黄褐色土(10YR5/6)　粘性強い、しまりやや強い。
3. 灰黄褐色土(10YR4/2)　粘性強い、しまりやや強い。
4. にぶい黄褐色土(10YR5/4)　粘性、しまり共に強い。
5a. 褐色土(7.5YR4/4)　粘性、しまり共にやや強い。
6. 褐色土(10YR4/4)　粘性、しまり共に強い。地山ブロックを含む。
7. 暗褐色土(10YR3/3)　粘性、しまり共にやや強い。
8. にぶい黄褐色土(10YR5/3)　粘性、しまり共に強い。
9. 灰黄褐色土(10YR4/2)　粘性、しまり共に強い。
10. にぶい黄褐色土(10YR5/4)　粘性、しまり共に強い。
11. 黄褐色土(10YR5/6)　粘性、しまり共に強い。地山崩落土。
12. 黒褐色土(10YR3/2)　粘性、しまり共にやや強い。

0　(1：50)　2m

第54図　ＳＫ01・02


SD01
A
A'
A L=53.60m A'
1. Ⅰ層。
2. 褐灰色土(10YR4/1)　粘性やや弱い、しまり中。崩落土(盛土)を含む。
3. 灰黄褐色土(10YR4/2)　粘性やや弱い、しまりやや強い。
4. にぶい黄褐色土(10YR4/3)　粘性弱い、しまり強い。
SD02
堀1
A
A'
A L=47.50m A'
1. にぶい黄褐色土(10YR5/3)　粘性弱い、しまり強い。
2. にぶい黄褐色土(10YR4/3)　粘性やや弱い、しまり強い。
3. にぶい黄褐色土(10YR5/4)　粘性中、しまりやや強い。地山ブロックを少量含む。
4. にぶい黄褐色土(10YR5/4)　粘性中、しまり強い。3層より地山ブロックが少なくなる。
5. にぶい黄褐色土(10YR4/3)　粘性やや弱い、しまりやや弱い。地山ブロックを僅かに含む。
6. にぶい黄褐色土(10YR5/3)　粘性中、しまり強い。1層に類似。
8. 褐色土(10YR4/4)　粘性、しまり共に中。
9. 明黄褐色土(10YR6/8)　粘性弱い、しまり強い。
10. にぶい黄褐色土(10YR4/3)　粘性やや弱、しまり中。地山ブロック僅かに含む。
11. 褐色土(10YR4/4)　粘性、しまり共に中。
12. にぶい黄褐色土(10YR4/3)　粘性やや弱い、しまり中。底面地山ブロックを含む。
13. 褐色土(10YR4/4)　粘性、しまり共に中。
14. にぶい黄褐色土(10YR5/4)　粘性弱い、しまりやや弱い。
0　(1：50)　2m

第55図　SD01・02

して立ち上がる。底面は概ね平坦である。堆積土は褐色土やにぶい黄褐色土などが堆積しており、12層に細分している。これらは斜面上方から土砂が流入しながら堆積している状況が窺える。

SK02：平面形状は隅丸方形である。規模は東西3.05×南北2.94m、深さは49cmである。壁は外傾して立ち上がる。底面は概ね平坦である。堆積土は灰黄褐色土が確認されている。

［備考］本遺構は曲輪を構築する作事の一端に伴うものと考えられる。さらに、両遺構の間に形成されている緩斜面は、虎口から続く通路の役割を担っていたものと想定される。

SD01（第55図　写真図版33）

［位置］ⅡＢ59・69グリッドに位置する。平場１と12の境、標高53.5mの平坦面に形成されている。検出面は地山（ＸＶ層）である。ただし、北端で接する切岸６上段に向かうにつれて壁は版築３によって構築されている。

［規模］南北方向へと直線的に延びており、全長は9.0m、幅は0.6～1.1m、深さは23cmである。断面は上端はやや開き気味になるが概ねＶ字形状である。

［堆積土］褐灰色土と灰黄褐色土が主体で４層に細分している。

［遺物］出土していない。

［備考］本遺構の機能は平場１・12を区分する役割を担っていたものと思われる。

SD02（第55図　写真図版34）

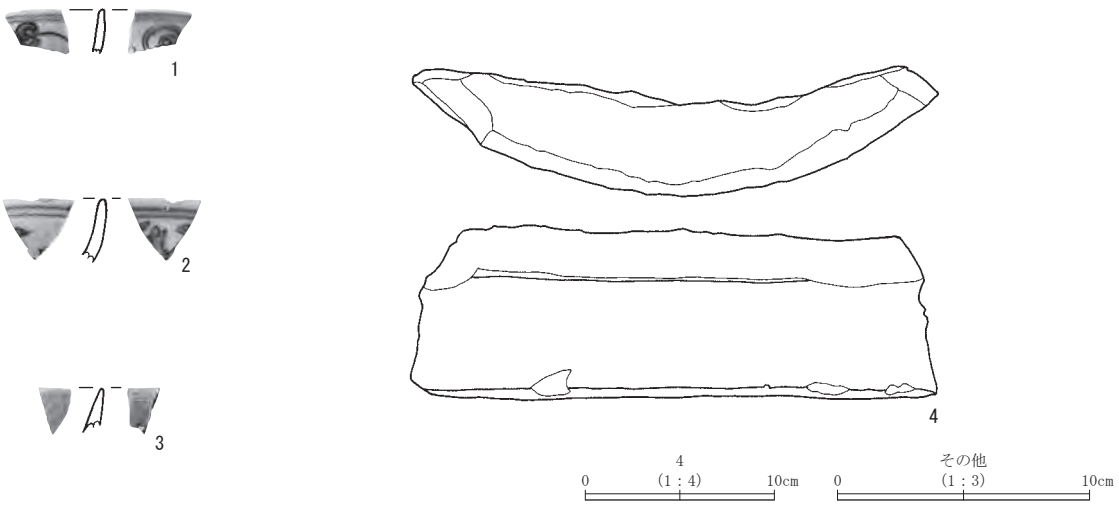
［位置］ⅢＢ35グリッドに位置する。平場２の北東隅、標高47.3mの斜面に形成されている。検出面は地山（Ⅸ層）である。ただし、遺構の西側となる切岸６・７が接する壁は、版築によって構築されていることを確認している。

［規模］南北方向へと直線的に延びており、全長は3.2m、幅は1.5m、深さは94cmである。断面は箱形であり、壁は直立気味に立ち上がる。

［堆積土］にぶい黄褐色土が主体で14層に細分している。

［遺物］出土していない。

［備考］本遺構は城館の内外を区分するものであり、虎口に相当する箇所と考えられる。



第56図　出土遺物（１）

出土遺物（第56図）

当該期に属する遺物を第56図にまとめている。遺物は非常に少なく、その可能性があるのは４点である。１・２は中国産染付碗、３は中国産青磁碗、４は茶臼である。１～３はいずれも16世紀後半のものである。今回の調査では、これ以前の中世陶磁器や17世紀を跨がるような時期の陶磁器は確認できていない。

（３）曲輪Ⅴ

本曲輪は調査以前に、城館の北側に位置する曲輪として捉えられていた。頂部の平坦面(2,700㎡)は全面調査、また斜面には試掘トレンチを20箇所入れている(第６図参照)。その結果、頂部では城館の痕跡及びそれ以外の時期に伴う遺構を確認できなかった。また、西斜面は自然地形であり、東斜面は近代以降の畑の造成に伴う階段状の地形であることが判明した。最終的にこの範囲は城館の区域から外している。

３　城館期以外の遺構・遺物

SK03（第57図　写真図版36）

［位置］ⅢＢ51グリッドに位置する。平場１の中央、版築３により構築された標高53.1ｍの平坦面に形成されている。

［形状・規模］平面形は不整形である。規模は29×24㎝、深さは16㎝である。

［壁・底面］壁は外傾して立ち上がる。底面は平坦である。

［堆積土］褐灰色土である。

［遺物］なし。

［備考］遺構中央に礫が直立している状況を確認できたが、その用途は判然としない。また、所属時期は不明である。

SK04（第57図　写真図版36）

［位置］ⅢＢ84グリッドに位置する。平場１と２の境、版築２により構築された標高52.2ｍの緩斜面に形成されている。

［形状・規模］平面形は楕円形である。規模は41×27㎝、深さは16㎝である。

［壁・底面］壁は外傾して立ち上がる。底面は皿状である。

［堆積土］褐灰色土である。

［遺物］なし。

［備考］遺構南端に礫が直立している状況を確認できたが、その用途は判然としない。また、所属時期は不明である。

SK05（第57図　写真図版36）

［位置］ⅢＢ53グリッドに位置する。平場２の西側、標高52.5ｍの緩斜面に形成されている。

［形状・規模］平面形は円形である。規模は73×67㎝、深さは９㎝である。

［壁・底面］壁は外傾ないし直立して立ち上がる。底面は皿状である。

［堆積土］にぶい黄褐色土である。

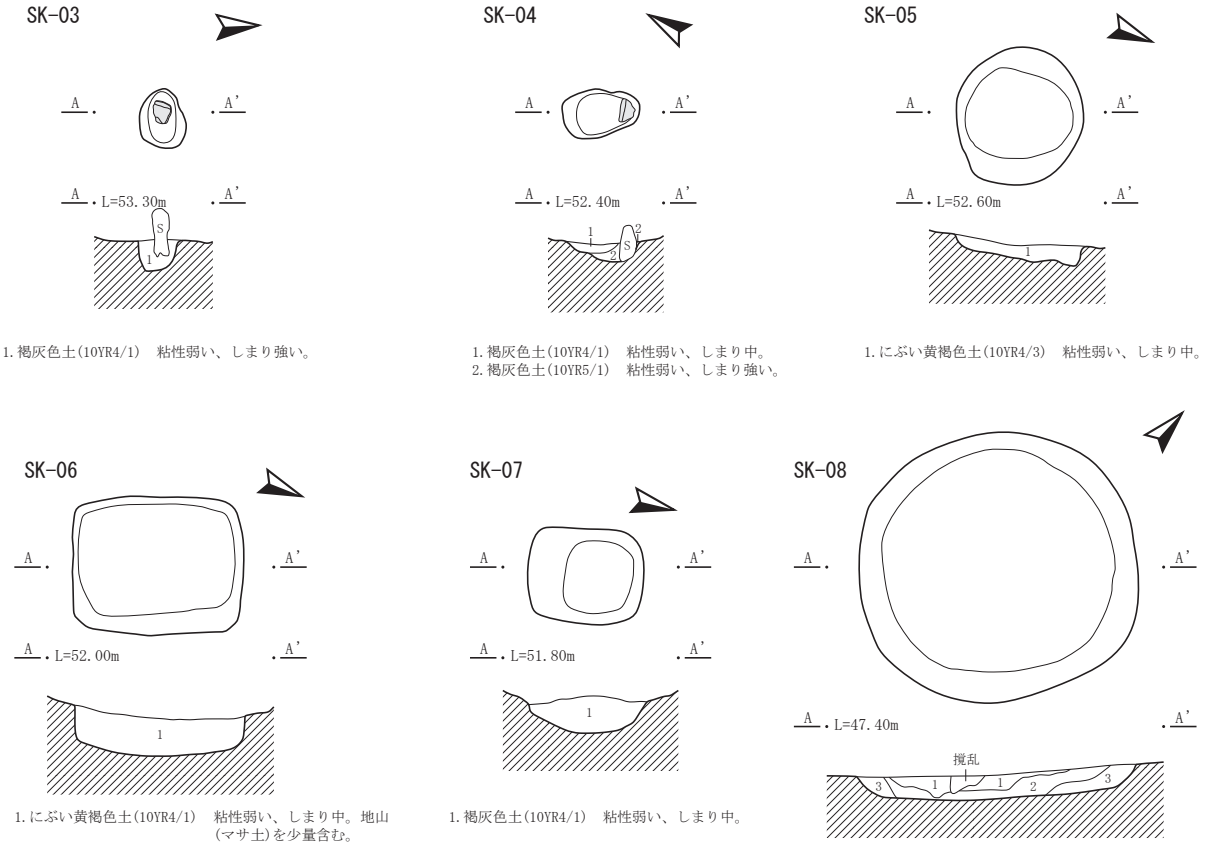
［**遺物**］なし。
［**備考**］所属時期は不明である。

SK06（第57図　写真図版36）

［**位置**］ⅢＢ43グリッドに位置する。平場２の西側、標高51.8ｍの緩斜面に形成されている。
［**形状・規模**］平面形は隅丸方形である。規模は94×73㎝、深さは21㎝である。
［**壁・底面**］壁は直立して体上がる。底面は皿状である。
［**堆積土**］にぶい黄褐色土である。
［**遺物**］なし。
［**備考**］所属時期は不明である。

SK07（第57図　写真図版36）

［**位置**］ⅢＢ43グリッドに位置する。平場２の西側、標高51.6ｍの緩斜面に形成されている。
［**形状・規模**］平面形は隅丸方形である。規模は61×51㎝、深さは19㎝である。
［**壁・底面**］壁は外傾ないし直立して立ち上がる。底面は皿状である。

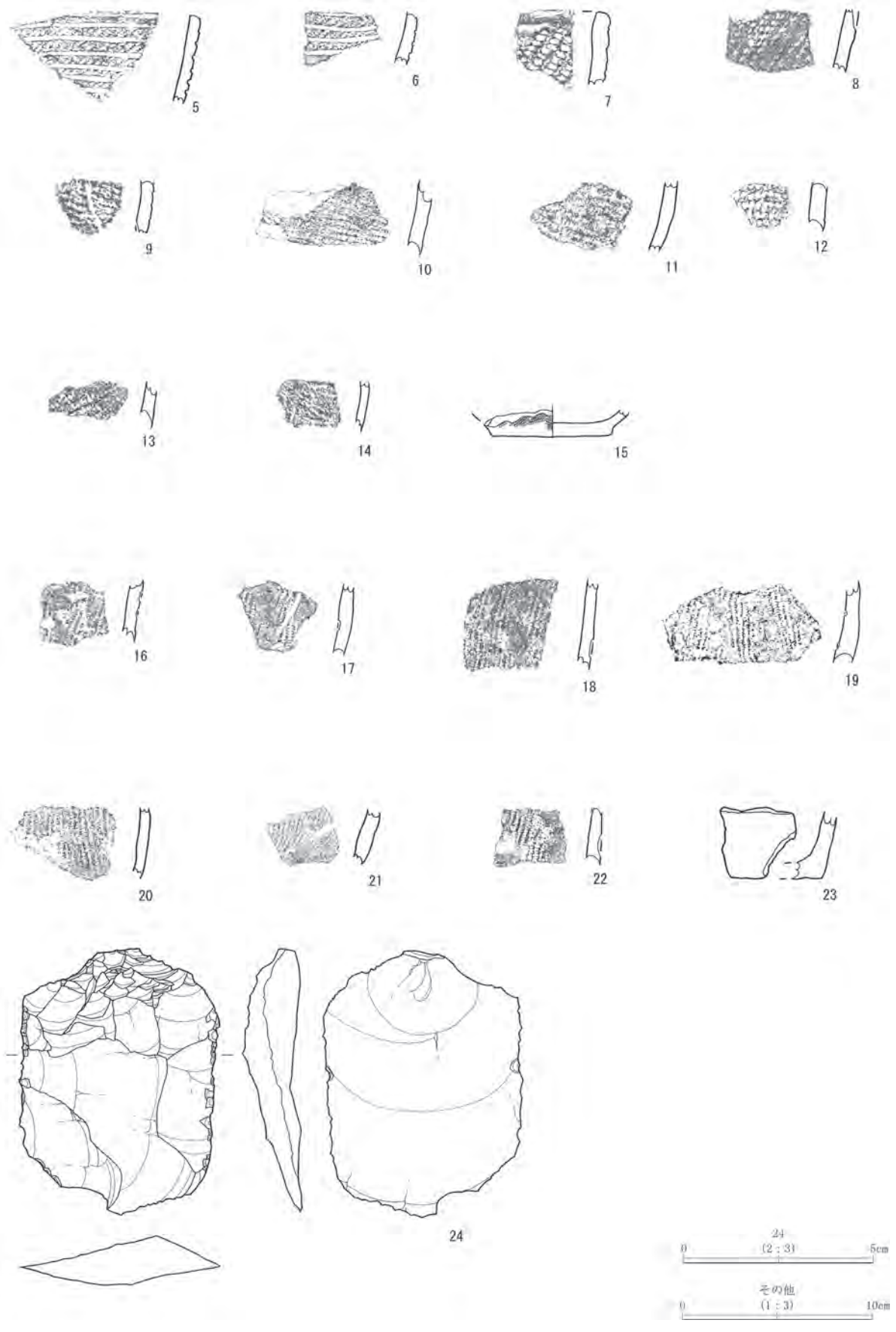


第57図　ＳＫ03～08

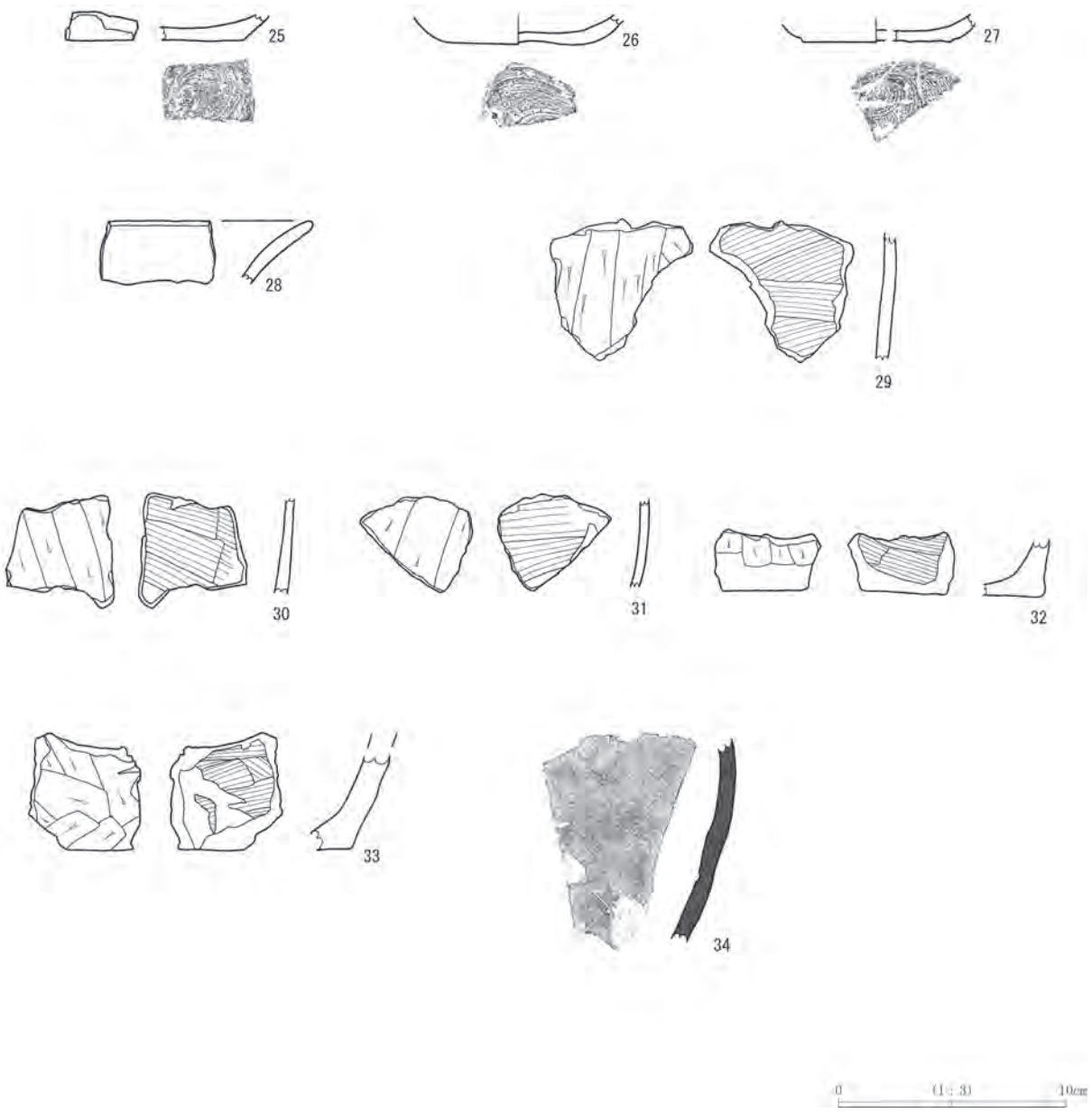
［堆積土］褐灰色土である。
［遺物］なし。
［備考］所属時期は不明である。

SK08（第57図　写真図版36）
［位置］ⅡＢ54グリッドに位置する。平場９の北側、標高47.2mの緩斜面に形成されている。
［形状・規模］平面形は円形である。規模は1.46×1.44m、深さは13㎝である。
［壁・底面］壁は外傾ないし直立して立ち上がる。底面は皿状である。
［堆積土］褐灰色土である。
［遺物］なし。
［備考］所属時期は不明である。

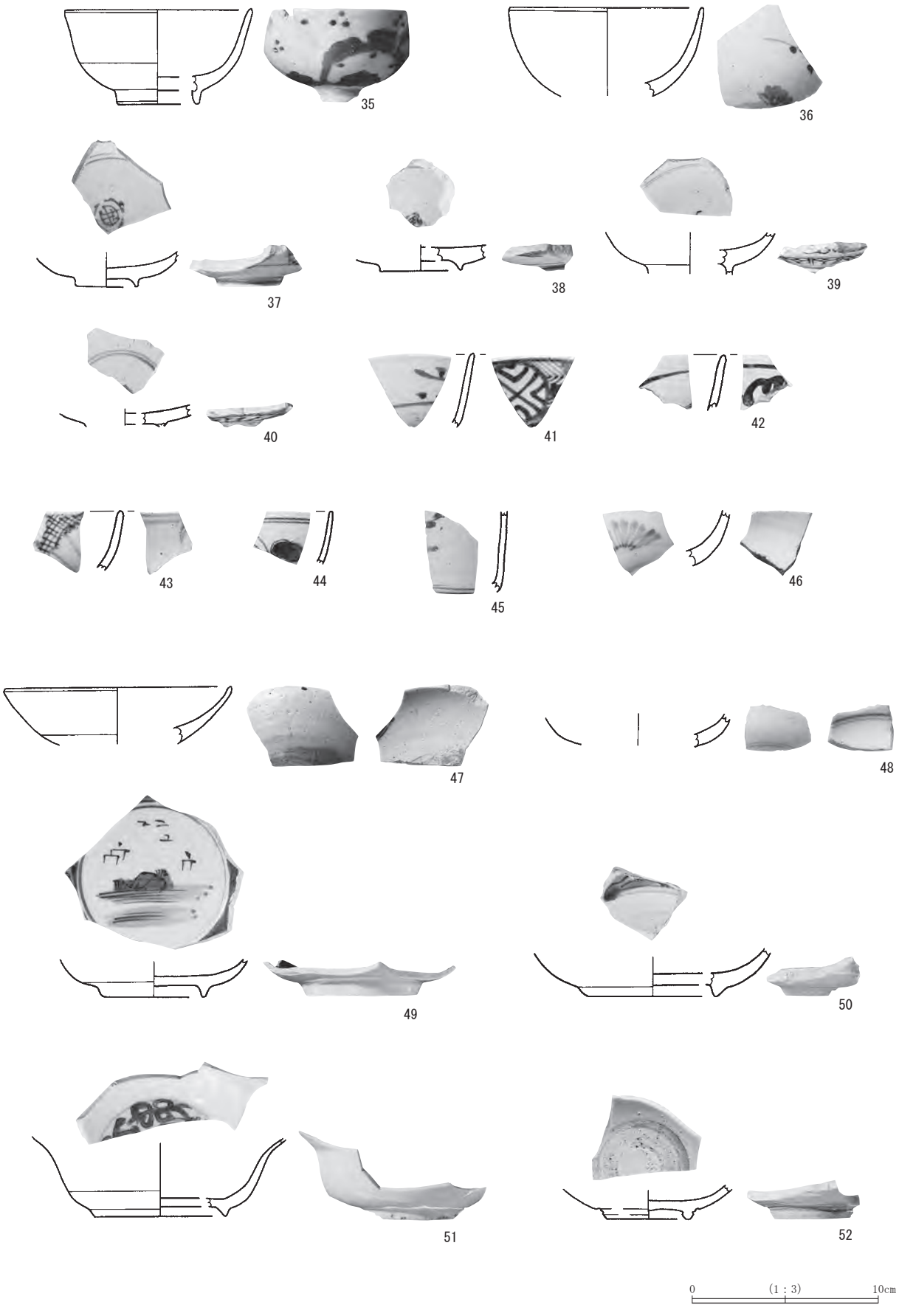
出土遺物
概要に記載した通り、遺跡からは少ないながらも多岐にわたる遺物が出土している。この結果からは、中世城館の構築時にそれより古い時期の遺跡が削平されたものと考えられる。以下には種別ごとにまとめていく。
［縄文土器］５・６は後期に属するが、それ以外の時期については不明である。
［弥生土器］16～23は周辺の遺跡から出土している弥生時代後期に属する土器の原体と類似していることから、それらと同時期のものと想定される。
［縄文～弥生石器］24は頁岩製掻器である。上記の何れかの時期に伴うものと考えられる。
［土師器・須恵器］25～27は土師器坏、28～33は土師器甕、34は須恵器甕である。土師器坏は10世紀前後に捉えられるが、それ以外は判然としないため奈良～平安時代の時期幅で捉えておきたい。
［近世陶磁器］35～79は肥前産、83～85は志野産、86～102は相馬産、そのほかには常滑産や東北産、在地産などがある。主体を占めるのは肥前産と相馬産の碗・皿類であり、前者は18世紀代、後者は19世紀後半に属するものが多い傾向にある。それ以外は19世紀以降が主体である。17世紀前半に属するものは志野産と51の肥前産しか確認できず、城館期からこの間を埋めるような時期の遺物は存在しておらず若干の空白が認められる。
［銭貨］118～120は寛永通宝、121は文久永宝である。
［石製品］111～116は凝灰岩製の砥石である。
［鉄製品］122は鎌、123は鍋である。
［土製品］124～129はいずれも焼台の欠損品である。このような遺物を確認できたものの、近世以降の陶磁器に該当するものは確認できなかった。


5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
24
(2：3)
0
5cm
その他
(1：3)
0
10cm

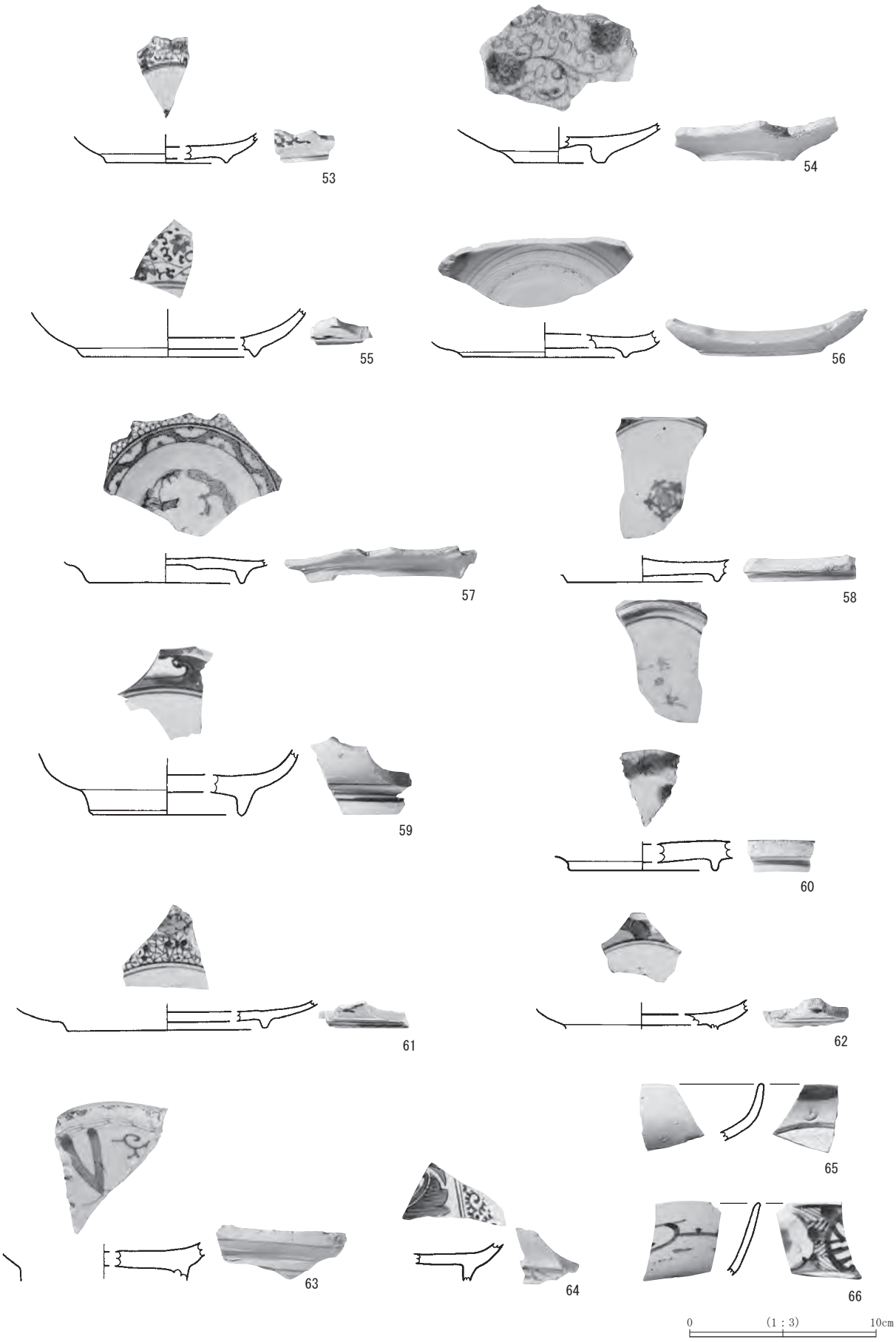
第58図　出土遺物（2）



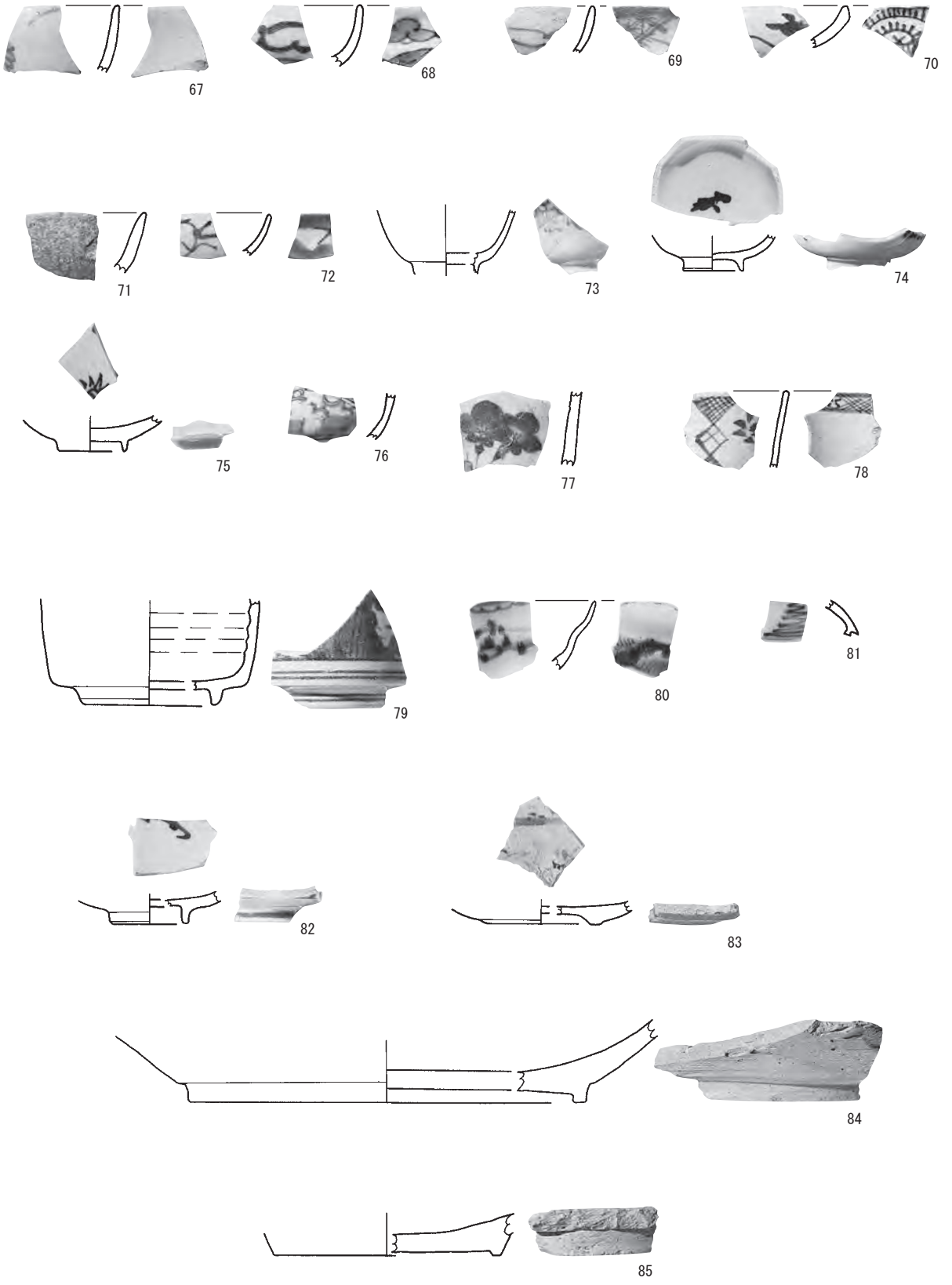
第59図　出土遺物（３）



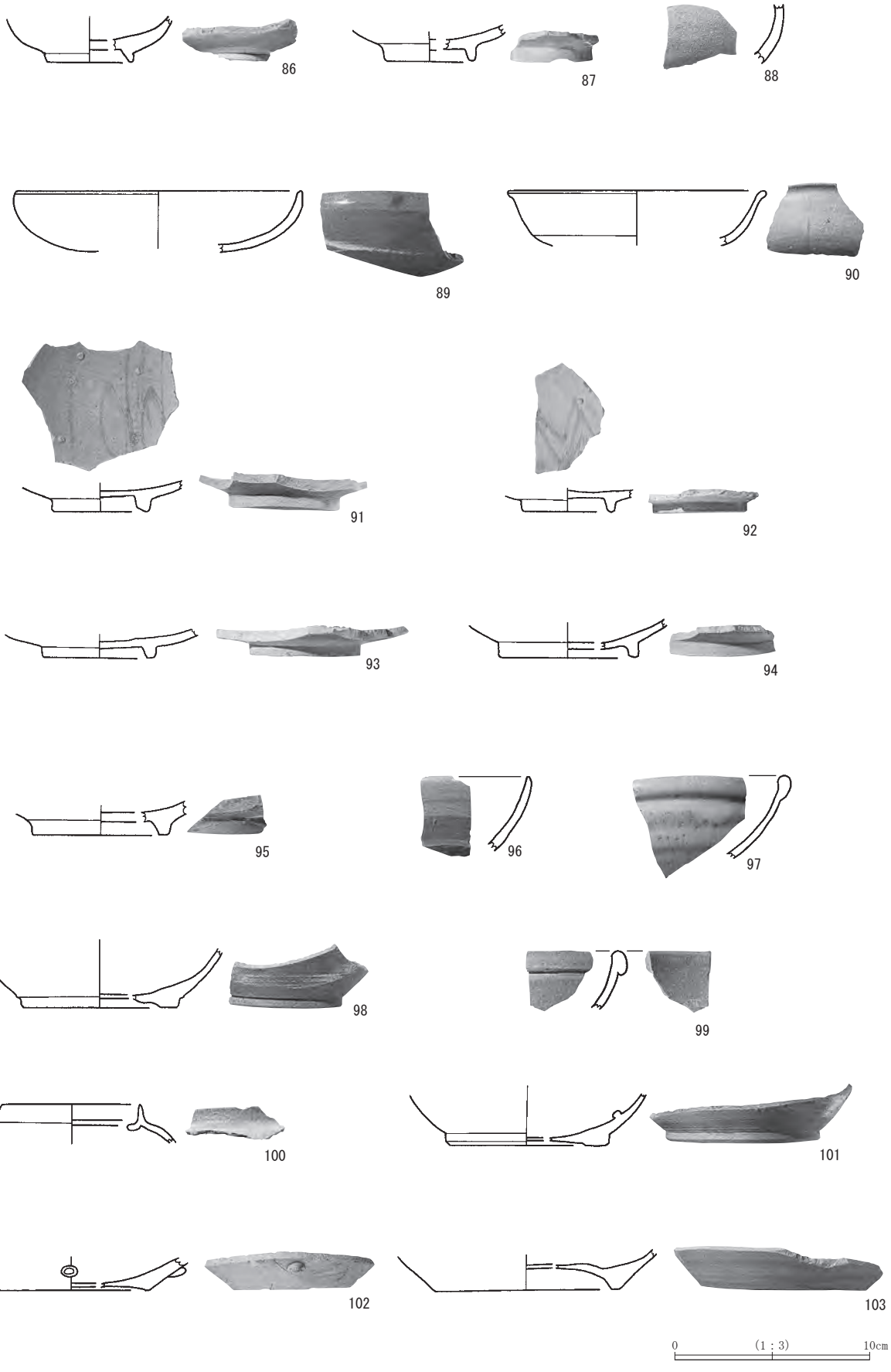
第60図　出土遺物（４）



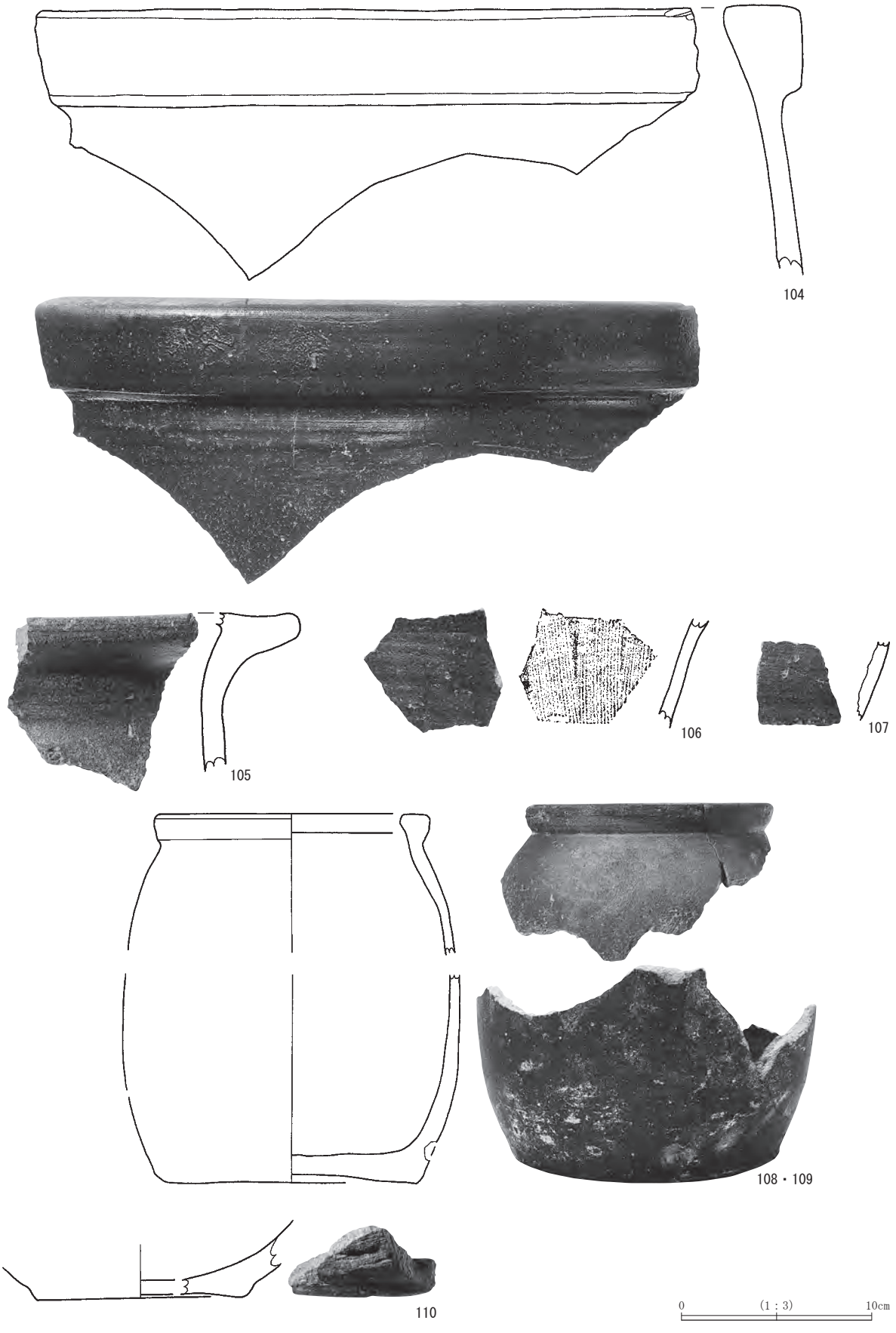
第61図　出土遺物（5）



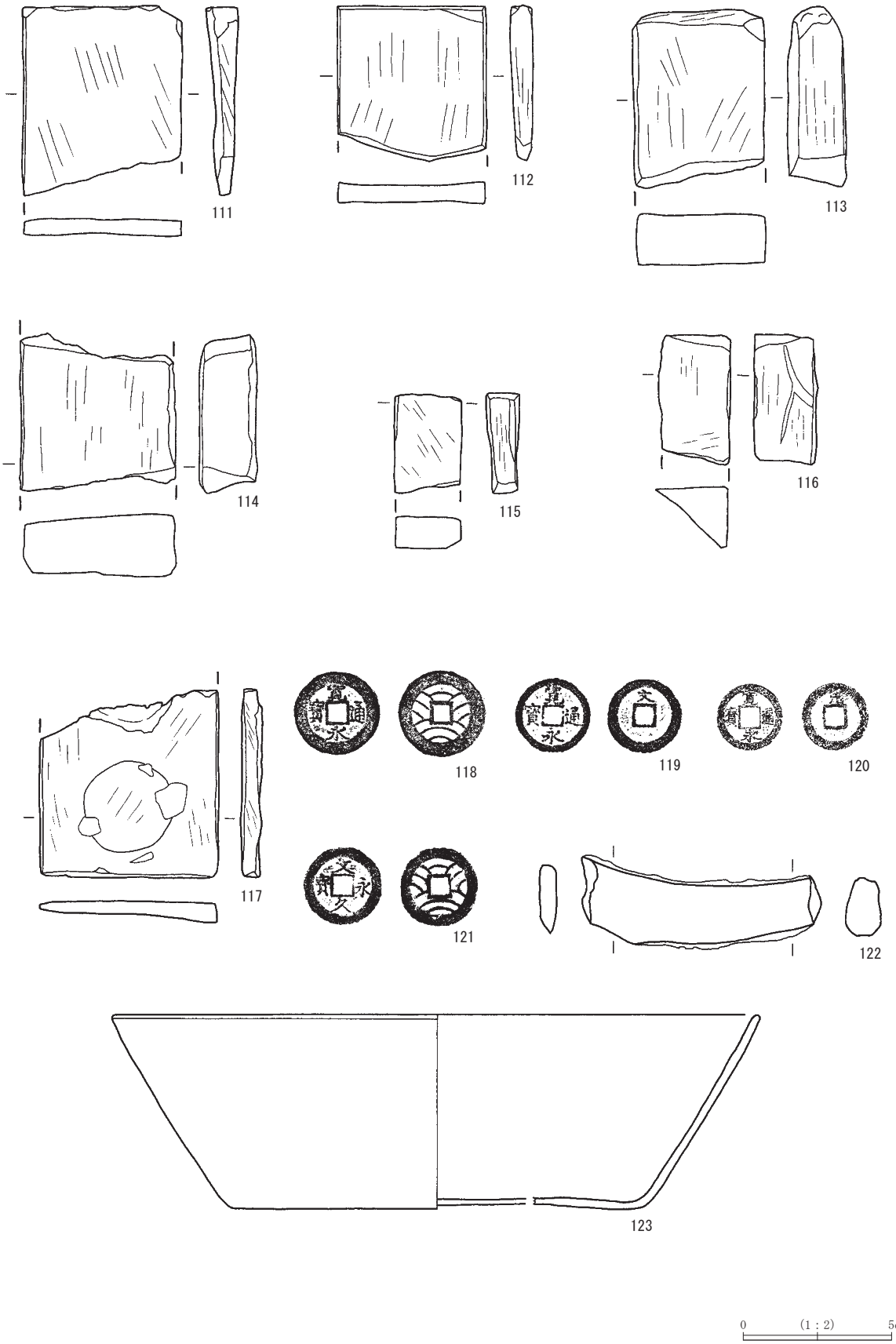
第62図　出土遺物（6）



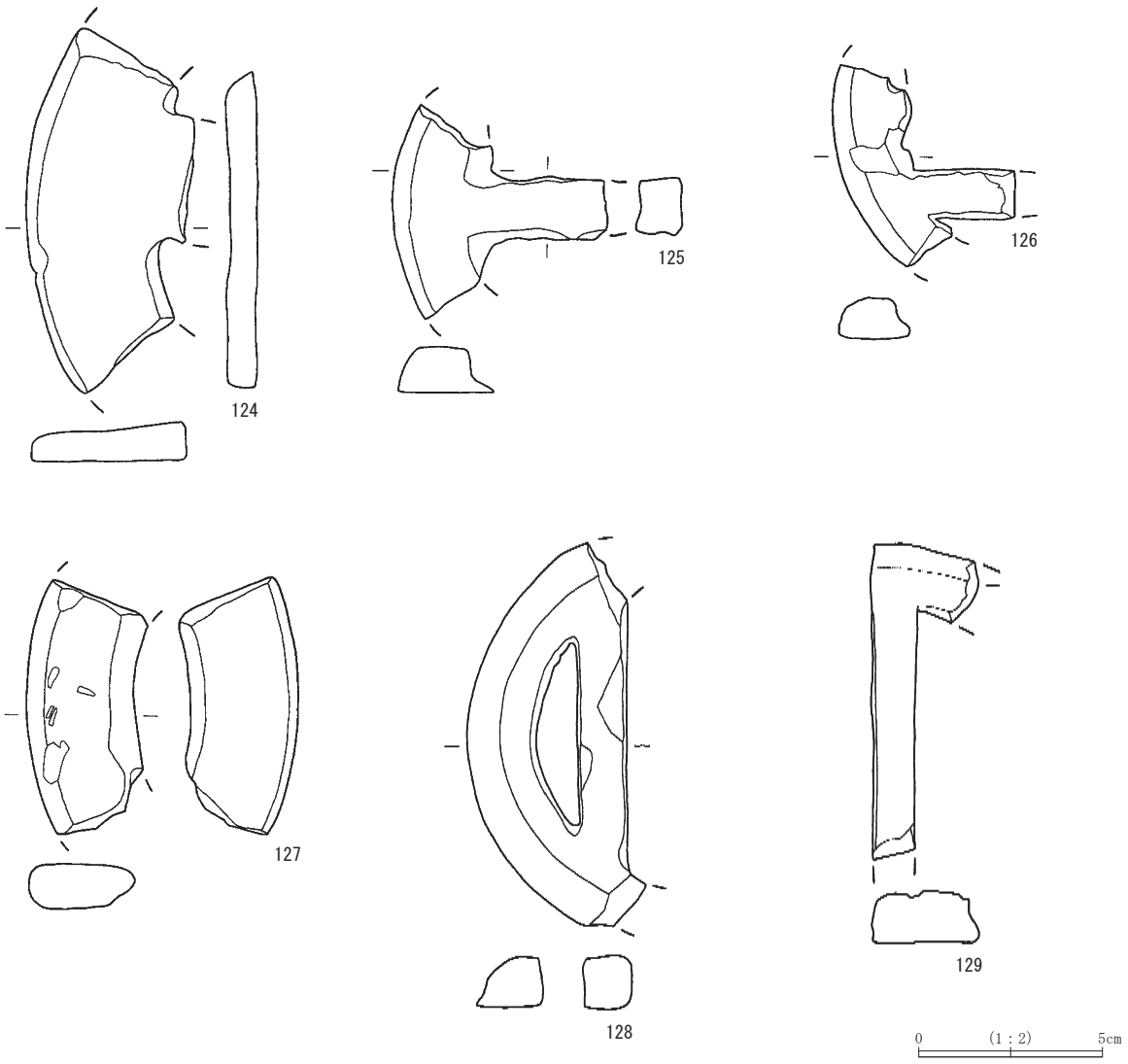
第63図　出土遺物（7）



第64図　出土遺物（8）



第65図　出土遺物（9）



第66図　出土遺物（10）

第３表　縄文土器・土師器・須恵器観察表

番号	出土地点	種別	器種	残存部位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様･調整	時代	備考	図版	写図
5	堀１　埋土上層	土器	深鉢	胴部	-	(4.4)	-	外：LR、多重沈線	縄文後期	外面にコゲ一部付着	58	39
6	堀１周辺　Ⅱ層	土器	深鉢	胴部	-	(2.5)	-	外：LR、多重沈線	縄文後期		58	39
7	虎口東トレンチ	土器	深鉢	口縁部	-	(3.7)	-	外：RL	縄文		58	39
8	Ｔ26　Ⅲ層	土器	深鉢	胴部	-	(3.3)	-	外：RLR	縄文		58	39
9	平場６　Ⅰ層～検出面	土器	深鉢	胴部	-	(2.7)	-	外：RL	縄文		58	39
10	平場１　Ⅰ層～検出面	土器	深鉢	胴部	-	(3.0)	-	外：LR？	縄文		58	39
11	平場３　Ⅰ層～検出面	土器	深鉢	胴部	-	(3.6)	-	外：LR	縄文		58	39
12	Ｔ25　Ⅳa層	土器	深鉢	胴部	-	(2.2)	-	外：LR	縄文	外面に一部赤色顔料付着	58	39
13	Ｔ25　Ⅳa層	土器	深鉢	胴部	-	(1.9)	-	外：RL（磨滅）	縄文		58	39
14	切岸　２層	土器	深鉢	胴部	-	(2.5)	-	外：RL？（磨滅）	縄文		58	39
15	堀１周辺　Ⅱ層	土器	深鉢	底部	-	(1.2)	6.4	外：RL	縄文		58	39
16	版築３　埋土	土器	甕	胴部	-	(3.3)	-	外：付加条？L	弥生後期	外面に一部赤色顔料付着	58	39
17	版築３　埋土	土器	甕	胴部	-	(3.5)	-	外：付加条？L	弥生後期	外面に赤色顔料付着	58	39
18	版築３　埋土	土器	甕	胴部	-	(4.5)	-	外：付加条？L	弥生後期		58	39
19	版築３　埋土	土器	甕	胴部	-	(4.1)	-	外：付加条？L	弥生後期	外面に一部赤色顔料付着	58	39
20	T112　Ⅳ層	土器	甕	胴部	-	(3.7)	-	外：付加条？L	弥生後期		58	39
21	T128　Ⅰ層	土器	甕	胴部	-	(2.7)	-	外：付加条？L	弥生後期		58	39
22	版築３　埋土	土器	甕	胴部	-	(2.8)	-	外：付加条？L	弥生後期		58	39
23	Ｔ12　カクラン	土器	甕	底～胴部	-	(3.2)	-		弥生後期		58	39
25	T112　Ⅳ層	土師器	坏	底部	-	(1.1)	-				59	39
26	T109　Ⅰ層	土師器	坏	底部	-	(1.1)	(6.0)				59	39
27	T109　Ⅰ層	土師器	坏	底部	-	(0.8)	(6.6)				59	39
28	T109　Ⅰ層	土師器	甕	口縁	-	(2.8)	-				59	39
29	平場１　Ⅰ層～検出面	土師器	甕	胴部	-	(5.3)	-	外：ヘラケズリ　　内：ハケ	古代		59	39
30	切岸14　Ⅰ層～検出面	土師器	甕	胴部	-	(4.2)	-	外：ヘラケズリ　　内：ハケ	古代		59	39
31	表採	土師器	甕	胴部	-	(3.8)	-	外：ヘラケズリ　　内：ハケ	古代		59	39
32	切岸６　Ⅰ層～検出面	土師器	甕	底部	-	(2.5)	-	外：ヘラケズリ、ハケ　内：ハケ	古代		59	39
33	版築５　埋土	土師器	甕	底部	-	(4.1)	-	外：ヘラケズリ　　内：ハケ	古代		59	39
34	表採	須恵器	甕	胴部	-	(8.7)	-				59	39

第４表　石器・石製品・銭貨・鉄製品・土製品観察表

番号	出土地点	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石器材料	図版	写図
4	Ｔ７　カクラン	茶臼	20.7	6.8	3.8	677.9	安山岩	56	40
24	堀１　埋土上層	RF	6.2	5.9	1.2	34.7	頁岩	58	39
111	切岸３　Ⅰ層～検出面	砥石	6.3	5.3	1.1	35.1	凝灰岩	65	39
112	平場２　検出面	砥石	5.2	5.0	0.8	27.0	凝灰岩	65	39
113	切岸12　検出面	砥石	6.0	4.4	2.0	69.7	安山岩	65	39
114	T115　Ⅱ層	砥石	5.4	5.3	2.1	84.9	凝灰岩	65	40
115	T120　Ⅰ～Ⅱ層	砥石	3.3	2.2	1.1	11.5	凝灰岩	65	40
116	T120　Ⅰ～Ⅱ層	砥石	4.4	2.4	2.1	25.2	凝灰岩	65	40
117	切岸16・17　Ⅰ層	砥石	6.3	6.0	0.7	35.5	凝灰岩	65	40
118	平場３　Ⅰ層	寛永通宝	2.9	-	-	6.4	－	65	40
119	曲輪Ⅴ　Ⅰ層	寛永通宝	2.55	-	-	2.4	－	65	40
120	平場16　検出面	寛永通宝	2.3	-	-	22	－	65	40
121	平場３　Ⅰ層～検出面	文久永宝	2.65	-	-	2.7	－	65	40
122	切岸１２　検出面	鎌	8.1	2.6	1.2	56.2	－	65	40
123	土塁２　Ⅰ層～検出面	鍋	(21.8)	6.5	(14.0)	162.7	－	65	40
124	平場３　Ⅰ層	焼台	9.9	4.5	1.1	42.2	－	66	40
125	版築２　埋土上層	焼台	5.8	5.7	1.3	29.8	－	66	40
126	平場３　Ⅰ層	焼台	5.5	5.0	1.2	23.2	－	66	40
127	平場１　検出面	焼台	7.0	3.3	1.2	30.9	－	66	40
128	堀１　Ⅰ層～検出面	焼台	10.4	4.3	1.4	59.1	－	66	40
129	堀１　１層	焼台	8.4	3.0	1.3	20.6	－	66	40
分析資料	切岸６　Ⅰ層～検出面	鉄滓	5	3	2	78.0	－	－	－
分析資料	平場９　検出面	鉄滓	3	3	2	39.0	－	－	－

第５表　陶磁器観察表

番号	出土地点	種別	器種	残存部位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	絵付	釉薬	産地	時代	図版
1	平場２　検出面	中国産磁器	染付皿	口縁	-	(1.7)	-	青花	透明	中国・景徳鎮	16c後半	56
2	堀１　埋土上層	中国産磁器	染付碗	口縁	-	(2.5)	-	青花	透明	中国・景徳鎮	16c後半	56
3	Ｔ13　Ⅱｂ層	中国産磁器	青磁碗	口縁	-	(1.5)	-		青磁	中国	16c	56
35	切岸５　Ⅰ層～検出面	磁器	碗	口縁～底部	(9.8)	5.0	(4.4)	草花文	透明	肥前	18ｃ	60
36	切岸17　Ⅰ層	磁器	碗	口縁～胴部	(10.4)	(4.7)	-	草花文	透明	肥前	18ｃ	60
37	表採	磁器	碗	底～胴部	-	(1.5)	(3.2)	草花文	透明	肥前	18ｃ	60
38	切岸５　Ⅰ層～検出面	磁器	碗	底～胴部	-	(0.7)	(4.2)	草花文	透明	肥前	19ｃ	60
39	平場14　Ⅰ層	磁器	碗	胴部	-	(2.1)	-	不明	透明	肥前	19ｃ	60
40	曲輪Ⅴ　カクラン	磁器	碗	胴部	-	(0.6)	-	草花文	透明	肥前	18ｃ	60
41	土塁２　Ⅰ層～検出面	磁器	碗	口縁	-	(3.8)	-	草花文	透明	肥前	19ｃ	60
42	平場３　Ⅰ層	磁器	碗	口縁	-	(2.8)	-	草花文？	透明	肥前	18ｃ	60
43	平場３　Ⅰ層～検出面	磁器	碗	口縁	-	(3.2)	-	菊花文	透明	肥前	18ｃ	60
44	土塁２　Ⅰ層～検出面	磁器	碗	口縁	-	(2.7)	-	草花文	透明	肥前	19ｃ	60
45	切岸６　Ⅰ層～検出面	磁器	碗	胴部	-	(4.3)	-	草花文	透明	肥前	18ｃ	60
46	平場３　Ⅰ層	磁器	碗	胴部	-	(2.9)	-	草花文	透明	肥前	18～19ｃ	60
47	表採	磁器	皿	口縁～胴部	(12.0)	(3.0)	-		透明	肥前	18～19ｃ	60
48	切岸17　Ⅰ層	磁器	皿	胴部	-	(1.5)	-		透明	肥前	18～19ｃ	60
49	切岸５　Ⅰ層～検出面	磁器	皿	底～胴部	-	(1.9)	(5.4)	山水文	透明	肥前	18ｃ	60
50	曲輪Ⅳ　表採	磁器	皿	底部	-	(2.0)	(7.2)	草花文	透明	肥前	18ｃ	60
51	切岸17　Ⅰ層	磁器	皿	底～胴部	-	(4.1)	(7.0)	草花文	透明	肥前	17ｃ前半	60
52	切岸17　Ⅰ層	磁器	皿	底～胴部	-	(1.6)	(4.6)		透明	肥前	18ｃ	60
53	平場２　検出面	磁器	皿	底～胴部	-	(1.3)	(6.4)	草花文	透明	肥前	18～19ｃ	61
54	Ｔ40　Ⅱ層	磁器	皿	底～胴部	-	(1.8)	(4.8)	草花文	透明	肥前	17ｃ	61
55	平場16　Ⅰ層	磁器	皿	底～胴部	-	(2.3)	(9.2)	草花文	透明	肥前	18～19ｃ	61
56	表採	磁器	皿	底～胴部	-	(1.4)	(8.6)		透明	肥前	18ｃ	61
57	平場１　検出面	磁器	皿	底～胴部	-	(1.0)	(8.6)		透明	肥前	19ｃ	61
58	切岸５　Ⅰ層～検出面	磁器	皿	底部	-	(0.4)	(8.0)	草花文	透明	肥前	18ｃ	61
59	切岸３　Ⅰ層～検出面	磁器	皿	底～胴部	-	(3.2)	(8.0)	草花文	透明	肥前	18ｃ	61
60	切岸12　検出面	磁器	皿	底～胴部	-	(0.7)	(7.8)	草花文	透明	肥前	18ｃ	61
61	堀１　埋土上層	磁器	皿	底～胴部	-	(1.4)	(10.6)	草花文	透明	肥前	18ｃ	61
62	切岸６　Ⅰ層～検出面	磁器	皿	胴部	-	(1.0)	-	草花文	透明	肥前	18ｃ	61
63	堀１周辺　表採	磁器	皿	底～胴部	-	(1.3)	-		透明	肥前	19ｃ	61
64	切岸12　検出面	磁器	皿	底～胴部	-	(1.9)	-	草花文	透明	肥前	18～19ｃ	61
65	土塁２　Ⅰ層～検出面	磁器	皿	口縁	-	(3.0)	-		透明	肥前	18ｃ	61
66	土塁２　Ⅰ層～検出面	磁器	皿	口縁	-	(3.7)	-	草花文	透明	肥前	18ｃ	61
67	Ｔ７　カクラン	磁器	皿	口縁～胴部	-	(3.5)	-	草花文	透明	肥前	18ｃ	62
68	切岸５　Ⅰ層～検出面	磁器	皿	口縁～胴部	-	(3.0)	-	草花文	透明	肥前	18ｃ	62
69	平場２　検出面	磁器	皿	口縁	-	(2.4)	-	草花文	透明	肥前	18ｃ	62
70	切岸６　Ⅰ層～検出面	磁器	皿	口縁	-	(2.0)	-	草花文	透明	肥前	20c	62
71	Ｔ13　Ⅱｂ層	磁器	皿	口縁	-	(3.0)	-	草花文		肥前	18～19ｃ	62
72	Ｔ15　Ⅲa層	磁器	皿	口縁	-	(2.2)	-	草花文	透明	肥前	18ｃ	62
73	切岸12　Ⅰ層	磁器	小坏	底～胴部	-	(3.2)		草花文	透明	肥前	18ｃ	62
74	平場14　Ⅰ層	磁器	小坏	底～胴部	-	(1.7)	(2.8)		透明	肥前	20ｃ	62
75	切岸５　Ⅰ層～検出面	磁器	小坏	底～胴部	-	(1.4)	(3.3)		透明	肥前	18～19ｃ	62
76	曲輪Ⅴ　カクラン	磁器	小坏	胴部	-	(2.2)	-	草花文	透明	肥前	19ｃ	62
77	切岸６　Ⅰ層～検出面	磁器	瓶	頸部	-	(3.7)	-	草花文	透明	肥前	19ｃ	62
78	平場２　検出面	陶器	湯飲	口縁～胴部	-	(3.7)	-	草花文	透明	肥前	18ｃ	62
79	表採	磁器	香炉	底～胴部	-	(5.2)	(6.6)	草花文	透明	肥前	18ｃ	62
80	T110　Ⅰ層	磁器	皿	口縁	-	(3.3)	-	草花文	透明	瀬戸	19ｃ	62
81	表採	磁器	蓋	-	-	(1.7)	-	草花文	透明	瀬戸	19ｃ	62
82	曲輪Ⅳ　表採	磁器	碗	底部	-	(1.1)	(3.6)		透明	東北	19c	62
83	堀１周辺　表土～Ⅱ層土	陶器	皿	底～胴部	-	(0.7)	(5.6)			志野	17ｃ前半	62
84	曲輪Ⅴ　検出面	陶器	鉢	底～胴部	-	(3.4)	(20.0)		長石?	志野	17ｃ前半	62
85	Ｔ１　Ⅰ層	陶器	鉢	底～胴部	-	(1.1)	(11.4)		長石?	志野	17ｃ前半	62
86	曲輪Ⅳ　表採	陶器	碗	底～胴部	-	(2.1)	(4.4)		灰?	相馬	18ｃ	63
87	T117　Ⅱ層	陶器	碗	底部	-	(1.5)	(4.4)		灰?	相馬	19ｃ	63
88	曲輪Ⅳ　表採	陶器	碗	胴部	-	(3.0)	-		灰?	相馬	19ｃ後半	63
89	曲輪Ⅳ　表採	陶器	皿	口縁～胴部	(14.6)	(3.1)	-		透明	相馬	19ｃ後半	63
90	平場２　検出面	陶器	皿	口縁～胴部	(13.2)	(2.7)	-		灰?	相馬	19ｃ後半	63
91	切岸12　検出面	陶器	皿	底～胴部	-	(1.2)	(4.6)	草花文	灰?	相馬	19ｃ後半	63
92	表採	陶器	皿	底～胴部	-	(0.8)	(4.4)		灰?	相馬	19ｃ後半	63
93	曲輪Ⅳ　表採	陶器	皿	底～胴部	-	(1.2)	(5.6)		灰?	相馬	19ｃ後半	63
94	表採	陶器	皿	底～胴部	-	(1.6)	(6.6)		灰?	相馬	19ｃ後半	63
95	曲輪Ⅳ　表採	陶器	皿	底部	-	(1.0)	(6.8)		灰?	相馬	19ｃ後半	63
96	平場２　検出面	陶器	皿	口縁～胴部	-	(3.8)	-		灰?	相馬	19ｃ後半	63
97	切岸12　検出面	陶器	甕	口縁～胴部	-	(4.2)	-		透明	相馬	19ｃ後半	63
98	表採	陶器	甕	底～胴部	-	(2.7)	(7.8)		灰?	相馬	19ｃ後半	63
99	平場２　検出面	陶器	甕	口縁	-	(2.9)	-		灰?	相馬	19ｃ後半	63
100	切岸６　Ⅰ層	陶器	急須	口縁	(7.0)	(1.9)	-		灰?	相馬	19ｃ後半	63
101	曲輪Ⅳ　表採	陶器	甕	底～胴部	-	(2.6)	(8.0)		灰?	相馬	19ｃ	63
102	曲輪Ⅲ　Ⅰ層	陶器	鉢	底部	-	(1.6)	(8.0)		灰?	相馬	19ｃ後半	63
103	Ｔ43　Ⅲ層	陶器	香炉	底～胴部	-	(1.8)	(9.6)			在地	19ｃ	63
104	曲輪Ⅳ　表採	陶器	甕	口縁	-	(14.1)	-			東北	20c	64
105	土塁２　Ⅰ層～検出面	陶器	甕	口縁	-	(7.8)	-		鉄?	常滑	19ｃ	64
106	切岸５　Ⅰ層～検出面	陶器	擂鉢	胴部	-	(5.5)	-		鉄?	在地	19ｃ	64
107	平場３　Ⅰ層	陶器	擂鉢	胴部	-	(4.1)	-		鉄?	在地	18ｃ	64
108	切岸５　Ⅰ層～検出面	陶器	甕	口縁～胴部	(14.4)	(7.0)	-			東北	20c	64
109	切岸６　Ⅰ層～検出面	陶器	甕	底～胴部	-	(11.0)	13.0		鉄?	常滑	19ｃ	64
110	切岸６　Ⅰ層～検出面	陶器	甕	底～胴部	-	(1.7)	(10.6)			在地	19ｃ	64

Ⅶ　自然科学分析

1　放射性炭素年代（AMS測定）

（株）加速器分析研究所

1　測定対象試料

高田城跡は、岩手県陸前高田市高田町字洞ノ沢・鳴石・本丸地内（北緯39° 1′ 16″、東経141° 37′ 44″）に所在する。測定対象試料は、城館に伴う盛土の堆積層から出土した炭化物７点である（表１）。

2　測定の意義

城館の構築時期を明らかにする。

3　化学処理工程

（１）木メス・ピンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。

（２）酸-アルカリ-酸（AAA：Acid Alkali Acid）処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常1mol/ℓ（1M）の塩酸（HCl）を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム（NaOH）水溶液を用い、0.001Mから1Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が1Mに達した時には「AAA」、1M未満の場合は「AaA」と表１に記載する。

（３）試料を燃焼させ、二酸化炭素（CO_2）を発生させる。

（４）真空ラインで二酸化炭素を精製する。

（５）精製した二酸化炭素を、鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト（C）を生成させる。

（６）グラファイトを内径１㎜のカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

4　測定方法

加速器をベースとした^{14}C-AMS専用装置（NEC社製）を使用し、^{14}Cの計数、^{13}C濃度（$^{13}C/^{12}C$）、^{14}C濃度（$^{14}C/^{12}C$）の測定を行う。測定では、米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOxⅡ）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

5　算出方法

（１）δ^{13}Cは、試料炭素の^{13}C濃度（$^{13}C/^{12}C$）を測定し、基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表した値である（表１）。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。

（２）^{14}C年代（Libby Age：yrBP）は、過去の大気中^{14}C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年（0yrBP）として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期（5568年）を使用する（Stuiver and Polach 1977）。^{14}C年代はδ^{13}Cによって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表１に、補正していない値を参考値として表２に示した。^{14}C年代と誤差は、下１桁を丸めて10年単位で表示される。また、^{14}C年代の誤差（±1σ）

は、試料の^{14}C年代がその誤差範囲に入る確率が68.2％であることを意味する。

（３）pMC（percent Modern Carbon）は、標準現代炭素に対する試料炭素の^{14}C濃度の割合である。pMCが小さい（^{14}Cが少ない）ほど古い年代を示し、pMCが100以上（^{14}Cの量が標準現代炭素と同等以上）の場合Modernとする。この値もδ^{13}Cによって補正する必要があるため、補正した値を表１に、補正していない値を参考値として表２に示した。

（４）暦年較正年代とは、年代が既知の試料の^{14}C濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の^{14}C濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、^{14}C年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、１標準偏差（1σ＝68.2％）あるいは２標準偏差（2σ＝95.4％）で表示される。グラフの縦軸が^{14}C年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、δ^{13}C補正を行い、下１桁を丸めない^{14}C年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal13データベース（Reimer et al. 2013）を用い、OxCalv4.2較正プログラム（Bronk Ramsey 2009）を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表２に示した。暦年較正年代は、^{14}C年代に基づいて較正（calibrate）された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」（または「cal BP」）という単位で表される。

６　測　定　方　法

測定結果を表１、２に示す。

試料の^{14}C年代は、試料６がModern、その他の６点は240±20yrBP（試料１）から130±20yrBP（試料５、７）の間に収まる。暦年較正年代（1σ）は、最も古い試料１が1648～1793cal ADの間に２つの範囲、試料６を除いて最も新しい試料５、７が1684～1929cal ADの間に５つの範囲で示される。なお、試料１～５、７の較正年代については、記載された値よりも新しい可能性がある点に注意を要する（表２下の警告参照）。

試料の炭素含有率はすべて50％を超え、化学処理、測定上の問題は認められない。

表１　放射性炭素年代測定結果（δ^{13}C 補正値）

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	δ^{13}C (‰) (AMS)	δ^{13}C 補正あり	
						Libby Age（yrBP）	pMC (%)
IAAA-141970	1	盛土２ 29 層上面	炭化物	AAA	**-30.30 ± 0.22**	**240 ± 20**	**97.07 ± 0.26**
IAAA-141971	2	盛土２ 29 層上面	炭化物	AAA	**-29.65 ± 0.22**	**230 ± 20**	**97.15 ± 0.25**
IAAA-141972	3	盛土２ 35 層上面	炭化物	AAA	**-27.40 ± 0.39**	**220 ± 20**	**97.25 ± 0.28**
IAAA-141973	4	盛土２ 35 層上面	炭化物	AAA	**-26.96 ± 0.21**	**220 ± 20**	**97.26 ± 0.27**
IAAA-141974	5	盛土２ 50 層	炭化物	AAA	**-28.60 ± 0.25**	**130 ± 20**	**98.43 ± 0.26**
IAAA-141975	6	盛土２ 50 層	炭化物	AAA	**-30.16 ± 0.22**	**Modern**	**125.91 ± 0.29**
IAAA-141976	7	盛土７ 下層	炭化物	AaA	**-26.80 ± 0.33**	**130 ± 20**	**98.44 ± 0.28**

［#6958］

表 2　放射性炭素年代測定結果（δ ^{13}C 未補正値、暦年較正用 ^{14}C 年代、較正年代）

測定番号	δ ^{13}C 補正なし		暦年較正用(yrBP)	1σ 暦年代範囲	2σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-141970	330 ± 20	96.02 ± 0.26	238 ± 21	1648calAD - 1665calAD (50.8%)* 1785calAD - 1793calAD (17.4%)*	1641calAD - 1670calAD (62.1%)* 1780calAD - 1800calAD (30.3%)* 1943calAD - ... (3.0%)*
IAAA-141971	310 ± 20	96.22 ± 0.25	232 ± 21	1650calAD - 1666calAD (42.9%)* 1785calAD - 1795calAD (25.3%)*	1642calAD - 1672calAD (54.8%)* 1778calAD - 1800calAD (35.5%)* 1942calAD - ... (5.1%)*
IAAA-141972	260 ± 20	96.77 ± 0.26	224 ± 22	1652calAD - 1667calAD (35.1%)* 1783calAD - 1797calAD (33.1%)*	1643calAD - 1679calAD (44.9%)* 1764calAD - 1800calAD (40.9%)* 1939calAD - ... (9.6%)*
IAAA-141973	260 ± 20	96.87 ± 0.26	223 ± 22	1652calAD - 1668calAD (34.2%)* 1782calAD - 1797calAD (34.0%)*	1644calAD - 1680calAD (43.7%)* 1764calAD - 1801calAD (41.5%)* 1939calAD - ... (10.2%)*
IAAA-141974	190 ± 20	97.71 ± 0.25	126 ± 21	1684calAD - 1706calAD (12.4%)*** 1719calAD - 1734calAD (8.2%)*** 1807calAD - 1820calAD (7.2%)*** 1833calAD - 1883calAD (31.3%)*** 1914calAD - 1929calAD (9.0%)***	1680calAD - 1764calAD (32.3%)*** 1801calAD - 1894calAD (48.5%)*** 1906calAD - 1939calAD (14.6%)***
IAAA-141975	Modern	124.58 ± 0.29	Modern		
IAAA-141976	160 ± 20	98.08 ± 0.27	126 ± 22	1684calAD - 1707calAD (12.8%)** 1719calAD - 1734calAD (8.2%)** 1807calAD - 1820calAD (7.2%)** 1833calAD - 1883calAD (31.0%)** 1914calAD - 1929calAD (8.9%)**	1680calAD - 1764calAD (32.7%)** 1801calAD - 1894calAD (48.1%)** 1906calAD - 1939calAD (14.6%)**

［参考値］

* Warning! Date may extend out of range

** Warning! Date may extend out of range

Warning! Date probably out of range

*** Warning! Date probably out of range

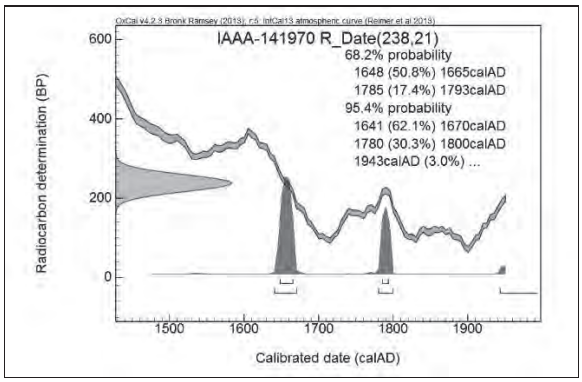
（これらの警告は較正プログラム OxCal が発するもので、試料の ^{14}C 年代に対応する較正年代が、当該暦年較正曲線で較正可能な範囲を超える新しい年代となる可能性があることを表す。*、**、***の順にその可能性が高くなる。）

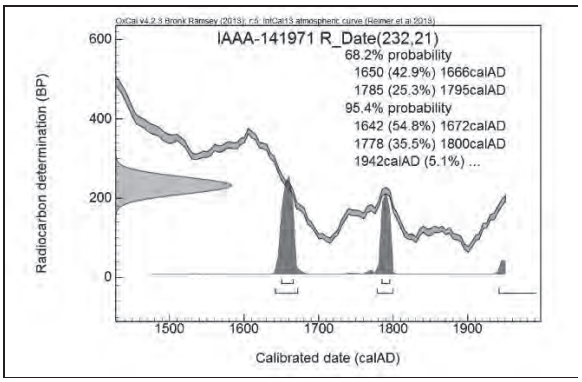
文献

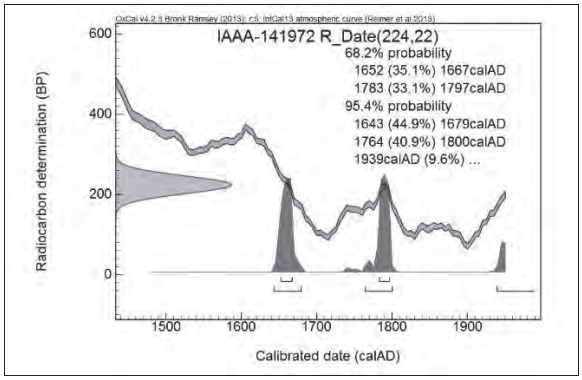
Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51(1), 337-360

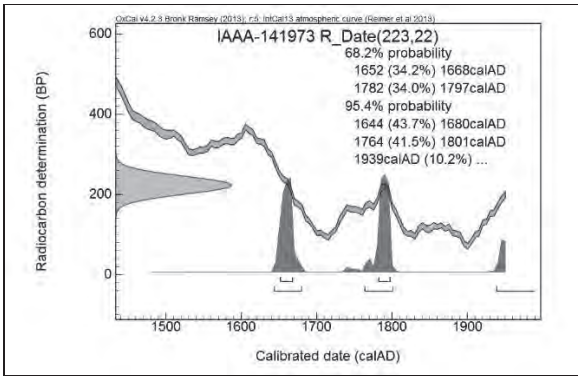
Reimer, P.J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, *Radiocarbon* 55(4), 1869-1887

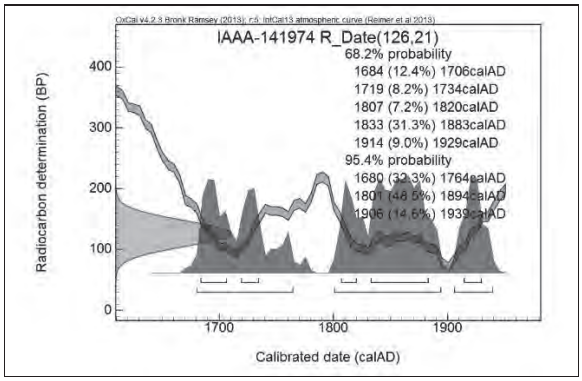
Stuiver, M. and Polach, H.A. 1977 Discussion: Reporting of ^{14}C data, *Radiocarbon* 19(3), 355-363

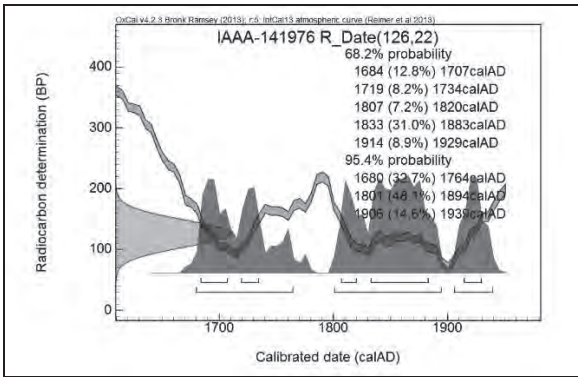












[図版]暦年較正年代グラフ（参考）

2　出土鉄滓成分分析

株式会社古環境研究所

1　は　じ　め　に

高田城跡は、岩手県陸前高田市高田町鳴石地内に所在する中世城館である。発掘調査地区において中世後期とみられる時期の鉄滓が出土している。そこで、鉄器生産に関して検討する目的で分析調査を実施する運びとなった。

2　試 料 と 方 法

（1）供　試　材

試料をTable1に示す。出土した鉄滓２点について分析調査を行った。

（2）調　査　項　目

1）肉　眼　観　察

分析調査を実施する遺物の外観の特徴など、調査前の観察所見を記載した。

2）顕 微 鏡 組 織

鉄滓の鉱物組成や金属部の組織観察、非金属介在物の調査などを目的とする。

試料観察面を設定・切り出し後、試験片は樹脂に埋込み、エメリー研磨紙の#150、#240、#320、#600、#1000、及びダイヤモンド粒子の３μmと１μmで鏡面研磨した。また観察には金属反射顕微鏡を用い、特徴的・代表的な視野を選択して写真撮影を行った。

3）X 線 回 折 測 定

鉄滓中の化合物を同定するため、X線回折を実施した。X線を照射すると化合物の結晶の種類に応じて、それぞれ固有に反射（回折）された特性X線が検出される。このことを利用して、試料中の化合物を同定する。

4）化学組成分析

出土鉄滓の性状を調査するため、構成成分の定量分析を実施した。

全鉄分（Total Fe）、金属鉄（Metallic Fe）、酸化第一鉄（FeO）：容量法

炭素（C）、硫黄（S）：燃焼容量法、燃焼赤外吸収法

二酸化硅素（SiO_2）、酸化アルミニウム（Al_2O_3）、酸化カルシウム（CaO）、酸化マグネシウム（MgO）、酸化カリウム（K_2O）、酸化ナトリウム（Na_2O）、酸化マンガン（MnO）、二酸化チタン（TiO_2）、酸化クロム（Cr_2O_3）、五酸化燐（P_2O_5）、バナジウム（V）、銅（Cu）、二酸化ジルコニウム（ZrO_2）：ICP（Inductively Coupled Plasma Emission Spectrometer）法 ：誘導結合プラズマ発光分光分析

3　調　査　結　果

（1）TAK－1：椀形鍛冶滓

1）肉眼観察：平面不整楕円状でやや小形の椀形鍛冶滓（78.3g）である。表面には茶褐色の鉄錆化物や土砂が薄く付着するが、まとまった鉄部はみられない。また部分的に黒色ガラス質滓が付着しており、羽口先端溶融物と推測される。上下面とも細かい木炭痕による凹凸があり、木炭の噛み込みも複数みられる。滓の地の色調は黒灰色で着磁性がある。端部の小破面では細かい気孔が点在するが、比較的重量感のある滓である。

2）顕微鏡組織：Photo.1①～③に示す。白色粒状結晶ウスタイト（Wustite：FeO）、淡灰色

柱状結晶ファヤライト（Fayalite：$2FeO \cdot SiO_2$）が晶出する。鍛錬鍛冶滓の晶癖である。また滓中には微細な金属鉄粒が若干点在する。②③はその拡大で、３％ナイタルで腐食したところ、亜共析組織〔C＜0.77%。白色のフェライト（Ferrite：α鉄）、黒色層状のパーライト（Pearlite）〕が確認された。パーライトの面積率からは炭素含有率が0.4%前後の鋼と推測される。

３）X線回折測定結果：Fig.1に示す。ウスタイト（Wustite：FeO）、ファヤライト（Fayalite：$2FeO \cdot SiO_2$）、マグネタイト（Magnetite：$FeO \cdot Fe_2O_3$）が強い回折強度を示している。顕微鏡観察とほぼ一致する結果といえる。

さらにリューサイト（Anorthite：$CaAl_2Si_2O_8$）、ゲーサイト〔Goethite：FeO（OH）〕、石英（Quartz：SiO2）も同定された。これらは炉材粘土中の鉱物や錆化鉄部を反映したものと考えられる。

４）化学組成分析：Table2に示す。全鉄分（Total Fe）55.70%に対して、金属鉄（Metallic Fe）0.31%、酸化第1鉄（FeO）45.53%、酸化第2鉄（Fe_2O_3）28.61%の割合であった。造滓成分（$SiO_2 + Al_2O_3 + CaO + MgO + K_2O + Na_2O$）は18.74%と低めで、塩基性成分（CaO＋MgO）の割合も2.46%と低い。製鉄原料の砂鉄（含チタン鉄鉱）起源の二酸化チタン（TiO_2）は0.11%、バナジウム（V）が＜0.01%と低値であった。酸化マンガン（MnO）も0.07%と低値である。

（２）TAK－２：鍛冶滓

１）肉眼観察：ごく小形の鍛冶滓破片（39.0g）である。表面には茶褐色の鉄錆化物や土砂が薄く付着するが、まとまった鉄部はみられない。滓の地の色調は黒灰色で着磁性がある。側面は全面破面で、細かい気孔が点在するが緻密である。

２）顕微鏡組織：Photo.1④～⑥に示す。白色粒状結晶ウスタイト、淡灰色柱状結晶ファヤライトが晶出する。椀形鍛冶滓（TAK－1）と同様、鍛錬鍛冶滓の晶癖である。

また滓の下面表層よりには、微細な明白色の金属鉄粒や、不定形青灰色の錆化鉄部が点在する。⑤⑥はその拡大で、３％ナイタルで腐食したところ、亜共析組織が確認された。パーライトの面積率からは炭素含有率は0.1%前後の低炭素鋼（軟鉄）と推測される。

３）X線回折測定結果：Fig.2に示す。ウスタイト（Wustite：FeO）、ファヤライト（Fayalite：$2FeO \cdot SiO_2$）、マグネタイト（Magnetite：$FeO \cdot Fe_2O_3$）が強い回折強度を示している。顕微鏡観察とほぼ一致する結果といえる。

さらにリューサイト（Anorthite：$CaAl_2Si_2O_8$）、ゲーサイト〔Goethite：FeO（OH）〕、石英（Quartz：SiO_2）も同定された。椀形鍛冶滓（TAK－1）と非常に良く似た鉱物組成である。

４）化学組成分析：Table2に示す。全鉄分（Total Fe）53.99%に対して、金属鉄（Metallic Fe）0.12%、酸化第１鉄（FeO）56.19%、酸化第２鉄（Fe_2O_3）14.57%の割合であった。造滓成分（$SiO_2 + Al_2O_3 + CaO + MgO + K_2O + Na_2O$）25.76%であるが、塩基性成分（CaO＋MgO）の割合は2.74%と低い。製鉄原料の砂鉄（含チタン鉄鉱）起源の二酸化チタン（TiO_2）は0.19%、バナジウム（V）が＜0.01%と低値であった。酸化マンガン（MnO）も0.07%と低値である。

4　ま　と　め

高田城跡から出土した鉄滓２点は、鉄酸化物の割合が高く、砂鉄製錬滓や精錬鍛冶滓（未分離の製錬滓を含む鉄塊系遺物から、滓を分離・除去する作業に伴う反応副生物）にみられる、チタン（TiO_2）の影響がほとんどない。ともに熱間で鉄素材を鍛打加工した際の吹き減り（酸化に伴う損失）で生じた、鍛錬鍛冶滓に分類される。城館跡で鍛造鉄器の製作が行われていたことを示すものといえる。

Table1　供試材の履歴と調査項目

符号	遺跡名	遺物No.	遺物名称	推定年代	計測値		メタル度
					大きさ(mm)	重量(g)	
TAK-1	高田城跡	155	椀形鍛冶滓	中世後期	62.5×48.1×29.2	78.3	なし
TAK-2		156	鉄滓		37.3×30.3×24.0	39.0	なし

符号	調査項目								備考
	マクロ組織	顕微鏡組織	ﾋﾞｯｶｰｽ断面硬度	X線回折	EPMA	化学分析	耐火度	ｶﾛﾘｰ	
TAK-1		○		○		○			
TAK-2		○		○		○			

Table2　供試材の化学組成

符号	遺跡名	遺物名称	推定年代	全鉄分 (Total Fe)	金属鉄 (Metallic Fe)	酸化第1鉄 (FeO)	酸化第2鉄 (Fe_2O_3)	二酸化珪素* (SiO_2)	酸化ｱﾙﾐﾆｳﾑ* (Al_2O_3)	酸化ｶﾙｼｳﾑ* (CaO)	酸化ﾏｸﾞﾈｼｳﾑ* (MgO)	酸化ｶﾘｳﾑ* (K_2O)	酸化ﾅﾄﾘｳﾑ* (Na_2O)	酸化ﾏﾝｶﾞﾝ (MnO)
TAK-1	高田城跡	椀形鍛冶滓	中世後期	55.70	0.31	45.53	28.61	12.27	2.51	1.79	0.67	1.13	0.19	0.07
TAK-2		鉄滓		53.99	0.12	56.19	14.57	16.19	4.68	1.93	0.81	1.75	0.40	0.07

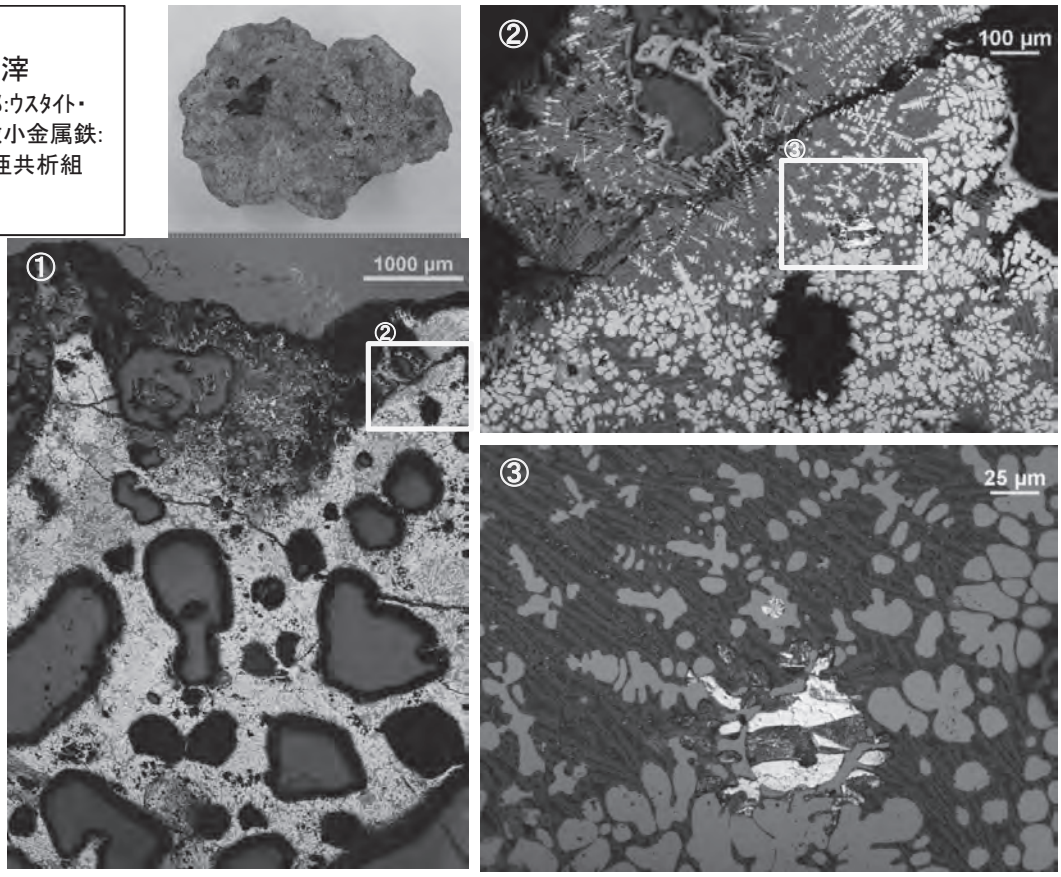
符号	遺跡名	遺物名称	推定年代	二酸化ﾁﾀﾝ (TiO_2)	酸化ｸﾛﾑ (Cr_2O_3)	硫黄 (S)	五酸化燐 (P_2O_5)	炭素 (C)	ﾊﾞﾅｼﾞｳﾑ (V)	銅 (Cu)	造滓成分	造滓成分/Total Fe	TiO_2/Total Fe	注
TAK-1	高田城跡	椀形鍛冶滓	中世後期	0.11	0.04	0.04	0.28	0.76	<0.01	0.02	18.63	0.334	0.002	
TAK-2		鉄滓		0.19	0.04	0.06	0.21	0.06	<0.01	0.04	25.76	0.477	0.004	

Table3　出土遺物の調査結果のまとめ

符号	遺跡名	遺物名称	推定年代	顕微鏡組織
TAK-1	高田城跡	椀形鍛冶滓	中世後期	滓部:ｳｽﾀｲﾄ(FeO)・ﾌｧﾔﾗｲﾄ(2FeO・SiO_2)、微小金属鉄:亜共析組織
TAK-2		鉄滓		滓部:ｳｽﾀｲﾄ(FeO)・ﾌｧﾔﾗｲﾄ(2FeO・SiO_2)、微小金属鉄:亜共析組織

符号	化学組成(%)								所見
	Total Fe	Fe_2O_3	塩基性成分	TiO_2	V	MnO	造滓成分	Cu	
TAK-1	55.70	28.61	2.46	0.11	<0.01	0.07	18.63	0.02	鍛錬鍛冶滓
TAK-2	53.99	14.57	2.74	0.19	<0.01	0.07	25.76	0.04	鍛錬鍛冶滓

TAK-1
椀形鍛冶滓
①～③滓部:ｳｽﾀｲﾄ・ﾌｧﾔﾗｲﾄ、微小金属鉄:ﾅｲﾀﾙetch 亜共析組織



TAK-2
鍛冶滓
④～⑥滓部:ｳｽﾀｲﾄ・ﾌｧﾔﾗｲﾄ、微小金属鉄:ﾅｲﾀﾙetch 亜共析組織

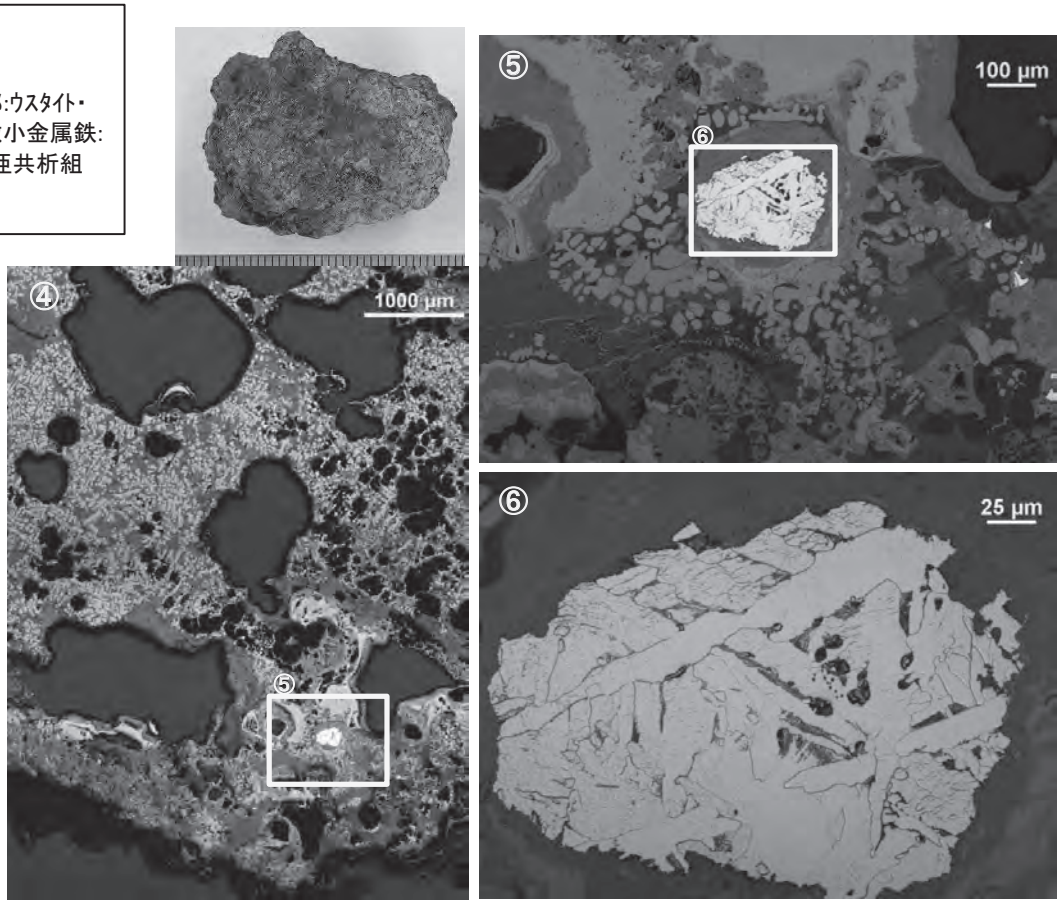


Photo.1　椀形鍛冶滓・鍛冶滓の顕微鏡組織

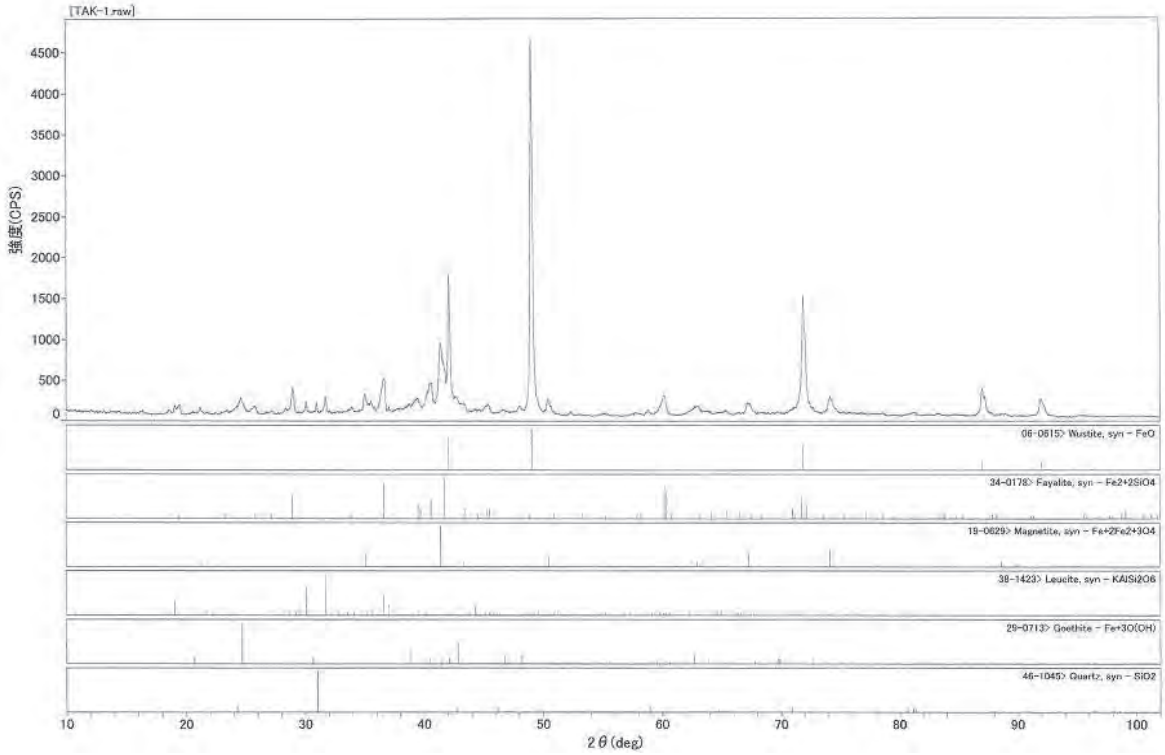


Fig.1　椀形鍛冶滓（TAK－1）のX線回折測定結果

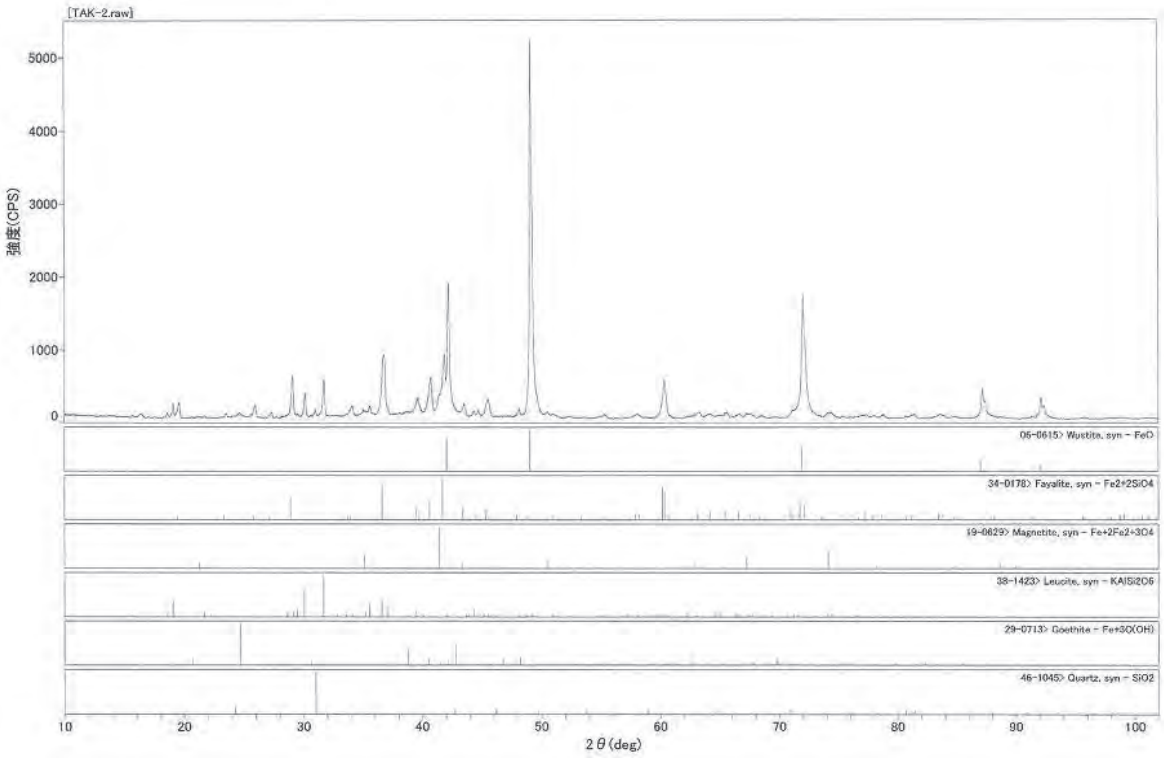


Fig.2　鍛冶滓（TAK－2）のX線回折測定結果

Ⅷ　総　　括

1　中世の遺構・遺物

（1）遺　　構

今回の調査では、曲輪Ⅳを中心とした中世城館であることが明らかとなった。それ以外の曲輪Ⅲ・Ⅴについては、当該期の遺構を確認できなかったためその対象から除外している。よって、城館の規模は調査以前に想定されていた範囲より大幅に縮小することとなる。ここでは城館として確認できた曲輪Ⅳの成果に限ってまとめていく。

曲輪Ⅳは主郭となる平場１を中心に、主要箇所を概ね確認できている。それを構成する遺構としては、普請となる平場14カ所、土塁４基、堀１条、切岸16カ所、作事となる掘立柱建物１棟、溝２条、土坑類がある。平場・切岸の構築には版築が施され、大規模な普請が行われている。

平場：平場１を頂部に配置し、標高を下げた周囲には各平場が形成されている。これらの形状は小規模な方形基調であり、基本的に西側へと張り出すように構築されている。面積は平場１が最も広く、他の平場はそれより小さな規模となる。主に地山を削り出すことで平坦面を形成しているが、平場１・２・３・５・６・９などの縁辺は、それと接する切岸と共に版築で構築されている。また、この版築により構築された平坦面に遺構が形成されることはない。遺構は地山が削り出された平場１と２にのみ形成されており、前者では掘立柱建物、後者では土坑(SK01・02)が確認されている。後者では土坑と切岸２を組み合わせることで、虎口１から平場１へと向かう通路が構築されている。

土塁：大小異なる規模のものが地山を削り出すことで構築されている。これらは基本的に防御するために構造の要所に形成されている。しかしながら、土塁２のみその様相が判然としない。この土塁は切岸８と連なるもので、調査区外まで合わせると総延長が約50mある。機能としては、小規模な尾根を利用して東西を分断していることから、その西側に当たる本体の南側斜面を防御する役割を担っていたと想定される。

堀：本曲輪の北側、沢筋に沿って構築されている。確認できた全長は92mあり、段丘下までを含めるのであれば総延長は約125mとなる。幅３～５m、深さ３mある大規模なものである。堀の平面①が位置する頂部付近では上・中・下段に分かれ、各段の間には比高１mの段差が存在している。この階段状の構造は虎口へと簡単に攻め上がれない仕組みによるものと想定される。また、堀①西側の断面Ｂからは、改修の痕跡が捉えられている。本遺構の機能は通路と共に、城館の内外を区分する役割を担っていたと考えられる。

切岸：版築ないし地山を削り出すことで構築されている。切岸は地形と関わっており、尾根が延びる東西は削り出し、斜面となる南北側は版築によって構築されている傾向がある。これらの規模を比べていくと、切岸６の実効法高が7.4mと最も高く、それ以外は５mより低くなる。このことから実効法高に対して防御機能を中心に見出していくと、北側の切岸６が正面、南側の切岸５が裏面と考えられる。

虎口：平場２の北東隅(虎口１)、平場２の南西隅(虎口２)の２ヵ所に構築されている。虎口１は平場２の北東隅、堀１の上端部とSD02が接する地点が相当する。この地点は上記のように正面の切岸が連なることから、大手の可能性がある。虎口２は平場２の南西隅、平場１・２と接する地点から平場３-1・３-2へと下っていく箇所が相当する。虎口１と対の位置に当たることから、搦手の可能性が

ある。

版築：平場１の縁辺を中心に主に北側を版築によって構築されている。ここでは平場と切岸に対する普請の工程をまとめておく。まず、基本的に黒色土などは除去され、地山まで大きく削り出している。この掘削には切岸５・12のような壁を作り出した上で段状に切り出す例と、切岸６のような斜面状に切り出す例がある。この後に土を積み重ねていくのだが、基本的に手前となる斜面上方から埋め、切岸付近は丁寧に盛っていることが捉えられている。その中で切岸５のように三角形状の土手を盛ってからその間を埋めていくような工程も確認できている。

掘立柱建物：１棟確認できており、平場１のほぼ中央に構築されている。基本的に地山を削り出した面に形成されている。

（２）遺　　物

城館期に属する遺物は中国産磁器３点のみである。磁器には染付碗、青磁碗があるが、いずれも16世紀後半のものである。これ以降は17世紀前半の国産陶磁器が僅かに認められるものの、17世紀前後に属する遺物は全く認められない。

（３）自然科学分析について

分析は放射性炭素年代測定と鉄滓成分分析を行っており、経緯と成果をまとめておく。

放射性炭素年代測定：版築２・５の構築時期を明らかにするために、堆積土から出土した炭化材を測定している。分析の結果、17世紀中葉以降の年代が得られている。これらの年代は廃絶年代と大きく乖離してるいるため後世に混入したものと考えられる。

鉄滓成分分析：城館における鉄生産工程を明らかにするために、出土した鉄滓を成分分析している。分析の結果、いずれも鍛錬鍛冶滓であることが明らかとなった。城館内で鉄製品に伴う鍛錬作業が行われていたと考えられる。

（４）城 館 の 時 期

出土遺物からは16世紀後半には廃絶していたと考えられる。この他に時期を特定していくにあたり、普請に伴う版築の構築方法から考えていくと、花館跡と極めて類似する状況が窺えることから同様の時期が想定できようか。

このように見ていくのであれば、両者の年代は概ね符合しており、構築ないし使用時期は16世紀中葉と考えられよう。

（５）高 田 城 の 様 相

今回の調査では、曲輪Ⅲの一部、曲輪Ⅳ、曲輪Ⅴの様相を確認することができた。その結果、曲輪Ⅲや曲輪Ⅴについては城館の範囲と捉えられていたものの、その対象とならないことが判明した。ただし、曲輪Ⅲの頂部だけがその可能性を大きく残している。まず曲輪Ⅳの様相について検討し、その後に他の曲輪と比較しながら高田城全体を捉えていく。

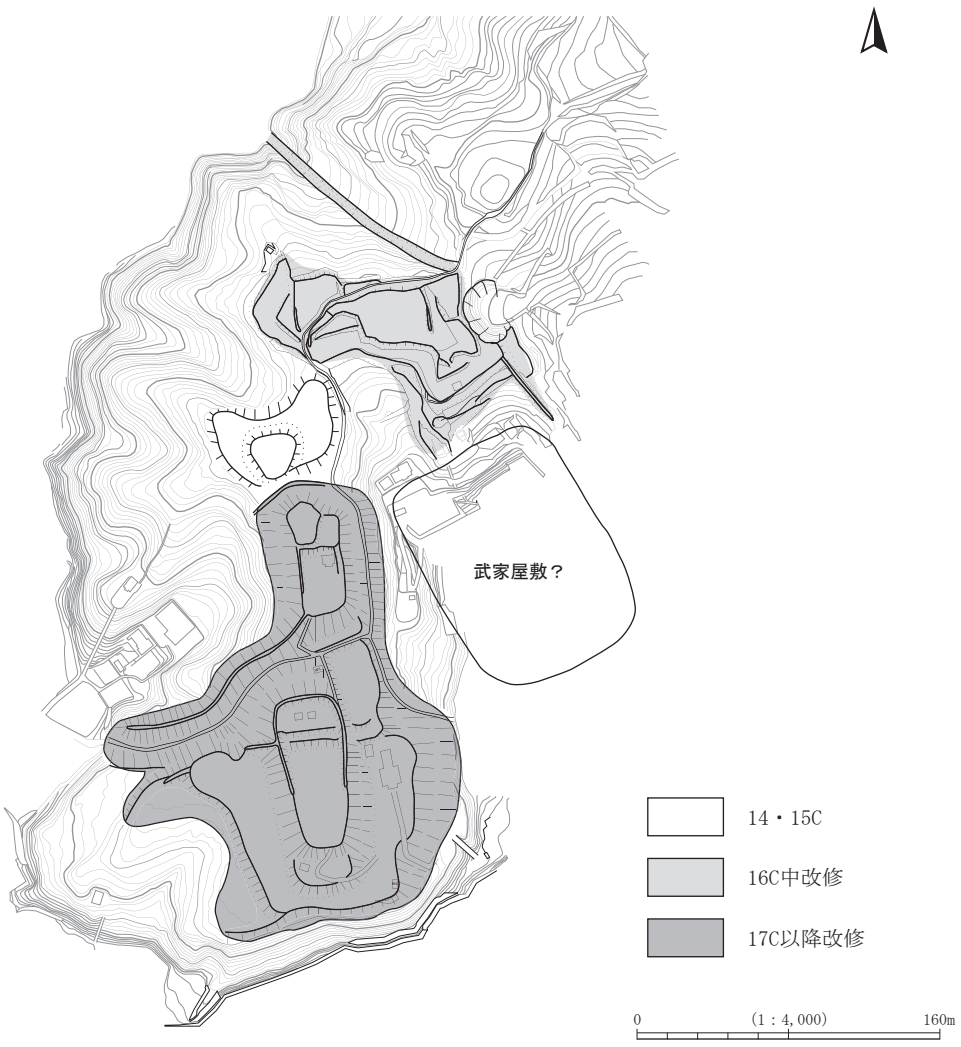
曲輪Ⅳは小規模な平場を多数配置しており、正面観は北方向にある。平場２の北東隅にある虎口周辺を見ていくと、遺構配置から窺える堀の存在は大手に相当するのではないだろうか。反対に、基本的に曲輪Ⅰを主郭、曲輪Ⅱを副郭、曲輪Ⅲは見張り台等の機能、曲輪Ⅳに対しては避難場所などと異なる機能を持たせるのであれば、これを搦手と捉えられる。ただし、曲輪Ⅰ・Ⅱの間に位置する堀の

存在は防御性を低下させ、城館の構造上、脆弱になることは否めない。このような矛盾した曲輪配置にあるものの、最も標高の高い位置にある曲輪Ⅳには、遺構が僅かしか存在しないうえに、大規模な造成が行われていることから、詰城や陣城として機能を持たせていたと考えられる。さらに、調査したこの曲輪Ⅳだけを見ていくのであれば、構築年代は花館跡と同時期となる16世紀中葉と捉えられようか。つまり、当該地域における動乱の様相を反映し、その一端を垣間見ることができる。これらのことは主要な部分を調査していないため、想像の域を出るものではない。

さらに、このことを歴史的背景から見ていくと、16世紀前葉から中葉以降に、主城が本城館から米崎城へと移り、当該地域はさらに戦時に備えることが当然想定される。そのために、その西側に位置する以前に自然地形を活かして造られていた高田城や花館などの城館には詰城・陣城の要素を持たせるため改築されたものと考えられよう。

最後に、本城館の全体像を捉えてみたい。俯瞰すると、張り出す丘陵を分断させつつも連結するように各曲輪が構築され、構築当初から丘陵の東側、曲輪Ⅳの東側に当たる南東向きの斜面を守るような構造を持たせている。このことから第67図に示したように斜面には武家屋敷があったと想定される。機能的側面からみると、曲輪によって異なることは上述した通りである。ただし、防御機能が極めて脆弱であるにも関わらず、曲輪Ⅳが詰城として特化している。これについては上述しているように、構造上矛盾が認められる。

この点を解消するために、機能差ではなく構築時期が異なる所産という側面を以下の２点から捉え



第67図　高田城時期想定図

てみたい。まず、奥州仕置後の1626年に、城代の居館を二日市館から本城館へ移し、その５年後には城代の配置がなくなり代官統治に切り替えられたという指摘である(三陸町1992)。ただし、これについては原本に当たれず判然としない。次に、太田は奥州仕置後の伊達領における城郭の近世への移行についてまとめている。この過程では、基本的に大名居城及び支城を僅かに残し、廃城する政策が取られている。そして、その中で一般的な石垣を用いた城郭の構築が認められるものの、織豊期の様相を残しつつ多様な形態が存在していたと捉えている。戦乱が少なくなる当該期には、軍事的要素より政治拠点として役割を担うようになる。つまり、中世城館を改修して在郷居館とし、政治的要素を持ち中央権力である「公儀」という概念が持ち込まれたということである(太田2016)。

これらを基に本城館における曲輪の時期差についてまとめてみたい。ただし、14世紀代に丘陵には自然地形を活かした曲輪Ⅰ～Ⅳを伴う城館が構築され、東斜面には武家屋敷があったということが前提である。曲輪Ⅰ・Ⅱは平場の様相が他とは異なり近世的要素が強い。さらに、それらの間に構築されている堀の存在からは、主郭に対する防御の機能が著しく低下していることが窺える。このことは軍事的要素から政治的要素の変化に伴うものと想定でき、近世期に大規模な改修が行われたと読み取れないだろうか。曲輪Ⅲは14世紀の構築時の様相である自然地形を残していることが想定される。曲輪Ⅳは16世紀中葉に詰城へと改築されている。つまり、各時期に合った機能となるように城館が改築されたものとも考えられ、これは歴史背景が大きく城館構造の変化に関与した結果と考えることはできないだろうか。このように捉えていくと歪な構造の整合性が図れるように思われる。そして、このことをまとめると第67図に示したような配置が考えられる。ただし、この見解は推測の域を出るものではなく、基本概念から大きく外れていることは否めない。本城館の主要な曲輪は今回の造成から外れ残されていることから、今後の調査により本城館の全容が明らかになることを切に願う。

引用・参考文献については22頁に記載している。

付記

本調査は高台移転に伴い行われた県内でも極めて希な大規模な事業であった。そのような状況下のなかで、調査を工程期間内で終え、上記の調査成果が得られたことは大きな成果と言える。一方で、本城館の主要な部分が調査区域から外れ、残されたことについては喜ばしいことである。この残された範囲は、歴史を再構築するための貴重な資料となりうることから、今回の総括がいずれ解明されることを切に望む。

震災復興はかなり過去に起こったような世相となり、忘れられつつあるが、原稿を書いている今も道半ばである。本来開けられることのなかった新たな歴史と共に、陸前高田市及び気仙地域の歴史を構築する一助になることを願うばかりである。

筆者は市内において４年間で４遺跡の調査に従事した。本来であれば考えられないような過酷な環境の中で仕事をして頂いた作業員に感謝申し上げる。また、震災復興事業に関わった全ての方々のご尽力に感謝申し上げ擱筆したい。

写 真 図 版

昭和 20 年代空撮

遺跡遠景（平成26年５月）

遺跡遠景（平成26年５月）

写真図版１　遺跡遠景（１）

遺跡遠景（平成26年５月）

遺跡遠景（平成27年９月）

写真図版２　遺跡遠景（２）

曲輪Ⅲ近景（平成27年９月）

曲輪Ⅲ近景（平成27年９月）

写真図版３　遺跡近景（１）

曲輪Ⅳ近景（平成26年11月）

曲輪Ⅳ近景（平成26年11月）

写真図版４　遺跡近景（２）

曲輪Ⅳ近景（平成27年６月）

曲輪Ⅳ近景（平成27年６月）

写真図版５　遺跡近景（３）

曲輪Ⅲ（平成27年９月）

曲輪Ⅳ（平成26年10月）

写真図版６　調査区俯瞰（１）

曲輪Ⅳ（平成27年６月）

曲輪Ⅴ（平成26年５月）

写真図版 7　調査区俯瞰（2）

平場１平面

平場２平面

平場２平面

写真図版 8　平場１・２

平場３－１平面

平場３－１平面

平場３－２平面

写真図版 ９　平場３

平場３－２西側平面

平場４－１平面

平場４－２平面

写真図版10　平場３・４

平場６平面

平場７平面

平場８平面

写真図版11　平場６・７・８

平場９平面

平場11平面

平場12平面

写真図版12　平場９・11・12

平場13平面

平場13平面

平場14平面

写真図版13　平場13・14

平場14平面

平場15平面

平場15平面

写真図版14　平場14・15

虎口１平面

虎口１平面

SK01・02

写真図版15　虎口１、SK01・02

虎口２平面

虎口２平面

虎口２平面

写真図版16　虎口２

切岸１平面

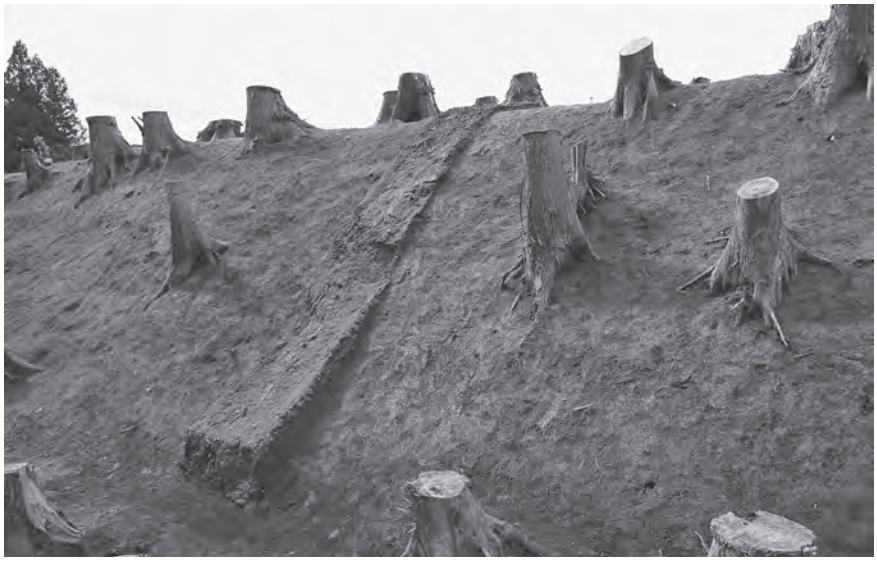
切岸２平面

切岸３平面

写真図版17　切岸１・２・３

切岸４平面

切岸５平面



切岸５断面

写真図版18　切岸４・５

切岸６平面

切岸６平面

切岸６断面

写真図版19　切岸６

切岸７平面

切岸８平面

切岸８断面

写真図版20　切岸７・８

切岸11平面

切岸12平面

切岸13平面

写真図版21　切岸11・12・13

切岸14平面

切岸15平面

切岸16平面

写真図版22　切岸14・15・16

切岸17平面

切岸17平面

切岸17断面

写真図版23　切岸17

版築２断面

版築２断面

版築２断面

写真図版24　版築２

版築３B断面

版築３B断面

版築３B断面

写真図版25　版築３（１）

版築３Ｃ断面

版築３Ｃ断面

版築４断面

写真図版26　版築３（２）・４

版築５断面

版築５断面

土塁１平面

写真図版27　版築５、土塁１

土塁１平面

土塁２平面

土塁２平面

写真図版28　土塁１・２

土塁３平面

土塁３平面

土塁３平面

写真図版29　土塁３

土墾４平面

土墾４平面

土墾４平面

写真図版30　土墾４

堀１①平面

堀１①平面

堀１①平面

写真図版31　堀１（１）

堀１①Ｂ断面

堀１②平面

堀１②断面

写真図版32　堀１（２）

堀１③平面

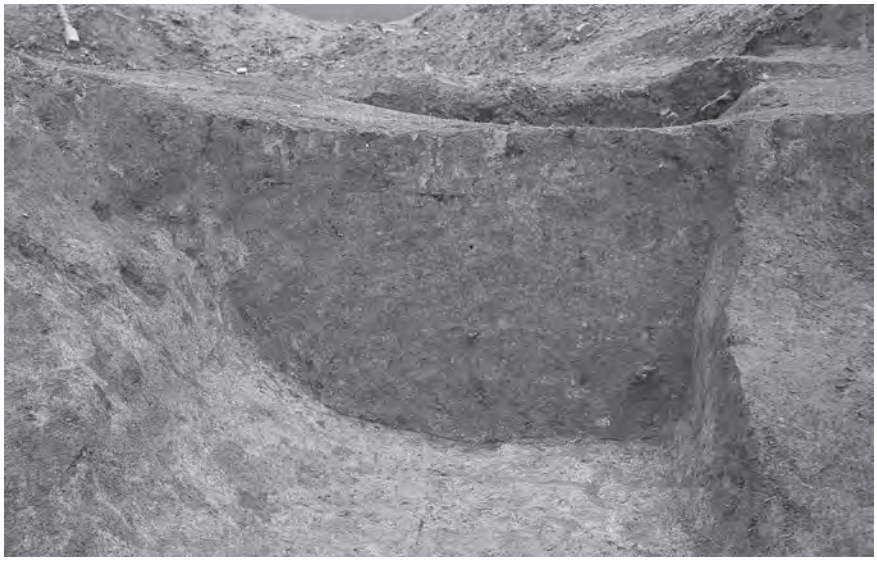
堀１③断面

SD01平面

写真図版33　堀１（３）、SD01

SD02平面

SD02平面



SD02断面

写真図版34　SD02

堀１・SD02平面

SB01平面

谷部全景

写真図版35　堀１・SD02、SB01、谷部全景

SK01

SK02

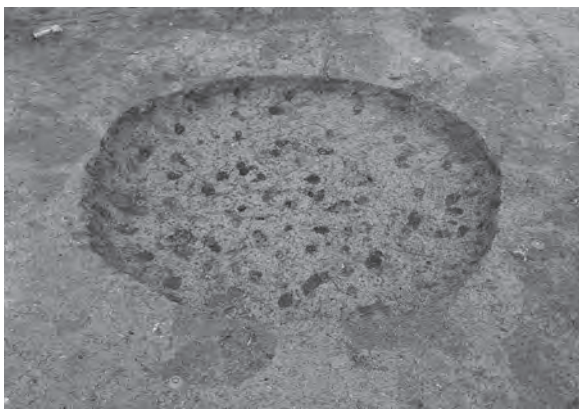
SK03

SK04

SK05

SK06

SK07



SK08

写真図版36　SK01～08

T132 断面

T102 断面

T101 断面

T108・109 平面

T118 断面

T121 平面

作業風景

作業風景

写真図版37　試掘トレンチ・作業風景

曲輪Ⅰ・Ⅱ間の堀

曲輪Ⅲ現況

曲輪Ⅲ現況

曲輪Ⅳ現況

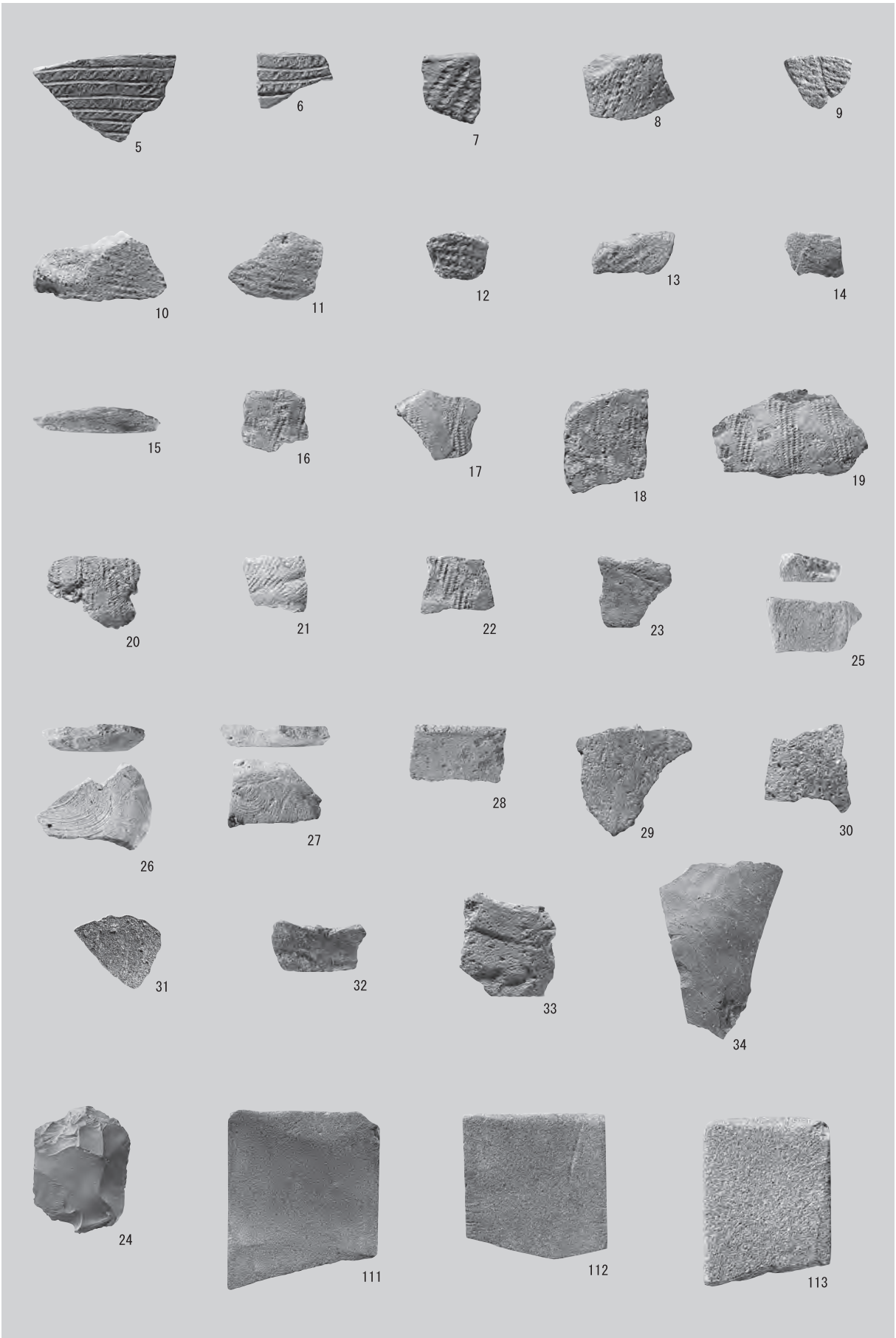
土塁３現況

切岸６現況

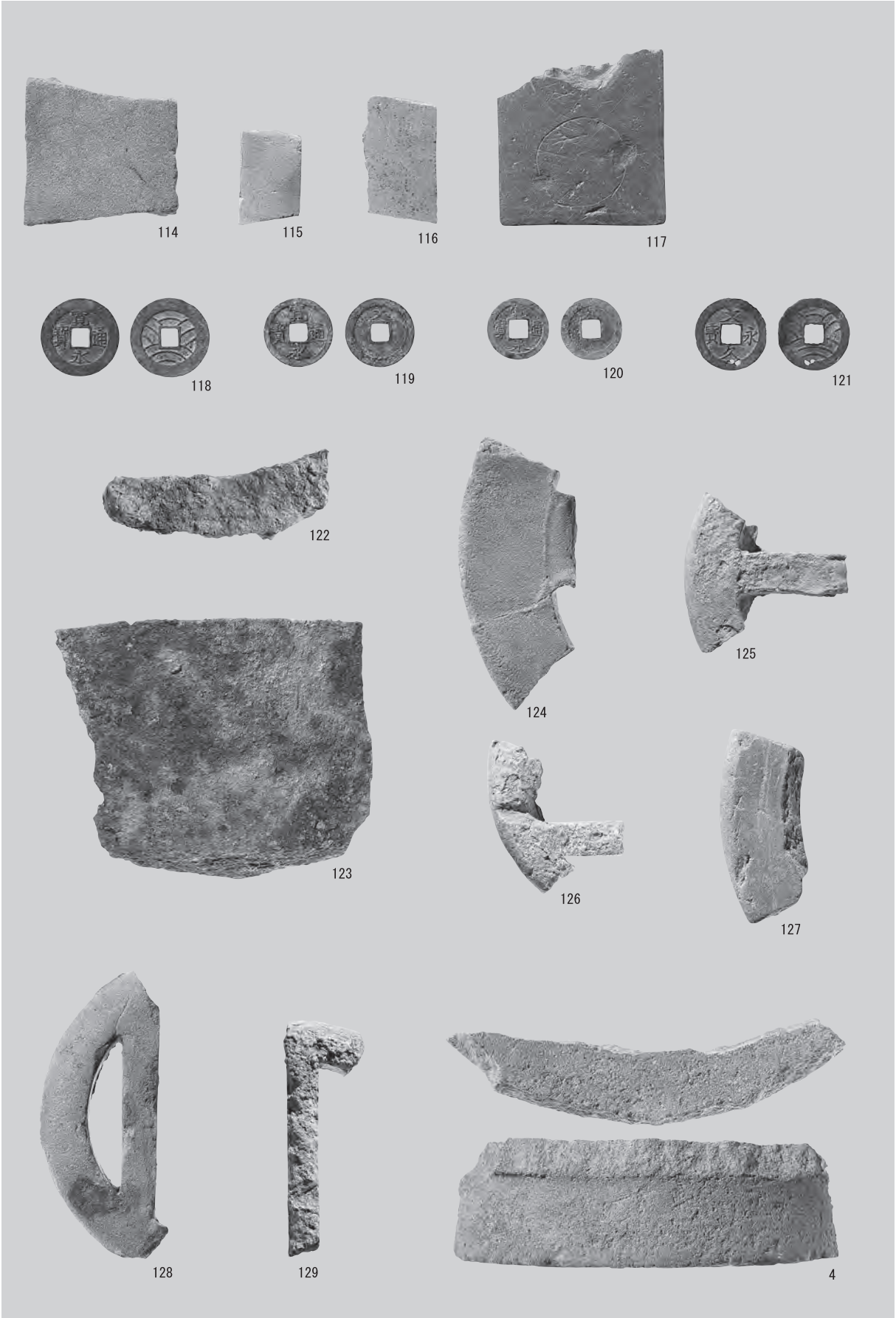
平場９現況

曲輪Ⅴ作業風景

写真図版38　現況・作業風景



写真図版39　出土遺物（１）



写真図版40　出土遺物（２）

報 告 書 抄 録

ふ り が な	たかたじょうあとはっくつちょうさほうこくしょ
書　　名	高田城跡発掘調査報告書
副 書 名	土地区画整理事業高田西地区関連遺跡発掘調査
巻　　次	
シ リ ー ズ 名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第691集
編 集 者 名	村木　敬・野中　裕貴
編 集 機 関	（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
所　在　地	〒020－0853　岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地　TEL　019－638－9001
発 行 年 月 日	西暦2018年３月８日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
たかたじょうあと 高田城跡	いわてけんりくぜんたかたしたか 岩手県陸前高田市高 たちょうあざほらさわなる 田町字洞の沢、鳴 いしほんまる 石、本丸ほか	03210	NF67－0172	39度 1分 16秒	141度 37分 44秒	2014.04.07 ～ 2014.11.27	27,000㎡ 22,000㎡	土地区画整理 事業 高田西地区
				世界測地系		2015.05.11 ～ 2015.09.30	計49,000㎡	

所収遺跡名	種　別	主な時代	主　な　遺　構	主　な　遺　物	特　記　事　項
高田城跡	城　　館	中世	平場14カ所 土塁４基 堀１条 切岸16カ所 虎口２カ所 掘立柱建物１棟 溝跡２条 土坑２基 柱穴15個	縄文土器 弥生土器 土師器 須恵器 中国産磁器 国産陶磁器 鉄製品 石製品 土製品	中世城館
		時期不明	土坑６基	銭貨 鉄滓	

要　　約	高田城は市内に所在する主要な中世城館の一つである。今回の調査によって遺跡の北側の様相が判明し、城館の範囲を確定している。城館は大規模な普請が行われているものの、遺構や遺物も乏しいことから詰城であった可能性がある。城館は16世紀後半には廃絶されたと考えられる。

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第691集

高田城跡発掘調査報告書

土地区画整理事業高田西地区関連遺跡発掘調査

印　刷　平成30年２月22日
発　行　平成30年３月８日

編　集　（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
〒020－0853　岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地
電話（019）638－9001

発　行　陸前高田市復興局市街地整備課
〒029－2292　岩手県陸前高田市高田町字鳴石42－５
電話（0192）54－2111
（公財）岩手県文化振興事業団
〒020－0023　岩手県盛岡市内丸13番１号
電話（019）654－2235

印　刷　小松総合印刷株式会社
〒020－0827　岩手県盛岡市鉈屋町15番４号
電話（019）624－1374

©（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2018